

学生要覧

2013

FERRIS UNIVERSITY

文 学 部

国際交流学部

音 楽 学 部

2013年度授業日一覧

の祝日は授業開講日

【前期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)	
2013年	第1回	4月15日	4月16日	4月17日	4月11日	4月12日	4月13日
	第2回	4月22日	4月23日	4月24日	4月18日	4月19日	4月20日
	第3回	4月29日	4月30日	5月1日	4月25日	4月26日	4月27日
	第4回	5月13日	5月7日	5月8日	5月2日	5月10日	5月11日
	第5回	5月20日	5月14日	5月15日	5月9日	5月17日	5月18日
	第6回	5月27日	5月21日	5月22日	5月16日	5月24日	5月25日
	第7回	6月3日	5月28日	5月29日	5月23日	5月31日	6月1日 創立記念日
	第8回	6月10日	6月4日	6月5日	5月30日	6月7日	6月8日
	第9回	6月17日	6月11日	6月12日	6月6日	6月14日	6月15日
	第10回	6月24日	6月18日	6月19日	6月13日	6月21日	6月22日
	第11回	7月1日	6月25日	6月26日	6月20日	6月28日	6月29日
	第12回	7月8日	7月2日	7月3日	6月27日	7月5日	7月6日
	第13回	7月15日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日
	第14回	7月22日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日	7月20日
	第15回	7月29日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日	7月27日

【後期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)	
2013年	第1回	9月30日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日
	第2回	10月7日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日
	第3回	10月14日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日	10月12日
	第4回	10月21日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日
	第5回	10月28日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日
	第6回	11月7日(木) みなし月曜日	10月29日	10月30日 午後 11月6日 午前	10月31日	11月5日(火) みなし金曜日	11月9日
	第7回	11月11日	11月12日	11月6日 午後 11月13日 午前	11月14日	11月8日	11月16日
	第8回	11月18日	11月19日	11月13日 午後 11月20日 午前	11月21日	11月15日	11月23日
	第9回	11月25日	11月26日	11月20日 午後 11月27日 午前	11月28日	11月22日	11月30日
	第10回	12月2日	12月3日	11月27日 午後 12月4日 午前	12月5日	11月29日	12月7日
	第11回	12月9日	12月10日	12月4日 午後 12月11日 午前	12月12日	12月6日	12月14日
	第12回	12月16日	12月17日	12月11日 午後 12月18日 午前	12月19日	12月13日	12月21日
2014年	第13回	1月6日	1月7日	1月8日	1月9日	12月20日	1月11日
	第14回	1月20日	1月14日	1月15日	1月16日	1月10日	1月25日
	第15回	1月27日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日	

目 次

建学の精神と目的	5
組織	6
フェリス女学院大学の沿革	7
役職者	8
教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者	9

学部共通事項

2013年度の主な制度変更事項(学部関連)	15
-----------------------	----

履修

授業(休講・補講・欠席)	18
授業科目の区分	20
単位制度	21
アカデミック・アドバイザー制度	22
履修計画・履修指導	22
履修登録	25
履修上の注意	26
試験	33
成績評価	40
卒業の要件・卒業	43

単位認定・単位互換・留学・海外研修

単位認定・単位互換	48
海外留学・海外研修	55

学部教育課程

共通科目

共通科目	60
基礎教養科目・総合課題科目 履修方法	63

語学科目	
履修方法	67
各学部・学科の語学科目履修方法	76

文学部

文学部専門科目カリキュラム	93
英文学科	
卒業に必要な単位数	94
カリキュラム	96
履修の進め方	98
英文学科専門科目カリキュラム表	101

日本文学科

卒業に必要な単位数	102
カリキュラム	103
履修の進め方	105
日本文学科専門科目カリキュラム表	108

コミュニケーション学科

卒業に必要な単位数	110
カリキュラム	111
履修の進め方	115
社会調査士資格認定について	117
コミュニケーション学科専門科目 カリキュラム表	119

国際交流学部

卒業に必要な単位数	122
専門科目の履修	126
カリキュラム	134
国際交流学部専門科目カリキュラム表	137

音楽学部

卒業に必要な単位数	140
-----------	-----

カリキュラム

音楽芸術学科	143
演奏学科	144
専門科目の履修・実技試験等	146
卒業演奏、卒業プロジェクト	154
音楽芸術学科カリキュラム表	156
演奏学科カリキュラム表	159

教職課程

教職課程	162
教科に関する科目	165
教職に関する科目	179
教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目	181
教職課程料の納入・教育実習・ 教育職員免許状の取得	182
教職課程年間予定表	183

日本語教員養成講座

講座の課程	187
講座年間予定表	188
講座受講の手続きについて	189
日本語教育実習 1, 2	190
講座の単位認定	191
2005 年度以降入学者用カリキュラム	192
大学院科目の専修課程単位算入	194

外国人留学生の履修について

外国人留学生の必修科目	196
語学科目の履修方法	197
専門科目の履修方法・ 受入交換留学生の履修	201
日本語プレイズメント・テストの実施について	201

学部開講科目表

共通科目

基礎教養科目	204
総合課題科目	207
語学科目	209

文学部

英文学科専門科目	228
日本文学科専門科目	232
コミュニケーション学科専門科目	235

国際交流学部

国際交流学科専門科目	239
------------	-----

音楽学部

音楽芸術学科専門科目	246
演奏学科専門科目	252

その他

教職に関する科目	262
留学生日本語及び日本事情に関する科目 (外国人留学生対象科目)	263

学 籍

修業年限及び在学期間	266
休学・復学・退学	266
除籍・留学・転学部・転学科・再入学	267

諸規則

大学学則	270
学位規則	279

諸規則	283
-----	-----

その他

諸施設	288
校地・校舎	290
個人研究室	300
教員組織	301
本学における個人情報の 取扱いについて	307
索引	309

建学の精神と目的

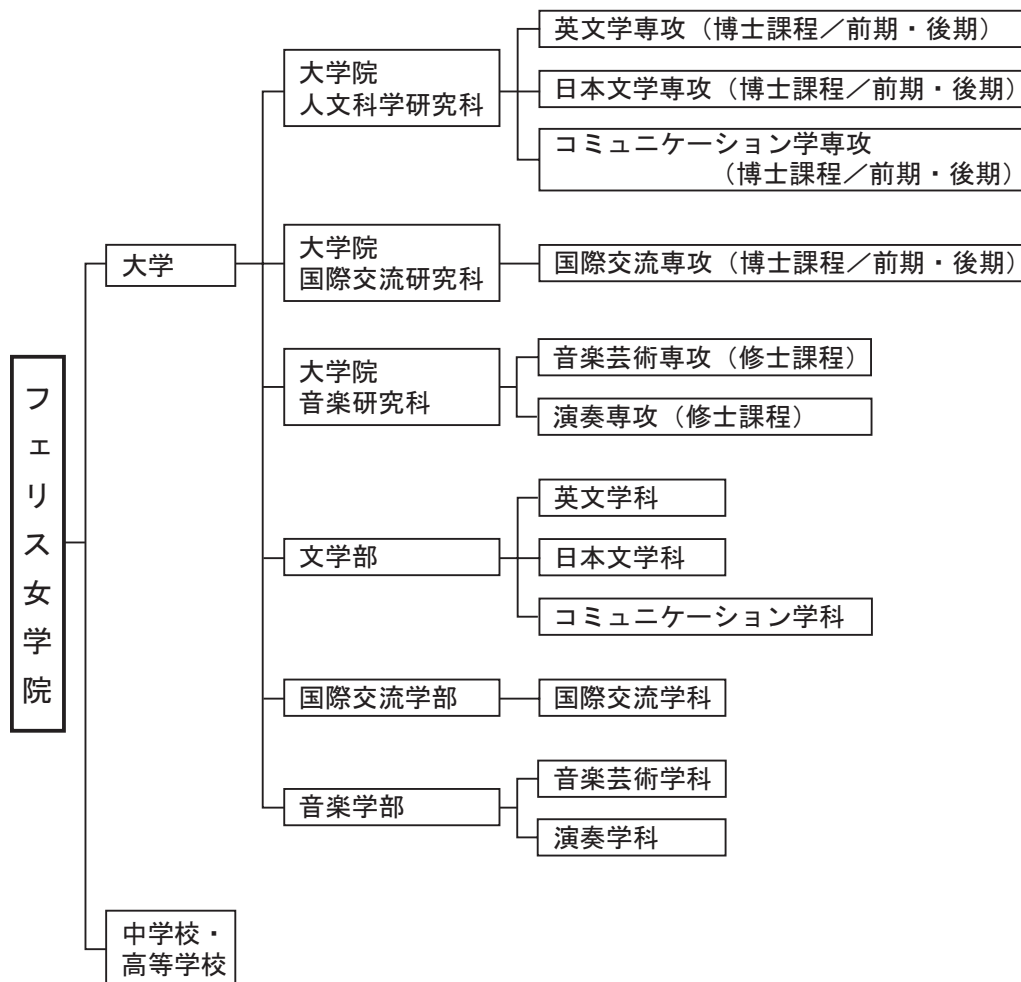
フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく、女子を対象とする教育を行うことを建学の精神としています。

フェリス女学院大学は、キリスト教を教育の基本精神となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とします。

さらに本学院では、「For Others」という教育理念をモットーとして永く守ってきました。

この教育理念は、自分中心ではなく、「他者のために奉仕する」ことを大切にするものであり、愛と配慮を、単に自分や自分の家族・友人、あるいは自国だけに向けるのではなく、見知らぬ他者、異なった文化と歴史をもっている多くの民族と国家にも向け、共に生きなければならないことを教えています。

組織



フェリス女学院大学の沿革

本学の源流は、1870（明治3）年に米国改革教会の宣教師、メアリー・E・キダーが始めた私塾にさかのぼります。これは、ローマ字や医療事業等で知られる長老教会宣教師ヘボン博士のクララ夫人が、1863（文久3）年に開いた家塾を引き継いだもので、キダーは1871年にこれを女子だけの学校としました。そして、1875年、山手の外国人居留地に校舎を建て、校名をフェリス・セミナリーとして寄宿学校を開校するに至りました。「フェリス」の名は、キダーを派遣し、その教育を支えた改革教会伝道局主事フェリス博士父子を記念するものです。

本学は、敬虔な人格と優れた教養によって、創造的に人類社会に貢献する女性の育成を求め続けて、今日に至っています。

- 1870（明治 3）年 メアリー・E・キダー、ヘボン施療所で授業開始。〈フェリス女学院の発祥〉
- 1875（ 8）年 山手178番に校舎落成。この頃「フェリス・セミナリー」と名づける。
- 1887（ 20）年 高等科設置。校舎拡張。
- 1889（ 22）年 校名を「フェリス和英女学校」とする。
- 1899（ 32）年 私立学校令により認可。特別科（高等科に替えて）設置。
- 1903（ 36）年 特別科を文学科・聖書研究科の2科（18～21歳）とする。英語師範科（16～19歳）設置。
- 1908（ 41）年 特別科を高等科（英文学部・神学部）に改める。
- 1919（大正 8）年 東京女子大学創立に協力し高等科廃止。
- 1923（ 12）年 関東大震災により校舎倒壊焼失。カイパー校長殉職。
- 1927（昭和 2）年 「専門学校入学者検定規定」による指定認可。1929年に新校舎落成。
- 1930（ 5）年 高等部（英文科・家政科、17～19歳）設置。
- 1939（ 14）年 戦時下、米国伝道局経営の社団法人から日本の財団法人となる。
- 1941（ 16）年 校名を「横浜山手女学院」に変更。
- 1947（ 22）年 専門学校（旧制）3年（英文科・家政科・音楽科）設置。
- 1950（ 25）年 校名を「フェリス女学院」と改称。新学制により専門学校から短期大学（英文科・家政科・翌年に音楽科）開設。
- 1965（ 40）年 大学開学。短期大学（英文科）を発展改組し、大学文学部（英文学科・国文学科）開設。
- 1970（ 45）年 創立100周年。
- 1988（ 63）年 短期大学（家政科）を発展改組し、文学部に国際文化学科開設。大学緑園キャンパス開設。
- 1989（平成 1）年 短期大学（音楽科）を発展改組し、大学音楽学部（声楽学科・器楽学科・楽理学科）開設。
- 1991（ 3）年 大学院人文科学研究科修士課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1992（ 4）年 大学院人文科学研究科修士課程地域文化専攻開設。
- 1993（ 5）年 学科名変更（文学部国文学科→日本文学科）。
- 1995（ 7）年 大学院人文科学研究科博士後期課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1997（ 9）年 文学部国際文化学科を発展改組し、国際交流学部（国際交流学科）開設。
- 1998（ 10）年 大学院音楽研究科修士課程（声楽専攻・器楽専攻・創作表現専攻）開設。
- 2001（ 13）年 大学院国際交流研究科博士前期課程・博士後期課程（国際交流専攻）開設。
- 2004（ 16）年 文学部コミュニケーション学科開設。
学科名変更（音楽学部楽理学科→音楽芸術学科）。専攻名変更（音楽研究科創作表現専攻→音楽芸術専攻）。
- 2005（ 17）年 音楽学部演奏学科（声楽学科・器楽学科の改組）開設。
- 2008（ 20）年 大学院人文科学研究科コミュニケーション学専攻（博士前期課程）開設。
- 2009（ 21）年 大学院音楽研究科修士課程演奏専攻（声楽専攻・器楽専攻の改組）開設。
- 2010（ 22）年 創立140周年。大学院人文科学研究科コミュニケーション学専攻博士後期課程開設。

役職者

学院長	大塩 武
-----	------

学長	秋岡 陽
副学長	荒井 真
附属図書館長	江上 幸子
大学院委員・大学評議員	大西 比呂志
大学院委員・大学評議員	並木 真人
大学院委員・大学評議員	島村 輝
大学院委員・大学評議員	由井 哲哉
大学院委員・大学評議員	蔵田 雅之
大学院委員・大学評議員	星野 聡
情報センター長	春木 良且
山手総括主事	立神 粧子
宗教主任	廣石 望
教職課程主任	渡辺 浪二
教務部長	藤本 朝巳
学生部長	井上 恵美子
海外交流部長	矢野 久美子
入試部長	向井 秀忠
就職部長	上原 良子
企画・広報部長	荒井 真
留学生センター長	矢野 久美子
言語センター長	藤本 朝巳
宗教センター長	廣石 望
ボランティアセンター長	相澤 一

人文科学研究科

研究科長	谷 知子
英文学専攻主任	由井 哲哉
日本文学専攻主任	佐藤 裕子
コミュニケーション学専攻主任	諸橋 泰樹
教務責任者	竹内 正彦
入試責任者	近藤 存志

国際交流研究科

研究科長	大野 英二郎
国際交流専攻主任	大西 比呂志
教務責任者	田丸 理砂
入試責任者	佐藤 輝

音楽研究科

研究科長	立神 粧子
音楽芸術専攻主任	星野 聡
演奏専攻主任	蔵田 雅之
教務責任者	落合 敦
入試責任者	黒川 浩

文学部

学部長	谷 知子
教務主任	竹内 正彦
入試主任	近藤 存志
英文学科主任	由井 哲哉
日本文学科主任	佐藤 裕子
コミュニケーション学科主任	諸橋 泰樹

国際交流学部

学部長	大野 英二郎
教務主任	田丸 理砂
入試主任	佐藤 輝
国際交流学科主任	大西 比呂志

音楽学部

学部長	立神 粧子
教務主任	落合 敦
入試主任	黒川 浩
音楽芸術学科主任	星野 聡
演奏学科主任	蔵田 雅之

教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者

履修計画を立てるにあたり、下記の教員が相談に応じます。

【教務主任・教務委員】：各学部・学科の専門科目に関すること、所属学部・学科学生の履修計画全般に関すること。

文 学 部	竹内 正彦 教務主任 富樫 剛 (英文学科) 島村 輝 (日本文学科) 大倉 一郎 (コミュニケーション学科)
国 際 交 流 学 部	田丸 理砂 教務主任
音 楽 学 部	落合 敦 教務主任 岡島 雅興 (音楽芸術学科) 谷口 昭弘 (音楽芸術学科) 蔵田 雅之 (演奏学科 (声楽))

【教務責任者】

人 文 科 学 研 究 科	竹内 正彦
国 際 交 流 研 究 科	田丸 理砂
音 楽 研 究 科	落合 敦

【科目責任者・語学責任者】：次の各科目に関すること。

基礎教養・総合課題科目	和田 浩一 (全般) 廣石 望 (キリスト教) 春木 良且 (情報リテラシー) 和田 浩一 (健康・スポーツ)
教職課程	渡辺 浪二
日本語教員養成講座	松田 浩
留学生日本語・日本事情科目	筒井 千絵、奈良夕里枝

英 語	デイヴィッド バーレイ
フ ラ ン ス 語	横山 安由美
ド イ ツ 語	田丸 理砂
ス ペ イ ン 語	寺尾 隆吉
中 国 語	鄭 浩瀾
朝 鮮 語	金 香男

古 典 ギ リ シ ア 語	金 香男
ラ テ ン 語	
イ タ リ ア 語	
日 本 語 (日本語 I, II)	松田 浩

学部共通事項

履修

単位認定・単位互換・留学・海外研修

学部教育課程

共通科目

文学部

国際交流学部

音楽学部

教職課程

日本語教員養成講座

外国人留学生の履修について

学部開講科目表

学 籍

諸規則

その他

学部共通事項

履修

単位認定・単位互換・留学・海外研修

2013年度の主な制度変更事項（学部関連）

2013年度から、以下のとおり制度を変更しました。

1 外国人留学生の語学科目の履修方法について

2013年度以降入学者から「留学生日本語」必修10単位の履修方法が変わりました。
(p.197「語学科目の履修方法」参照)

2 授業科目の改廃

(1) 語学科目 (p.209以降「開講科目表」参照)

■新設

「英語e(Vocabulary)」(1単位)、「英語e(Writing Skills)」(1単位)

(2) 文学部コミュニケーション学科専門科目 (p.235以降「開講科目表」参照)

■新設

「日本語文法論とコミュニケーション」(2単位)、「先住民族の言語・文化と共生」(2単位)、「ファシリテーターの理論と実践」(2単位)

(3) 国際交流学部国際交流学科専門科目 (p.239以降「開講科目表」参照)

■新設

「アジア近・現代史A」(2単位)、「アジア近・現代史B」(2単位)

(4) 音楽学部音楽芸術学科専門科目 (p.246以降「開講科目表」参照)

■新設 (2011年度以降入学者)

「基礎演習」(1単位)、「応用演習」(1単位)

(5) 音楽学部演奏学科専門科目 (p.252以降「開講科目表」参照)

■新設 (2008・2009・2010年度入学者)

「通奏低音」(2単位)、「キーボードハーモニーA」(2単位)、「キーボードハーモニーB」(2単位)、「楽曲分析A」(2単位)、「楽曲分析B」(2単位)、「幼児リトリック指導ワークショップA」(2単位)、「幼児リトリック指導ワークショップB」(2単位)、「チャペルクワイア指導ワークショップA」(2単位)、「チャペルクワイア指導ワークショップB」(2単位)、「起業家育成ワークショップA」(2単位)、「起業家育成ワークショップB」(2単位)

■新設 (2011年度以降入学者)

「キーボードハーモニーA」(2単位)、「キーボードハーモニーB」(2単位)、「専攻実技特別レッスン」(3単位)

■廃止 (2011年度以降入学者)

「鍵盤和声」(2単位)

履修

履修

履 修

授業（休講・補講・欠席）

1. 授業時間

緑園校舎

第1時限	第2時限	礼拝(月～金)	第3時限	第4時限	第5時限
9:00 \$ 10:30	10:40 \$ 12:10	12:20 \$ 12:40	13:10 \$ 14:40	14:50 \$ 16:20	16:30 \$ 18:00

山手校舎

第1時限	第2時限	礼拝(木)	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 \$ 10:40	10:50 \$ 12:20	12:30 \$ 13:00	13:50 \$ 15:20	15:30 \$ 17:00	17:10 \$ 18:40

【スクールバス】

両キャンパスを1日に2往復しています。（定員は27名）

各便の発着予定時間は次のとおりです。

- ① 山手6号館(12:25発)→山手4号館(12:30頃着)→緑園正門横(13:05頃着)
 - ② 緑園正門横(13:10発)→山手6号館(13:40頃着)→山手4号館(13:45頃着)
 - ③ 山手6号館(15:35発)→山手4号館(15:40頃着)→緑園正門横(16:15頃着)
 - ④ 緑園正門横(16:30発)→山手6号館(17:10頃着)→山手4号館(17:15頃着)
- ※年間運行日は、バス停に掲示します。（授業期間外は運休です。）

大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置

大規模地震の判定会^{*注1}が招集された場合や警戒宣言等が発令された場合には、休校とします。警戒宣言等が解除された時の授業再開については、交通機関が不通になった場合に準じます。

*注1)「大規模地震対策特別措置法」に基づく「地震防災対策強化地域判定会」

2. 休講

大学又は各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、FerrisPassport、掲示によって通知します。

休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当者が入室しない場合は、自然休講とします。休講についての電話照会には応じません。

(1) 交通機関不通の場合の休講について

ストライキ、台風又は事故等による交通機関不通の場合、各校舎において次のような措置をとります。

対象となる交通機関

- ・緑園校舎 相模鉄道線
- ・山手校舎 JR根岸線及びみなとみらい線^{注)}

注) 両線が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

- ① 当日午前6時までに復旧した場合は、平常どおり授業を行う。
- ② 当日午前10時までに復旧した場合は、午前中の授業を休講とし、午後から授業を行う。
- ③ 当日午前10時までに復旧しない場合は、授業を終日休講とする。

(2) 神奈川県下に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合の休講について

台風接近等により、神奈川県全域又は神奈川県東部(「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」)に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合、次のような措置をとります(警報は「気象庁」もしくは「横浜地方気象台」(045-177)発表のものとしします)。

- ① 当日午前6時までに警報が解除された場合は、平常どおり授業を行う。
- ② 当日午前10時までに警報が解除された場合は、午前中の授業を休講とし、午後から授業を行う。
- ③ 当日午前10時までに警報が解除されない場合は、授業を終日休講とする。
なお、授業開始後に警報が発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

(3) 新型インフルエンザが流行した場合の休講について

新型インフルエンザが流行し、厚生労働省から新型インフルエンザ対策行動計画が緑園・山手両キャンパスの近隣地域で発令された場合は、感染防止のため、発令が解除されるまで終日休講とします。

3. 補講

大学又は各授業担当者のやむを得ない事情により、休講となった授業については、原則として補講を行います。また、担当者の判断により補講を実施することがあります。補講情報は、FerrisPassport、掲示によって通知します。担当者から直接指示があった場合、その指示に従ってください。

4. 授業欠席

大学では、授業を欠席する場合、原則として授業担当者に伝達するなどの措置はとりません。ただし、下記の事情により欠席する場合には、「欠席届」の手続きを受け付けますので、速やかに各課に申し出てください。(「欠席届」は、無断欠席ではないことを授業担当者に知らせるためのもので、出欠の扱いは各授業担当者の判断に委ねられています。)

① 傷病などの理由により、2週間以上続けて長期欠席する場合：教務課

「欠席届」(教務課備付・本学ホームページからもダウンロード可能)を提出してください。医師の診断書など欠席理由・期間を証明できるものの添付が必要になります。

② 感染症^{注*)}にかかった場合：教務課

感染症(インフルエンザも含まれます。)にかかっていると疑われる場合には、通学を見合せ、速やかに医師の診療を受けてください。感染症にかかっていると診断された場合は、直ちに教務課に電話(045-812-9118)で連絡してください。医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。

【出席停止の解除】

治癒したものと医師が診断し、通学・登校を許可する証明がなされて、出席停止を解除します。医師の署名・捺印を受けた「診断・登校許可証明書」（教務課備付・本学ホームページからもダウンロード可能）を添えて、「感染症罹患届」（教務課備付・本学ホームページからもダウンロード可能）を教務課に提出してください。

注*) エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。)、インフルエンザ、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核、コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

③ 「人命に関わるボランティア」に参加する場合：学生課

骨髄移植の提供者（ドナー）登録などで緊急な人命に関わるボランティアに参加するために授業を欠席せざるを得ない場合は、申し出てください。

④ 裁判員に選任され、審理に参加する場合：教務課

裁判員に選任され、審理に参加するために授業を欠席せざるを得ない場合は、申し出てください。

⑤ 忌引により、欠席する場合：教務課

次の続柄の親族が亡くなった場合は、「欠席届」を提出することができますので、提出時に必要な書類*をもって教務課に申し出てください。また、忌引日数は、死亡日もしくは葬儀の日を含む次のとおりとします。

配偶者、父母、子：連続7日以内

配偶者の父母：連続5日以内

祖父母、孫、兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹：連続3日以内

※ 日数には、土日・祝日を含む。

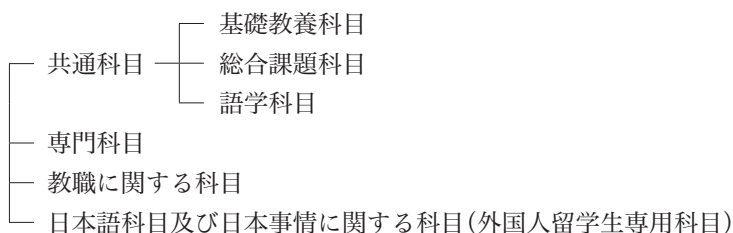
* 提出時に必要な書類：欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書(写)

⑥ その他特別な事情により、2週間以上続けて欠席する場合：教務課

やむを得ぬ理由と教務部長が判断した場合に限り、「欠席届」を提出することができます。（理由を証明する書類の提出が必要になります。）

授業科目の区分

本学の授業科目群は、次のような区分によって構成されています。



また、その性格により次の3種類に分類されています。

必修科目……………必ず修得しなければならない科目

選択必修科目……………一定の科目群の中から選択し、指定された方法で、必ず修得しなければならない科目

選択科目……………指定された科目群の中から自由に選択して修得する科目

単位制度

本学の教育課程は、すべて単位制度が採用されています。単位制度とは、所定の授業科目を履修し、各授業科目ごとに定められた単位を修得し、最短4年の在学期間のうちに卒業に必要な単位数を修得する制度です。

単位の計算方法

各授業科目の単位数は、1単位を45時間の学修を必要とする内容で構成することを標準としています。この1単位修得に必要な「45時間の学修」には、授業時間のほかに、予習、復習等の自習時間があらかじめ含まれています。授業の方法により、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。

なお、本学では90分授業=2時間授業として計算しています。

- (1) 講義：15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習：15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実技、実習及び実験：30時間から45時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、音楽学部における個人指導による実技については、別に定める。

例えば、上記(1)の講義科目では、1単位分の修得のためには、学生は**授業以外**に〔45時間-15時間=30時間〕の学修が自習時間として必要とされることとなります。

この授業以外の自習（授業外課題など）については、シラバスに明記されている場合と、毎回の授業時間に担当教員より具体的に指示される場合があります。

大学での勉学は、学生の積極的で、自主的な学修が不可欠な要素として重視されていることに十分留意してください。

アカデミック・アドバイザー制度

概要

この制度は、専任教員がアカデミック・アドバイザーとして、学生一人一人を担当し、履修計画や学習上の相談・指導を行うものです。また、担当学生が、成績不振に陥った場合には「特別指導」(p.24「特別指導対象学生」参照)の形で学習支援を行います。

アカデミック・アドバイザー担当教員

学部	学科	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
文	英文学科	1年次前期 「R&R(入門ゼミ)」担当者				3年次前期 「専門ゼミA」 担当者			
	日本文学科					3年次前期 「専門ゼミIA」 担当者			
	コミュニケーション学科								
国際交流	国際交流学科	1年次前期 「導入演習」 担当者	1年次後期 「基礎演習」 担当者	2年次前期 「基礎演習」 担当者	2年次後期 「基礎演習」 担当者	3年次前期 「専門演習」 担当者			
音楽	音楽芸術学科	音楽芸術学科専任教員				3年次前期 「専門ゼミI」 担当者			
	演奏学科	演奏学科専任教員							

※上記科目担当者が非常勤講師の場合、担当者に代わり専任教員がアカデミック・アドバイザーとなります。

履修計画・履修指導

履修科目の決定

学生は、公開されているWebシラバス等を参照して履修科目を選び、適宜アカデミック・アドバイザーと相談の上、履修登録する科目を決定します。

各学期に履修登録できる単位数は、入学年度、学年によって上限が定められています。この上限については、次ページの表を参照してください。

上記にかかわらず、「特別指導対象学生」(p.24)は、上限を17単位とします。特別指導対象学生への制限は、1年次後期から3年次前期の学生が対象となります。

履修登録できる単位数の上限

十分な学習時間を確保することを目的として、各学期に履修登録できる単位数の上限を設けています。

2012年度以降入学者

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学部	24	24	24	24	24	24	24	24
2年次編入学者	—	—	24	24	24	24	24	24
3年次編入学者	—	—	—	—	24	24	24	24
特別指導対象学生	—	17	17	17	17	—	—	—

2011年度以前入学者

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学部	23	23	25	25	上限なし	上限なし	上限なし	上限なし
2年次編入学者	—	—	31	31	上限なし	上限なし	上限なし	上限なし
3年次編入学者	—	—	—	—	上限なし	上限なし	上限なし	上限なし
特別指導対象学生	—	17	17	17	17	—	—	—

(1) 2012年度以降入学者の各学期の履修登録単位の上限は24単位です。

- ① 上限の単位数には、卒業要件に算入されない授業科目（教職に関する科目等）、他大学等における科目等履修（同志社女子大学、放送大学、横浜市内単位互換等）も含まれます。
- ② 通年科目（卒業論文等）の単位は、1/2ずつ各学期の履修登録単位数に加算されます。
- ③ 特別な事由により、3年次生・4年次生にはこの上限を超えて履修登録することが認められる場合があります。

希望する者は、所定の手続きによって申請してください。

(2) 編入学者が上記（1）の対象となるのは以下のとおりです。

- ① 2年次編入学者：2013年度以降入学者
- ② 3年次編入学者：2014年度以降入学者

責任ある履修

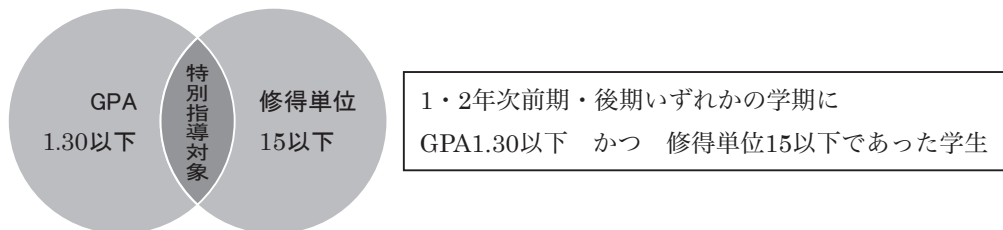
登録した科目に対して、責任をもって最後まで履修を続けることが学生には求められます。登録期間終了後に、取消を希望する科目がある場合は、登録取消制度を利用することができます。ただし、手続期間・取消できない科目等に注意してください。(p.32「登録取消」参照)

成績評価

学習の成果は、修得した単位数と共に、その成績評価を数値化したGPAにより評価されます。GPAは成績レベルを質的に計る指標となります。たとえば、登録単位数が多くとも、修得した単位数が少ない場合、GPAは必然的に低くなります。(p.40「GPA制度」参照)

特別指導対象学生

①次の条件に該当する者を、特別指導対象学生とします。



特別指導対象学生となった学期の成績が、GPA1.31以上または修得単位が16以上となった場合、次の学期は特別指導対象学生ではなくなります。

- ②アカデミック・アドバイザーは、次の学期始めに対象学生と前学期GPAが低かった理由などを共に考え、その後毎月1回定期的に面談し、学習支援を行います。なお、学習面以外の悩み等に及ぶ場合には、本人了承のうえ学生支援センター又は保健室に紹介するなど、手厚い対応をしています。
- ③最後まで履修を続けられるようその学期の履修登録の上限を17単位とします。(学期途中で休学した場合、復学後の学期においてはこの17単位の履修登録の上限は適用しません。)
- ④対象学生の保証人に対しては、前学期成績不振であったこと、今学期アカデミック・アドバイザーが特別指導により学習支援を行うこと等を書面で知らせ、指導実施後、その報告書を送付します。

通年科目の取り扱いについて

- ① 後期に成績評価がなされるため、GPAは後期にカウントされます。前期はカウントされません。
- ② 通年科目の単位は、1/2ずつ各学期の履修登録単位数に加算されます。

学生・保証人面談

2学期以上連続して特別指導の対象となった学生

アカデミック・アドバイザーが必要と判断した場合には、成績不振である理由を共に考え、休学・退学をも視野に入れて今後の方針を話し合います。

2013 年度 履修のスケジュール

	前期	後期	参照・備考
成績通知	3月末	9月13日(金)	p.42 参照
アカデミック・アドバイザー 面談 (希望者、特別指導対象者) 後期は4年次生全員	4月5日(金) …文・国 4月8日(月) …音	9月18日(水)	p.22 参照
成績評価確認願 (希望者のみ)	～4月12日(金)18:00	～9月25日(水)18:00 ※卒業学期生は p.43 参照	p.42 参照
履修計画	<ul style="list-style-type: none"> ■登録単位数の上限 …………… p.23 参照 ■所属学科カリキュラムの理解(共通科目) …………… 各該当箇所を参照 ■所属学科カリキュラムの理解(専門科目) …………… 各該当箇所を参照 ■年次・クラス指定 …………… p.26 参照 ■再履修 …………… p.26 参照 ■同一科目の重複履修 …………… p.26 参照 ■他学部・他学科科目の履修 …………… p.27 参照 ■教職科目の履修 …………… p.27 参照 ■集中講義の履修 …………… p.28 参照 ■人数制限のある科目・事前手続が必要な科目 …………… p.29 参照 		
履修登録	4月8日(月) 9:00 ～4月9日(火) 16:00 4月10日(水) 13:00 ～4月18日(木) 18:30	9月18日(水) 9:00 ～9月19日(木) 12:00 9月20日(金) 13:00 ～10月1日(火) 18:30	p.30 参照
履修者数制限科目 希望受付	4月8日(月) 9:00 ～4月9日(火) 16:00	9月18日(水) 9:00 ～9月19日(木) 12:00	p.30 参照
履修者数制限科目 履修許可者発表	4月10日(水)	9月20日(金)	p.30 参照 発表は FerrisPassport 及び 教務課掲示板で行います。

授 業 受 講 開 始

履修登録確認・訂正申告	4月19日(金) 9:00 ～4月25日(木) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	10月2日(水) 9:00 ～10月8日(火) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	p.31 参照
遅延登録(注)・ 履修科目取消(希望者のみ)	4月19日(金) 9:00 ～4月25日(木) 18:00	10月2日(水) 9:00 ～10月8日(火) 18:00	この期日を過ぎた申し出は 理由の如何を問わず一切認め られません。

(注)：大学が認める理由に該当した場合は遅延手数料が免除されます。

履修上の注意

大学では、学生が自らの責任において各自の学修計画を立て、所定の履修方法に基づいて単位を修得しなければなりません。履修に当たっては、定められた履修方法や履修登録方法に十分注意する必要があります。

履修年次

履修年次が指定されている授業科目は、その年次において履修してください。

クラス指定及び変更手続

クラスを指定して開講されている授業は、指定クラスにおいて履修してください。語学科目のクラス指定については、「語学科目」(pp.67～89)を参照してください。

必修科目の重複によりやむを得ずクラスを変更する必要がある場合は、次の手続を行わなければなりません。

(1) キリスト教 I クラス

原則として、クラス変更を認めません。ただし、キリスト教科目責任者 (p.9) が特に認めた場合は、「クラス変更願」(教務課備付)を提出することができます。

(2) 初習外国語クラス

当該言語の語学責任者 (p.9) と変更先のクラスの担当者に申し出て、了承を得てください。

(3) 英語クラス

原則としてクラス変更を認めません。ただし、英語の語学責任者 (p.9) が特に認めた場合は、(2)と同様の手続によって変更が認められます。必ず履修相談を受けてください。

(4) その他の授業科目のクラス

履修登録以前に各自が所属する学科の教務委員 (p.9) と変更先のクラスの担当者に、その旨申し出て了承を得てください。

上記の手続を経ないクラス変更は、認められません。

再履修

再履修とは、履修した授業科目の単位を修得できなかった場合に、その科目を改めて履修することをいいます。再履修にあたって、履修登録とは別の手続きが必要になる場合がありますので、各科目の履修方法にしたがってください。

同一授業科目の重複履修

同一授業科目を重複履修することは原則として認められません。ただし、学科等がカリキュラム上有益と定めた科目については、重複履修が可能です。重複履修可能な科目は「開講科目表」(pp.204～263)中に網かけ 表示されています。

他学部・他学科の専門科目の履修

(1) 専門科目の他学部・他学科開放について

開講科目表の開放欄に「▲」と表示してある科目は他学部・他学科の学生の履修が可能です。修得した単位は卒業に必要な単位（「自由に選択する科目」分）として加算されます。

また、音楽学部開講科目表の開放欄に「■」と表示してある科目は他学科の学生の履修が可能（他学部学生は不可）です。修得した単位は卒業に必要な単位（「自由に選択する科目」分）として加算されます。

(2) 音楽学部実技科目の他学部・他学科開放について

2005～2010年度入学の文学部・国際交流学部生は「第2副科実技（声楽）A, B」「第2副科実技（器楽）A, B」「第2副科実技（バレエ）A, B」、2011年度以降入学者は「P A 副科個人実技A, B」「P A 副科グループ実技A, B」（バレエ）を履修することが可能です。希望者は、履修する学期の前学期に掲示を確認し、手続きを行ってください。

また、レッスンの形態ではないクラス授業の実技科目については、履修前提条件をシラバスで確認してください。他学部・他学科向けのオーディションに合格した学生だけに許可される科目もあるため、オーディションについては掲示でお知らせします。

なお、基礎教養科目「音楽実技A, B」については、p.63を参照してください。

(3) 3・4年次演習（ゼミ）科目等の他学部・他学科開放について

一定の条件のもとに認められた場合には、各自が所属する学部・学科以外の3・4年次演習（ゼミ）科目等を履修することが可能です。

申込対象者：2013年度2年次生のみ

他学部・他学科に開放する演習（ゼミ）科目等は次のとおりです。

学 部	学 科	他学部・他学科に開放する科目
文	英文学科	「英米文化専門ゼミA, B」 「英米文化卒論ゼミA, B」「卒業論文」
	日本文学科	「日本語文化専門ゼミA, B」 「日本語文化卒論ゼミA, B」「卒業論文」
	コミュニケーション学科	「コミュニケーション専門ゼミ I A, I B」 「コミュニケーション専門ゼミ II A, II B」「卒業論文・卒業制作」
国際交流	国際交流学科	「専門演習」「卒業論文」
音 楽	音楽芸術学科	「専門ゼミ I, II, III, IV」「卒業プロジェクト」

手続の日程及び受け入れ人数・条件等詳細については、掲示でお知らせします。質問がある場合には、教務課に問い合わせてください。

「教職に関する科目」の履修

「教職に関する科目」のうち、開講科目表の開放欄に「▲」と表示してある授業科目（「教育原理」「教育思想」「教育心理学」「教育社会学」）は、教育職員免許状取得希望の有無にかかわらず、当該科目を履修し卒業に必要な単位とすることができます。

(p.262「教職に関する科目開講科目表」参照)

集中講義科目の履修

授業科目によっては、通常の授業期間外に、集中講義によって授業を行うことがあります。集中講義科目の日程は、次のように定められています（一部科目を除く）。

前期	2013年8月2日(金)～3日(土)、5日(月)～7日(水)
後期	2014年2月5日(水)～8日(土)、10日(月)

科目ごとの日程の詳細は、掲示によって発表します。

【注意事項】

- ① 日程が重複する複数の集中講義科目がある場合、履修できるのは一科目のみです。
- ② 集中講義の日程が他の学事と重なることによって、すべての授業に出席できない場合、当該集中講義科目を履修することはできません。
- ③ 集中講義期間中に、感染症罹患による出席停止になった場合、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。(p.32「登録取消」参照)

人数に制限のある科目・事前に手続が必要な科目の履修

種類	開講科目表 の表記	事前 手続	履修 登録	注意事項
履修者数制限科目	◆	必要	自動*1	履修希望者は、各学期の所定の日時に FerrisPassport で履修希望申込をしてください。履修優先順位に従い、大学が履修者の選抜及び履修登録を行います。選抜された科目の履修取消はできません。
学科選抜科目	学	必要	自動*1	学科等でクラス分けや履修者の決定を行う科目については、各学科等の指示に従って手続きをしてください。学科等の選抜結果に従って、大学が履修登録を行います。
初回授業時選抜科目	初	不要	各自*2	初回授業時に担当教員が選抜を行います。履修を希望する学生は初回授業に必ず出席して、担当教員の指示を受けてください。 選抜の結果履修が許可されなかった科目をすでに FerrisPassport で履修登録を行っている場合は、履修登録期間内に各自で科目の登録削除を FerrisPassport で行ってください。
要手続科目	要手続	必要	自動*1	実習等で事前に説明会への参加や申込手続が必要な科目です。手続きについては開講科目表、シラバスの指示、掲示等で確認をしてください。
教員の指示がある科目		不要	各自*2	シラバス等で担当教員から初回授業時に履修者を選抜することが指示されている場合があります。初回授業を欠席して、履修の権利をなくさないよう、事前にシラバスをよく読んでください。
収容人数の超過科目		不要	各自*2	特定の科目に履修者が集中し教室変更によっても教室収容人数を超える状態を解消できない場合には、大学の判断で履修者を制限する場合があります。この場合の制限は、カリキュラム、年次などの面から総合的に判断をしますが、初回授業を欠席した学生には履修の権利がなくなることにつけてください。

*1：大学が登録を行うので、履修登録期間及び履修登録確認期間に登録されていることを確認すること。

*2：各学期の履修登録期間に各自が FerrisPassport で履修登録・取消を行うこと。

履修登録は、学生がその学期・学年に履修するすべての授業科目を申告する手続です。定められた期間に、履修登録及びその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。また、履修登録及びその確認の手続不備等による不利益は本人の責任となるので、十分注意してください。

(1) 履修登録上の注意

- ① 履修登録は、本人の責任において行うこと。
- ② 履修上の注意に違反して履修登録を行うことはできない。
- ③ 履修登録は、定められた履修登録期間のみ受け付ける。理由なく手続を行わなかった場合は、当該学期・学年の授業科目の履修は一切認められない。
- ④ 通年科目は前期に履修登録を行うこと。
- ⑤ 履修登録を行った際には、必ず「学生時間割表」を印刷、保管しておくこと。(登録の確認を行う際、「学生時間割表」が唯一の根拠となります。)

(2) 学科選抜科目の履修手続

- ① 履修希望者は、学部・学科等の定める期間・方法にしたがうこと。
- ② 履修登録は大学が行うので、学生は通常の履修登録期間に改めて登録する必要はない。

(3) 履修者数制限科目の履修手続

- ① 履修希望者は、履修者数制限科目受付期間にFerrisPassportで履修登録を行う。
- ② 大学が履修許可者を選抜し、授業開始日までに履修許可者を掲示で発表する。また、履修登録は大学が行うので、学生は通常の履修登録期間に改めて登録する必要はない。

【注意】

- ① 履修許可者が定員に満ちていない場合であっても、原則として追加履修希望は受け付けない。ただし、学科等の判断により、追加募集を行うことがあるので掲示に注意すること。
- ② 履修許可者が、履修許可された科目の登録変更・取消しを行うことはできない。

(4) 履修登録

- ① 履修登録は、学内のパソコン及びインターネットに接続できる環境にあれば、学外からも行うことができます。(この場合も、本学が発行するアカウントが必要です。)ただし、学外から履修登録を行う場合、個々の環境によっては、システムがうまく動作しないことも考えられます。その場合には、学内で履修登録を行ってください。また、履修登録確定後、必ず「学生時間割表」を印刷、保管してください。

履修登録期間中、システムに不具合が生じたり学内でのパソコンの稼動状況に変更があった場合には、次の方法でお知らせします。

- ・ 本学ホームページ (<http://www.ferris.ac.jp/>)
- ・ FerrisPassport
- ・ 学内掲示板

- ② 履修登録期間中には、学内のパソコン利用が混雑したり、パソコンの動作が遅くなることも予想されますので、登録にあたってはあらかじめ科目を決定したうえで、十分に時間的な余裕を持って行ってください。
- ③ 履修登録期間終了後の登録科目の追加・変更は、一部の授業科目を除き、認められません。(p.31「追加・変更が認められる授業科目」参照)

(5) 遅延登録

やむを得ぬ理由(追試験許可理由に準ずる。p.37参照。)により、履修登録期間に手続きできない場合は、最終日の翌日から数えて7日以内(休日を含む。)に必要な書類(「遅延登録願」及び証明書等)を提出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。

その他の理由で遅延して履修登録を希望する者は、所定用紙(「遅延登録願」)によって願い出て、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。この場合、遅延手数料(5,000円)が徴収されます。

(6) 登録確認・訂正申告

履修登録期間終了の翌日以降、FerrisPassportで登録科目の確認ができます。必ず履修登録時の「学生時間割表」と照合し、その学期に履修すべきすべての科目(必修科目、クラス指定科目、学科選抜科目、履修者数制限科目、初回授業時選抜科目、要手続科目を含む)がもれなく登録されているかを確認してください。

登録されていない科目がある場合は、履修登録時の「学生時間割表」を印刷して持参し、定められた期日までに教務課で訂正申告の手続きを行わなければなりません。

「履修登録訂正申告期間」に履修登録の追加・変更が認められるのは、次の必修(相当)科目等のみです。

追加・変更が認められる科目	
【基礎教養科目】 「キリスト教Ⅰ」	【音楽学部専門科目】 必修科目 (所属学科に関わる学部共通及び学科専門) 「専攻実技〇〇Ⅰ～Ⅷ / ⅠA・B～ⅣA・B」 「学内演奏」(3・4年次ともに認める) 「学内ソロ・コンサート」(3・4年次ともに認める) 「卒業演奏」(4年次前期のみ) 「卒業プロジェクト」(4年次前期のみ) 「国内音楽研修」 「海外音楽研修」
【語学科目】 当該学生にとっての必修相当語学科目	【教職に関する科目】 「教育実習2」「教育実習3」(4年次前期のみ)
【文学部専門科目】 「卒業論文」(4年次前期のみ) 「卒業論文・卒業制作」(4年次前期のみ)	【その他】 当該科目を履修しなければ卒業延期となる授業科目 学科選抜科目(*)
【国際交流学部専門科目】 「研究入門」 「卒業論文」(4年次前期のみ) 「地球環境実習」 「海外環境フィールド実習」 「地球社会現地実習」 「アジア現地実習」 「ヨーロッパ現地実習」 「オーストラリア現地実習」	

*追加・変更には学科・科目責任者の承認が必要です。

(7) 登録取消

履修登録した科目の取消を行う場合には、履修登録取消の期間に各自でFerrisPassportで取消の手続きをしてください。

【注意事項】

- ① 科目の性格上、次のとおり取消できない科目があります。

取消しができない科目	
【基礎教養科目】 「キリスト教Ⅰ」（後期開講科目を除く） 「健康・スポーツ（8）」 「音楽実技A,B」	【語学科目】 英語科目（英語e科目を除く） 初習外国語科目（*）
【総合課題科目】 「キリスト教Ⅲ（1）」 「キリスト教Ⅲ（2）」 「キャリア実習（短期インターンシップ）」 「キャリア実習（長期インターンシップ）」	【その他】 履修者数制限科目 学科選抜科目 要手続科目

*英語科目及び初習外国語科目については、当該学生にとって必修相当ではない科目のみ、語学責任者(p.9)の判断により取消しが認められることがあります。取消しを希望する学生は、下期の期日までに「学生時間割表」に語学責任者の承認印を受けた上で教務課で手続きを行ってください。

- ② 取消しをした科目に代え、新たに別の科目を登録することはできません。
- ③ 通年科目については、前期・後期のいずれの期間でも取消申請をすることができます。
- ④ 集中講義期間中に、感染症罹患による出席停止になった場合、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。(p.19「授業欠席」参照)

【履修科目取消申請期間】

→日程・スケジュールはp. 25

試験

試験の種別

試験の種別は次のとおりです。

- ① 授業内試験 { 担当者による試験 (筆記、レポート、実技)
 教務課取扱いの試験 (p.33「教務課取扱いの試験」参照)
- ② レポート試験 (教務課提出) (p.34「レポート試験」参照)
- ③ 音楽学部実技試験 (p.148「実技試験」参照)
- ④ 追試験 (p.37「追試験」参照)
- ⑤ 再試験 (音楽学部必修・選択必修レッスン科目のみ。p.38「再試験」参照)
 なお、実技試験については、p.150「再試験」をご覧ください。
- ⑥ 卒業再試験 (p.38「卒業再試験」参照)

受験資格

次のいずれかに該当する場合は、試験を受けることはできません。また、受験しても無効となり、当該科目の成績は取り消されます。

- ① 当該学期の授業料等学納金が未納の場合
- ② 履修登録がされていない授業科目
- ③ 履修授業科目について、出席が3分の2に満たないと担当者が判断した場合

不正行為

筆記試験時に不正行為を行った学生には、その学期の全科目の履修登録を無効とする措置等がとられます。

なお、レポート試験において不正行為 (インターネットからの明らかな盗用など) を行った学生には、当該科目の成績評価を不合格 (H) とする措置がとられます。

また、学則に基づく処分 (停学、訓告等) がなされることがあります。

教務課取扱いの試験

授業の到達度を測るため、授業中に試験が行われる場合があります。そのうち教務課から掲示で発表される授業第14週・第15週に行われる試験を「教務課取扱いの試験」と呼びます。

授業第14週期間

前期	2013年7月16日(火)～19日(金)、22日(月)
後期	2014年1月10日(金)、14日(水)～16日(木)、20日(月)

授業第15週期間

前期	2013年7月23日(火)～26日(金)、29日(月)
後期	2014年1月21日(火)～24日(金)、27日(月)

上記の期間中は、通常の教室と異なる場合や、5時限終了後に試験を行うことがあります。

教務課取扱いの試験に関する掲示事項等は、試験実施2週間前に掲示します。

なお、この掲示内容は、発表後に変更される場合があるので、FerrisPassport等の更新情報に十分注意して間違いのないようにしてください。音楽学部実技試験時間割については、別に掲示します。

受験上の注意

- ① 着席は、原則として1人掛け又は2人掛けとし、2人掛けの場合は、各々両端に座ってください。
- ② 試験中は監督者が見やすいように、学生証を机上に置いてください。
- ③ 当日学生証を忘れた学生は、教務課で受験票の交付を受けてください。受験票は、交付日当日のみ有効です。(教務課への返却は必要ありません。)
- ④ 下敷の使用及び筆記用具の貸し借りは禁止します。
- ⑤ 携帯電話・スマートフォン及びパソコン等の電子機器の使用は禁止します。
- ⑥ 遅刻は試験開始後20分までに限り認められます。ただし、試験時間は延長しません。
- ⑦ その他試験中は、すべて監督者の指示に従ってください。

レポート試験

試験が筆記試験によらず、レポート提出をもって行われる場合は、以下に従ってください。

(1) 教務課提出の場合

- ① 本人提出を原則とします。ただし、病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、代理人提出を認めます。
- ② 教務課所定の表紙に必要な事項を記入し、ホチキスで綴じて提出してください。(p.36 記入例参照)
- ③ 提出は指定されたレポートボックスに入れる方法とします。
レポートボックスの入れ間違いがないよう注意してください。
- ④ 提出場所は、原則として開講校舎となります。
ただし、音楽学部3・4年次生、音楽研究科の院生については、緑園・山手いずれの校舎でもレポート提出を受け付けます。
- ⑤ 提出期間は、下記の期間(土曜日、休日を除く。)とします。

【教務課提出レポート試験提出期間】

前 期	2013年7月23日(火)～26日(金)、29日(月)
後 期	2014年1月21日(火)～24日(金)、27日(月)
受付時間	9:00～18:00 提出時間厳守

- ⑥ 教務課提出科目でないもの、表紙に不備のあるもの、提出受付期限を過ぎて提出されたもの、郵送によって提出されたものはいっさい受理しません。
 - ⑦ 一度提出したレポートの変更・訂正は認めないので、よく確認の上、提出してください。
 - ⑧ 表紙を付け間違えて提出されたレポートは無効とします。
 - ⑨ レポートは各自コピーをとり、成績通知まで保管してください。
- (2) 担当者又は研究室等に直接提出する場合
すべて担当者又は研究室等の指示に従ってください。
教務課ではいっさい取り扱いません。
- (3) レポート作成・提出に際しての注意事項
レポートは、授業の内容を踏まえて、自らの力で作成するものです。したがって、他人の文章を引用する際には、その部分を括弧「 」で囲むなど、引用がわかるようにした上で、出典を明記しなければなりません。レポートの作成・提出にあたっては、下記の事項を十分に理解し、不正行為とならないように注意してください。
- ① 書物、論文及びインターネット（掲示板・ブログ等を含む）から転記したり、それを組み合わせたりして、あたかも自分の文章のように装うことは、「引用」ではなく「盗用」です。盗用は絶対に許されない行為です。
 - ② ①のような意図はなくても、出典を明記しないで「引用」を行うと、「盗用」とみなされる場合があります。
 - ③ 提出されたレポートが上記①・②に基づき「盗用」とみなされた場合は、「不正行為」を行ったものとして扱われます。
 - ④ レポートにおいて不正行為を行った学生には、当該科目の評価を不合格（H）とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分（停学、訓告等）がなされることがあります。

教務課提出レポート表紙

レポートの表紙は、点線の部分を折り曲げて用紙をはさみ、ホチキスで上部2か所を綴じてください。

(担当者控)【A】 ① 【レポートBOX番号】

② 科目名 ○○○○○○○○

③ 担当教員名 ■■■■ ■■

④ 曜日・時限 △ 曜 △ 時限

私は、他人の文章や本からの無断引用、インターネットからの無断コピー等、レポート提出における不正行為及びその罰則について十分理解し、掲示・裏面「レポート作成・提出に際しての注意事項」のルールに則って、本レポートを提出いたします。

⑤ 学籍番号	13AA999
氏名	フェリス 花子

フェリス女学院大学

(教務課控)【B】 ① 【レポートBOX番号】

② 科目名 ○○○○○○○○

③ 担当教員名 ■■■■ ■■

④ 曜日・時限 △ 曜 △ 時限

私は、他人の文章や本からの無断引用、インターネットからの無断コピー等、レポート提出における不正行為及びその罰則について十分理解し、掲示・裏面「レポート作成・提出に際しての注意事項」のルールに則って、本レポートを提出いたします。

⑤ 学籍番号	13AA999
氏名	フェリス 花子

フェリス女学院大学

【記入に際しての注意事項】

- ① 表紙の記入に際しては、ペン又はボールペンを使用。
【A】【B】両方に必要事項を記入。
- ② 科目名は、正式名称を記入。
（「～A」「～I」等も忘れずに記入。）
- ③ 担当教員名は、フルネームを記入。
- ④ 授業の曜日・時限を記入。
- ⑤ 学籍番号・氏名の記載のないレポートは無効となるので、各自確認の上、提出すること。

追試験

病気、その他やむを得ない理由により教務課取扱いの試験を受けられなかった学生は、追試験許可理由（下記（1）参照）のいずれかに該当し、受験資格があると認められた場合に限り、願い出によって追試験を受けることができます。（音楽学部実技科目の追試験については、p.149「実技追試験」を参照。）

ただし、授業第14週・第15週に行われている試験でも、教務課が掲示で発表を行っていないものについては、追試験を願い出ることはできません。

追試験対象に該当する日程については、「教務課取扱いの試験」p.33を参照してください。

（1）追試験許可理由

下記の理由により教務課取扱いの試験を欠席した学生は、必要書類の要件を満たした場合に限り、追試験を願い出ることができます。

なお、提出書類は、当該科目試験日に受験できなかったことを証明するものでなければなりません。

	欠席理由	必要書類
①	傷病	医師の診断書
②	感染症にかかった場合の出席停止 詳細はp.19授業欠席②「感染症にかかった場合」を参照。	感染症罹患届、診断・登校許可証明書
③	就職試験受験	受験先の証明書等
④	大学院受験	受験票（写）
⑤	放送大学(特別聴講学生)第1学期の単位認定試験	放送大学の試験日程を証明する書類
⑥	裁判員招集 詳細はp.20「裁判員に選任され、裁判員として審理に参加する場合」を参照。	裁判所からの呼び出し状
⑦	「人命に関わるボランティア」参加 詳細はp.20「人命に関わるボランティアに参加する場合」を参照。	内容及び参加日等を確認できる証明書等 公的な書類
⑧	忌引 詳細はp.20「忌引により、欠席する場合」を参照。	欠席日を確認できる「会葬礼状」または 死亡を確認できる公的証明書（写）
⑨	交通機関の事故	駅が発行する遅延証明書等
⑩	全国レベルの大会等への出場	当該大会等のプログラム及び参加を証明 する書類並びに関係教員の承諾書
⑪	その他特別な事情により、教務部長が必要と認めた場合	理由を証明する書類

（2）受験手続

追試験受験を希望する場合は、次の期日までに「追試験願」（教務課にあります）に証明書類及び受験料（証紙購入）を添えて、教務課に提出しなければなりません。この期日に遅れると、一切受理されません。（代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。）

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、追試験該当者発表日以降に受験料を返還します。

追試験該当者の発表は、時間割とともに、次頁（3）各追試験日の一週間前に行います。

【追試験手続締切日】

前期	2013年8月5日(月)まで (8月中の受付時間は9:00～15:00となります。)
後期	2014年2月3日(月)まで

受験料：1科目につき1,000円（追試験許可理由②の場合は受験料は不要です。）

(3) 追試験日程等

① 日程

前期追試験日	1～4年次生	2013年8月30日(金), 8月31日(土)
後期追試験日	4年次生	2014年2月12日(水)
	1～3年次生	2014年2月27日(木), 2月28日(金)

- ② 追試験時間割発表の日程等は、教務課取扱いの試験時間割発表時に掲示します。ただし、音楽学部実技科目の追試験については、別途掲示します。
- ③ 追試験の成績評価は、2割減点とします。(追試験許可理由②及び⑥の場合は、成績評価の減点はありません。)
- ④ 追試験の実施は、定められた期日1回限りとします。
- ⑤ 合格・不合格評価科目及び集中講義科目については、追試験を実施しません。

(4) レポート追受理

レポート追受理とは、やむを得ぬ理由（追試験許可理由に準ずる。）により提出期間内に教務課提出のレポートを提出できない場合、下記の期日までに証明書類を添えて提出することができる制度です。必要書類3点（①「レポート追受理願」、②証明書類、③レポート）が揃っている場合に限り受理されます。

ただし、この場合の成績評価は、追試験の規定に準じます。

【①～③提出締切日】

前期	2013年8月5日(月)まで (8月中の受付時間は9:00～15:00となります。)
後期	2014年2月3日(月)まで

再試験

再試験とは、音楽学部の必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格（評価F）とされた学生が、願い出て認められた場合、改めて受験の機会を与える制度をいいます。（p.150「再試験」参照）

卒業再試験

卒業再試験とは、卒業学期に履修した科目（ただし、卒業再試験対象外科目を除く）に対し不合格評価「F」を受けたため、卒業要件単位に不足が生じ、かつその不足単位数が4単位以内である者に、再度試験の機会を与える制度です。不合格評価「G」「H」を受けたため、卒業要件を満たせなくなった者には、受験資格が与えられません。

(1) 卒業再試験受験資格者

- ① 受験資格者は、教授会において確定された後、発表される。
- ② 受験資格者は卒業学期に評価「F」を受けた科目の中から、不足単位数に相当する分の科目の卒業再試験を受験することができる。

(2) 卒業再試験対象外科目

卒業再試験対象外科目

① 集中講義科目		
② 追試験受験科目		
③ 音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に実施する必修・選択必修レッスン科目		
④ 合格・不合格評価科目(pp.40～42)		
⑤ 実習科目	基礎教養科目	「音楽実技A,B」
	語学科目	「海外語学実習」
	英文学科専門科目	「アメリカ現地実習」「イギリス現地実習」 「フィールド・スタディ1,2」
	日本文学科専門科目	「日本語教育実習1,2」
	国際交流学部専門科目	「地球社会現地実習」「アジア現地実習」 「ヨーロッパ現地実習」「地球環境実習」 「オーストラリア現地実習」
	音楽学部専門科目	「伴奏実習Ⅰ」「伴奏実習Ⅱ」
⑥ 教職に関する科目のうち、卒業要件算入科目以外の教職専門科目		

(3) 卒業再試験手続

卒業再試験の受験を希望する者は、次の期間に「卒業再試験受験願」（教務課にあります）に受験料（証紙購入）を添えて、教務課に提出しなければなりません。この期間に遅れると一切受理されません。（代理人による手続も認めるので必ずこの期日までに手続を行ってください。）

【卒業再試験手続期間等】

前期	2013年9月13日(金), 17日(火) (9月卒業希望者対象)
後期	2014年2月24日(月), 25日(火)

受験料：5,000円（1科目につき）

(4) 卒業再試験日程等

① 日程

前期卒業再試験日	2013年9月18日(水)
後期卒業再試験日	2014年2月26日(水)

- ② 卒業再試験の時間割は、卒業再試験申込時に発表します。
- ③ 卒業再試験の成績評価は「C」または「F」とします。
- ④ 卒業再試験の実施は、定められた期日1回限りとします。

成績評価

(1) 成績評価

本学における成績評価の基準は、次のとおりです。ただし、大学院学生については、別途定めます。

	評価	評価基準		GP
合格	S	100点～90点	到達目標を達成し、卓越した水準に達している。	4
	A	89点～80点	到達目標を達成し、優れた水準に達している。	3
	B	79点～70点	到達目標を達成し、良好な水準に達している。	2
	C	69点～60点	到達目標を達成している。	1
不合格	F	59点～0点	到達目標を達成していない。	0
	G	—	筆記・実技試験を欠席、もしくはレポートを提出しなかった。	0
	H	—	出席が3分の2に満たず受験資格なしと判定された、もしくはその他の理由による。	0

(2) GPA制度

GPA (Grade Point Average) とは、各成績評価に対してそれぞれポイントを定め、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。したがって、履修科目を多く登録しても、不合格が多いと、GPAの値が小さくなります。科目選択および履修に際しては、各自が責任をもって管理してください。

各成績評価に対するグレードポイントは次のとおりです。(合 (P)、不 (Q)、N、Tは、GPAの算出には含まれません。)

$$S=4, A=3, B=2, C=1, F \cdot G \cdot H=0$$

GPAは履修科目の単位数に評価に応じたグレードポイントを乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して求められます。

《例》

授業科目名	単位数	評価	ポイント数 (QP)
キリスト教 I	2	A	2×3= 6
英語 I s (読む・書く)	1	C	1×1= 1
英語 I s (聞く・話す)	1	H	1×0= 0
スペイン語 I (入門)	1	B	1×2= 2
中国語 I (入門)	1	F	1×0= 0
R & R (入門ゼミ)	1	B	1×2= 2
社会的行為としてのコミュニケーション	4	B	4×2= 8
対人コミュニケーションの心理学	2	B	2×2= 4
放送文化と制度を考える	2	A	2×3= 6
ディベートと自己主張	2	B	2×2= 4
日本語の音声とアクセント (1)	2	A	2×3= 6
日本の歴史 (1)	2	C	2×1= 2
合計	21単位①		41②

$$GPA = ② \div ① \rightarrow 41 \div 21 = 1.95 \text{ (小数点第3位で四捨五入)}$$

(3) 成績通知 (FerrisPassport) ・ 成績証明書への表示

成績通知及び成績証明書への評価の表示方法は次のとおりです。

評 価	S	A	B	C	合	F	不	G	H	単位 認定	評価の*2 取消し又は 保留	GPA
成績通知	S	A	B	C	P	F	Q	G	H	N	T	表示
成績証明書(和文)	S	A	B	C	P					N		表示
成績証明書(英文)	A ⁺	A	B	C	P					N		表示

- *1 本学以外で修得した単位等の認定は、成績通知及び成績証明書に授業科目名:「単位認定」、評価:「N」と表示されます。
- *2 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業演奏」「卒業プロジェクト」の評価が合格となっても、卒業判定の結果、卒業資格の認定が得られなかった場合、「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」は「評価取消し」、「卒業演奏」は「評価の保留」となり、いずれの場合も成績通知には評価:「T」と表示されます。

(4) 成績評価のガイドライン

厳正な成績評価を行うことを目的として、学部の授業科目の成績評価についてガイドラインを設けています。

1. S評価とA評価を与える学生の割合は履修登録者数に対して合計50%を上限とする。
2. 次のいずれかに該当する授業科目には、担当者の判断によりこのガイドラインを適用しないことができる。
 - (1) 履修登録者9名以下の科目
 - (2) 卒業再試験対象外の実習科目 (p.39「卒業再試験対象外科目」⑤参照)
 - (3) 基礎教養科目「音楽実技A,B」
 - (4) 文学部「R&R (入門ゼミ)」「基礎ゼミ」「専門ゼミ」「卒論ゼミ」「特別演習」
 - (5) 国際交流学部「導入演習」「基礎演習」「専門演習」
 - (6) 音楽学部「ソルフェージュ」「音楽家の基礎知識」「音楽基礎理論」「室内楽」「演奏プロフェッショナルスタディ」「ソリスト育成特別レッスン」「学内演奏」
 - (7) 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」「卒業演奏」

(5) 合格・不合格評価科目

試験の結果が段階的な評価によらず、合格又は不合格で評価される授業科目は、次のとおりです。

合格・不合格評価科目

基礎教養科目	「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」
総合課題科目	「フェリス女学院で学ぶということ(1)」「フェリス女学院で学ぶということ(2)」「私のキャリアを考える(1)」「キリスト教Ⅲ(1)」「キリスト教Ⅲ(2)」「キャリア実習(短期インターンシップ)」「キャリア実習(長期インターンシップ)」
国際交流学科専門科目	「地球社会現地実習」
音楽学部専門科目	「学外公開演奏」「学外公开发表Ⅰ」「学外公开发表Ⅱ」「国内音楽研修」「海外音楽研修」

(6) 成績通知

成績通知は、下記の日程にFerrisPassportを通じて行います。

前期	2013年3月末(詳細は後日掲示)
後期	2013年9月13日(金)

成績通知時には、一部の科目*を除き前学期までに履修したすべての授業科目の成績評価が記載されています。

*「キャリア実習(短期インターンシップ)」「キャリア実習(長期インターンシップ)」及び本学以外で修得した単位の認定は、学期始めの成績通知には反映されず、保証人あての成績通知書に成績評価が記載されます。

保証人に対しては、各学期ごとに成績通知書を郵送します。ただし、特別な事情によって保証人への郵送を希望しない場合は、所定用紙(教務課備付)をもって郵送の停止を願うことができます。願出が受理された場合、保証人への成績通知書送付を停止し、別途、送付停止となった旨のお知らせを送付します。

【保証人あて郵送日】

前期	2013年5月中旬(予定)
後期	2013年10月下旬(予定)

(7) 成績評価に関する問い合わせ

成績評価について客観的に検証した上で確認を求めたい場合は、定められた期日までに、所定用紙「成績評価確認願」(教務課備付)に理由、根拠を具体的に記入の上、教務課に提出してください。この期日を過ぎた場合、問い合わせは一切受け付けられません。

なお、この問い合わせは、成績評価の確認を依頼するためのものであり、担当者に対して評価への異議又は再考を申し出るものではありません。

→日程・スケジュールはp. 25

卒業の要件・卒業

1. 卒業に必要な単位

卒業のためには、4年（8学期）以上在学（2、3年次編入学者を除く。）して、各学部・学科ごとに定められた卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

2. 卒業・学位

4年（8学期）（3年次編入学者は2年（4学期）、2年次編入学者は3年（6学期））以上在学し、所定の単位を修得した学生は、卒業が認められ、卒業証書・学位記が授与されます。卒業資格の認定を得た学生には、次の学位が与えられます。

文学部卒業生： 学士（文学）

国際交流学部卒業生：学士（国際交流学）

音楽学部卒業生： 学士（音楽）

卒業資格の認定を得た者の氏名は、次の日時に掲示、FerrisPassportによって発表します。

【卒業生発表】

日時	2014年2月24日(月) 15:00
場所	緑園校舎・山手校舎・FerrisPassport

【「成績評価確認願」提出期限】

2014年2月25日（火）18:00まで

→ 9月卒業希望者はp. 45

3. 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトの提出

卒業論文（文学部・国際交流学部）、卒業制作（コミュニケーション学科のみ）、卒業プロジェクト（音楽芸術学科のみ）

(1) 「卒業論文等題目届」提出

所定の期日までに、届出用紙「卒業論文等題目届」に題目を記入し、指導教員の承認印を得た上で、教務課（緑園）又は山手事務室に提出してください。届け出た題目（主題）を変更することはできません。副題は変更が可能です。

【「卒業論文等題目届」提出締切日】 2013年10月18日（金）まで

「卒業論文等題目届」提出の際の注意事項

→ 9月卒業希望者はp. 45

- ① 記入もれがないことを確認してください。
- ② 題目届は複写用紙なので、筆圧を強く記入してください。
- ③ 2枚目の複写用紙（提出票）に、指導教員の捺印もれがないことを確認してください。
- ④ 提出後、「卒業論文等題目届」の提出票の文字を書きなぞったり、主題を書き換えたりすることはできません。
- ⑤ 「卒業論文等題目届」の提出票は、卒業論文等の提出時に必要なもので、大切に保管してください。

(2) 卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト提出

日時	2013年12月11日(水) 11:00～16:00 2013年12月12日(木) 11:00～16:00	}時間厳守
場所	緑園校舎(受付会場等詳細は、掲示によって発表します。)	

→ 9月卒業希望者はp. 46

卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクト提出時の注意事項

- ① 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトは、指定された日時に所定の場所に、本人が提出してください。
- ② 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトをパソコン等で作成した場合、紙に印刷され、所定の方法で綴じられたものでなければ受理されません。機器のトラブルによる遅延提出は一切認められません。またUSBメモリー等電子データの状態での提出も認められないので、提出日以前に印刷を済ませておいてください。(ただし、コミュニケーション学科の卒業制作及び音楽芸術学科の卒業プロジェクトでは紙以外の媒体での提出が指示されることがあります。)
- ③ 郵送のものは受理されません。
- ④ 病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、追試験許可理由(p.37)に準じて代理人提出が認められることがあるので、教務課まで連絡し、指示を受けてください。ただし、この場合も、提出期限に遅れた場合は、受理されません。
- ⑤ 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトの用紙、形式は、各学科等の指示に従ってください。
- ⑥ 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトの審査には、口頭試験等を併せて行うことがあります。
- ⑦ 詳細については、学科主任・研究室等の指示に従ってください。

(3) 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトの遅延提出

12月12日(木)16:00までに提出できなかった卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトは、次の日時に提出された場合のみ、遅延扱いとして受け付けます。ただし、この場合、遅延手数料が徴収されます。また、遅延提出受付日に受理された場合の成績評価は、「C」または「F」とします。

遅延提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず、一切受理されません。

【卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクト遅延提出受付日時】

日時	2013年12月13日(金) 15:00～17:00	時間厳守
場所	緑園校舎(受付会場等詳細は、掲示によって発表します。)	

遅延手数料：5,000円

→ 9月卒業希望者にはこの制度はありません

4. 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトの単位

- (1) 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトの単位認定は、卒業する年度にのみ行われます。また、卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトを提出した者で、その年度に卒業を希望しない者は、「卒業論文等撤回願」(教務課備付)を教務課に提出することにより卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトを撤回することができます。なお、撤回した場合は、H評価となるので、次の卒業年度に改めて履修登録を行い、卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトを提出しなければなりません。

【「卒業論文等撤回願」提出期限】 2014年1月28日(火)

→ 9月卒業希望者はp.46

- (2) 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトの評価が合格となっても、卒業判定の結果、卒業資格の認定が得られなかった場合、卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクトの評価は取消し(T評価)となり、論文は学生に返却されます。次年度に改めて履修登録及び卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクト提出の手続を行う必要があります。

音楽学部の卒業演奏はp.154を参照して下さい。

5. 9月卒業について

- (1) 年度末に卒業資格の認定を得られなかった者が、次年度前期に卒業に必要な単位を修得した場合、9月末の卒業を認められ、卒業証書・学位記が授与されます。2013年度9月卒業を希望する者は、次の期日までに教務課に「9月卒業希望届」(教務課備付)を提出してください。

【「9月卒業希望届」提出期限】 2013年4月19日(金)まで

- (2) 2013年度9月卒業資格の認定を得た者には、次の期日にその旨通知します。

【9月卒業者発表・成績通知書交付】 2013年9月13日(金) 16:00以降

【「成績評価確認願」提出期限】 2013年9月13日(金) 18:00まで

【2013年度9月学位授与式日程】 2013年9月25日(水)

- (3) 9月卒業希望者の履修方法について

各学部ごとに次のとおり定められています。

文学部

希望者は、前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。

選択必修Iと選択必修IVの科目で、後期開講科目を未修得の場合は、それぞれ同じ群の前期開講科目の履修をもって、当該未修得科目の履修と見なします。その場合には「9月卒業希望届」を提出する前に、所属学科の教務委員(p.9)の履修指導を受けなければなりません。

国際交流学部

希望者は、前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。

音楽学部

希望者は、前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。

なお、当該学生の未修得科目の履修方法について、学部が特に定める場合があります。9月卒業希望届を提出する前に、所属学科の履修指導を受けてください。

- (4) 9月卒業希望者の卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクト提出について、各学部ごとに、次のとおりとします。

文学部・国際交流学部・音楽学部

「卒業論文等題目届」提出締切日	2013年5月10日(金)まで
卒業論文等提出日時	2013年7月10日(水) 9:00~16:00 提出時間厳守
提出場所	教務課(緑園)

- (5) 9月卒業予定者のうち、卒業論文等を提出した者で、9月卒業を希望しない場合は、願出により卒業論文等を撤回することができます。撤回した者は、次の学期に卒業論文等を提出することができます。

【9月卒業予定者の卒業論文等撤回期限】 2013年7月29日(月)

単位認定・単位互換・留学・海外研修

単位の認定

本学への入学以前・入学後在籍中に他大学等で修得した単位及び「実用英語技能検定」等の技能審査に合格した場合は、一定の基準に基づき本学において修得した卒業に必要な単位として認定されます。

認定される単位の上限

2005年度以降入学者

学部等	単位認定の上限
文学部・国際交流学部・音楽学部 (編入学者を除く)	下記の①・②を合わせて60単位まで ①入学前：他大学等で修得した単位+技能審査 ②入学後：他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学)+技能審査
2年次編入学者	編入学時の一括認定30単位とは別に①を30単位まで ①編入学後：他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学)+技能審査
3年次編入学者	編入学時の一括認定62単位とは別に①を30単位まで ①編入学後：他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学)+技能審査

他大学等で修得した単位の認定基準

他大学等で修得した科目の内容を勘案し、これと同等とみなされる科目区分(基礎教養科目・総合課題科目(キリスト教科目を含む)、語学科目、専門科目(必修・選択必修・選択)、教職科目のいずれか)として認定されます。

ただし、単位認定の種類によって認定除外科目があるので、十分確認してください。

単位認定の種類・申請方法等

入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後在籍中に他大学等での科目等履修によって修得した単位及び技能審査の合格について、単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

1. 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり (p.54参照)	
申請先	教務課 (緑園)	
申請方法	所定用紙 (「単位認定申請書」: 教務課にあります) に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類: 「合格証書」または「スコア・レコード」	
申請期間	2013年度前期分	2013年7月15日(月)～7月19日(金)
	2013年度後期分	2014年1月14日(火)～1月20日(月)
注 意	① 公開テストで取得したスコアに限ります。(TOEFL-ITP及びTOEIC-IPテストは認定対象外です。) ② 取得時期は、入学後かつ申請日からさかのぼって1年以内のものに限ります。 ③ 一度認定された言語について、あらためて同じ級 (又は同レベルのスコア) を取得しても、再び認定はされません。ただし、上位の級 (又は上位のスコア) を取得した場合には、すでに認定された分を除いた単位が認定されます。	

2. 他大学等における科目等履修による単位認定

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
申請先	教務課 (緑園)	
申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ① 履修許可願 (履修開始前) 所定用紙 (「他大学等における科目等履修願」: 教務課にあります) に記入し、次の書類を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 卒業予定学期における履修は認められません。 添付書類: 科目等履修を行う大学等の履修要項、シラバス等授業内容を示す書類のコピー ② 単位認定申請 (履修後) 上記①の手続により、履修許可を受け、科目等履修を行った上で所定用紙 (「単位認定申請書」: 教務課にあります) に記入し、次の書類を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類: 成績証明書、履修要項、シラバス等授業内容を示す書類のコピー	
①の申請期間	2013年度後期履修分	原則として履修開始の2か月前まで 新入生の申請期間については、教務課に問い合わせてください。
	2014年度前期・後期履修分	原則として履修開始の2か月前まで
②の申請期間	教務課に問い合わせてください。	

3. 海外の大学への交換・認定留学、セメスター・アブロードによって修得した単位の認定
 入学後在学中に交換・認定留学、セメスター・アブロードによって海外の大学等において修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
	国際交流学部専門科目	「導入演習」及び「研究入門」「基礎演習」「専門演習」「卒業論文」の単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
申請先	教務課（緑園）	
申請方法	教務課に問い合わせてください。	

4. 単位互換制度により修得した単位の認定

次の単位互換制度により修得した単位は、本学以外で修得したその他の単位等の認定とあわせて本学において修得した卒業に必要な単位とみなすことができます。

なお、単位互換制度を利用して履修する単位数は、各自定められた履修登録単位数の上限に含まれます。

(1) 同志社女子大学において修得した単位の認定

学生交流に関する協定に基づき交流学生として同志社女子大学において修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

出願について	募集人員	原則として通年2名。ただし、学期単位の派遣もありうる。		
	資格	全学部対象。原則として本学に1年以上在学し、派遣時に2年次生または3年次生であること。教職課程履修者は、派遣時に2年次であること。		
	受入れ学部・学科	学芸学部	音楽学科	京都府京田辺市 京田辺キャンパス
			情報メディア学科	
		表象文化学部	英語英文学科	京都市上京区 今出川キャンパス
			日本語日本文学科	
		現代社会学部	社会システム学科	京都府京田辺市 京田辺キャンパス
			現代こども学科	
	生活科学部	人間生活学科	京都市上京区 今出川キャンパス	
		食物栄養学科		
方法	①出願前に説明会を実施しますので出席してください。（詳細は掲示にて発表） ②所定用紙（「同志社女子大学交流学生志願書」：教務課にあります）に記入し提出してください。			
期間	2014年度交流学生：2013年10月14日(月)～10月16日(水)			

単位認定について	履修単位数の上限	各自定められた履修登録単位数の上限に含まれます。	
	認定除外科目	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
		国際交流学部専門科目	「卒業論文」の単位
		音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
	申請先	教務課（緑園）	
申請方法・期限	所定用紙（「単位認定申請書」：教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：成績証明書、シラバス等授業内容を示す書類のコピー		
申請期間	教務課に問い合わせてください。		

(2) 放送大学において修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、放送大学の特別聴講学生として履修することができません。

履修・単位認定申請の条件は、次のとおりです。

単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

制度利用にあたり注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・入学（編入学）した学期は履修できません。 ・卒業予定学期は履修できません。また、卒業予定学期に、放送大学が実施する「再試験」制度を利用して合格しても、単位認定対象から除外されます。 ・申請の際、本学に納入する授業料とは別に、放送大学での授業料（1科目：11,000円）が必要です。 ・放送大学での履修単位数は、各自に定められた1学期の履修登録単位数の上限に含まれます。 ・詳細は、教務課に問い合わせてください。 		
履修申請方法	<p>次の①→②の順序で手続が必要です。</p> <p>①所定用紙（「放送大学科目履修・単位認定申請書」：教務課にあります）を教務課（緑園）に提出してください。 放送大学での履修希望科目について、大学側で認定科目の対応の事前審査を行います。</p> <p>↓</p> <p>②上記①の事前審査により履修許可を受けた科目について、次の2点を教務課（緑園）に提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙（「放送大学特別聴講学生出願票」：教務課にあります） ・放送大学での授業料（1科目：11,000円） 		
手続期間	2013年度後期	①	2013年6月28日（金）まで
		②	2013年7月5日（金）～12日（金）
	2014年度前期	①	2014年1月7日（火）まで
		②	2014年1月14日（火）～17日（金）

(3) 横浜市内単位互換制度履修申請方法及び修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、横浜市内単位互換制度参加大学の「単位互換履修生」として履修することができます。履修申請・単位認定については、次のとおりです。

履修を希望する学生は、所定の手続にて申請してください。

履修可能学期	卒業予定学期は履修できません。
履修申請単位数の上限	履修申請できる単位数の上限は、1年間（前期・後期合わせて）8単位を上限とします。また、この申請単位は各自に定められた履修登録単位数の上限に含まれます。
履修申請先	教務課（緑園）
履修申請方法・期限	前期（4月・6月）に教務課で履修申請を受け付けます※。詳細は掲示で通知します。
単位認定方法	他大学で合格評価を受けた科目は、教授会で、審議の上、認定の可否を決定します。（単位認定についての申請は必要ありません）
単位認定区分	すべて「専門科目（選択）」として認定されます。
2013年度参加大学（12大学）	神奈川大学、関東学院大学、國學院大学、鶴見大学、桐蔭横浜大学、東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、東京都市大学（旧武蔵工業大学）、明治学院大学、横浜国立大学、横浜商科大学、横浜国立大学

※前期および通年開講科目は4月に、後期開講科目は6月にそれぞれ履修申請を受け付けます。

入学前に他大学等で修得した単位の認定

1年次対象

本学への入学以前に他大学等で修得した単位及び技能審査の合格について、単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

(1) 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり（p.54参照）
申請先	教務課（緑園）
申請方法	所定用紙（「単位認定申請書」：教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：「合格証書」または「スコア・レコード」
申請期間	2013年7月15日（月）～7月19日（金）
注意	公開テストで取得したスコアに限ります。（TOEFL-ITP及びTOEIC-IPテストは対象外です。）

(2) 他大学等における履修による単位認定

認定除外科目	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
申請先	教務課（緑園）	
申請期間	2013年4月1日(月)まで 入学年度前期に限って受け付けます。	

2年次編入・3年次編入学者対象

(1) 技能審査の合格による単位認定

2年次編入・3年次編入学者の場合、編入学前の技能審査の合格については、単位認定はなされません。

(2) 他大学における履修による単位認定

2年次編入・3年次編入学者の場合、編入学前の修得単位は一括して認定されるので、申請の必要はありません。

ただし、「キリスト教」関連科目の単位について、単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

キリスト教科目の単位認定

2年次編入・3年次編入学者が本学入学以前に他大学等において修得した「キリスト教」関連科目は、4単位を上限に本学において修得したものとみなすことができます。

申請先	教務課（緑園）
申請方法	所定用紙（「単位認定申請書」：教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：成績証明書、「履修要項」、シラバス等講義内容を示す書類（必ず氏名を明記してください。）
申請期間	2013年4月1日(月)まで 入学年度に限って受け付けます。
結果通知	2013年4月11日(木)までに掲示でお知らせします。
注 意	詳細は、4月オリエンテーション時の指示にしたがってください。

キリスト教科目関連科目の履修

2年次編入・3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」に代えて、本学が指定する「キリスト教」関連科目を履修することが認められます（p.63参照）。

別表

技能審査の合格による単位認定

言語	検定等の種類		相当する単位				
			10単位	9単位	8単位	6単位	4単位
英語	実用英語技能検定（日本英語検定協会）				1級	準1級	
	TOEFL （国際教育交 換協議会）	Paper-based Test			580点 以上	550～ 579点	500～ 549点
		Internet-based Test			92点 以上	80～ 91点	61～ 79点
	TOEIC （国際ビジネスコミュニケーション協会）				900点 以上	730～ 899点	650～ 729点
フランス語	実用フランス語技能検定 （フランス語教育振興協会）		1級	準1級	2級	準2級	3級
ドイツ語	ドイツ語技能検定 （ドイツ語文学振興会）		1級		準1級	2級	3級
スペイン語	スペイン語技能検定 （日本スペイン協会）		1級		2級		3級
中国語	中国語検定試験 （日本中国語検定協会）		1級		準1級	2級	3級
朝鮮語	「ハングル」能力検定 （「ハングル」能力検定協会）		1級		2級	準2級	3級

「教職課程」「日本語教員養成講座」としての単位認定

本学への入学前または入学後在籍中に他大学等で修得した単位は、教育職員免許状の取得または日本語教員養成講座の修了のための単位として認定されることがあります。この場合の単位認定については、p.163「教職課程」又はp.191「日本語教員養成講座」を参照してください。

留学・海外研修

本学では、海外留学・海外研修制度における単位認定制度を設けています。これは、学生が国際的視野を広め、国際的な場で活躍する力を培うこと、また、海外の大学で学ぶことにより、知識・教養の幅を広げることを目的としています。

問い合わせ先	海外交流課	海外留学・海外研修の詳細について
	教務課	単位認定の詳細について

海外留学

1. 海外留学の種類

(1) 交換留学

アジア・アメリカ・ヨーロッパにある合計17の協定校に、本学の許可を得て留学する制度です。留学期間は1年間（2学期間）を限度とします。

(2) 認定留学

海外の大学（またはこれに相当する教育機関・大学附属語学学校を含む）に、本学の許可を得て留学する制度です。学生自身が受入機関の決定から入学手続きまで行います。留学期間は1年間（2学期間）を限度とします。

(3) セメスターアブロード（文学部英文学科生対象）

ニュージーランドの協定校に1学期間留学するプログラムです。
2013年度の留学期間は3年次後期です。

2. 留学先で修得した単位の認定

上記（1）、（2）、（3）の留学により、海外の大学等で修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます（p.50以降「単位の認定」参照）。

3. 留学期間の取扱い

上記（1）、（2）、（3）の留学期間は、在学期間として扱われます。（休学して留学した場合は、その期間を在学期間とはみなしません。）

【交換留学協定校一覧】

大学名	所在地	国名
梨花女子大学	ソウル	韓国
新羅大学	釜山	韓国
清華大学	北京	中国
華東師範大学	上海	中国
輔仁大学	台北	台湾
シリマン大学	ドゥマゲテ	フィリピン
ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア
ホープカレッジ	ミシガン州	アメリカ
ローズモントカレッジ	ペンシルベニア州	アメリカ
セントオラフカレッジ	ミネソタ州	アメリカ
ワシントンカレッジ	メリーランド州	アメリカ
西部カトリック大学	アンジェ	フランス
デュッセルドルフ大学	デュッセルドルフ	ドイツ
ブレーメン芸術大学	ブレーメン	ドイツ
サラマンカ大学	サラマンカ	スペイン
マペリーニ音楽院	ピストイア	イタリア
コメンスキー大学	ブラチスラバ	スロバキア

【セメスター・アブロード協定校】

大学名	所在地	国名
ヴィクトリア大学	ウェリントン	ニュージーランド

海外研修

海外の大学等において、2～4週間程度の語学等研修を次の授業科目として実施します。
履修希望者は必ず説明会に出席し、詳細について確認してください。

	授業科目名	科目区分	大学等、高等教育機関名	所在地	国名
①	海外語学実習 (フランス語)	フランス語科目	西部カトリック大学	アンジェ	フランス
②	海外語学実習 (ドイツ語)	ドイツ語科目	IHK (異文化間コミュニケーション研究所)	イエナ	ドイツ
③	海外語学実習 (スペイン語)	スペイン語科目	サラマンカ大学	サラマンカ	スペイン
④	海外語学実習 (中国語)	中国語科目	清華大学	北京	中国
⑤	海外語学実習 (朝鮮語)	朝鮮語科目	梨花女子大学	ソウル	韓国
⑥	アメリカ現地実習	文学部 英文学科 専門科目	ローズモントカレッジ	ペンシルベニア州	アメリカ
⑦	イギリス現地実習		パースカレッジ	パース	イギリス
⑧	フィールド・スタディ2		—	—	イギリス
⑨	オーストラリア 現地実習	国際交流学部 国際交流学科 専門科目	ボンド大学	ゴールドコースト	オーストラリア
⑩	アジア 現地実習(2)		—	—	フィリピン
⑪	地球社会 現地実習		—	—	—

注 意

- (1) 上記の①～⑪は、授業科目として開講されています。したがって、その科目を履修（履修登録）できることが参加条件となります。
- (2) 上記のうち①～⑨は、大学側が履修登録を行うので、各自で登録する必要はありません。
- (3) 上記のうち⑩、⑪は、履修許可者が履修登録期間内に各自で登録してください。
- (4) 履修登録の方法は、開講科目表の備考欄の表記で確認できます。
- (5) 「実習・研修」に参加しても、履修登録が正しく行われないと、単位は認定されません。履修登録科目については、FerrisPassportで必ず確認してください。
- (6) 「海外語学実習」(①～⑤)は、修得単位数を必修相当の語学科目の単位とすることができます。

学部教育課程

共通科目

文学部

国際交流学部

音楽学部

教職課程

日本語教員養成講座

外国人留学生の履修について

学部開講科目表

共通科目

共通科目

カリキュラムの説明

共通科目は、文学部・国際交流学部・音楽学部の全学生に対して共通に開講される科目群です。内容によって「基礎教養科目」「総合課題科目」「語学科目」の3群に区分されます。

基礎教養科目

現代に必要とされる、基本的な知識、教養を提供し、社会で生きていくためのチカラ（リテラシー）を養う目的を持った科目群です。学生の皆さんに新たな興味、関心と呼び起こし、さらに専門科目を学ぶための前提知識を提供するという役割もあります。

大きく、「思考」、「コミュニケーション」、「社会」、「文化」、「科学」、「身体」の6分野のリテラシーと、「キリスト教の基礎」から構成されています。その中の「思考リテラシー」とは、若干耳馴染みの無い言葉だと思いますが、哲学、論理学、教育学など、モノを考えること自体を扱います。以下、人文・社会・自然科学・工学など、広く学問領域をカバーしています。さらに、「情報リテラシー」の各科目や「身体リテラシー」中の「健康・スポーツ」などは、実習を含んだ科目です。文系、理系の枠にとらわれずに履修して、視野を大きく広げてください。

総合課題科目

基礎教養科目では取り上げられなかった、時代性の高い内容や、学際的なテーマを中心に取り上げます。問題意識を養うと共に、それに取り組む力を培うことを目標とし、キリスト教の様々な側面を扱う「キリスト教の展開」を含む4つの科目群から構成されています。

キリスト教以外には、フェリス女学院にとって重要な学問テーマとして挙げられる、「女性」、「他者」、「環境」、「転換の時代」といったキーワードに対して、「新しい自分との出会い」「過去からの未来」「新しい世界を知る」という視点で捉える3つの科目群があります。

「自分を見つめ、自分の場を知る」では、「女性」「他者との共生：For Others」で、今の自分と他者を考え、さらに自分を取り巻く経済社会を、特に「働く」という観点から「キャリア・デザイン」で取り上げます。「過去から未来」では、「環境」「転換の時代を生きる」で、大きな時間的な流れに基づいて、持続可能な世界を捉えます。また「新しい世界を知る」では、学生の皆さんや教職員等の提案により科目を開講します。ここでは、「他者」というキーワードに注目してください。これは言うまでも無く、本学のモットーと関わる言葉ですが、総合課題科目でもこの言葉を教育のベースに置いています。（特に「フェリス女学院で学ぶということ（1）（2）」では、前期にフェリス女学院に関わる多くの方により、そのモットーに纏わる様々なテーマで講義を行い、後期にはそれを学生の皆さんによって実践していく試みを行います。）

総合課題科目では、今世界で何が問題となっているのか、それに対して我々はどう立ち向うべきなのか、「旬」な学問を提供します。

語学科目

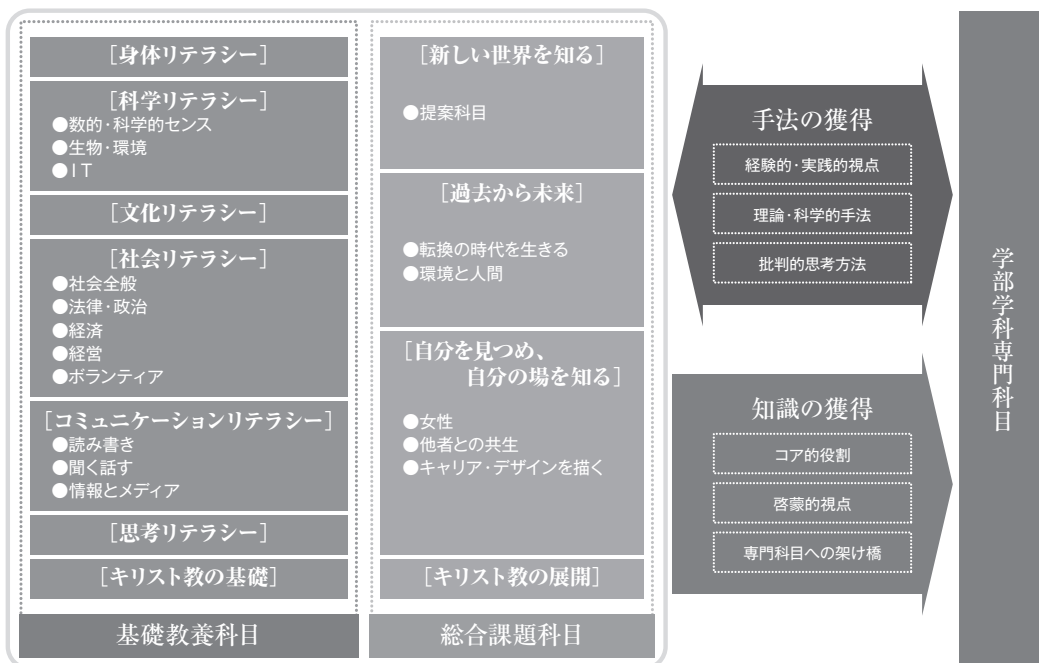
語学科目は、現代人にとって必要な言語コミュニケーションの能力を養成するとともに、専門科目の学習にあたって必要となる基礎的な語学力を習得し、さらにその言語を使用する国々の文化を理解することを目的としています。

4年間の履修の指針

共通科目は、全学年で履修することができます。ただし、必修の「キリスト教Ⅰ」と語学科目については、履修する年次とクラスの指定があります。また、一部の科目については、履修する年次が指定されているので注意してください。

なお、音楽学部の3, 4年次生は、専門科目の履修の関係上、実際には緑園キャンパスでの「共通科目」の履修が困難な場合があります。「キリスト教Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」と「語学科目」、どうしても履修したい「共通科目」は、1, 2年次の間に修得しておくことをおすすめします。

基礎教養・総合課題科目カリキュラムマップ



基礎教養科目・総合課題科目

履修方法

カリキュラム表

開講科目表 (pp.204～208) 参照。

1 キリスト教科目

(1) キリスト教科目は、全学部生の必修科目です。

授業科目名	単位数	履修年次	履修上の注意
キリスト教Ⅰ	2単位必修	1年次前期 指定クラス	①重複履修はできません。 ②クラス変更は原則としてできません。 (p.26参照)
キリスト教Ⅱ キリスト教Ⅲ	2単位必修 (1科目以上選択)	1～4年次	異なる講義題目のものを複数履修し、Ⅰ～Ⅲを合わせて8単位まで卒業に必要な単位にできます。

(2) 2・3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」から4単位を必修とします。また、「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」に代えて、本学が指定する「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。

【2013年度開講「キリスト教」関連科目】

※▲は他学部・他学科開放科目

種別	開放※	科目名	単位		履修年次	開講校舎
			前	後		
英文学科専門科目	▲	キリスト教と英米文学2	2		234	緑園
	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
日本文学科専門科目	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
	▲	キリスト教と日本文学		2	1234	緑園
コミュニケーション学科専門科目	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
国際交流学科専門科目	▲	世界宗教論	2		1234	緑園
音楽芸術学科専門科目	▲	キリスト教音楽概論1	2		34	山手
演奏学科専門科目	▲	キリスト教音楽概論2		2	34	山手
音楽芸術学科専門科目	▲	賛美歌学	2		12	緑園

なお、本学編入学以前に他大学等で修得した「キリスト教」関連科目の単位認定を希望する場合は、所定の手続きによって申請してください。(p.53参照)

2 その他の基礎教養・総合課題科目

授業科目を自由に選択して履修し、その修得単位を卒業に必要な単位とすることができます。ただし、次に示す科目は履修方法に注意してください。

「音楽実技A」「音楽実技B」

これらの2科目は、原則として、グループレッスンです。履修にあたっては、ある程度の音楽経験が求められます。「音楽実技A」の履修希望者はシラバスを参照の上、次のとおり申込み手続きを行ってください。

日時	2013年4月9日(火) 12:30～13:30
場所	緑園5号館 音楽学部副手室

「音楽実技B」の手続きについては、9月上旬に掲示でお知らせします。

学生提案科目「私たちが学びたいこと」

授業で取り上げてほしいテーマを学生から募集し、大学の選考で採用されたテーマを実現する形で開設する科目です。学生のニーズをくみ上げた授業を展開することを目的としています。科目概要は、次のとおりです。詳細は、教務課で配布する「実施要項・提案書」で確認してください。

募集テーマ数	前期1科目 (2013年度前期については、2012年度後期にテーマ募集を終了しています。)
講義題目・担当者	採用されたテーマをもとに大学が決定します。
募集テーマ	総合課題科目 (pp.207～208参照) のテーマにふさわしいもの。
応募条件	①一つのテーマに対し、5名以上の提案者が必要となります。 ②講義科目 (2単位科目) であること (演習、実技・実習形式の授業は対象外とします)。
テーマ募集締切	2014年度前期開講科目：2013年10月4日 (金)
提出書類	①提案書 (教務課にあります) ②提案理由書 (詳細は掲示で確認してください。)
書類提出先	教務課 (緑園)

教職員提案科目「学びの世界を広げる」

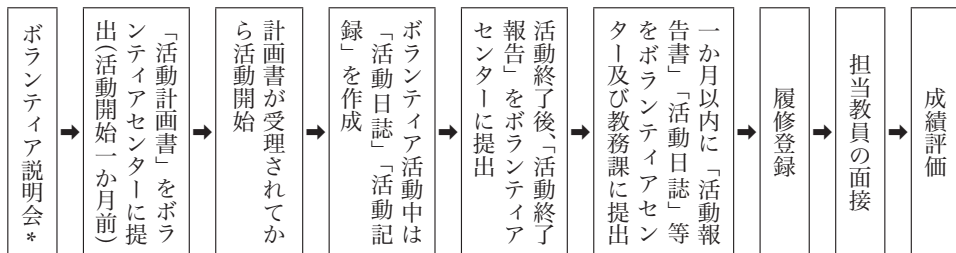
既存のカリキュラムにはない授業テーマを教職員から募集し、大学の選考で採用されたテーマを実現する形で開講する科目です。変化の激しい今日、時宜を得たテーマによる授業を提供することにより、学生の世界を広げるチャンスを設けることを目的としています。(隔年で1科目開講されます。)

「新たな学びの世界への招待」

全学部1, 2年次生を対象として、総合課題科目として開講される演習科目です。共通テーマに基づき、学部学科を越えた3名の専任教員によって、それぞれ4回ずつ演習を実施します。これによって、自分の専門分野以外の領域に対する新たな興味、関心を持つこと、様々な研究手法に触れること、学部、学科を超えて、教員、学生相互に理解を得ることなどを目的にしています。(隔年で1科目開講されます。)

「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」

学外でのボランティア活動の実働時間に応じて単位が認定される科目です。それぞれ45時間以上、90時間以上、270時間以上が各科目の基準です。これらの3科目は、複数または重複して履修し、合わせて8単位まで卒業に必要な単位にできます。履修希望者は、シラバスを参照の上、ボランティアセンターが開催するボランティア説明会に出席した上で、履修の手続きを行ってください。履修の流れは、原則として下図のとおりです。



*年4回(4・5・7・10月)開催。いずれかに出席してください。

注) 卒業年次生が卒業学期に履修登録を行うことができるのは、各科目の基準の活動時間を超えている場合に限りです。

「健康・スポーツ」

異なる講義題目の科目を複数履修し、合わせて8単位まで卒業に必要な単位にできます。

「自分を見つめ、自分の場を知る」科目群

フェリスの教育目標は、「社会に貢献する自立した女性の育成」です。自立には、「個」としての精神的自立と経済的自立があります。大学での4年間の様々な学びは、その2つの自立のための土台を固め、社会に出る準備をするための学びであるとともに、「私はどのように生きたいのか」「他者のために私は何ができるのか」という簡単には答えが見つからないことについて、主体的に考えていくことでもあります。

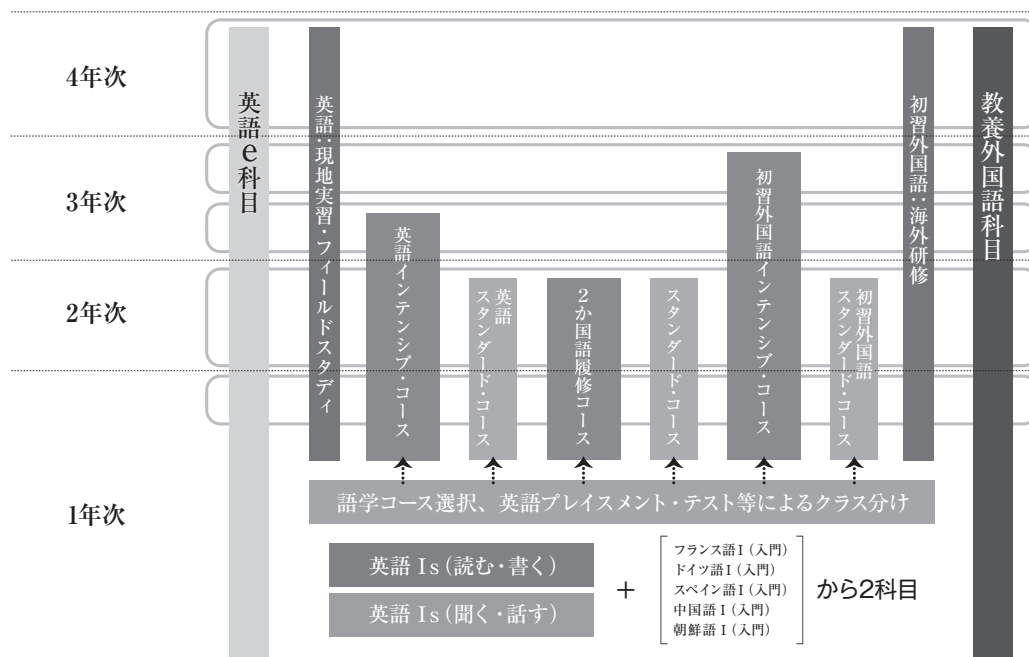
「私のキャリアを考える」「ビジネス・スキルを高める」

「キャリア実習(短・長期インターンシップ)」

「私のキャリアを考える」科目では、現代の雇用環境、職業、女性の働き方、女性のライフ・プランなどについて学びます。「ビジネス・スキルを高める」科目では、ビジネス／経済について学んだり、ビジネスで求められるスキルの習得をめざします。これらの科目から、異なる講義題目の科目を複数履修し、合わせて8単位まで卒業に必要な単位にすることができます。

さらに、実際に企業や公共団体などで一定期間就業体験をし、自分のキャリアについて考える「キャリア実習(短期インターンシップ)」「キャリア実習(長期インターンシップ)」があります。この2つのインターンシップに関する科目を合わせて8単位まで卒業に必要な単位にすることができます。

英語科目・初習外国語科目カリキュラムマップ



語学科目

1 履修方法

(1) 語学科目の種類

本学で開講する語学科目群は、次のように構成されています。

- 英語
- 初習外国語：フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語
- 教養外国語：古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語
- 日本語：「日本語Ⅰ・Ⅱ」

英語、初習外国語科目の種類は次のとおりです。

英語

① インテンシブ科目（i 科目）

英語インテンシブ・コースの学生のみが履修できるクラスです。履修するクラスについては、英語プレイズメント・テストの結果に基づき指定されます。

② スタンダード科目（s 科目）

英語科目を必修として履修する学生のためのクラスです。履修するクラスについては、入学時に実施するアンケート及び英語プレイズメント・テストの結果に基づき指定されます。

③ 英語選択科目（e 科目）

全学生が自由に履修できるクラスです。

2010年度以降英文学科入学者のうち、2か国語履修コースの学生は、e 科目を4単位修得する必要があります。

初習外国語

① 「Ⅰ（入門）」科目

前期にのみ開講する入門科目です。各言語の特徴、文化的背景、発音・文法の基礎、会話の初歩などを学びます。

② インテンシブ科目（i 科目）

主に初習外国語インテンシブ・コースの学生が履修できるクラスです。

文法、読む、話す、書く、LLの中から、1年次後期、2年次前期は週6回、2年次後期は週4回、3年次前期・後期は週1回以上の授業を履修します。

③ スタンダード科目（s 科目）

文法、読む、話す、LLの中から、1年次後期、2年次前期・後期に週2回の授業を履修します。

④ 演奏学科（声楽選択者）優先のドイツ語科目

「ドイツ語Ⅰ（文法）」「ドイツ語Ⅰ（読む）」「ドイツ語Ⅱs（文法）」「ドイツ語Ⅱs（読む）」を前期・後期通して履修します。

(2) 語学履修コース・言語の選択

所属する学部・学科により、卒業に必要な語学の単位数と選択できる語学履修コース・言語の種類が異なります（pp.76～89「各学部・学科の語学科目履修方法」参照）。外国人留学生の語学科目履修方法についてはp.197を参照してください。

履修コースや言語の種類を選択する際には、「語学科目ハンドブック」を熟読してください。語学責任者、所属学科の教務委員（p.9参照）に相談することもできます。

【2013年度入学者の「語学履修コース・言語選択届」提出期間】

各学生の履修コース・言語は、「語学履修コース・言語選択届」に基づき決定されます。「語学履修コース・言語選択届」提出以降、コース開始前の履修コース・言語の変更は原則として認められません。

対象者	期 間
1年次全員	2013年6月5日(水)～6月7日(金)

(3) 履修許可について

英語インテンシブ・コース、初習外国語インテンシブ・コースについては、希望者が定員を超えた場合は選抜を行い、履修許可者を決定します。

英語インテンシブ・コースの履修許可

希望者が多い場合は、英語プレイズメント・テストの結果に基づいて選抜し、履修許可者（定員：文学部・音楽学部116名、国際交流学部64名）を決定します。

初習外国語インテンシブ・コースの履修許可

当該言語の「I（入門）」を履修していることが前提となります。

希望者が多い場合は、次の基準で選抜し、履修許可者を決定します。

- ① 各言語の初習外国語インテンシブ・コースの希望者が、第1希望の段階で25名を超えた場合に選抜が行われる。
- ② 遅延者及び未提出者等手続に不備のあった者については、選抜から外れる。
- ③ 当該言語の「I（入門）」の履修状況により、優先順位が低くなることもある。
- ④ 第1希望の段階で選抜のあった言語のインテンシブ・コースに、第2・第3希望の者が許可されることはない。

また、第2希望の段階で選抜のあった言語のインテンシブ・コースに、第3希望の者が許可されることはない。

- ⑤ 「I（入門）」の成績評価により、初習外国語インテンシブ・コースの履修許可を取り消されることがある。

(4) 語学科目のクラス指定について

英語科目と初習外国語科目では、クラス指定の方法が異なります。

学期ごとに自分の指定クラスを掲示、学生要覧等でよく確認した上で、履修登録を行ってください。

また、指定されたクラス以外で履修することは、原則として認められません。やむを得ない理由によりクラス変更を希望する場合には、手続が必要です (p.26「クラス指定及び変更手続」参照)。

英語科目のクラス指定

英語科目 (必須相当) のクラスは、語学履修コースにかかわらず入学時に実施するアンケート及び英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。各自指定されたクラスを履修登録してください。

① 英語インテンシブ科目 (i 科目) のクラス指定

2010年度以降入学者

【文学部・音楽学部・国際交流学部】(A~Jクラス)

1年次7月に1年次後期分、1年次3月に2年次前期・後期分、2年次3月に3年次前期分の指定クラスが発表されます。

2009年度以前入学者

2012年度学生要覧を参照してください。

② 英語スタンダード科目 (s 科目) のクラス指定

1年次4月に1年次前期分、7月に1年次後期分、1年次3月に2年次前期・後期分の指定クラスが発表されます。

初習外国語科目のクラス指定

① 初習外国語インテンシブ科目のクラス指定

初習外国語インテンシブ科目の中から、各自卒業に必要な単位を満たすよう履修してください。

各言語で開講されているインテンシブ科目のうち、「II i (LL)」「III i (話す)」「III i (LL)」「IV i (話す)」科目でクラスが複数設けられている場合には、語学責任者 (p.9) から指定されたクラスを履修してください。

② 初習外国語スタンダード科目のクラス指定

各学期始めに、所属する学部・学科・語学履修コースによってクラスが指定されます。

(5) 初習外国語「I (入門)」の履修方法について

開講科目表 (pp.216～225) を確認の上、所属する学部・学科の指定クラスの中から履修するクラスを選択し、初回の授業に必ず出席してください。履修希望者が多い場合は、授業内で選抜を行うことがあります。

(6) 英語プレイズメント・テストの実施について

英語プレイズメント・テストは、英語インテンシブ科目・英語スタンダード科目の習熟度別クラス編成及び理解度・達成度を確認するために実施されます。

英語インテンシブ科目履修者は、1年次6月、1月及び2年次1月の計3回、英語スタンダード科目履修者は1年次6月に、英語プレイズメント・テストを受験しなければなりません。

受験対象者及びテストの種類は、学部・学科及び語学履修コースにより異なります。掲示で発表される詳細を確認の上、対象者は必ず受験してください。

【英語プレイズメント・テスト実施日程】

回数	日程
第1回	2013年6月15日(土)
第2回	2014年1月29日(水)

(7) 語学科目の再履修について

語学科目の再履修は、次の原則に従うこととします。

英語科目の再履修

未修得科目	再履修可能科目	備 考
英語インテンシブ科目(i)	英語スタンダード科目(s)、 英語e科目	英語インテンシブ科目(i)による再履修は不可。
英語スタンダード科目(r)	英語スタンダード科目(s)、 英語e科目	
英語スタンダード科目(s)	英語スタンダード科目(s)、 英語e科目	

学期初めの掲示を確認し、指定された期間に再履修クラスの申し込みをしてください。時間割の制約等、やむを得ない理由により他のクラスで再履修する場合には、履修相談時に申し出てください。(履修相談時には、必ずFerrisPassportの成績照会画面をプリントしたものを持参すること。)

なお、英語e科目で再履修する場合は履修相談は不要です。各自シラバスをよく確認した上で履修登録してください。

初習外国語科目の再履修

学期初めの掲示を確認し、指定クラスで再履修してください。時間割の制約等、やむを得ない理由により他のクラスで再履修する場合には、履修相談時に申し出てください。(履修相談時には、必ずFerrisPassportの成績照会画面をプリントしたものを持参すること。)

なお、初習外国語インテンシブ・コースについては、コース修了者として認定される科目が別表 (p.75) のとおり定められています。コース修了をめざしている場合は、未修得科目と同じ科目を再履修してください。

① 未修得の科目と同種類の科目を再履修すること。

未修得科目	再履修科目
初習外国語インテンシブ科目(i)	初習外国語インテンシブ科目(i) 又は初習外国語スタンダード科目(s)
初習外国語スタンダード科目(s)	初習外国語スタンダード科目(s)

② 未修得の科目と同じローマ数字の付された科目を再履修すること。なお、初習外国語科目に付されているローマ数字は、次のとおり対応しています。

【ローマ数字対応表】

未修得科目	再履修科目	備 考
I	I、II	III、IV、V、VI科目 による再履修も可。
II	I、II	
III	III、IV	V、VI科目 による再履修も可。
IV	III、IV	
V	V、VI	
VI	V、VI	

(8) 語学履修コース・言語の変更について

語学履修コース・言語の変更を希望する場合には、「語学履修コース・言語変更願」の提出により、変更が認められます。

- ① 4年次生は、1～3年次生と提出の時期が異なりますので、間違いのないようにしてください。
- ② 英語インテンシブ・コースへの変更は、定員に欠員が生じた場合のみ、英語プレイスメント・テストの結果に基づき、審査の上、可否を決定することとします。欠員の有無については、英語の語学責任者（p.9参照）に問い合わせてください。
- ③ 英語及び初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更を希望する場合は、「語学履修コース・言語変更願」を提出する前に、必ず当該言語の語学責任者（p.9参照）と十分相談を行ってください。

【「語学履修コース・言語変更願」提出期間】

期 間	年 次	変更適用時期
2013年4月22日(月)～4月26日(金)	4年次生	2013年度前期から
2013年7月8日(月)～7月12日(金)	2・3年次生	2013年度後期から
2013年10月7日(月)～10月11日(金)	4年次生	2013年度後期から
2014年1月6日(月)～1月10日(金)	1・2・3年次生	2014年度前期から

(9) 英語インテンシブ・コースの継続履修条件について

英語インテンシブ・コース履修者に対しては、2年次後期までの毎回（1年次6月・1月及び2年次1月の計3回）英語プレイスメント・テストを受験することを継続履修の条件としています。英語インテンシブ・コース履修者のうち、テストを受験しなかった者に対しては、原則として次学期以降の英語インテンシブ科目の履修を認めません。

(10) インテンシブ・コース修了者の成績通知書及び成績証明書について

英語インテンシブ・コース及び初習外国語インテンシブ・コース履修者のうち、「必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した者」について、成績通知書及び成績証明書に「インテンシブ・コース修了者」である旨記載しています。

なお、英語インテンシブ・コース履修者については、「必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した者」であり、かつ「2年次後期まで毎回（1年次6月・1月及び2年次1月の計3回）英語プレイスメント・テストを受験した者」を対象とします。

また、2年次編入学者についても、上記と同じ条件を満たした場合には、「インテンシブ・コース修了者」として記載されます。

記載される内容・条件は次のとおりです。

インテンシブ・コースの成績証明書

2010年度以降入学者

	英語インテンシブ・コース修了者	初習外国語インテンシブ・コース修了者
認定の条件	①必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得すること。 ②2年次後期まで毎回英語プレイスメント・テストを受験すること。	必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得すること。
修得すべき科目	別表 (p.74) のとおり	別表 (p.75) のとおり
記載される内容(例)	英語インテンシブ・コース修了	初習外国語インテンシブ・コース修了 (〇〇語)
修了判定の時期	【文学部・音楽学部・国際交流学部】 3年次前期までの修得状況に基づき、判定される。 3年次後期（9月）に交付される成績通知書から記載される。	3年次後期までの修得状況に基づき、判定される。 4年次前期（4月）に交付される成績通知書から記載される。

2009年度以前入学者

2012年度学生要覧を参照してください。

インテンシブ・コース修了者として認定されるために、必修相当として修得すべき科目は、次のとおりです。

英語インテンシブ・コース修了者として認定されるために必要な科目

2010年度以降入学者

文学部・国際交流学部		音楽学部	
授業科目名	履修方法	授業科目名	履修方法
初習外国語「〇〇語Ⅰ(入門)」 初習外国語「△△語Ⅰ(入門)」 初習外国語「〇〇語Ⅱs(文法)」 初習外国語「〇〇語Ⅱs(読む)」 初習外国語「〇〇語Ⅱs(LL)」	この中から2単位 修得	初習外国語「〇〇語Ⅰ(入門)」 初習外国語「△△語Ⅰ(入門)」 初習外国語「〇〇語Ⅱs(文法)」 初習外国語「〇〇語Ⅱs(読む)」 初習外国語「〇〇語Ⅱs(LL)」	この中から2単位 修得
英語Ⅰs(読む・書く) 英語Ⅰs(聞く・話す)	すべて修得	英語Ⅰs(読む・書く) 英語Ⅰs(聞く・話す)	すべて修得
英語Ⅱi(Reading) 英語Ⅱi(Writing) 英語Ⅱi(Listening) 英語Ⅱi(Speaking) 英語Ⅱi(Language Development) 英語Ⅱi(講読)	すべて修得	英語Ⅱi(Reading) 英語Ⅱi(Writing) 英語Ⅱi(Listening) 英語Ⅱi(Speaking) 英語Ⅱi(Language Development) 英語Ⅱi(講読)	すべて修得
英語Ⅲi(Reading) 英語Ⅲi(Writing) 英語Ⅲi(Listening) 英語Ⅲi(Speaking) 英語Ⅲi(Language Development)	すべて修得	英語Ⅲi(Reading) 英語Ⅲi(Writing) 英語Ⅲi(Listening) 英語Ⅲi(Speaking) 英語Ⅲi(Language Development)	すべて修得
英語Ⅳi(Reading) 英語Ⅳi(Writing) 英語Ⅳi(Listening) 英語Ⅳi(Speaking) 英語Ⅳi(講読)	すべて修得	英語Ⅳi(Reading) 英語Ⅳi(Writing) 英語Ⅳi(Listening) 英語Ⅳi(Speaking) 英語Ⅳi(講読)	すべて修得
英語Ⅴi(Reading) 英語Ⅴi(Speaking)	すべて修得	英語Ⅴi(Reading) 英語Ⅴi(Speaking) ※Ⅴi科目にかえて 英語e科目を2単位履修で充当可	すべて修得

※外国人留学生は、上記科目のうち初習外国語科目2単位分を「留学生日本語」によって満たすことができます。

2009年度以前入学者

2012年度学生要覧を参照してください。

初習外国語インテンシブ・コース修了者として認定されるために必要な科目

例：フランス語インテンシブ・コースの場合

文学部日本文学科・コミュニケーション学科・音楽学部・国際交流学部	
授業科目名	履修方法
英語 I s (読む・書く) 英語 I s (聞く・話す)	すべて修得
フランス語 I (入門) ドイツ語 I (入門) スペイン語 I (入門) 中国語 I (入門) 朝鮮語 I (入門)	この中から2単位修得
フランス語 II i (文法) フランス語 II i (読む1) フランス語 II i (読む2) フランス語 II i (LL)	すべて修得
フランス語 III i (文法) フランス語 III i (読む) フランス語 III i (話す) フランス語 III i (書く) フランス語 III i (LL)	すべて修得
フランス語 IV i (読む1) フランス語 IV i (読む2) フランス語 IV i (話す) フランス語 IV i (書く) フランス語 IV i (LL)	この中から4単位修得
フランス語 V i (読む) フランス語 V i (話す) フランス語 V i (書く) フランス語 V i (LL)	この中から1単位修得
フランス語 VI i (読む) フランス語 VI i (話す) フランス語 VI i (書く) フランス語 VI i (LL)	この中から1単位修得

※外国人留学生は、上記科目のうち英語科目2単位分を「留学生日本語」によって満たすことができます。

(11) 教養外国語・日本語の履修について

① 教養外国語：古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語

これらの科目は、所属学科・語学履修コースにかかわらず、自由に選択できます。ただし、「イタリア語 I (文法)」「イタリア語 I (読む)」「イタリア語 II (文法)」「イタリア語 II (読む)」のうち、音楽学部演奏学科を対象としているものがあります。(p.226 「語学科目開講科目表」参照)

② 日本語：「日本語 I・II」

所属学科・語学履修コースにかかわらず、自由に選択できます。

各学部・学科の語学科目履修方法

外国人留学生の語学科目履修方法については、p.197を参照してください。

文学部英文学科

(1) 英語インテンシブ・コース

2010年度以降入学者

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数		卒業要件に 算入できる 単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	6	5	5	2				20	22	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II i (Reading) [1]	英語 III i (Reading) [1]	英語 IV i (Reading) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II i (Writing) [1]	英語 III i (Writing) [1]	英語 IV i (Writing) [1]
		英語 II i (Listening) [1]	英語 III i (Listening) [1]	英語 IV i (Listening) [1]
		英語 II i (Speaking) [1]	英語 III i (Speaking) [1]	英語 IV i (Speaking) [1]
		英語 II i (Language Development) [1]	英語 III i (Language Development) [1]	英語 IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】			
	〇〇語 I (入門) [1]			
	△△語 I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語 V i (Reading) [1]
	英語 V i (Speaking) [1]
初習外国語	

2009年度以前入学者

2012年度学生要覧を参照してください。

卒業に必要な単位数

英語科目により

20単位

初習外国語の I, II が付された科目により

2単位

(2) 2か国語履修コース

2010年度以降入学者

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					12	20
英語 e 科目	4									
初習外国語	2	2	2	2					8	32

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語※	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s (読む・書く) [1] 英語 II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 III s (読む・書く) [1] 英語 III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 IV s (読む・書く) [1] 英語 IV s (聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語 II s (文法) } この中から ○○語 II s (読む) } 2単位を修得 ○○語 II s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語 III s (文法) } この中から ○○語 III s (読む) } 2単位を修得 ○○語 III s (話す) ○○語 III s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語 IV s (読む)* } この中から ○○語 IV s (話す) } 2単位を修得 ○○語 IV s (LL)

※英語 e 科目を1年次前期から3年次前期までの間に、4単位追加選択履修が必要。

*：同一科目の重複履修可能

2009年度以前入学者

2012年度学生要覧を参照してください。

卒業に必要な単位数

英語科目により	12単位
初習外国語の I, II が付された科目により	4単位
初習外国語の III, IV が付された科目により	4単位

文学部日本文学科、コミュニケーション学科

(1) 英語インテンシブ・コース

2010年度以降入学者

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	6	5	5	2				20	22	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II i (Reading) [1]	英語 III i (Reading) [1]	英語 IV i (Reading) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II i (Writing) [1]	英語 III i (Writing) [1]	英語 IV i (Writing) [1]
		英語 II i (Listening) [1]	英語 III i (Listening) [1]	英語 IV i (Listening) [1]
		英語 II i (Speaking) [1]	英語 III i (Speaking) [1]	英語 IV i (Speaking) [1]
	英語 II i (Language Development) [1]	英語 III i (Language Development) [1]	英語 IV i (講読) [1]	
	英語 II i (講読) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】			
	○○語 I (入門) [1]			
	△△語 I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語 VI (Reading) [1]
	英語 VI (Speaking) [1]
初習外国語	

2009年度以前入学者

2012年度学生要覧を参照してください。

卒業に必要な単位数

英語科目により 20単位
初習外国語の I, II が付された科目により 2単位

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	22	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 II i (文法) [3] ○○語 II i (読む1) [1] ○○語 II i (読む2) [1] ○○語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 III i (文法) [2] ○○語 III i (読む) [1] ○○語 III i (話す) [1] ○○語 III i (書く) [1] ○○語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 IV i (読む1) ○○語 IV i (読む2) ○○語 IV i (話す) ○○語 IV i (書く) ○○語 IV i (LL)

この中から4単位以上を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 V i (読む) ○○語 V i (話す) この中から ○○語 V i (書く) 1単位以上 ○○語 V i (LL) を修得	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 VI i (読む) ○○語 VI i (話す) この中から ○○語 VI i (書く) 1単位以上 ○○語 VI i (LL) を修得

卒業に必要な単位数

英語科目により	2単位
初習外国語の I, II が付された科目により	8単位
初習外国語の III, IV が付された科目により	10単位
初習外国語の V, VI が付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	2	2	2					8	10	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s (読む・書く) [1] 英語 II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 III s (読む・書く) [1] 英語 III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 IV s (読む・書く) [1] 英語 IV s (聞く・話す) [1]
	初習外国語 〇〇語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]			

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位
初習外国語の I, II が付された科目により 2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	10	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
	初習外国語 〇〇語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 II s (文法) この中から 〇〇語 II s (読む) 2単位以上 〇〇語 II s (LL) を修得	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 III s (文法) この中から 〇〇語 III s (読む) 2単位 〇〇語 III s (話す) を修得 〇〇語 III s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 IV s (読む)* この中から 〇〇語 IV s (話す) 2単位 〇〇語 IV s (LL) を修得

* : 同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 2単位
初習外国語の I, II が付された科目により 4単位
初習外国語の III, IV が付された科目により 4単位

(5) 2か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に 算入できる 単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					8	16(*)
初習外国語	2	2	2	2					8	

*：卒業に必要な単位数10を含む

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s (読む・書く) [1] 英語 II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 III s (読む・書く) [1] 英語 III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 IV s (読む・書く) [1] 英語 IV s (聞く・話す) [1]
	【初習外国語 I (入門) 科目】 〇〇語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 II s (文法) } この中から 〇〇語 II s (読む) } 2単位を修得 〇〇語 II s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 III s (文法) } この中から 〇〇語 III s (読む) } 2単位を修得 〇〇語 III s (話す) 〇〇語 III s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 IV s (読む)* } この中から 〇〇語 IV s (話す) } 2単位を修得 〇〇語 IV s (LL)

*：同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

- (3) 英語スタンダード・コース (p.80) 又は (4) 初習外国語スタンダード・コース (p.80) のいずれかの履修方法により修得すること。

すなわち	英語科目により	8単位
	初習外国語の I, II が付された科目により	2単位
又は、	英語科目により	2単位
	初習外国語の I, II が付された科目により	4単位
	初習外国語の III, IV が付された科目により	4単位

国際交流学部の語学科目履修方法

(1) 英語インテンシブ・コース

2010年度以降入学者

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2				20	22
初習外国語	2								2	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II i (Reading) [1]	英語 III i (Reading) [1]	英語 IV i (Reading) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II i (Writing) [1]	英語 III i (Writing) [1]	英語 IV i (Writing) [1]
		英語 II i (Listening) [1]	英語 III i (Listening) [1]	英語 IV i (Listening) [1]
		英語 II i (Speaking) [1]	英語 III i (Speaking) [1]	英語 IV i (Speaking) [1]
		英語 II i (Language Development) [1]	英語 III i (Language Development) [1]	英語 IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門)科目】			
	〇〇語 I (入門) [1]			
	△△語 I (入門) [1]			
言語	3年次前期			
英語	【英語インテンシブ科目】			
	英語 V i (Reading) [1]			
	英語 V i (Speaking) [1]			
初習外国語				

2009年度以前入学者

2012年度学生要覧を参照してください。

卒業に必要な単位数

英語科目により 20単位
初習外国語の I, II が付された科目により 2単位

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	22	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 II i (文法) [3] ○○語 II i (読む1) [1] ○○語 II i (読む2) [1] ○○語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 III i (文法) [2] ○○語 III i (読む) [1] ○○語 III i (話す) [1] ○○語 III i (書く) [1] ○○語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 IV i (読む1) [1] ○○語 IV i (読む2) [1] ○○語 IV i (話す) [1] ○○語 IV i (書く) [1] ○○語 IV i (LL) [1]

この中から4単位以上を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 V i (読む) } この中から ○○語 V i (話す) } 1単位以上 ○○語 V i (書く) } を修得 ○○語 V i (LL)	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 V i (読む) } この中から ○○語 V i (話す) } 1単位以上 ○○語 V i (書く) } を修得 ○○語 V i (LL)

卒業に必要な単位数

- 英語科目により 2単位
- 初習外国語の I, II が付された科目により 8単位
- 初習外国語の III, IV が付された科目により 10単位
- 初習外国語の V, VI が付された科目により 2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	2	2	2					8	10	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II s (読む・書く) [1]	英語 III s (読む・書く) [1]	英語 IV s (読む・書く) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II s (聞く・話す) [1]	英語 III s (聞く・話す) [1]	英語 IV s (聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門)科目】			
	〇〇語 I (入門) [1]			
	△△語 I (入門) [1]			

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位
 初習外国語の I, II が付された科目により 2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	10	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】			
	英語 I s (読む・書く) [1]			
	英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門)科目】	【初習外国語スタンダード科目】	【初習外国語スタンダード科目】	【初習外国語スタンダード科目】
	〇〇語 I (入門) [1]	〇〇語 II s (文法) } この中から 〇〇語 II s (読む) } 2単位 〇〇語 II s (LL) } を修得	〇〇語 III s (文法) } この中から 〇〇語 III s (読む) } 2単位 〇〇語 III s (話す) } を修得 〇〇語 III s (LL)	〇〇語 IV s (読む)* } この中から 〇〇語 IV s (話す) } 2単位 〇〇語 IV s (LL) } を修得
	△△語 I (入門) [1]			

* : 同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 2単位
 初習外国語の I, II が付された科目により 4単位
 初習外国語の III, IV が付された科目により 4単位

(5) 2か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	2	2	2					8	16	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs (読む・書く) [1] 英語Ⅰs (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs (読む・書く) [1] 英語Ⅱs (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs (読む・書く) [1] 英語Ⅲs (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs (読む・書く) [1] 英語Ⅳs (聞く・話す) [1]
	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs (文法) [1] ○○語Ⅱs (読む) [1] ○○語Ⅱs (LL) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs (文法) [1] ○○語Ⅲs (読む) [1] ○○語Ⅲs (話す) [1] ○○語Ⅲs (LL) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs (読む)* [1] ○○語Ⅳs (話す) [1] ○○語Ⅳs (LL) [1]

*：同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により	8単位
初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により	4単位
初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により	4単位

音楽学部の語学科目履修方法

【卒業に必要な単位数】

次の (1)・(2)・(3) いずれのコースも、すべての語学科目の中から選択した科目により8単位を修得すること。

(1) スタンダード・コース

代表的な履修パターンは、次のとおりです。

教養外国語科目、「日本語Ⅰ・Ⅱ」を選択して履修することも可能です。

① 英語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					8	32
言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期			
英語	【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】			
	英語Ⅰs(読む・書く) 英語Ⅰs(聞く・話す)	[1]	英語Ⅱs(読む・書く) 英語Ⅱs(聞く・話す)	[1]	英語Ⅲs(読む・書く) 英語Ⅲs(聞く・話す)	[1]	英語Ⅳs(読む・書く) 英語Ⅳs(聞く・話す)	[1]		

② 初習外国語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
初習外国語	2	2	2	2					8	32
言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期			
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】		【初習外国語スタンダード科目】		【初習外国語スタンダード科目】		【初習外国語スタンダード科目】			
	〇〇語Ⅰ(入門) △△語Ⅰ(入門)	[1]	〇〇語Ⅱs(文法) 〇〇語Ⅱs(読む) 〇〇語Ⅱs(LL)	[1]	この中から 2単位を修得	〇〇語Ⅲs(文法) 〇〇語Ⅲs(読む) 〇〇語Ⅲs(話す) 〇〇語Ⅲs(LL)	[1]	この中から 2単位を修得		〇〇語Ⅳs(読む)* 〇〇語Ⅳs(話す) 〇〇語Ⅳs(LL)

*：同一科目の重複履修可能

③ 英語と初習外国語を履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入できる 単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2							8	32
初習外国語	2	2								

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]		
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 〇〇語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語Ⅱs(文法) [1] 〇〇語Ⅱs(読む) [1] 〇〇語Ⅱs(LL) [1]	この中から 2単位を修得	

※ 英語又は初習外国語「Ⅲs」以降を引き続いて履修することもできます。

④ 英語とイタリア語を履修する場合

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]		
イタリア語	イタリア語Ⅰ(文法) [1] イタリア語Ⅰ(読む) [1]	イタリア語Ⅱ(文法) [1] イタリア語Ⅱ(読む) [1]		

※ 「英語Ⅲs(読む・書く)」「英語Ⅲs(聞く・話す)」「英語Ⅳs(読む・書く)」「英語Ⅳs(聞く・話す)」を引き続き履修することもできます。

⑤ イタリア語とドイツ語を履修する場合(演奏学科声楽選択者対象)

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入できる 単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
イタリア語	2	2							8	32
ドイツ語			2	2						

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
イタリア語	イタリア語Ⅰ(文法) [1] イタリア語Ⅰ(読む) [1]	イタリア語Ⅱ(文法) [1] イタリア語Ⅱ(読む) [1]		
ドイツ語			ドイツ語Ⅰ(文法) [1] ドイツ語Ⅰ(読む) [1]	ドイツ語Ⅱs(文法) [1] ドイツ語Ⅱs(読む) [1]

※ ドイツ語を1年次に、イタリア語を2年次に履修することもできます。

(2) 英語インテンシブ・コース

2010年度以降入学者

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2**				20	22 (*)
初習外国語	2								2	

* : 卒業に必要な単位数8を含む。

** 音楽学部の学生は、上記科目のうちVi科目2単位を、3年次前期までの間に英語e科目を2単位修得することにより満たすことができます。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 II i (Reading) [1] 英語 II i (Writing) [1] 英語 II i (Listening) [1] 英語 II i (Speaking) [1] 英語 II i (Language Development) [1] 英語 II i (講読) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 III i (Reading) [1] 英語 III i (Writing) [1] 英語 III i (Listening) [1] 英語 III i (Speaking) [1] 英語 III i (Language Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 IV i (Reading) [1] 英語 IV i (Writing) [1] 英語 IV i (Listening) [1] 英語 IV i (Speaking) [1] 英語 IV i (講読) [1]
	【初習外国語 I (入門)科目】 〇〇語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】 英語 V i (Reading) [1] 英語 V i (Speaking) [1]
初習外国語	

2009年度以前入学者

2012年度学生要覧を参照してください。

(3) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数		卒業要件に 算入できる 単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英 語	2								2	22 (*)	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

* : 卒業に必要な単位数8を含む。

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 〇〇語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 II i (文法) [3] 〇〇語 II i (読む1) [1] 〇〇語 II i (読む2) [1] 〇〇語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 III i (文法) [2] 〇〇語 III i (読む) [1] 〇〇語 III i (話す) [1] 〇〇語 III i (書く) [1] 〇〇語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 IV i (読む1) [1] 〇〇語 IV i (読む2) [1] 〇〇語 IV i (話す) [1] 〇〇語 IV i (書く) [1] 〇〇語 IV i (LL) [1]

この中から
4単位以上
を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英 語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 V i (読む) } この中から 〇〇語 V i (話す) } 1単位以上 〇〇語 V i (書く) } を修得 〇〇語 V i (LL) }	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 VI i (読む) } この中から 〇〇語 VI i (話す) } 1単位以上 〇〇語 VI i (書く) } を修得 〇〇語 VI i (LL) }

文学部

英文学科

日本文学科

コミュニケーション学科

文学部

フェリス女学院大学は、メアリー・キダーの私塾の頃から、英語圏の「ことば」と文化についての教育と日本文学の教育に力を入れてきました。これに伝統ある音楽教育を加えれば、フェリスは「表現」や「文化」について追求し、優秀な女性たちを社会に輩出してきたと行うことができると思います。

沿革にもあるように、1950年に短期大学として英文学科を設立、65年には四年制大学を開設し文学部において英文学科と国文学科を擁します。88年には文学部に国際文化学科を開設(のちの国際交流学部国際交流学科)、国文学科は93年から日本文学科と名称変更し、99年には英文・日文の両者にまたがる「コミュニケーション科目」を設置して、伝統的な文学部の中でも常に時代の先端を切り拓いてきました。

そのような変遷をたどりながら文学部は、2004年度から英文学科、日本文学科、コミュニケーション学科の三学科体制となりました。

文学は、人間の言語による表現行為であるとともに、社会や文化の営為でもあります。想像力を行行使し、思考・思想等を表現し、発見を行なう主体である人間は、社会や文化の影響を受けており、一方で表現=コミュニケーションすることで社会や文化を変容させて行きます。しかもそれが世界レベルで生じ、入り交じっている現在こそ、人間のいとなみである「文学」行為や表現を学び、研究することは、非常に重要なことであり、そこにこそ文学部の存在意義があるとフェリスは考えます。また、人間の不幸や対立、社会の貧困などについても、文学は深い関心を抱き続け、その対象化作業がこれからも必要なことは言うまでもありません。さらに文学は現在、言語による表現のみならず、広く映像表現や音楽表現、身体表現、デザインなどの形を取るとともに、出版物だけでなく放送や通信などの新しいデジタル・メディアを通じて表現され、人びとに伝えられてもいます。

このように、私たちの想像力や文化を活性化し、社会を柔軟性に富んだものにするためにも、いまほど大学における文学部が必要とされている時代はありません。

本学の英文学科は、コミュニケーション手段としての英語運用能力を養うとともに、アメリカ、イギリスなど英語圏の文学やメディア表現、さらに英語圏の社会・文化などについて研究します。

日本文学科は、オーソドックスに、時代区分ごとの分野を網羅し、日本語で書かれた文学や表現、日本の文化を研究するとともに、コミュニケーション手段としての日本語について追究します。

コミュニケーション学科は、共生コミュニケーション、多文化社会、メディアと表現などの切り口から、多様化する現代社会と人間関係を社会科学的・文化的にとらえる力をつけます。

また、三学科共通するものとして、1年次の「R&R(入門ゼミ)」や、最新の文学理論・文化理論を学べる科目群も揃っています。

いずれも、その分野で一流の研究者や実務家である専任教員や非常勤の先生方が、講義をしたり討論をうながしたり、研究のヒント、また人生のヒントを与えてくれたりします。授業は概して少人数で行われ、ワークで進行するもの、教室の外へ出るものも少なくありません。学生のみなさんが、このようにめぐまれた条件の下で学び、社会へ旅立ってくれることを願っています。

文学部専門科目カリキュラム

群	英文学科	日本文学科	コミュニケーション学科
I	基礎を学ぶ R&R (入門ゼミ) 英米文化基礎ゼミ	基礎を学ぶ R&R (入門ゼミ) 日本語文化基礎ゼミ	基礎を学ぶ R&R (入門ゼミ) コミュニケーション基礎ゼミ
	全体像を知る アメリカ研究入門 イギリス研究入門 英米文学研究入門 英語文化研究入門 英語学研究入門	全体像を知る 日本語概論A,B 日本語の歴史A,B 日本文学概説A,B 日本古典文学史1 日本古典文学史2 日本古典文学史3 日本古典文学史4	全体像を知る 言語コミュニケーション概論 心理コミュニケーション概論 社会コミュニケーション概論 文化コミュニケーション概論 コミュニケーション研究の全体像
II	専門と出会う アメリカを読み解く 英語の実像を探る イギリスを読み解く 英語文獻を読み解く 英語圏の文化と社会 現代アメリカ論 アメリカの政治と社会A,B アメリカの思想・宗教A,B アメリカの文化A,B アメリカの歴史A,B アメリカン・スタディーズ 英語圏の文学と芸術 キリスト教と英米文学1 キリスト教と英米文学2 アメリカ小説を読むA,B アメリカ文学史 イギリス文学史A,B イギリス小説を読むA,B アメリカ詩の世界A,B イギリス詩の世界A,B アメリカ演劇の世界A,B イギリス演劇の世界A,B 英語学 英語のさまざまな側面A,B 英語のしくみを知るA,B 英語と社会・文化 日英語の発想と表現 英語の発音A,B 英語の歴史A,B 英語学特論 Interactive English 翻訳技法A,B 通訳技法A,B 同時通訳技法A,B 時事英語研究A,B Academic Writing A,B Global Issues Internet English A,B The English-Speaking World A,B Ferris Special English Program Teaching Methodology English for Kids A,B Teaching Japanese Language A,B	専門と出会う 日本語日本文学の基礎を学ぶ 基礎論文演習 (文章表現) 文学理論の基礎 書誌学・くずし字の基礎 日本史の基礎 (古代～近世) 古典読解の基礎 日本史の基礎 (近現代) 漢文読解の基礎 日本語日本文学の専門を学ぶ 日本語資料を読む 古典文学を読む4 古典文学を読む1 近現代文学を読む1 古典文学を読む2 近現代文学を読む2 古典文学を読む3 中国文学を読む 日本語学 【専門を学ぶ】 日本語文法研究の方法 日本語音韻研究の方法 方言研究の方法 【専門を深める】 日本語の形態と構文 日本語の意味と語彙 日本語の音声とアクセント 日本語の文体と語法 日本の漢字と国語辞書 日本語の歌謡 日本文学 【専門を学ぶ】 上代文学研究の方法 中古文学研究の方法 中世文学研究の方法 近世文学研究の方法 近現代文学研究の方法 【専門を深める】 キリスト教と日本文学 神話の世界 説話の世界 古代和歌の世界 物語の世界 日記の世界 隨筆の世界 中世和歌の世界 軍記の世界 俳諧の世界 近世小説の世界 近代小説の世界 現代小説の世界 近代現代詩歌の世界 同時代文学の世界 能・狂言の世界 歌舞伎の世界 浄瑠璃の世界 近現代演劇の世界 書道芸術の世界 日中交流言語文化 【専門を深める】 漢字の世界1 漢詩漢文の世界2 漢字の世界2 日中比較言語・文学の世界 漢詩漢文の世界1 日本の言語・文学・文化 【視野を広げる】 言語と文化 方言と社会言語学 コンピュータと言語学 文学と子ども 文学と文学 文学と都市空間 地域文化を読み解く 民俗文化を読み解く 絵巻・絵図を読み解く マンガ・アニメ文化を読み解く 日本語教育 【専門を学ぶ】 日本教育学概論A,B 【専門を深める】 日本語教育の教材分析A,B 日本語学習のコースデザイン 日本語教育評価法 第二言語習得論 日本語教育のための異文化理解 日本語教授法A,B 日本語教育実習1 日本語教育実習2	専門と出会う コミュニケーションの基礎を学ぶ 対人コミュニケーションの心理学 マスコミュニケーションと情報社会 ことばと記号のコミュニケーション 組織の中の人間関係 社会的行為としてのコミュニケーション 身体とくさくさの心理学 歴史言語コミュニケーション概説 日本語法論とコミュニケーション コミュニケーション学探求 コミュニケーション学探求1 コミュニケーション学探求6 コミュニケーション学探求2 コミュニケーション学探求7 コミュニケーション学探求3 コミュニケーション学探求8 コミュニケーション学探求4 コミュニケーション学探求9 コミュニケーション学探求5 コミュニケーション学探求10 多文化理解 【フィールドへ出る】 多文化・多言語社会を考える アジアとの出会いと異文化体験 ルオール文化の考え方・読み方 多文化社会の人間学 ディアスポラ (離散) の思想 多文化体験としての都市フィールドワーク 異文化のコミュニケーション 異文化トレーニング 文化の心理学 ことばのフィールドワーク これからの多文化教育 先住民族の言語・文化と共生 ことばと個人・社会の関係を探る 共生コミュニケーション 【フィールドへ出る】 【知と出会う】 エスニックマイノリティの問題を考えるA,B アジアとのネットワークキング 子どもの発達とこれからの教育問題 視覚障害の理解と点字の技法A,B これからの家族問題A,B 聴覚障害の理解と手話の技法 健康・医療におけるコミュニケーションの関わり 共生のフィールドワーク HIV・難病問題と向き合う フェシリテーターの理論と実践 PTSDと被害者のグリーフワーク ジェンダーと男女共同参画社会 障害者の心理学と共生社会 エイジングの心理学と高齢社会 表現とメディア 【フィールドへ出る】 【知と出会う】 メディアリテラシーを身につける 映像取材A,B 放送文化と制度を考える マルチメディア制作I (CG-DTP編)A,B 新聞・出版ワークショップ マルチメディア制作II (情報デザイン)A,B マルチメディアの現在と未来 プレゼンテーションの方法A,B テキスト分析と物語構造分析を学ぶ 取材と記事のレッスン ネットワークによるコミュニケーションの構築 デイバートと自己主張 コンピュータによる調査データの解析A,B ビジネス・コミュニケーションスキル 文獻・情報にアクセスする 身体表現の技法 文獻・情報にアクセスする 編集デザインスキル 現代文化を読み解く ファッション文化 映画・映像文化 スポーツ文化 広告とマーケティング 現代人と宗教
	III		
IV	専門を深める 英米文化専門ゼミA,B 英米文化卒論ゼミA,B	専門を深める 日本語文化専門ゼミA,B 日本語文化卒論ゼミA,B	専門を深める コミュニケーション専門ゼミI A, B コミュニケーション専門ゼミII A, B
V	卒業論文 卒業論文	卒業論文 卒業論文	卒業論文 卒業論文
選択	英語圏で体験 アメリカ現地実習 フィールド・スタディ1 イギリス現地実習 フィールド・スタディ2	書道A,B	

文学部
専門科目カリキュラム

英文学科

卒業に必要な単位数

(3年次編入学者を除く)

2004年度以降入学者

科目区分		単位数	備 考	参照		
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1		
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」 から2単位	*1		
	語 学	語学履修コースによる： ① 22 ② 20	①英語インテンシブ・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者	*2		
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計 32単位	「R&R (入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位 Ⅱ群から12単位以上 Ⅲ群から14単位以上 専門ゼミA、B、卒論ゼミA、Bを各1単位、合計4単位	*3
		選択必修Ⅱ	12			
		選択必修Ⅲ	14			
		選択必修Ⅳ	4			
	選 択					
	卒業論文	6				
そ の 他	語学履修コースによる： ① 60 ② 62			*4		
合 計		124				

*1	<p>「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。なお、次の科目は、それぞれ8単位まで卒業に必要な単位として認められます。(必修単位を含む。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キリスト教」科目 ・「ボランティア活動1, 2, 3」 ・「健康・スポーツ」科目 ・「私のキャリアを考える」科目と「ビジネス・スキルを高める」科目 ・「キャリア実習 (短期・長期インターンシップ)」
*2	<p>語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められません。なお、語学の履修方法は、pp.76~77英文学科の「語学科目の履修」をご覧ください。</p>
*3	<p>選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から14単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計32単位以上を修得してください。</p>
*4	<p>次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 (上限：*1、*2のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目 (上限：8単位まで)

<p>2012年度以降入学者 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p> <p>2011年度以前入学者 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p>
<p>外国人留学生は、前頁の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細はp.196を参照してください。</p> <p>①「日本事情A、B」から4単位 ②「留学生日本語」2010年度以降入学者は10単位、2009年度以前入学者は12単位 ③英語科目12単位（2か国語履修コース）または20単位（英語インテンシブ・コース）</p>

3年次編入学者（2006年度以降入学）の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者		科目区分	単位数	備 考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1	
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1	
	語学	-		*2	
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	-		
		選択必修Ⅱ	-		
		選択必修Ⅲ	-		
	選択必修Ⅳ	4	{「英米文化専門ゼミA」1単位、「英米文化専門ゼミB」1単位 「英米文化卒論ゼミA」1単位、「英米文化卒論ゼミB」1単位		
	卒業論文	6			
	その他	48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）		
	合計	62			

ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。（p.63「キリスト教科目」参照）

また、共通科目、語学科目、教職科目のうち、卒業要件に算入できる単位数に上限がある科目については、前頁の*1、*2を参照してください。

カリキュラム

カリキュラムの説明

英文学科では、近年の英語・英米文学研究の対象の広がりを受け、従来の英文学科の枠組みを超えて幅広い分野について学ぶことができます。具体的には、1. アメリカ、イギリスをはじめとする英語圏の文学、芸術、映画、2. 英語圏のことばと文化、3. アメリカやイギリスの政治、社会、思想、歴史、宗教、4. 翻訳、通訳、英語教育などコミュニケーションの手段としての英語、を学ぶ科目が設置されています。これらの専門科目は、英語そのものの実力を高めるために共通科目に設置されている「英語インテンシブ・コース」などと結びつくことで、より有意義なものとなるでしょう。

1年次に全員が履修するものとして、選択必修Ⅰ**基礎を学ぶ**の「R&R（入門ゼミ）」と「英米文化基礎ゼミ」があります。前期の「R&R（入門ゼミ）」はResearch & Reportを略したもので、文学部共通に設置されたゼミナール形式の授業です。大学で学ぼううえで必要な心構えや学習方法の基礎を身につけます。具体的には、学術資料の調べ方、レジュメやレポートの書き方、発表や討論のしかたなど基礎的な事柄について学びます。原則として、大学入学後の初めの2年間は、この「R&R」担当の教員が「アカデミック・アドバイザー」（AA）として、みなさんの相談を受け、必要なアドバイスをおこないます。後期の「英米文化基礎ゼミ」においては、「R&R」で学んだことを活かしながら、自分の興味のある分野について深く学びます。

選択必修Ⅱ**全体像を知る**の「研究入門」は、「R&R（入門ゼミ）」、「英米文化基礎ゼミ」などと同じく1年次から履修できる科目群です。それぞれの分野の基本的知識のほか、現在のみなさんの興味がどのように展開されていくのか、見通しが得られるように構成されています。

選択必修Ⅲ**専門と出会う**の「アメリカを読み解く」、「イギリスを読み解く」、「英語の実像を探る」などは2年次対象の「演習」（ゼミナール）科目であり、全員が必ず履修してください。

選択**英語圏で実体験**の「現地実習」は、休暇期間中に実施される英語圏の大学への短期研修です。ひとつのトピックを中心に現地で学習する「フィールド・スタディ」も開講され、文学ゆかりの地や各国の博物館・美術館などをトピックに詳しい先生の説明を受けながら巡り、授業で学んだことをじかに体験します。

選択必修Ⅳ**専門を深める**の「英米文化専門ゼミ」では、各担当者の指導を受けながら、興味のある分野についての研究を深めていきます。「R&R（入門ゼミ）」、「英米文化基礎ゼミ」、「研究入門」などで学んだことを基礎に、発表・討論を通じて知識を深化します。それらをさらに発展させたものが「英米文化卒論ゼミ」であり、その成果を「卒業論文」にまとめます。

4年間の履修の指針

大学の4年間では、特定の分野に偏らない履修をすることが望ましく、できるだけ多くのことについて学ぶように努力しましょう。特に1, 2年次の間は、いろいろなことを知るために、幅広い分野の授業を組み合わせた時間割を考えることが大切です。一見関連しないようなテーマが、実は深いところで結びついていることがよくあるからです。ここではイギリスの小説を学ぶことを例に考えてみましょう。

例えば、イギリスのヴィクトリア朝（19世紀）の小説について学ぼううえで、エリザベス朝（16世紀）の演劇や17世紀の詩などについての知識があると理解が深まることがよくあります。なぜなら、文学作品の多くは、時代やジャンルを超えてつながっているからです。また、大西洋をはさんだアメリカ合衆国を意識しながらイギリスの小説を考えることも思わぬ発見に

つながります。イギリスとアメリカの社会は私たちが考える以上に密につながっており、お互いに強く影響し合っているからです。さらに、小説における会話を読み取るためには言語学の談話分析の知識などが大いに役立ちます。映画化された作品から逆転写させて原作そのものを読み直すこともできますし、小説で描かれる建築物などを詳しく調べることで作品そのものの理解が深まることもよくあります。このように、すべての分野はどこかで必ずつながっており、幅広くいろいろな分野を学ぶことによって意外な発見をすることができるのです。

具体的には、「研究入門」においては、「アメリカ」、「イギリス」、「英語学」の三つの分野を選択する、1年次後期の「英米文化基礎ゼミ」と2年次前期の「専門と出会う」の授業では敢えて異なる分野のものを選ぶなど、自分の視野を広げる努力をしましょう。そのうえで、2年次からは、3年次の「専門ゼミ」で何を学ぶかを意識しながら履修科目を選び、自分の興味のある領域に少しずつ近づいていくことをお勧めします。そして、3、4年次においては、「専門ゼミ」、「卒論ゼミ」の分野に関連するテーマを扱う科目を中心に履修してさらに知識を深め、卒業論文の作成に役立てるとよいでしょう。

英語の運用能力

英文学科では、先に述べたような専門知識の多くを英語の文献などを通して得ていきます。そのため、一定以上の英語運用能力をできるだけ早く身につける必要があります。また、翻訳や通訳などに興味がある場合には、さらに高い英語運用能力を身につけるための努力を続ける必要があります。「英語インテンシブ・コース」などの共通科目に設置された「英語」の授業のほか、英文学科の専門科目に「Academic Writing」や「Ferris Special English Program」など、英語の運用能力を高めるための授業が設置されています。これらの科目では、履修の前提となる英語力があらかじめ指定されていたり、履修者数が限定されていることもあります。シラバスなどで内容を十分に確認した上で、履修の順序なども工夫して時間割を組むことをお勧めします。

その他

選択必修Ⅲには、**文学・文化理論を学ぶ**として、文学部の全学生を対象とした共通科目を用意しています。最新の文学・文化理論を学ぶことはみなさんの研究テーマを考えるのに大いに役立つでしょう。また、自分が興味をもっているテーマの位置づけを知るために、「アメリカ史」、「イギリス史」のような「歴史」の授業のほか、「アメリカ文学史」、「イギリス文学史」、「英米芸術史」、「英語の歴史」などの講義を用意しています。通史的な知識をつけることで、自分の興味がその分野においてどのような意味をもっているのかを理解することも大切です。

履修単位数については特定の学年に偏るのではなく、4年間で平均して履修することが理想です。各自の事情に合わせてながら、卒業要件の124単位をうまく4年間で分けていくように履修しましょう。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.26～32)及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目(基礎教養・総合課題、語学)の履修

pp.63～64、67～89を読み、開講科目表(pp.204～208、209～226)の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

2004年度以降入学者

カリキュラム表(p.101)、開講科目表(pp.228～231)の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1) 「R&R(入門ゼミ)」:1年次前期に履修

- ① 選考:クラスは学科が決定します。
- ② 再履修:「R&R(入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「英米文化基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R(入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員(p.9)の指示を受けてください。

(2) 「英米文化基礎ゼミ」:1年次後期に履修

- ① 選考:クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。
- ② 再履修:「英米文化基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員(p.9)の指示を受けてください。

【注意】 2005年度以降入学者は、「R&R(入門ゼミ)」または「英米文化基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであることを3年次「英米文化専門ゼミ」の履修条件とします。

(3) 選択必修Ⅲについて

2年次前期に、選択必修Ⅲのつぎの科目群の中から1科目2単位を修得すること。クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。

- 「アメリカを読み解く」
- 「イギリスを読み解く」
- 「英語の実像を探る」
- 「英語文献を読み解く」

(4) 「英米文化専門ゼミ」:3年次に履修

- ① 選考:所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜が行われますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の

指示に従ってください。

- ② 再履修：「英米文化専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「英米文化卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員(p.9)の指示を受けてください。

(5) 「英米文化卒論ゼミ」：4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「英米文化専門ゼミ」と同一担当者とし、その担当者のもとで卒業論文指導を受けることとします。
- ② 再履修：「卒論ゼミA」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミB」を重複して履修し、「卒論ゼミA」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員 (p.9) の指示を受けてください。

(6) 留学等の理由による規定学期以外の履修

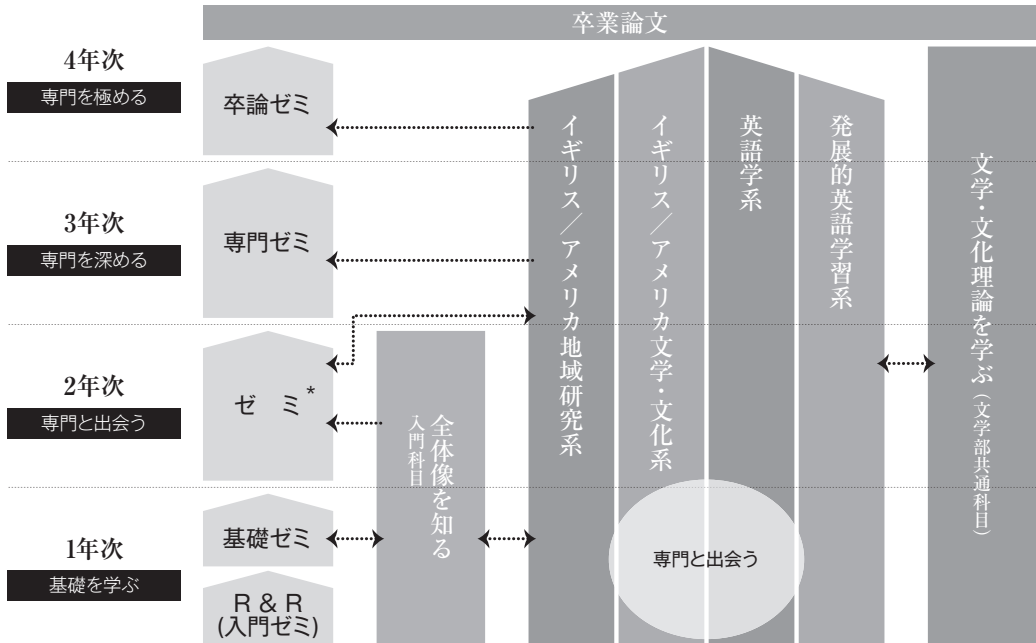
交換留学・認定留学、セメスター・アブロード及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「英米文化専門ゼミ」「英米文化卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員 (p.9) の指示を受けてください。

(7) 「卒業論文」

卒業論文は、卒業する年度に提出することとします。提出方法等についてはp.43を参照してください。

英文学科カリキュラムマップ

英米及び英語圏の言語、文学、文化などを系統的に修得することにより、国際化の時代にふさわしい教養と語学力を身に付け、異文化を理解しつづ、国際社会に多様なかたちで貢献できる能力をもつ者に「学士(文学)」の学位を授与する。



*2年次の「ゼミ」とは、学科選抜科目の「アメリカを読み解く」「イギリスを読み解く」「英語の実像を探る」「英語文献を読み解く」を指します。

英文学科専門科目カリキュラム表

2004年度以降入学者

() 内は単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件	
選択必修Ⅰ	基礎を学ぶ				2単位	
	R&R(入門ゼミ) (1)					
選択必修Ⅱ	全体像を知る				12単位以上	
	アメリカ研究入門 (4)	英米文学研究入門 (4)				
	イギリス研究入門 (4)	英語学研究入門 (4)				
選択必修Ⅲ	専門と出会う				14単位以上	
		アメリカを読み解く (2)				
		イギリスを読み解く (2)				
		英語の実像を探る (2)				
		英語文献を読み解く (2)				
	英語圏の文化と社会					
		アメリカ文学史 (2)	イギリス文学史A,B (2,2)			
		イギリス文化論総説A,B (2,2)	オーストラリア地域文化研究A,B (2,2)	イギリスの思想・宗教A,B (2,2)		
		アメリカの文化A,B (2,2)	アメリカン・スタディーズ (2)	イギリス史A,B (2,2)		
			現代アメリカ論 (4)	アメリカ史 (4)		アメリカの政治と社会A,B (2,2)
			イギリスの政治と社会A,B (2,2)	カナダの政治と社会 (4)		アメリカの思想・宗教A,B (2,2)
	英語圏の文学と芸術					
		アメリカ小説を読むA,B (2,2)	イギリス詩の世界A,B (2,2)	フォークロアの世界A,B (2,2)		英語圏の文学と芸術A,B (2,2)
		イギリス小説を読むA,B (2,2)	アメリカ演劇の世界A,B (2,2)	英語圏文学A,B (2,2)		イギリス文化史 (2)
		アメリカ詩の世界A,B (2,2)	イギリス演劇の世界A,B (2,2)	英米芸術史 (2)		英米文学特論A,B (2,2)
			キリスト教と英米文学1 (2)	英語圏の映画と映像A,B (2,2)		
			キリスト教と英米文学2 (2)			
	英語学					
		英語のさまざまな側面A,B (2,2)	英語と社会・文化 (2)	英語の発音A,B (2,2)		英語の歴史A,B (2,2)
		英語のしくみを知るA,B (2,2)	日英語の発想と表現 (2)	英語学特論 (2)		
	Interactive English					
		時事英語研究A,B (2,2)	Global Issues (4)	Internet English A,B (2,2)		The English-Speaking World A,B (2,2)
			翻訳技法A,B (2,2)	同時通訳技法A,B (2,2)		Academic Writing A,B (2,2)
			通訳技法A,B (2,2)	Ferris Special English Program (2)		
	Teaching Methodology					
			English for Kids A,B (2,2)	Teaching Japanese Language A,B (2,2)		
	文学・文化理論を学ぶ					
	カルチュラルスタディーズA,B (2,2)	声の文化と文字の文化A,B (2,2)	児童文学論A,B (2,2)			
	古典と表象文化A,B (2,2)	テキスト生成と批評A,B (2,2)	キリスト教と文学 (2)			
	ポピュラーカルチャーA,B (2,2)	ジェンダー・フェミニズム批評A,B (2,2)				
選択必修Ⅳ	専門を深める				4単位	
			英米文化専門ゼミA,B (1,1)	英米文化卒論ゼミA,B (1,1)		
選択必修Ⅴ	専門を極める				6単位	
				卒業論文 (6)		
選択	英語圏で実体験					
	アメリカ現地実習 (2)	フィールド・スタディ1 (1)				
	イギリス現地実習 (2)	フィールド・スタディ2 (1)				

日本文学科

卒業に必要な単位数

(3年次編入学者を除く)

2004年度以降入学者

科目区分	単位数	備 考	参照			
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1		
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1		
	語学	語学履修コースによる： ① 10 ② 22	①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2		
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計 36単位	「R&R (入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位 Ⅱ群から12単位以上 Ⅲ群から18単位以上 専門ゼミA, B、卒論ゼミA, Bを各1単位、合計4単位	*3
		選択必修Ⅱ	12			
		選択必修Ⅲ	18			
		選択必修Ⅳ	4			
	選 択					
卒業論文	6					
その他	語学履修コースによる： ① 68 ② 56			*4		
合 計	124					

*1	<p>「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。なお、次の科目は、それぞれ8単位まで卒業に必要な単位として認められます。(必修単位を含む。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キリスト教」科目 ・「ボランティア活動1, 2, 3」 ・「健康・スポーツ」科目 ・「私のキャリアを考える」科目と「ビジネス・スキルを高める」科目 ・「キャリア実習(短期・長期インターンシップ)」
*2	<p>卒業に必要な語学科目の単位数は、スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者は10単位、インテンシブ・コース選択者は22単位です。語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.78～81日本文学科の「語学科目の履修」を見てください。</p>
*3	<p>選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から18単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計36単位以上を修得してください。</p>
*4	<p>次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限：*1、*2のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限：8単位まで)
	<p>2012年度以降入学者 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p> <p>2011年度以前入学者 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。同じく2年次は、25単位とします。この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p>

外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細はp.196を参照してください。

- ① 「日本事情A、B」から4単位
- ② 「留学生日本語」2010年度以降入学者は10単位、2009年度以前入学者は12単位

3年次編入学者（2006年度以降入学）の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者		単位数	備 考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語学	-		*2
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	-	
		選択必修Ⅱ	-	
		選択必修Ⅲ	-	
		選択必修Ⅳ	4	「日本語文化専門ゼミA」1単位、「日本語文化専門ゼミB」1単位 「日本語文化卒論ゼミA」1単位、「日本語文化卒論ゼミB」1単位
	卒業論文	6		
	その他	48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
	合計	62		

ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。（p.63「キリスト教科目」参照）

また、共通科目、語学科目、教職科目のうち、卒業要件に算入できる単位数に上限がある科目については、前頁の*1、*2を参照してください。

カリキュラム

カリキュラムの説明

日本文学科のカリキュラムは、日本語学・日本文学を柱として立てられています。日本語学は、日本語史と現代日本語・日本語教育に、日本文学は上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学に、さらには中国文学と漢文学に専門・細分化されます。その授業科目には、専門に関わる科目、全体に共通して必要な科目、また教職課程や日本語教員養成に関する科目があります。これは、他学科の開放科目を含め有機的繋がりの中に段階を追って履修することにより、専門の総体的な知識を得つつ、専門的な知識を深めていくことができるよう設定されたものです。言語体験や文学体験を重視した科目も特徴です。また各科目群における修得単位数が示されていますが、あくまでも最低目標値にすぎません。専門の知識を深め、身につけるためには、専門科目の積極的な履修が望まれます。

4年間の履修の指針

1年次に履修が指定されている科目は科目群Ⅰ **基礎を学ぶ** の「R&R（入門ゼミ）」「日本語文化基礎ゼミ」です。前期の「R&R（入門ゼミ）」は、Research & Reportの略で、文学部共通のゼミナールとして設置されています。学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなど大学ならではの方法を全員が身につけ、学習が実りあるものとなるようトレーニングをします。このクラスの担当教員が、原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー（AA）」としてみなさん方に種々のアドバイスを行います。後期の「日本語文化基礎ゼミ」は、日本文学科の各専門分野における基礎資料の集め方、研究の初歩を学ぶ時間です。これら2つの演習により、日本文学科で勉強をしていくための基礎を幅広く学んでください。

また、科目群Ⅲ **専門と出会う** の日本語日本文学の基礎を学ぶは、専門分野を学んでいくための基礎的な力をつけるための科目群です。できるだけすべての科目を履修するようにしてください。なかでも「基礎論文演習（文章表現）」は、専門分野についてのレポートや卒業論文を書いていくために必ず必要となる基礎力を養成するための科目ですので、1年次の後期に履修するようにしてください。

さらに、1年次から、科目群Ⅱ **全体像を知る** の「概論・文学史」等を履修することによって、各専門分野の全体的知識を学びます。ある専門分野のことが他の分野のことに全く無関係ということはありません。幅広く学ぶことで更に専門が深まってくるものです。教職課程履修者や日本語教員養成講座受講者、大学院進学希望者は、科目群Ⅱについては全科目の履修が理想的です。

2年次以降、更に専門的な研究方法や知識を習得するため、科目群Ⅲ **専門と出会う** の中に、より専門的な科目が用意されています。これらの科目の中には実際に調査し、整理・分析して発表するという主体的な参加が要請されるものもあり、特に2年次の「～を読む」はクラス定員に制限を設けた学科選抜の演習形式科目で、週2回の授業により一気に実践力を高めるものです。科目群Ⅲには、日本語日本文学のより専門的な科目の他に、日本の言語・文学・文化について、視野を広げたり、実際に体感する科目も開かれています。これらの科目を選択することでより深い探究、より広い展望を獲得できます。

2年次終了までに、進むべき専門の分野を決定して、3年次に科目群Ⅳ **専門を深める** の「日本語文化専門ゼミ」を選択履修し、各自の研究テーマを本格的に学ぶこととなります。さらに、4年次には同じ科目群Ⅳの「日本語文化卒論ゼミ」を履修し、卒業論文作成に向けて研鑽を積むこととなります。卒業論文のテーマは、平生の履修の中で常に考え、早めに見つけるよう心がけてください。

教職（国語）資格、日本語教員

日本文学科の専門科目を履修しつつ、教職課程の科目の履修を積み重ねることで、国語の教員免許状が取得できます。また、日本語教員養成講座の選択必修科目の多くは日本文学科の専門科目なので、卒業要件を満たしつつ効率的に日本語教員養成講座を修了することができます。それぞれのカリキュラム表をよく読み、専門科目の履修を資格取得に有効に生かしてください。

その他

選択必修Ⅲには**文学・文化理論を学ぶ**として、文学部の全学生を対象にした共通科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を日本文学・日本語研究に大いに生かしてください。

また、4年間で平均して履修することも大切なことです。卒業要件の124単位を上手に按分して各学年でムラなく学ぶよう計画してください。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.26～32)及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目(基礎教養・総合課題、語学)の履修

pp.63～64、67～89を読み、開講科目表(pp.204～208、209～226)の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

2004年度以降入学者

カリキュラム表(pp.108～109)、開講科目表(pp.232～234)の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1) 「R&R(入門ゼミ)」: 1年次前期に履修

- ① 選考: クラスは学科が決定します。
- ② 再履修: 「R&R(入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「日本語文化基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R(入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員(p.9)の指示を受けてください。

(2) 「日本語文化基礎ゼミ」: 1年次後期に履修

- ① 選考: クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。なお、「R&R(入門ゼミ)」担当者とは、異なる担当者のもとで履修することとします。
- ② 再履修: 「日本語文化基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員(p.9)の指示を受けてください。

【注意】 2005年度以降入学者は、「R&R(入門ゼミ)」または「日本語文化基礎ゼミ」のいずれか1単位が修得済みであることを3年次「日本語文化専門ゼミ」の履修条件とします。

(3) 「基礎論文演習（文章表現）」：1年次後期に履修【2012年度以降入学生】

1年次の後期に1単位を履修することとします。クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

(4) 選択必修Ⅲについて

2年次に、選択必修Ⅲのつぎの科目群の中から前期後期それぞれ1科目4単位ずつ、合計8単位を履修すること。クラスは学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

「日本語資料を読む」

「古典文学を読む1」「古典文学を読む2」「古典文学を読む3」「古典文学を読む4」

「近現代文学を読む1」「近現代文学を読む2」

「中国文学を読む」

(5) 「日本語文化専門ゼミ」：3年次に履修

① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜が行われますので、掲示及び学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。

② 再履修：「日本語文化専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「日本語文化卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員（p.9）の指示を受けてください。

(6) 「日本語文化卒論ゼミ」：4年次に履修

① 所属ゼミは原則として3年次の「日本語文化専門ゼミ」と同一担当者とし、その担当者のもとに卒業論文指導を受けることとします。

② 再履修：「卒論ゼミA」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミB」を重複して履修し、「卒論ゼミA」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員（p.9）の指示を受けてください。

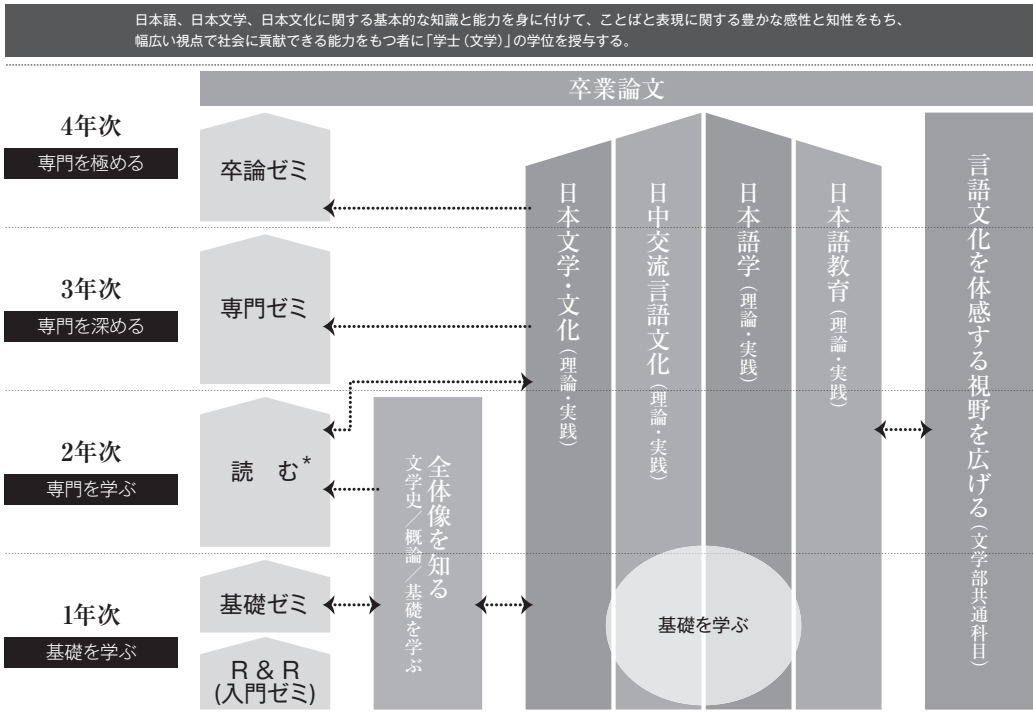
(7) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「日本語文化専門ゼミ」と「日本語文化卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員（p.9）の指示を受けてください。

(8) 「卒業論文」

卒業論文は、卒業する年度に提出することとします。提出方法についてはp.43を参照してください。

日本文学科カリキュラムマップ



*2年次の「読む」とは、学科選抜科目の「日本語資料を読む」「古典文学を読む」「近現代文学を読む」「中国文学を読む」を指します。

日本文学科専門科目カリキュラム表

2012年度以降開講科目		()内は単位数			
	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件
選択必修Ⅰ	基礎を学ぶ				2単位
	R&R(入門ゼミ) (1)				
選択必修Ⅱ	全体像を知る				12単位以上
	日本語学概論A,B (2,2)	日本古典文学史4 (2)			
	日本語の歴史A,B (2,2)	日本近代文学史A,B (2,2)			18単位以上
	日本古典文学史1 (2)	漢文学概説A,B (2,2)			
	日本古典文学史2 (2)	言語学概説 (2)			
	日本古典文学史3 (2)				
	専門と出会う				
	日本語日本文学の基礎を学ぶ				
	基礎論文演習(文章表現) (1)				
	書誌学・くずし字の基礎 (2)	文学理論の基礎 (2)			
	古典読解の基礎 (2)	日本史の基礎(古代~近世) (2)			
	漢文読解の基礎 (2)	日本史の基礎(近現代) (2)			
	日本語日本文学の専門を学ぶ				
		日本語資料を読む (4)			
		古典文学を読む1 (4)			
		古典文学を読む2 (4)			
		古典文学を読む3 (4)			
		古典文学を読む4 (4)			
		近現代文学を読む1 (4)			
		近現代文学を読む2 (4)			
		中国文学を読む (4)			
	日本語学				
専門を学ぶ		日本語文法研究の方法 (2)	日本語音声研究の方法 (2)		
		日本語語彙研究の方法 (2)	方言研究の方法 (2)		
専門を深める		日本語の形態と構文 (2)	日本語の文体と語法 (2)		
		日本語の意味と語彙 (2)	日本の漢字と国語辞書 (2)		
		日本語の音声とアクセント (2)	日本語の敬語 (2)		
	日本文学				
専門を学ぶ		上代文学研究の方法 (2)	近世文学研究の方法 (2)		
		中古文学研究の方法 (2)	近現代文学研究の方法 (2)		
		中世文学研究の方法 (2)			
	キリスト教と日本文学 (2)				
専門を深める		中世和歌の世界 (2)	同時代文学の世界 (2)	神話の世界 (2)	
		軍記の世界 (2)	能・狂言の世界 (2)	説話の世界 (2)	
		俳諧の世界 (2)	歌舞伎の世界 (2)	古代和歌の世界 (2)	
		近世小説の世界 (2)	浄瑠璃の世界 (2)	物語の世界 (2)	
		近代小説の世界 (2)	近現代演劇の世界 (2)	日記の世界 (2)	
		現代小説の世界 (2)	書道芸術の世界 (2)	随筆の世界 (2)	
		近現代詩歌の世界 (2)			
	日中交流言語文化				
専門を深める		漢字の世界1 (2)	漢詩漢文の世界1 (2)	日中比較言語・文学の世界 (2)	
		漢字の世界2 (2)	漢詩漢文の世界2 (2)		
	日本の言語・文学・文化				
	視野を広げる		言語と文化 (2)	文字と文学 (2)	
		方言と社会言語学 (2)	文学と都市空間 (2)	マンガ・アニメ文化を読み解く (2)	
	コンピュータと言語学 (2)	地域文化を読み解く (2)			
言語文化を体感する	日本語学概論A,B (2,2)	小説創作を学ぶ (2)	現代詩創作を学ぶ (2)	編集を学ぶ (2)	
	国際日本文学研究を学ぶ (2)	短歌創作を学ぶ (2)	報道文を学ぶ (2)	朗読・アナウンスを学ぶ (2)	
	日本語教育				
	専門を学ぶ	日本教育学概論A,B (2,2)			
専門を深める		日本語教育の教材分析A,B (2,2)	日本語教育評価法 (2)	日本語教育のための異文化理解 (2)	
		日本語学習のコースデザイン (2)	第二言語習得論 (2)	日本語教授法A,B (2,2)	
			日本語教育実習1 (1)		
			日本語教育実習2 (2)		
	文学・文化理論を学ぶ				
	カルチュラルスタディーズA,B (2,2)	声の文化と文字の文化A,B (2,2)	児童文学論A,B (2,2)		
	古典と表象文化A,B (2,2)	テクスト生成と批評A,B (2,2)	キリスト教と文学 (2)		
	ポピュラーカルチャーA,B (2,2)	ジェンダー・フェミニズム批評A,B (2,2)			
必修Ⅳ	専門を深める				4単位
必修Ⅴ	日本語文化専門ゼミA,B (1,1)			日本語文化卒論ゼミA,B (1,1)	6単位
	専門を極める				
選択	書道A,B (1,1)			卒業論文 (6)	

日本文学専攻専門科目カリキュラム表

2011年度以前開講科目		() 内は単位数					
	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件		
選択必修Ⅰ	基礎を学ぶ R&R(入門ゼミ) (1) 日本語文化基礎ゼミ (1)				2単位		
選択必修Ⅱ	全体像を知る 日本語学概論A,B (2,2) 日本近代文学史A,B (2,2) 日本語史A,B (2,2) 漢文学概説A,B (2,2) 日本古典文学史A,B (2,2) 言語学概説 (2)				12単位以上		
選択必修Ⅲ	専門と出会う 日本語資料を読む (4) 古典文学を読む1 (4) 古典文学を読む2 (4) 古典文学を読む3 (4) 古典文学を読む4 (4) 近現代文学を読む1 (4) 近現代文学を読む2 (4) 中国文学を読む (4)				18単位以上		
	日本の文学 * 上代文学論 (4) * 中世文学論A/中世文学論 (2)/(4) * 近現代文学論 (4) * 中古文学論A,B/中古文学論 (2,2)/(4) * 近世文学論A,B/近世文学論 (2,2)/(4)						
	日本の言語 日本語の形態と構文A,B (2,2) 日本語の音声とアクセント (2) 日本語の文体と表現 (2) * 日本語学文献研究 (2) 日本語の意味と語彙A,B (2,2) 日本語の文体と表現A,B (2,2)						
	日中交流言語文化 漢字学入門 (2) * 漢文学作品論A,B (2,2) 日中比較言語・文学 (2)						
	日本の文化と歴史 キリスト教と日本文学 (2) * 俳諧の世界 (2) * 同時代の文学 (2) 日本の歴史 (2) 文学と子ども (2) * 近世小説の世界 (2) 古代・中世の芸能 (2) 日本思想史 (2) 言語と子ども (2) 近現代小説の世界 (2) 近世の芸能 (2) 琉球の言語と文学 (2) 神話・説話の世界 (2) 近・現代小説の世界 (4) 近代演劇 (2) 世界の中の日本文学 (2) 物語の世界 (2) * 文学と都市空間 (2) 対照言語学 (2) 民俗学 (2) 和歌の世界 (2)						
	応用言語学A,B (2,2)						
	日本の言語と文学を体験する 古典文学を歩く (2) 鎌倉学 (2) 文献を探す (2) 近現代文学を歩く (2) 発声と身体へのレッスン (2) 絵巻・絵図を読み解くA,B (2,2) 小説・シナリオを創るA,B (2,2) 日本の伝統と文化 (2) マンガ・アニメ文化を読み解く(2) 詩・短歌・俳句を創る (2) 朗読のレッスン (2) 書道芸術論 (2)						
	文学・文化理論を学ぶ カルチュラルスタディーズA,B (2,2) 声の文化と文字の文化A,B (2,2) 児童文学論A,B (2,2) 古典と表象文化A,B (2,2) テキスト生成と批評A,B (2,2) キリスト教と文学 (2) ポピュラーカルチャーA,B (2,2) ジェンダー・フェミニズム批評A,B (2,2)						
	必修Ⅳ	専門を深める		日本語文化専門ゼミA,B (1,1)		日本語文化卒論ゼミA,B (1,1)	4単位
	必修Ⅴ	専門を極める				卒業論文 (6)	6単位
	選択必修	日本語で実践					
		文章表現法A,B (1,1)	日本語教育学概論 (2)	日本語教育学概論A,B (2,2)			
			書道A,B (1,1)				
	選択必修		日本語教育学講読A,B (2,2)	日本語教育論ⅡA,ⅡB (2,2)			
			日本語教育論ⅠA,ⅠB (2,2)	日本語教育特論A,B (2,2)			
		日本語教育実習1 (1)	日本語教育実習2 (2)				

※ 選択必修Ⅲのうち*印を付した科目は、やや難度が高いため、2年次以降の履修が望ましい。

コミュニケーション学科

卒業に必要な単位数

(3年次編入学者を除く)

科目区分	単位数	備考	参照			
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1		
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1		
	語学	語学履修コースによる： ① 10 ② 22	①スタンダート・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2		
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計 36単位	「R&R (入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位 Ⅱ群から12単位以上 Ⅲ群から18単位以上 専門ゼミⅠA、ⅠB、専門ゼミⅡA、ⅡBを各1単位、合計4単位	*3
		選択必修Ⅱ	12			
		選択必修Ⅲ	18			
		選択必修Ⅳ	4			
	選択					
卒業論文	6					
その他	語学履修コースによる： ① 68 ② 56			*4		
合計	124					

*1	<p>「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。なお、次の科目は、それぞれ8単位まで卒業に必要な単位として認められます。(必修単位を含む。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キリスト教」科目 ・「ボランティア活動1, 2, 3」 ・「健康・スポーツ」科目 ・「私のキャリアを考える」科目と「ビジネス・スキルを高める」科目 ・「キャリア実習(短期・長期インターンシップ)」
*2	<p>語学科目の修得単位数は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.78～81コミュニケーション学科の「語学科目の履修」を見てください。</p>
*3	<p>選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から18単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計36単位以上を修得してください。</p>
*4	<p>次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限：*1、*2のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限：8単位まで)
	<p>2012年度以降入学者 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p> <p>2011年度以前入学者 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。同じく2年次は、25単位とします。この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p>
	<p>外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細はp.196を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「日本事情A、B」から4単位 ②「留学生日本語」2010年度以降入学者は10単位、2009年度以前入学者は12単位

3年次編入学者（2006年度以降入学）の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者		科目区分		単位数	備考	参照	
共通	基礎教養			2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1	
	総合課題			2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1	
	語学			-		*2	
専門	選択必修	選択必修Ⅰ			-		
		選択必修Ⅱ			-		
		選択必修Ⅲ			-		
		選択必修Ⅳ	4		「コミュニケーション専門ゼミⅠA」（1単位） 「コミュニケーション専門ゼミⅠB」（1単位） 「コミュニケーション専門ゼミⅡA」（1単位） 「コミュニケーション専門ゼミⅡB」（1単位）		
	卒業論文・卒業制作			6			
その他				48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）		
合計				62			

ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。（p.63「キリスト教科目」参照）

また、共通科目、語学科目、教職科目のうち、卒業要件に算入できる単位数に上限がある科目については、前頁の*1、*2を参照してください。

カリキュラム

コミュニケーション学科の目指すもの

コミュニケーション学科は、みなさん方が21世紀の多文化・共生時代を生きるため、多様化する社会や人間、文化などを総合的にとらえた上で、社会関係をスムーズにし、対人スキルを身につけ、豊かな表現能力が獲得できるよう、現状把握・調査・分析・理論、そして実習・実践などを重視する学科として2004年度に新しく開設されました。

人は、動物とは異なり1人では生きてゆけず、「社会」を構成してしか生きられません。その際、人は「ことば」で思考し、書きことば・話しことば・しぐさ・音・画像などの記号を駆使し、情報の乗り物であるメディアという道具を用いて自己表現や他者とのコミュニケーションを行っています。その繁雑さと「個」というエゴのため、時として人間は他の動物よりもはるかに非合理的な争いを生じさせもし、身近なところでは誤解や「いじめ」、他者の人権や生命の侵害、グローバルにみれば差別や貧困、大量殺戮や戦争などの悲しくかつ憂

慮すべき事態を繰り返してきました。人間がもっと賢くなり、「憎しみ」の連鎖を断ち切り、多様な人びとと平和的に暮らせるようになる世界を構築するためには、私たち全員がもっともって人間の心や社会のシステム、さまざまな文化、表現のしかたなどについて学び、むしろ「違い」を楽しむような実践が求められます。その時のキーワードが「コミュニケーション」にほかなりません。

カリキュラムの構成

本学のコミュニケーション学科は、以上のような問題意識の上に立って、カリキュラム構成に他大の同じような学科にはない数多くの特徴をそなえています。

まずカリキュラムの構造ですが、①入学したての大学生としてトレーニングを少人数のゼミで積む**基礎を学ぶ**、②コミュニケーション研究の入門編として**全体像を知る**、③実証的研究方法編としての**研究方法に取り組む**、④各論の基礎編である**コミュニケーションの基礎を学ぶ**、そして⑤各論の専門科目である**多文化理解・共生コミュニケーション・表現とメディア**の3領域からなる**専門と出会う**が、階梯性をもって配置されています。④⑤の「専門と出会う」の中には、2年次生全員が履修しなければならない、ゼミ風の**コミュニケーション学探求**も用意されています。また⑥コミュニケーション研究の解釈実践ともいえる**現代文化を読み解く**が加わり、最後に⑦卒業論文・卒業制作に結実するゼミナールとしての**専門を深める 専門を極める**でしめくられるよう組み立てられています。

カリキュラムのハイライトである⑤は、さらにそれぞれ**知と出会う**と**フィールドへ出る**とで構成されており、前者は主として現状や先行研究について理論的に学び、後者は主として学内外でのワークショップや実習によって実践的に学びます。

4年間の履修の指針

コミュニケーションに関連する授業内容は多岐にわたっており、どれもまんべんなく履修することをお勧めします。最低限の取得単位で卒業するのは、もったいないことです。しかし、「あれもこれも」と欲張りすぎても、「コミュニケーション学科でどんな勉強をしたの?」と他人や就職面接で訊かれて答えられないことになりかねません。自分の興味や研究テーマ、進路などにそって、自分なりのカリキュラムを構造化する必要があります。また、基礎教養・総合課題科目、他学部・他学科の開放科目、語学などもできるだけ関連させて履修したいものです。そのかわり、かなりハードな学生・学習生活になることを覚悟する必要があります。4年間・8セメスターの計画（履修計画のみならず留学や就職活動の予定）や、長期の夏休み・春休みなどの計画（資格や免許の取得など）をしっかりと立てておくことが肝要です。

1年目に全員必修で履修する**選択必修 I 基礎を学ぶ**は、「R&R（入門ゼミ）」と「コミュニケーション基礎ゼミ」からなっています。前期の「R&R（入門ゼミ）」は、Research & Reportの略で、文学部共通のゼミナールとして設置されています。大学ならではの、学術資料の調べ方やレジユメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなどを全員が身につけることによって大学での学習が実りあるものになるよう、トレーニングをします。少人数制のこのクラスは、担当の先生が原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー（AA）」として、みなさん方に種々のアドバイスを行います。続く1年後期の「コミュニケーション基礎ゼミ」では、さまざまな領域にわたるコミュニケーション研究のいずれかひとつの“入り口”を経験

してもらいます。

どちらも単位を取得しないと卒業できない必修科目です。配当された1年次生のうちに修得するようにしてください。

選択必修Ⅱ **全体像を知る** では、1、2年次に、コミュニケーションの概念や諸相に関する入門編である「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」のうちのいくつかと、多様な広がりを持つコミュニケーションに関する研究方法の入門編である「コミュニケーション研究方法の全体像」を履修しておいてください。また **研究方法に取り組む** の7科目のうちいくつかを、やはり2年次までに履修するよう努めてください。今後4年間の授業で、なかでもゼミと卒業論文・制作の場では、これらの授業で得た知識が「身につけていることを前提」として授業が進みます。これらⅡ群の単位は、合計12単位以上満たしていないと卒業できません。「研究方法に取り組む」の7科目のうちいくつかは「社会調査士」の資格科目ともなりますので、詳細は学科からの説明をよく聞いてください。

選択必修Ⅲ **専門と出会う** では、まず **コミュニケーションの基礎を学ぶ** で、コミュニケーション研究における各論の基礎的知識が講じられます。心理学や社会学、言語学などが人間や社会をどうとらえてきたか、アウトラインをつかんでください。この6科目について学年指定はありませんが、1、2年次のうちに履修しておくことを推奨します。

また2年次生は、前期に、この中のコミュニケーション学探求から、必ず1科目を履修してください。学科の専任教員が、それぞれの専門性をゼミ形式で鍛えます。

選択必修Ⅲのメイン科目は、**多文化理解 共生コミュニケーション 表現とメディア** の3ジャンルで、現状や先行研究について理論的に学ぶ **知と出会う** くくりと、主に学内外におけるワークショップや実習によって実践的に学ぶ **フィールドへ出る** くくりがそれぞれラインナップされています。3ジャンルまんべんなく履修することをお勧めしますが、自分なりの専攻・ピークを作ってもいいでしょう。科目によっては現地実習などで参加費が必要な場合やパスポートが必要な場合などがあり、授業時間外の参加が求められることも少なくありませんので、初回授業時には必ず出席して担当教員の説明や指示をよく聞いてください。また、多くの科目で毎回のようにレポートや制作物の提出が課題とされ、グループワークやホームワークが求められるでしょう。

これらの選択必修Ⅲは、**現代文化を読み解く** と合わせて18単位以上履修すれば卒業要件を満たしますが、できるだけ多くの科目を学ぶに越したことはありません。

選択必修Ⅳ **専門を深める** の「コミュニケーション専門ゼミⅠA,ⅠB」は、コミュニケーション学科全専任教員がそれぞれ研究テーマを掲げてゼミナール生を募集し、3年次に学生全員がいずれかのゼミナールに所属して、発表や討論や文献講読、フィールドワーク、調査などをしながら少人数で研究を行います。それは、4年次の「コミュニケーション専門ゼミⅡA,ⅡB」に橋渡しされ、最終的な「卒業論文・卒業制作」をまとめます。これらⅣ群はいずれも必修です。3年次からはゼミ担当の教員が「アカデミック・アドバイザー」となります。

4年間・8セメスターの履修は、次のモデル図をよく参考にして組み立ててください。また、2年次後期に募集され3年次から始まるゼミナールは、次頁のような研究内容のゼミが予定されています。早い学年のうちから履修計画を立てておくようにしてください。

4年間の履修モデル

科目群/セメスター	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
語学	磨く/訓練する		実践力をつける		語学力を維持する/発展させる				
「全体像を知る」基礎編	「言語コミュニケーション概論」 「社会コミュニケーション概論」 「文化コミュニケーション概論」 「心理コミュニケーション概論」 「コミュニケーション研究法の全体像」の履修								
プレゼミ	R&R	基礎ゼミ	コミュニケーション学探求						
「研究方法に取り組む」	「研究方法」科目群の履修（上記を含む12単位以上）								
「コミュニケーションの基礎を学ぶ」	「基礎を学ぶ」科目群の履修（なるべくまんべんなく）								
コミュニケーション科目専門	「多文化理解」「共生コミュニケーション」「表現とメディア」科目群の履修（まんべんなく又は分野をしぼって履修）								
その他の履修					留学、インターンシップ、ボランティア実習				
ゼミ・卒論・卒制					ゼミ選び	研究テーマづくり	研究テーマ決定	調査、フィールドワーク	執筆・制作

*履修にあたっては、web上のシラバスおよび学生要覧を必ず熟読して登録・授業に参加してください。またシラバス上で使用されているテクニカルタームについては、各自で調べておいて履修に臨むほか、R&Rテキストの「用語集」なども熟読してください。

ゼミナール担当（指導可能）分野

教員名	潮村公弘	齋藤孝滋	渡辺浪二	諸橋泰樹	高田明典	井上恵美子	高橋京子	大倉一郎	相澤 一	夏目 純
専攻	異文化心理	社会言語学	心理学	マスコミ社会学	メディア文化論	教育学	身体論	多文化共生	異文化コミュ	企画編集
指導分野	心理・社会心理	◎	◎	○	○					
	異文化・多文化	○	◎					◎	◎	
	言語		◎						○	
	身体		○				◎			
	家族・教育			◎			◎	○		
ジェンダー				◎		◎				
思想・社会					◎	○	○	◎	◎	○
メディア	○		○	◎	◎					◎
コンピューター・情報			○		◎					
最低限履修しておくべき研究方法科目(2科目のうちどちらかは履修しておくこと)	データを数量から読み解く	話しことばを分析する	実験の研究計画をたてる	アンケート・社会調査の方法	文献・情報の集め方	インタビュー・面接のスキル	フィールドワークとエスノグラフィー	多文化・多言語社会を考える	アンケート・社会調査の方法	文献・情報の集め方
履修しておくことが望ましい科目	文化の心理学	ことばのフィールドワーク	対人コミュニケーションの心理学	ジェンダー問題と男女共同参画社会	テキスト分析と物語構造分析を学ぶ	子ども発達の教育問題	身体表現の技法	多文化社会の人間学	異文化のコミュニケーション	編集デザインスキル
	コンピュータによる調査データの解析A,B	言語コミュニケーション概論	コンピュータによる調査データの解析A,B	メディアリテラシーを身につける	アンケート・社会調査の方法	これからの家族問題A,B	身体としぐさの心理学	フィールドワークとエスノグラフィー	多文化・多言語社会を考える	マルチメディア制作1(CG・DTP編集)A,B
	アンケート・社会調査の方法	日本語文法論とコミュニケーション	組織の中の人間関係	マスコミュニケーションと情報社会	文化コミュニケーション概論	ジェンダー問題と男女共同参画社会	スポーツ文化	共生のフィールドワーク	アジアとの出会いと異文化体験	新聞・出版ワークショップ

*表の見方…教員ごとに、指導可能分野に丸印がついています(◎は「かなり専門的に指導可」、○は「指導可」)。表をヨコに見ると分野ごとのゼミが浮かび上がります。たとえば、「言語」関係のゼミ志望でしたら、第1希望齋藤先生、第2希望相澤先生、第3希望潮村先生などのように希望することができます。もちろん、第1希望高橋ゼミ、第2希望高田ゼミ、第3希望大倉ゼミなどのように、一貫しない志望でもかまいませんが、その分事前の最低限履修しておくべき研究方法科目や履修しておくことが望ましい科目が増えることになります。

**……………夏目先生は非常勤講師ですので、出講日は週1回となります。

その他

Ⅲ群には、**文学・文化理論を学ぶ**として、文学部の全学生を対象にした共通科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を、コミュニケーション研究に大いに活かしてください。

科目名には、これまでみなさんが聞いたことのない、横文字や最新用語が使われているものがあります。履修前・登録前に、必ずシラバスをよく読んで授業に臨んでください。

なお本学科には、設備の関係や学習効果を上げるため、受講者数を少人数に絞っている科目が少なからずあります。履修申し込みを学生本人が「履修者数制限科目希望受付期間」に行うか、授業の第1回目に出席して当該教員による選抜を受けなければなりません。卒業要件や入ゼミ条件にかかわる科目であるにもかかわらず、申し込みを怠ったり1回目の授業を休んだりすると、履修できずに本人の不利益になりますので、充分注意してください。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.26～32)及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目（基礎教養・総合課題、語学）の履修

pp.63～64、67～89を読み、開講科目表（pp.204～208、209～226）の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラム表（p.119）、開講科目表（pp.235～238）の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1) 「R&R（入門ゼミ）」：1年次前期に履修

- ① 選考：クラスは学科が決定します。履修登録は学科で行います。
- ② 再履修：「R&R（入門ゼミ）」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「コミュニケーション基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R（入門ゼミ）」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員（p.9）の指示を受けてください。

(2) 「コミュニケーション基礎ゼミ」：1年次後期に履修

- ① 選考：クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。前期末に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。
- ② 再履修：「コミュニケーション基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員（p.9）の指示を受けてください。

【注意】 2005年度以降入学者は、「R&R（入門ゼミ）」または「コミュニケーション基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであることを3年次「コミュニケーション専門ゼミ」の履修条件とします。

(3) 「コミュニケーション学探求」：2年次前期に履修

- ① 選考：クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。
- ② 2年前期のオリエンテーション時に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。

(4) 選択必修Ⅱについて

- ① 1年次または2年次に、選択必修Ⅱ「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」と「コミュニケーション研究方法の全体像」および「実験の研究計画をたてる」「アンケート・社会調査の方法」「インタビュー・面接のスキル」「話しことばを分析する」「文献・情報の集め方」「データを数量から読み解く」「フィールドワークとエスノグラフィー」の中から12単位以上を修得すること。
- ② 上記のうち「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」「コミュニケーション研究方法の全体像」は必修指定にはなっていませんが、重要な基礎科目です。各「概論」は1つ以上、「研究方法」は是非履修するようにしてください。

(5) 「コミュニケーション専門ゼミⅠA,ⅠB」：3年次に履修

- ① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜が行われますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。
- ② 再履修：「コミュニケーション専門ゼミⅠA,ⅠB」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「コミュニケーション専門ゼミⅡA,ⅡB」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員（p.9）の指示を受けてください。

(6) 「コミュニケーション専門ゼミⅡA,ⅡB」：4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「コミュニケーション専門ゼミⅠA,ⅠB」と同一担当者とし、その担当者のもとに卒業論文・卒業制作の指導を受けることとします。
- ② 再履修：「コミュニケーション専門ゼミⅡA」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「コミュニケーション専門ゼミⅡB」を重複して履修し、「コミュニケーション専門ゼミⅡA」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員（p.9）の指示を受けてください。

(7) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「コミュニケーション専門ゼミⅠA,ⅠB」と「コミュニケーション専門ゼミⅡA,ⅡB」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員（p.9）の指示を受けてください。

(8) 「卒業論文・卒業制作」

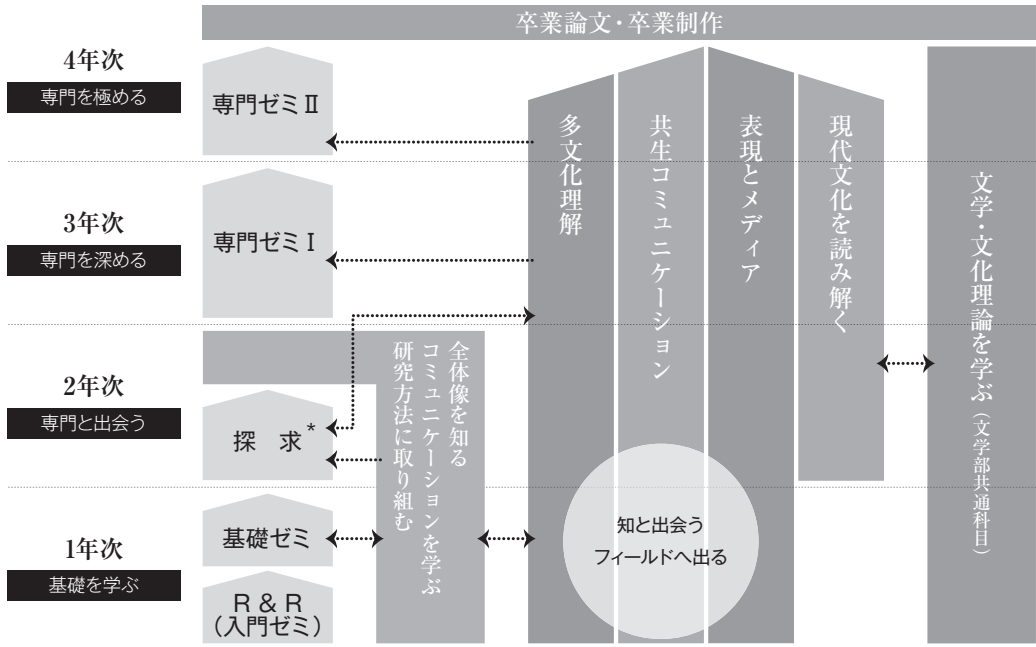
卒業論文・卒業制作は、卒業する年度に提出することとします。「卒業論文・卒業制作」の単位認定は、卒業する年度に限ります。「卒業論文・卒業制作」の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が設定されています。要件などの詳細に関しては4年次前期に開催される「卒業論文・卒業制作オリエンテーション」において説明されるので、掲示等に留意してください。

社会調査士資格認定について

「社会調査士」とは、日本教育社会学会・日本行動計量学会・日本社会学会の三学会が連携協力して設立した「社会調査士認定機構」が認定する資格であり、所定の科目群の履修を通して社会調査に関する基礎的な知識と技能および応用力と倫理観を身につけた者に対して認定されます。コミュニケーション学科では、この「社会調査士」の資格取得のために必要となる科目の認定を受けています。ただし、資格認定のためには、所属するゼミナールや、履修する科目に関して、条件があります。社会調査士資格の取得を希望する人は、学科から配布される資料や、文学部共同研究室の掲示に注意するようにしてください。社会調査士資格の詳細に関しては、一般社団法人社会調査協会のホームページで見ることができます。（<http://jasr.or.jp>）

コミュニケーション学科カリキュラムマップ

多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域において、調査・総計、論理的理解、実践的表現の技法を習得し、それらの方法を用いて客観的な視点から社会に貢献できる能力をもつ者に「学士(文学)」の学位を授与する。



*2年次の「探求」とは、学科選抜科目の「コミュニケーション学探求」を指します。

コミュニケーション学科専門科目カリキュラム表

2004年度以降入学者

() 内は単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次		
選択必修Ⅰ	基礎を学ぶ				2単位	
	R&R(入門ゼミ) (1)	コミュニケーション基礎ゼミ (1)				
選択必修Ⅱ	全体像を知る				12単位以上	
	言語コミュニケーション概論 (2)					
	社会コミュニケーション概論 (2)					
	文化コミュニケーション概論 (2)					
心理コミュニケーション概論 (2)						
コミュニケーション概論A,B (2,2)						
コミュニケーション研究方法の全体像 (2)						
研究方法に取り組む						
実験の研究計画をたてる (2)	文献・情報の集め方 (2)					
アンケート・社会調査の方法 (2)	データを数量から読み解く (2)					
インタビュー・面接のスキル (2)	フィールドワークとエスノグラフィー (2)					
話しことばを分析する (2)						
選択必修Ⅲ	専門と出会う				18単位以上	
	コミュニケーションの基礎を学ぶ					
	対人コミュニケーションの心理学 (2)	マスコミュニケーションと情報社会 (2)	歴史言語コミュニケーション概説 (2)			
	ことばと記号のコミュニケーション (2)	組織の中の人間関係 (2)	日本語文法論とコミュニケーション (2)			
	社会的行為としてのコミュニケーション (2)	身体としぐさの心理学 (2)				
		コミュニケーション学探求				
		コミュニケーション学探求1~8, 10 (2)				
		コミュニケーション学探求9 (4)				
	多文化理解					
	知と出会う	多文化・多言語社会を考える (2)	これからの多文化教育 (2)	クレオール文化の考え方・読み方 (2)		
		異文化のコミュニケーション (2)	文化の心理学 (2)	ことばと個人・社会の因果関係を探る (2)		
		先住民の言語・文化と共生 (2)				
			ディアスポラ(離散)の思想 (2)			
	フィールドへ出る	アジアとの出会いと異文化体験(2)	多文化体験としての都市フィールドワーク(2)	異文化トレーニング (2)		
		多文化社会の人間学 (2)	ことばのフィールドワーク(2)			
	共生コミュニケーション					
	知と出会う	エスニックマイノリティーの問題を考えるA,B (2,2)	PTSDと被害者のグリーフワーク (2)			
		子どもの発達とこれからの教育問題 (2)	ジェンダー問題と男女共同参画社会 (2)			
	これからの家族問題A,B (2,2)	障害者の心理学と共生社会 (2)				
	健康・医療におけるコミュニケーションの問題 (2)	エイジングの心理学と高齢社会 (2)				
	HIV・難病問題と向き合う (2)					
フィールドへ出る	アジアとのネットワーキング (2)	聴覚障害の理解と手話の技法 (2)				
	ファシリテーターの理論と実践 (2)	視覚障害の理解と点字の技法A,B (2,2)				
	共生のフィールドワーク (4)					
表現とメディア						
知と出会う	メディアリテラシーを身につける (2)	ネットワークによるコミュニケーションの構築 (2)				
	放送文化と制度を考える (2)	コンピュータによる調査データの解析A,B (2,2)				
	新聞・出版ワークショップ (2)	文献・情報にアクセスする (2)				
	マルチメディアの現在と未来 (2)	テキスト分析と物語構造分析を学ぶ (2)				
フィールドへ出る	映像取材A,B (2,2)	取材と記事のレッスン (2)				
	マルチメディア制作I (CG・DTP編集) A,B (2,2)	ディベートと自己主張 (2)				
	マルチメディア制作II(情報デザイン) A,B (2,2)	ビジネス・コミュニケーションスキル (2)				
	プレゼンテーションの方法A,B (2,2)	身体表現の技法 (4)				
		編集デザインスキル (2)				
現代文化を読み解く						
	ファッション文化 (2)	現代人と宗教 (2)	広告とマーケティング (2)			
	スポーツ文化 (2)	映画・映像文化 (2)				
文学・文化理論を学ぶ						
	カルチュラルスタディーズA,B (2,2)	声の文化と文字の文化A,B (2,2)	児童文学論A,B (2,2)			
	古典と表象文化A,B (2,2)	テキスト生成と批評A,B (2,2)	キリスト教と文学 (2)			
	ポピュラーカルチャーA,B (2,2)	ジェンダー・フェミニズム批評A,B (2,2)				
選択必修Ⅳ	専門を深める		コミュニケーション専門ゼミ I A, I B (1,1)	コミュニケーション専門ゼミ II A, II B (1,1)	4単位	
	専門を極める		卒業論文・卒業制作 (6)		6単位	

國際交流学部

國際交流学科

国際交流学部（国際交流学科）

卒業に必要な単位数

（編入学者はp.124を参照）

2009年度以降入学者

	科目区分	単位数	備 考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語 学	コースによる： ① 10 ② 16 ③ 22	①スタンダード・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	*2
専門	必 修	①10 ②8	①卒業論文コースを選択した場合 「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位 ②6単位コースを選択した場合 「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」2単位	*3
	選択必修	A群から4単位以上 } かつ合計 B群から4単位以上 } で32単位 C群から4単位以上 } 以上		*4
	①卒業論文 または ②指導教員の指定する 国際交流学科専門科目	①6 ②6		*5
	そ の 他	コースによる： ①卒業論文コース ① 62 ② 56 ③ 50 ④6単位コース ① 64 ② 58 ③ 52		*6
	合 計	124		

*1	<p>「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。なお、次の科目は、それぞれ8単位まで卒業に必要な単位として認められます。（必修単位を含む。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キリスト教」科目 ・「ボランティア活動1,2,3」 ・「健康・スポーツ」科目 ・「私のキャリアを考える」科目と「ビジネス・スキルを高める」科目 ・「キャリア実習（短期・長期インターンシップ）」
*2	<p>卒業に必要な語学科目の単位数は、スタンダード・コース選択者は10単位、2か国語履修コース選択者は16単位、また、インテンシブ・コース選択者は22単位です。語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。</p> <p>なお、語学の履修方法は、pp.82～85をご覧ください。</p>

*3	<p>2006年度以降入学者</p> <p>① 卒業論文を選択した場合、「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位の計10単位が必修です。</p> <p>② 卒業論文に代わる国際交流学科専門科目6単位を選択した場合、「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、「基礎演習」3単位、「専門演習」2単位の計8単位が必修です。 「研究入門」の修得単位は、4単位まで卒業に必要な単位として認められます。(必修単位を含む) なお、履修方法は、p.126「専門科目の履修」を見てください。</p>				
*4	<p>2009年度以降入学者</p> <p>A群、B群、C群から各4単位以上、かつ合計で32単位以上となるように修得してください。</p>				
*5	<p>卒業論文に代えて、指導教員の指定する国際交流学科専門科目(6単位)を修得することができます。(「導入演習」、「研究入門」、「基礎演習」、「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目を除く。)</p>				
*6	<p>次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限：*1、*2のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限：8単位まで) 				
	<p>2012年度以降入学者</p> <p>1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p> <p>2011年度以前入学者</p> <p>1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p>				
	<p>外国人留学生は、左記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細はp.196を参照してください。</p> <p>①「日本事情A、B」から4単位 ②「留学生日本語」</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>2010年度以降入学者</td> <td>10単位</td> </tr> <tr> <td>2009年度以前入学者</td> <td>12単位</td> </tr> </table>	2010年度以降入学者	10単位	2009年度以前入学者	12単位
2010年度以降入学者	10単位				
2009年度以前入学者	12単位				

編入学者の卒業に必要な単位数

2010年度以降入学者

2年次編入学者		単位数	備考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語学	6		*2
専門	基礎演習	2		
	選択必修	A群から4単位以上 B群から4単位以上 C群から4単位以上	かつ合 計で28 単位以上	
	専門演習	コースによる： ①4 ②2	③卒業論文コースを選択した場合 ④6単位コースを選択した場合	
	⑤卒業論文 または ⑥指導教員の 指定する国際交 流学科専門科目	①6 ②6		*3
その他	コースによる： ③44 ④46	⑤卒業論文コースを選択した場合 ⑥6単位コースを選択した場合 次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）		
合計	94			

2年次編入学者が各学期に履修登録できる単位数の上限

この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。

2010～2012年度入学者	2年次の各学期：31単位を限度とします。
2013年度以降入学者	2年次～4年次の各学期：学期ごとに24単位を限度とします。

3年次編入学者		単位数	備考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語学	-		*2
専門	選択必修	-		
	専門演習	2		
	⑤卒業論文 または ⑥指導教員の 指定する国際交 流学科専門科目	①6 ②6		*3
	その他	50	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合計	62			

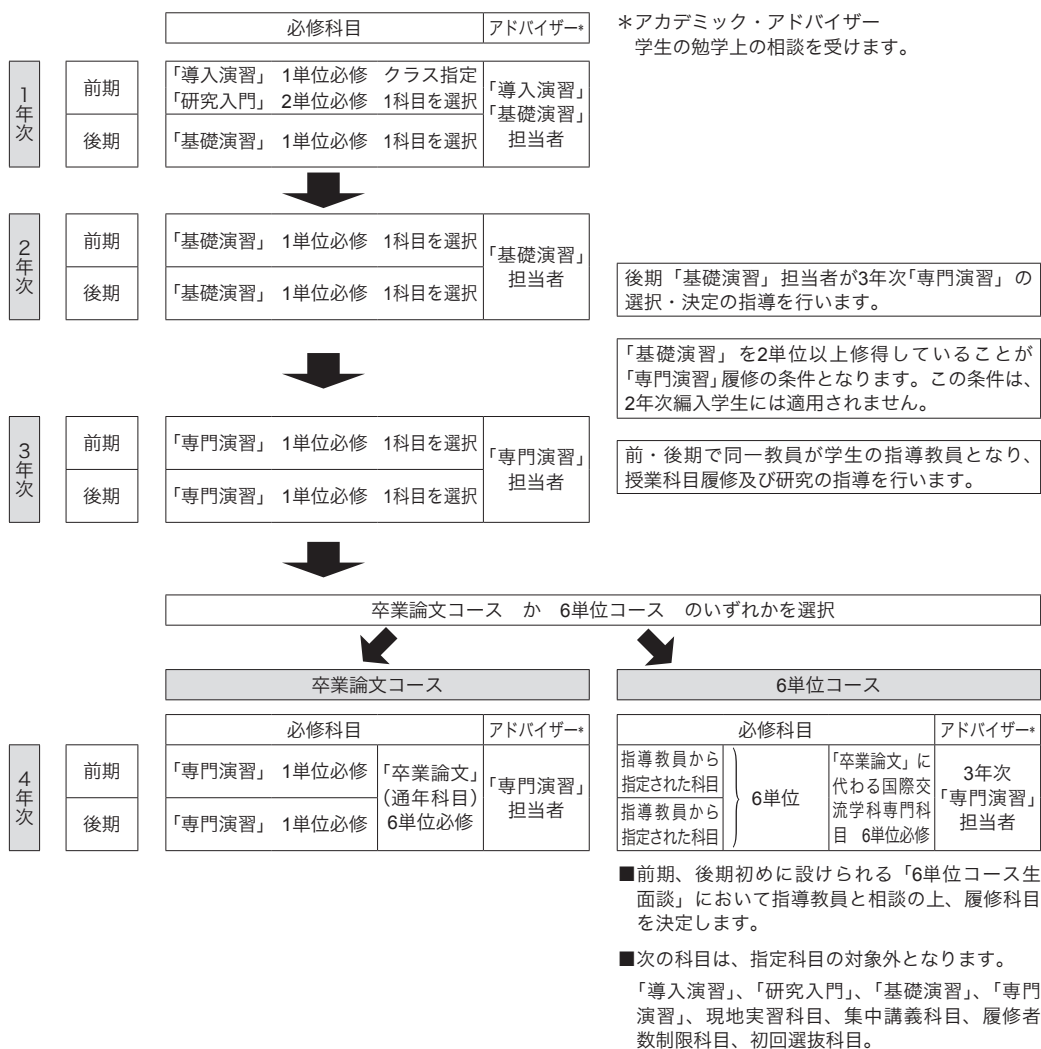
*1	<ul style="list-style-type: none"> ・「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。 ・次の科目は、それぞれ8単位まで卒業に必要な単位として認められます。 「キリスト教」科目 「ボランティア活動1, 2, 3」 「健康・スポーツ」科目 「私のキャリアを考える」科目と「ビジネス・スキルを高める」科目 「キャリア実習（短期・長期インターンシップ）」
*2	<ul style="list-style-type: none"> ・語学科目の履修については、オリエンテーションで配布される資料を参照してください。
*3	<ul style="list-style-type: none"> ・「導入演習」、「研究入門」、「基礎演習」、「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目を除く。
*4	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究入門」は4単位まで卒業に必要な単位として認められます。
*5	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次編入学者は、「基礎演習」を履修することはできません。

専門科目の履修

国際交流学科の専門科目は、A群：地球社会、B群：国際社会・文化、C群：国際社会基礎理論の3群によって構成されています。この3群は、コースではありません。したがって、どの群の授業科目も、自由に選択することができます。履修にあたっては、開講科目表（pp.239～245）の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載を確認してください。

なお、必修科目の「導入演習」（2006年度以降入学者）「研究入門」「基礎演習」「専門演習」については、次のとおり履修方法が定められています。

2006年度以降入学者



導入演習 (2006年度以降入学者)

1. 手続き

指定クラスの確認

学部教務委員会が指定クラスを決定、4月のオリエンテーション時に指定クラスの一覧表を指示します。原則として変更は認められません。

2. 再履修

定められた期日に各クラス3名を上限に受付を行います。語学科目のクラス指定及び基礎演習と時間割が重複しないように選択してください。

研究入門

1. 手続き

自由に選択し、各自で履修登録してください。2006年度以降入学者は2単位必修です。

2. 再履修

各自が選択し、履修登録してください。

基礎演習 (上限：各クラス25名)

1. 手続き

(1) 志望票提出

下記の期間内に「基礎演習」志望票を提出してください。

	期間	対象
2013年度後期「基礎演習」	2013年6月下旬	1・2年次生
2014年度前期「基礎演習」	2014年1月(10日前後)	2年次生

(2) 履修者選考

志望票に基づき、学部教務委員会が選考・調整を行います。

【選考方法】

- ① 原則として抽選とします。
- ② 応募者が上限に満たないクラスは、原則として選考を行いません。
- ③ 後期の「基礎演習」に上限の25名を上回る応募があった場合は、2年次優先とします。

(3) 選考結果発表

選考結果は、前期の「基礎演習」については春季休業前に、後期の「基礎演習」については夏季休業前に発表します。

2. 再履修

「基礎演習」の再履修に当たっては、1学期に限り、「基礎演習」を2つ並行して履修することが認められます。(ただし、4年次に限り前期・後期とも認めます。) この場合の手続は、定められた期日に、欠員のあるクラスについて受付を行います。

3. 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に「基礎演習」を履修することができない場合、「基礎演習」を2つ並行して履修することが認められます。この場合の手続は、上記2. に準じて行いますが、詳細は8号館掲示板に指示するので見落とさないように注意してください。

なお、留学が決定した場合、留学の前学期に「基礎演習」を2つ履修することも認められます。該当者は教務主任 (p.9) に申し出て指示を受けてください。

「基礎演習」履修上の注意

- ① 「基礎演習」の受付・選抜・登録は履修登録前に学部教務委員会が行い、教務課では行いません。
- ② 「基礎演習」に関する事項は、すべて緑園校舎8号館に掲示します。
- ③ 志望票を提出しない者は、原則として当該学期の「基礎演習」の履修が認められません。上記1. の手続を行わなかった者は、上記2. に準じて志望票の提出が認められるので必ず提出してください。志望票の配布、提出期間、提出先については、別途8号館掲示板で指示します。
- ④ 「基礎演習」は、語学科目のクラス指定と時間割が重複しないように選択してください。

専門演習 (上限: 各クラス 3年次生 11名, 4年次生 11名)

1. 手続き

(1) 説明会に出席。

10月下旬(予定)に、2年次生を対象とした説明会が開催されますので、必ず出席してください。

「基礎演習」で配布される「専門演習履修の手引き」を持参してください

(2) 志望票を提出。

所定の期日までに「専門演習」志望票を提出してください(期限は「専門演習履修の手引き」参照)。

(3) 第1次選考(11月中旬)

【選考方法】

- ① 「専門演習履修の手引き」に記載された選考方法に従って、各担当者が選考を行います。
- ② 応募者が上限に満たないクラスは、原則として選考を行いません。
- ③ 選考結果は、11月下旬に発表します。

(4) 第2次選考（12月）

第1次選考で未決定となった者のみを対象とします。未決定の者は、所定の期日までに志望票を提出してください。

【選考方法】

- ① 第1次選考と同様の方法で、各担当者が選考を行います。
- ② 選考結果は、12月中に発表します。

2. 再履修

成績評価が不合格になった等の理由により、3年次履修分の「専門演習」を4年次に履修する者は、4年次の前期又は後期のいずれか1学期に限り、4年次履修分の「専門演習」と未修得の3年次履修分の「専門演習」を並行して履修することが認められます。定められた期日に、欠員のあるクラスについて受付を行います。

3. 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に「専門演習」を履修することができない場合、3年次履修分の「専門演習」と4年次履修分の「専門演習」を3年次前期に並行して履修すること等が認められます。この場合の手続は、上記2. に準じて行ってください。

3年次後期から4年次前期までの2学期にわたる留学等については、3年次前期分の「専門演習」と3年次後期分の「専門演習」を並行して履修すること等が認められます。該当者は、教務主任（p.9）に申し出て指示を受けてください。なお、卒業予定学期に留学することは認められません。

「専門演習」履修上の注意

- ① 「専門演習」の受付・選抜・登録は履修登録前に学部教務委員会が行い、教務課では行わないので注意してください。
- ② 「専門演習」に関する事項は、すべて緑園校舎8号館に掲示します。
- ③ 志望票を提出しない者は、3年次の「専門演習」の履修が認められません。上記1. の手続を行わなかった者は、上記2. に準じて志望票の提出が認められるので必ず提出してください。
- ④ 第1次選考時に志望票を提出しなかった者は、第2次選考の応募資格を失います。
- ⑤ 第1・第2次選考を通過しても、「基礎演習」を2単位以上修得していない者は、「専門演習」を履修することができません。ただし、2年次編入学生には適用されません。
- ⑥ 3年次の「専門演習」は、前期・後期とも同一担当者のもを履修しなければなりません。
- ⑦ 事情により、4年次の「専門演習」担当者を変更することができます。この場合、文書をもって3年次と変更先の担当者の了解を得ることを条件とします。
- ⑧ 3年次編入学生は入学年度前期に「専門演習」担当者を変更することができます。この場合、変更後の「専門演習」は欠員のあるクラスに限られます。該当者は4月下旬の指定の日までに教務主任（p.9）に申し出て指示を受けてください。

【専門演習一覧】

国際交流学科には、次の「専門演習」が設けられます。オリエンテーション時に配布する「専門演習指導資料」と併せて、4年間の履修計画を立てる上での参考としてください。

分野	教員名	2013年度テーマ	
1. 地球環境を学ぶ	佐藤 輝	環境問題	
	高雄 綾子	持続可能な発展のための教育	
2. 思想・文化を学ぶ	アジア	江上 幸子	中国の社会・文化・ジェンダー
		寛 雅博	日本文化（現代の日本社会の諸状況を含む）
		金 香男	韓国の家族と社会と文化
		大野 英二郎	フランスを中心とするヨーロッパと日本の交流の歴史
	ヨーロッパ	田丸 理砂	ドイツ語圏の文化とジェンダー
		寺尾 隆吉	越境するポピュラー・カルチャー
		廣石 望	多文化世界における宗教と社会（キリスト教を中心として）
		横山 安由美	フランスの文化と社会
3. 歴史・社会を学ぶ	アジア	鄭 浩瀾	歴史からみる現代中国
		大西 比呂志	横浜を中心とする地域学
		並木 真人	東アジアの社会と歴史～映像と文献で学ぶ
		福島 仁	中国社会近代化の理論
	ヨーロッパ	上原 良子	ヨーロッパの国際関係とフランス
		中塚 次郎	スペインの政治・社会・文化
		矢野 久美子	ヨーロッパの現代社会（ドイツを中心として）
	アメリカ	ヒガ, マルセーロ	現代社会と移民：ラテンアメリカにおける人間の交錯
4. 法を学ぶ	荒井 真	日本および世界における様々な法律問題を考察し、論じる。	
	常岡(乗本)せつ子	基本的人権や平和などの憲法問題（諸外国との比較や外国の研究者による日本研究を含む）	
5. 国際関係を学ぶ	馬橋 憲男	グローバル問題と地球市民の取り組み	
	古内 洋平	現代国際社会の秩序	
6. 経済を学ぶ	木曾 順子	開発途上国の貧困と発展	
	八幡 清文	① 世界各国・地域の経済の動向	
		② グローバリゼーションと日本の経済・社会	
齊藤 直	戦後の日本経済と企業		
7. 現代社会を学ぶ	高柳 彰夫 (2013年度休講)	国際協力と市民社会	
	春木 良且	技術と社会（ソーシャルメディアのトレンドをキャッチアップする。）	
	ベンヤミン・ミルトン	現代社会の社会学	
	横山 正樹	アジア太平洋地域における開発・環境問題の平和学	
	和田 浩一	スポーツと国際社会	

「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位について

3年次後期の所定の期日（12月初旬）までに、3年次指導教員（「専門演習」担当者）と相談の上、4年次の1.「卒業論文」又は2.「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位のどちらを選択するか決定し、手続きを行ってください。なお、手続きの詳細については8号館掲示板で確認してください。

1. 「卒業論文」（卒業論文コース）

- (1) 4年次の「専門演習」は選択ですが、「卒業論文」を提出しようとする者は、4年次に「専門演習」を履修しなければなりません。
- (2) 卒業論文の提出方法については、p.43「卒業論文」を見てください。
- (3) 「卒業論文」（通年科目）は4年次、自動的に登録されます。

2. 「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位（6単位コース）

- (1) 「卒業論文」を選択しない者は、3年次指導教員（※1）が指定する国際交流学科専門科目6単位（※2）を、4年次の前期・後期にわたって履修しなければなりません。
※1…「専門演習」担当者。
※2…指定対象除外科目は、「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目、履修者数制限科目、初回授業選抜科目。
- (2) 指定された6単位分の科目は、当該学生にとって必修科目としての意味をもち、これらすべてを修得しなければ卒業することはできません。
- (3) 指定科目は、4月アドバイザー面談で指導教員から指定を受けた後、所定用紙を国際交流学部共同研究室に提出することで決定となります。
- (4) 指定された6単位分の科目は、各自がWebで履修登録を行う必要があります。
- (5) 4年次前期に指定科目の単位修得ができなかった場合は、9月アドバイザー面談で、指導教員から再指定を受けた後、所定用紙を国際交流学部共同研究室に提出する必要があります。該当者は必ず再指定を受けてください。
- (6) 3年次12月に行われたコース選択手続以降のコース変更については、次のとおりとします。
 - ① 4年次前期に6単位コースに変更を希望する場合
4月オリエンテーション期間内にコース変更手続及び6単位分の指定科目を決定します。また、前期履修登録訂正期間までに、「卒業論文」の履修登録削除の手続をとる必要があります。
 - ② 4年次後期から6単位コースに変更を希望する場合
9月オリエンテーション期間内にコース変更手続及び6単位分の指定科目を決定します。また、後期履修登録訂正期間までに、「卒業論文」の履修登録削除の手続をとる必要があります。
- (7) 3、4年次に留学等を行う場合、例外が認められることがあるので、該当者は事前に教務主任（p.9）に申し出て、指示を受けてください。

履修上の注意

卒業延期が確定した学生のうち、次に該当する者は、卒業予定学期開始時に教務主任（p.9）に申し出て指示を受けてください。追加登録または再指定が認められる場合があります。

- ① 卒業論文コースにおいて「基礎演習」・「専門演習」の志望票未提出等の理由により履修登録が完了していない。
- ② 6単位コースにおいて成績評価が不合格となった等の理由により指定科目が未修得。

「現地実習」科目について

(1) 本学が募集するプログラムに参加する「アジア現地実習 (2)」「ヨーロッパ現地実習」、「オーストラリア現地実習」、(2) 本学以外の募集によるプログラムを修了して一定の基準に基づき単位が認定される「地球社会現地実習」の2つの方法の現地実習科目があります。履修の流れ、手続等は下記の表を参照してください。

(1) 本学が募集し、教員引率型の現地実習

対象科目(単位数)	「アジア現地実習 (2)」(2単位)	
実習先	フィリピン	
参加人数	5～10名程度	
参加資格	資格として要求しませんが、英語の理解・表現能力は重要となります。	
スケジュール	2013年4月中旬	説明会に参加。
	2013年4月中旬	「実習参加申し込み」を海外交流課に提出。 申し込み方法については、説明会及び掲示で指示します。 以後、数回にわたり実習先ごとの説明会を行います。
	2013年9月中	実習（フィリピン）
履修登録	後期履修登録期間中に各自で登録してください。	

対象科目(単位数)	「オーストラリア現地実習」(2単位)	
実習先	ボンド大学（オーストラリア・ゴールドコースト市）	
参加人数	10～20名	
参加資格	資格として要求しませんが、次のとおり選考基準を設けます。 ①オーストラリアへの関心 ②国際交流学部生優先 ③学年（上級生優先）④語学力 ⑤GPA	
スケジュール	2013年4月中旬	説明会に参加
	2013年4月下旬	「実習参加申し込み」を海外交流課に提出。 申し込み方法については、説明会及び掲示で指示します。
	2013年8月～9月	現地実習（オーストラリア）
履修登録	履修登録は大学側で行います。後期履修登録期間中に登録状況を確認してください。	

* 「ヨーロッパ現地実習」は、2013年度休講。

(2) 学外機関主催プログラム参加型の現地実習

対象科目(単位数)	「地球社会現地実習」(2単位)	
目的地	国外	
対象となる派遣・受入機関	特に指定しませんが、次のようなものが含まれます。日本政府機関、現地政府機関、国際機関、NGO、教育・研究・研修機関など。ただし、有給(勤務・嘱託・アルバイト)は対象外とします。	
内容	国際交流の範囲に含まれる分野。形は、ボランティア活動、スタディー・ツアー、現地調査・視察、フィールド・ワーク、セミナー・ワークショップ、語学研修(「海外語学実習」は除く)などを含みます。	
手順	①実習1か月前	「地球社会現地実習計画書」(所定用紙:教務課にあります)、派遣・受入機関が発行する「参加証明書」(又は「受入承諾書」を指導教員に提出してください。以後、実習前の準備作業は指導教員と派遣・受入機関の指導によって行います。
	②実習に参加	
	③実習後1か月以内	「事後報告書」を指導教員に提出してください。 【提出期限】 4年次生 : 2014年1月17日(金) 2・3年次生 : 2014年2月28日(金)
履修登録	後期履修登録期間中に各自登録してください。	
注意事項	実習から「事後報告書」提出までの手続は、学期内で完結させてください。実習期間は2週間を基準とします。	

カリキュラム

カリキュラムの説明

21世紀に入って、世界は、国際化が進み、地球的規模の問題群（グローバル・プロブレマティーク）が頻出し、「文明の衝突」が唱えられ、主権国家や国際社会は大きく変容を遂げてきています。このような問題に光を当てるために国際交流学科のカリキュラムは、3本の柱から構成されています。

A群＝地球社会

まず地球社会が直面している現実の諸問題を学ぶ科目、つまり「環境と人間」「人の移動・交流」「紛争と平和」に関する講義が用意されています。2012年度からはさらにA群科目が充実し、履修しやすくなりました。労働、格差、スポーツ、食文化などの最先端のテーマを取り上げています。環境系については実習科目もあります。

B群＝国際社会・文化

地球社会の諸問題を理解するのに不可欠な各地域の歴史・思想・文化を学習します。そのために「世界の文化」「日本の社会と文化」「アジアの社会と文化」「ヨーロッパ世界の社会と文化」「アメリカ・カナダ・オセアニアの社会と文化」「中東・アフリカ世界の社会と文化」に関する科目が配置されています。また、日本の歴史と文化の正しい理解の上に、世界の各地域・民衆との関係・交流を考えることを目標に置いています。

C群＝国際社会基礎理論

国際社会の諸問題を解明するための、さまざまな国際関係学が用意されています。この中では主として社会科学系の基礎理論の科目が、「法と政治」「経済と社会」「情報処理学」という形で展開されています。

上記のような多彩なカリキュラムとともに、「導入演習」（1年次前期、2006年度以降入学者1単位必修）、「研究入門」（1年次前期、2006年度以降入学者は2単位必修）、「基礎演習」（1年次後期、2年次前期・後期、3単位必修）、「専門演習」（3・4年次、3年次2単位必修、4年次卒業論文コースのみ2単位必修）の順に専門性を高め、学生が勉強しやすいように入門・演習科目が併置されています。

また、4年間の個々の学習の成果をまとめる「卒業論文」は、指導教員のもとで作成しますが、必修ではありません。「卒業論文」を選択しない学生は、それに代わる単位を修得すれば卒業することができます。

国際交流や研究にとって非常に大切な語学には、英語のほか初習外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語）の5言語にインテンシブ・コースが設けられ、少数での徹底した語学教育が行われます。また、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアにおける「現地実習」、「地球社会現地実習」という科目も用意されています。

履修の指針

何をにおいても重要なことは、簡単に言えば4年間で自分が研究したいテーマとは何か、何を学びたいか、を明確にすることです。そして自分が学びたいことをうまく4年間に配分し、有機的にかつ総合的に学習することが大切です。

その際に、注意すべきことをいくつか挙げておくことにしましょう。まず初めに挙げねばならないのは、語学の選択（インテンシブ・コースかスタンダード・コースかを含む。）です。それは、専門科目の履修と密接な関係があるからです。1年次前期・後期の語学の履修は、慎重を期す必要があります。（『語学科目ハンドブック』を熟読してください。）

次に1年次前期にしか開設されない、専門の入門的授業である「導入演習」「研究入門」についても同様です。1・2年次は専ら語学の履修が優先しますが、余裕のある学生には積極的に共通科目・教職科目（卒業要件算入科目）を含め関連科目の幅広い履修を勧めます。しかし、各学期に履修登録できる単位数の制限に留意しなければなりません。

また、専門科目については、最初からたくさん履修するのではなく、自分の研究計画を十分に踏まえて関連専門科目を選ぶ必要があります。専門科目は、配当年次に従ってA・B・C群から合計32単位以上（2008年度以前入学者は合計20単位以上）を修得しなければなりません。なお、2012年度からは、1、2年次から履修できる専門科目を増やしました。これによって早い時期に専門の世界に親しむことができるようになります。1年次後期から始まる「基礎演習」は、2年次後期まで各学期1単位を履修しますが、同一教員のものである必要はありません。しかし、2年次後期の「基礎演習」は、多くの点で「専門演習」への橋渡しとして重要な位置を占めるものです。

3年次からの7分野にわたる「専門演習」は、各教員がどのようなテーマで研究を行うかを「専門演習指導資料」を熟読し、自分の研究にはどの「専門演習」が適切であるかをあらかじめ検討しておくことが望まれます。さらに3年次の演習は、4年次の履修、つまり卒業論文を選択するかしないかという観点からも非常に重要です。

その他

新入生が、語学や専門の研究テーマを決めることは難しいかもしれません。そのような場合には、アカデミック・アドバイザー（1年次前期は「導入演習」（指定クラス）、1年次後期および2年次は「基礎演習」担当者）にアドバイスを求めてください。

また、オリエンテーション時に配布されるモデル・カリキュラムを参考にして、体系的な履修になるよう心がけましょう。

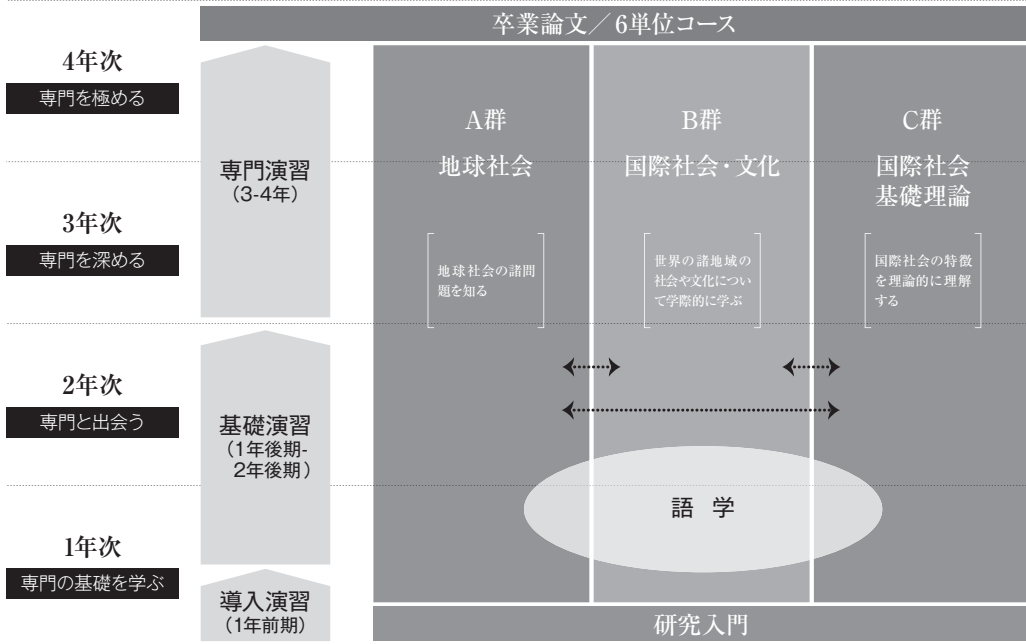
4年間の国際交流学部での学生生活を始めるにあたって、自主的な学習に努め、幅広い知識を蓄積し、地球上で日々生起するさまざまな問題を地球市民の一員として考え、世界と未来に向けて平和のメッセージを発信したいものです。それが国際交流の原点であるからです。

資格関連の授業科目を履修する場合、1年次より計画的に履修する必要があります。演習や専門科目と曜日・時限が重なり、履修できないことがあります。

なお、学生生活や学びに必要な情報はFerrisPassportで確認することができます。また、登校時と下校時には必ず掲示板を見て、自分にとって必要な情報を得てください。

国際交流学科カリキュラムマップ

グローバル化の時代にふさわしい表現と語学力を身につけ、地球的課題に立ち向かい、社会に貢献できる。



国際交流学科専門科目カリキュラム表

() 内は単位数

		1年次		2年次		3年次		4年次						
		前期	後期	前期	後期									
2006年度以降入学者		導入演習 (1) 研究入門 (2)	基礎演習 (1,1,1)							6単位				
A群 (地球社会)	環境と人間	人文地理学 (2)	自然地理学 (2)	環境と社会 (2)	環境と社会運動 (2)					2008年度以前入学生…4単位以上 2009年度以降入学生…4単位以上	2008年度以前入学生…2009年度以降入学生…4単位以上			
		地誌 (2)	地球環境 (2)	資源問題 (2)	南北問題 (2)									
		格差社会とアイデンティティ (2)	若者の労働環境 (2)	グリーン経済への転換A,B (2,2)	地域と食文化 (2)									
			環境保全行動論 (2)	家族・福祉 (2)	人口問題 (2)									
			地球環境実習 (1)											
		海外環境フィールド実習 (2)		家族計画・保健 (2)										
		人の移動	在日外国人 (2)	観光文化論 (2)	スポーツと国際社会 (2)	比較スポーツ論 (2)								
				国際移民・労働移動 (2)	文化交流論A,B (2,2)	地球社会現地実習 (2)								
		紛争と平和	民族問題 (2)	平和思想と運動 (2)	余暇と旅行 (2)	外国人関係諸法A,B (2,2)								
				文化摩擦 (2)	軍縮問題 (2)									
B群 (国際社会・文化)	世界の文化	地域社会研究A,B (2,2)	世界史概説A,B (2,2)	現代社会論A,B (2,2)	現代文化論A,B (2,2)					2008年度以前入学生…2009年度以降入学生…4単位以上	2008年度以前入学生…A群・B群・C群から合計32単位以上			
		世界宗教論 (2)												
	日本の社会と文化	日本史概説A,B (2,2)	日本文化論 (4)	日本の文化交流 (2)	日本経済論 (2)									
		横浜学 (4)												
	アジアの社会と文化			アジアと日本 (日朝・日中) (4)	アジアの政治と社会5 (南アジア研究1) (4)									
				アジアの政治と社会2 (朝鮮研究) (4)	アジアの思想・宗教2 (儒教) (2)									
			アジア近・現代史A,B (2,2)	アジアの政治と社会3 (東南アジア研究1) (4)	アジアの思想・宗教1 (仏教)A,B (2,2)	アジアの文化1(文学) (2)	アジアの文化2(芸術)A,B(2,2)							
			アジアの政治と社会1 (中国研究) (4)	アジアの政治と社会4 (東南アジア研究2)A,B (2,2)	アジアの思想・宗教3 (イスラム) (2)	アジアの文化3(アジア現地実習) (2)								
	ヨーロッパ世界の社会と文化	ヨーロッパ世界の近・現代史(4)	ヨーロッパ女性論 (2)	イギリス史A,B (2,2)	イギリスの思想・宗教A,B(2,2)									
		イギリス文化論総説A,B(2,2)	ヨーロッパ世界の政治と社会3 (ロシア・東欧研究)A,B(2,2)	ヨーロッパ世界の思想・宗教1 (キリスト教) (4)	ヨーロッパ世界の文化2 (芸術)A,B (2,2)									
ヨーロッパ世界の政治と社会1 (西欧研究) (4)		ヨーロッパ世界の政治と社会4 (北欧研究)A,B (2,2)	ヨーロッパ世界の思想・宗教2 (近・現代思潮) (2)	ヨーロッパ世界の文化3 (文学と言語)A,B (2,2)	ヨーロッパ世界の文化1 (文学) (4)	ヨーロッパ世界の文化2 (文学と言語)A,B (2,2)								
アメリカ世界の社会と文化		ヨーロッパ統合 (4)	ヨーロッパ世界の政治と社会2 (南欧研究) (4)											
		イギリスの政治と社会A,B (2,2)												
	オーストラリア地域文化研究A,B (2,2)	アメリカ史 (4)	現代アメリカ論 (4)	ラテンアメリカ地域文化研究 (4)										
		アメリカの政治と社会A,B (2,2)	アメリカの思想・宗教A,B (2,2)											
		カナダの政治と社会 (4)	カナダの思想・宗教 (2)	オーストラリア現地実習 (2)										
		アフリカの政治と社会 (2)	中東の政治と社会 (2)											
C群 (国際社会基礎理論)	法と政治	国際関係論 (2)	政治学概論 (2)	国際平和論 (4)	日本社会思想史 (4)					2008年度以前入学生…2009年度以降入学生…4単位以上	2008年度以前入学生…2009年度以降入学生…4単位以上			
		国際関係史A,B (2,2)												
			国際社会研究A,B (2,2)	国際人権法 (2)	現代外交論 (2)									
			Globalization Studies (2)	国際政治学 (4)	統治機構・人権論A,B (2,2)									
			英語文獻講読(国際社会) (2)	国際機構論 (4)	日米外交史 (2)									
		国際法A,B (2,2)	国際統合論 (2)	政治思想史A,B (2,2)										
		比較法 (4)												
		比較憲法 (4)												
		国際環境政治論 (2)												
		国際政治経済学A,B (2,2)	社会学概論A,B (2,2)	社会統計学A,B (2,2)	社会経済思想史 (2)									
経済と社会			国際経済論 (4)	国際社会学A,B (2,2)	地域の国際交流・協力 (2)									
			国際経済史 (4)	国際開発論 (4)	国際交通論 (2)									
			国際ビジネス論A,B (2,2)	企業と社会 (2)	グローバル社会経済論 (2)									
			国際協力論 (2)	国際NGO論 (4)										
処情理学报			情報処理論 (2)	国際情報流通論 (2)	余暇社会学 (2)									
			情報処理演習 (1)	国際情報処理演習 (1)										
				専門演習 (1,1)	専門演習 (1,1)					10単位				
					卒業論文 (6)					★				
					又は指定科目 (6)									

- * 科目名右側の () 内の数字は、単位数。
- * 2009年度以降入学生：A群、B群、C群から各4単位以上、かつ合計32単位以上になるように修得。
- * 2008年度以前入学生：A群、B群、C群から各2単位以上、かつ合計20単位以上になるように修得。
- * 「卒業論文」(6単位)に代えて、指導教員の指定する国際交流学科専門科目(6単位)〔「導入演習」、「研究入門」、「基礎演習」〕「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目、履修者数制限科目、初回授業選抜科目を除く。を修得することができる。
- ★ 指定科目(6単位)の場合は、8単位を修得。この場合、「専門演習」の必修は2単位となります。

音樂学部

音樂芸術学科
演奏学科

音楽学部

卒業に必要な単位数

(3年次編入学者を除く)

音楽学部 音楽芸術学科

科目区分		単位数	備考	参照	
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1	
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1	
	語学	8		*2	
専門	選択必修	1群 4	かつ合計 34単位 以上	1群から4単位以上	
		2群 2		2群から2単位以上	
		3群 -			
		4群 2		4群から2単位以上	
		5群 2		5群から2単位以上	
		6群 4		6群から4単位	
	卒業プロジェクト	6			
その他	72	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限: *1、*2のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限: 8単位まで)			
合計	124				

音楽学部 演奏学科

2011年度以降入学者

科目区分		単位数	備考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語学	8		*2
専門	選択必修	46	「専攻実技科目」群から 24 単位	
			「ソルフェージュ」群から 4 単位	
			「アンサンブル科目」群から 6 単位	
			「演奏研究」群から 8 単位	
			「キリスト教音楽」群から 2 単位	
			「からだエクササイズ」群から 2 単位	
2年次修了公開演奏	3			
卒業公開演奏	6			
その他	57	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限: *1、*2のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限: 8単位まで)		
合計	124			

2010年度以前入学者

科目区分	単位数	備 考	参照	
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語 学	8		*2
専 門	選択必修	42	1群から	4 単位
			2群から	2 単位
			3群から	2 単位
			4群から	2 単位
			5群から	2 単位
			6群から	2 単位
			7群の専攻実技をⅠから順にⅧまで	24 単位
	7群の「学内演奏」「学内ソロ・コンサート」いずれかを	4 単位		
卒業演奏	6			
そ の 他	64	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）		
合 計	124			

*1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。 なお、次の科目は、それぞれ8単位まで卒業に必要な単位として認められます。（必修単位を含む。） ・「キリスト教」科目 ・「ボランティア活動1,2,3」 ・「健康・スポーツ」科目 ・「私のキャリアを考える」科目と「ビジネス・スキルを高める」科目 ・「キャリア実習（短期・長期インターンシップ）」と「単位認定型インターンシップ」				
*2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.86～89をご覧ください。				
	<p>2012年度以降入学者</p> 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。				
	<p>2011年度以前入学者</p> 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。				
	外国人留学生は、左記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細はp.196を参照してください。 ①「日本事情A、B」から4単位 ②「留学生日本語」 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>2010年度以降入学者</td> <td>10単位</td> </tr> <tr> <td>2009年度以前入学者</td> <td>12単位</td> </tr> </table>	2010年度以降入学者	10単位	2009年度以前入学者	12単位
2010年度以降入学者	10単位				
2009年度以前入学者	12単位				

3年次編入学生の卒業に必要な単位数

3年次編入学生は、編入学後2年の間に62単位を修得することが卒業要件となります。ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.63「基礎教養科目」参照)

音楽芸術学科、演奏学科

編入学生の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語学	-		*2
専門			3、4年次配当の必修科目、選択必修科目	
	その他		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 <ul style="list-style-type: none"> ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで） 	
	合 計	62		

演奏学科の適用カリキュラム

2012年度以前入学の3年次編入学生

2010年度以前入学者のカリキュラム

2013年度以降入学の3年次編入学生

2011年度以降入学者のカリキュラム

カリキュラム

音楽芸術学科

カリキュラムの説明

音楽芸術学科では「音楽で人と社会を結ぶ」をテーマに、リベラルアーツ型の音楽教育カリキュラムが展開されています。1) 新時代の音楽文化クリエイター、2) “For Others”を社会で実践する音楽コミュニケーション・リーダー、3) 新しいタイプの音楽教育者など、各自の目標を設定し、それにあつたカリキュラムを組み立てます。

カリキュラムは以下7つの群から構成されます。

第1群：音楽を学ぶ上で不可欠な基礎理論・基礎実技を学びます。

第2群：本学の建学の精神であるキリスト教についての理解を、音楽を通して深めます。

第3群：第1群で養った音楽性をさらにスキルアップ。

第4群：音楽の背景を、歴史・理論などの観点から深く学ぶための科目です。

第5群：社会実践コミュニケーションに関する科目群で、現代的な内容の多彩な科目から構成されます。

第6群及び第7群：おもに3～4年次のゼミ関連の科目です。所属ゼミで専門を深め、最終的に「卒業プロジェクト」を完成させます。

群ごとに、修得すべき単位数が「～単位以上選択必修」と示されていますが、これは「最低これだけは必要」という数を示したものにすぎません。本格的に勉強するためには、自分からすすんで、いろいろな科目を学んでください。

音楽芸術学科の演奏実技科目は、グループレッスンまたは演習形式で行われます。第1群の「基礎ピアノ」「基礎声楽」は、それぞれ1年間ずつ履修することができるグループレッスンです。さらに第3群の「即興演奏ワークショップ」「邦楽」「ジャズ・ヴォーカル・ワークショップ／ジャズ・ポップス実践ワークショップ」で演奏経験を上げられます。3～4年次に音楽コミュニケーション系のゼミを選択すれば、演奏関連の演習に参加できます。また、必要に応じて演奏学科の「PA副科個人実技／第2副科実技」を別料金で追加履修することもできます。

なお、教員免許の取得を希望する場合には、ある程度教育実習において実習校でピアノ他楽器等を演奏できる必要がありますので注意してください。

4年間の履修の指針

自由度の高いカリキュラムが特徴ですので、そのメリットをいかし、とくに1～2年次は幅広い分野に挑戦しましょう。音楽学部の専門科目だけでなく、共通科目（語学・基礎教養・総合課題）、他学部の専門科目なども積極的にチャレンジしてみてください。

緑園校舎でしか開講されない科目（とくに基礎教養や語学に関連した必修科目）は、1～2年次に履修しておきましょう。3～4年次になると、山手校舎で開講される科目が増えます。

1～2年次に、いろいろな分野にチャレンジしつつ自分の適性をみきわめたら、3～4年次には専門の学びを本格的に始めます。3～4年次は、いずれかの専門ゼミに所属し、ゼミ担当教員が専門とする分野について研究実践を深め、「卒業プロジェクト」を完成します。所属ゼミは、学生の希望に基づき、学科が選考・決定します。選考は2年次後期に行います。選考に際して、1～2年次の学修成果が問われることがあります。

卒業要件単位の124単位を4年間にバランスよく振り分けるように計画してください。4年間のうちには、留学・就職活動・教育実習・海外語学研修など、さまざまな予定も入ってきます。あらかじめ計画をたてて学習をすすめてください。

演奏学科

2011年度以降入学者

カリキュラムの説明

演奏学科の1・2年次における学習プログラムは、6つのカテゴリーに分けられています。これらは「6つの柱」と呼んでもよいのですが、それぞれ必修および選択必修科目から構成されており、フェリスに在籍する間に、これだけは必ず学んでほしいという願いが凝縮されたものでもあります。将来、音楽に従事しようと思う人はもちろん、音楽をより深く理解し、人生を心ゆたかに歩みたいと願う人のための基盤となるものです。

それでは、その6つの柱の内容を1つずつ見ていきましょう。

1) 専攻実技レッスン

それぞれの担当教員が、学生のレベルに合った適切な個人指導を行い、各学期の終わりには実技試験が行われます。2年次の終わりの試験は「2年次修了公開演奏」としてフェリスホールで行われ、それまでの学修成果を自分で感じとり、また客観的にチェックするよい機会となるでしょう。4年間の学修の総括としては、「卒業公開演奏」を行います。

2) ソルフエージュ

プレイスメントテストにより能力別クラスを編成します。ソルフエージュは音楽家の耳をつくる基礎訓練であり、単に旋律を書き取ったり歌ったりする聴音や視唱だけでなく、演奏の場で即応できるような総合的な読譜能力を身につけることを目指して訓練する科目です。

3) アンサンブル科目

アンサンブルは、音楽の楽しみを味わいやすくするだけでなく、他者とのコミュニケーションの取り方についても学ぶことができ、フェリスの教育理念である「For Others」から大学が近年発展させた「他者と共に」という共生の意識を体感・実践できる大切な機会です。

1、2年次での「合唱I、II」、「ピアノ・デュオ」、「伴奏法」、3年次からの「合唱III」「声楽アンサンブル」「オペラ・アンサンブル」。1～4年次を通じて学修する「プラスアンサンブル」（木管・金管合同のアンサンブルです）、「管弦アンサンブル」。他にも2年次からの「伴奏実習」と「邦楽1,2」があります。「アンサンブルのフェリス」という新しいトレードマークが生まれることが目標です。

4) 演奏研究 理論と実践

「和声Ⅰ、Ⅱ」、「西洋音楽通史」「日本音楽通史」、「現代音楽レパートリー」「諸民族の音楽」、伊、独、仏、英、日の各言語による「声楽歌唱法」、歌曲共演を中心とする「共演芸術」、「対位法」、「音楽様式研究」、「通奏低音」、「演奏スペシャル講義」「キーボードハーモニー」、「楽曲分析」があります。「副科ピアノクラス」「副科声楽クラス」は、クラス単位の演習授業を行います。

5) キリスト教音楽

キリスト教と深い関わりを持ちながら発展してきた西欧の音楽は、その土壌の理解なしには深く把握することができません。「キリスト教音楽実践」および「キリスト教音楽研究」、「キリスト教音楽概論」、「オラトリオ研究」は、同じようにキリスト教の考え方を母体として発展し、世界に誇れるオルガンを擁するフェリスの特色を十分に生かした授業です。

6) からだエクササイズ

演奏するためには、楽器（声を含む）を自由自在に操れることが必要ですが、そのためには呼吸と脱力のテクニックを身につけ、不必要な力みや緊張を取り去り、必要どころに意識を集中できるような身体をつくることが不可欠です。深い呼吸ができるようになることで、ステージの上でもあがりにくくなるうえ、音楽家としての基礎体力がつきます。

また、将来を考えるための選択科目として、＜演奏のプロを目指すための科目＞＜教育系進路を目指すための科目＞＜起業・就職を目指すための科目＞の3つのカテゴリーに分類される科目群が用意されています。自由に群を超えて履修することができ、その中でも、各科目の方向性をはっきりさせたところが特徴です。

さらに、これらの学習を補完するものとして、Performing Arts科目（PA科目）があります。自分の専攻実技以外の声楽、器楽、作曲の個人レッスンまたはバレエ等のグループレッスンを受けることができます。ただし、PA科目については、実技科別納となります。

2010年度以前入学者

カリキュラムの説明

2010年度学生要覧を参照してください。

専門科目の履修・実技試験等

2011年度に音楽学部のカリキュラム改定があり、専門科目名の変更や、科目新設がなされました。このことに伴い、学生要覧上「カリキュラム表」「開講科目表」は、2011年度以降入学者、2010年度以前入学者で異なります。

1 専門科目の履修方法

音楽学部の専門科目には、各学科ごとに必修科目及び選択科目が指定されています。開講科目表の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意し、それらに従って履修してください。

2 音楽芸術学科「専門ゼミⅠ～Ⅳ」について

(1)「専門ゼミⅠ・Ⅱ」：3年次に履修

- ①選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考、決定します。選考は、2年次後期に行いますが、詳細は後期開始後に発表します。
- ②再履修：「専門ゼミⅠ・Ⅱ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「専門ゼミⅢ・Ⅳ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(2)「専門ゼミⅢ・Ⅳ」：4年次に履修

- ①所属ゼミは原則として3年次の「専門ゼミⅠ・Ⅱ」の担当者とし、その担当者のもとに卒業プロジェクトのための指導を受けることとなります。
- ②再履修：「専門ゼミⅢ」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「専門ゼミⅣ」を重複して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(3) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に「専門ゼミ」を履修することができない学生については、3年次履修分の「専門ゼミ」と4年次履修分の「専門ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

3 実技レッスンについて

音楽学部演奏学科で開講されている実技レッスン科目は以下のとおりです。

科目名	時間数	実技料	履修手続
専攻実技ⅠA～ⅣB (専攻実技Ⅰ～Ⅷ)	45分×15回※	なし	申込時期：履修登録期間 FerrisPassportで履修登録。
演奏プロフェッショナルスタディA,B (専攻実技ソリスト育成特別レッスンⅠ,Ⅱ)	15分×15回※ 45分×15回※	なし なし	申込時期：履修学期の前学期 受付場所：音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認。
専攻実技特別レッスン	45分×15回	なし	
PA初習副科個人実技A,B	15分×15回	50,000円	
PA副科個人実技A,B (第2副科個人実技A,B)	30分×15回	100,000円	
PA副科グループ実技A,B(バレエ) (第2副科実技(バレエ)A,B)	90分×15回	30,000円	申込時期：履修登録期間 詳細は掲示を確認。
PA第2専攻個人実技A,B (第2専攻実技Ⅴ～Ⅷ)	45分×15回※	150,000円	申込時期：2年次後期 後期実技試験期間にオーディション を実施。詳細は掲示を確認。
備 考			
※ 授業回数15回の中に、実技試験も含まれます。			
注) カッコ内は、2010年度以前入学者用カリキュラムの科目名です。			

レッスンに関する注意

(1) 実技レッスンの出欠席について

- ① レッスンをやむを得ず欠席する場合は、必ず事前にレッスンの開講されている校舎の音楽学部副手室（緑園5号館）または音楽学部共同研究室（山手8号館）に連絡し、同時に担当教員にも連絡してください。
- ② レッスンの休講は掲示されますが、直接担当教員から連絡を受けて、休講掲示がない場合は、音楽学部共同研究室（山手8号館）又は教務課で確認してください。

(2) 再履修について

再履修の方法については、音楽学部教務委員の指示に従ってください。

なお、演奏学科生が「専攻実技ⅠA・B～ⅣA・B」または「専攻実技Ⅰ～Ⅷ」を再履修する場合、再履修料として1科目につき100,000円を納入しなければなりません。

4 実技試験

実技試験の課題曲発表、試験順番発表等は掲示により行います。

(1) 演奏曲目提出

- ① 実技試験の演奏曲目は、「実技試験曲目提出届」(以下「曲目提出届」)に記入の上、「レッスン受講票」とともに担当教員のサインを受け、必ず指定された期日までに提出すること。
- ② 指定された期日までに曲目提出がなかった場合、又は記載に不備があった場合は、受験を不許可とすることがあります。
- ③ 「曲目提出届」記載内容の変更は、原則として認めません。

(2) 実技試験に関わる日程

実技試験実施までに①から⑥の手順を経ること。これらの日程は、前期5月下旬・後期11月下旬に掲示により通知します。

- ① 実技試験課題曲発表
- ② 「曲目提出届」用紙配布
- ③ 実技試験時間割発表
- ④ 実技試験演奏順番発表
- ⑤ 「曲目提出届」の提出
(提出方法、提出先は掲示により確認すること。)
- ⑥ 実技試験実施

(3) 実技試験受験上の注意

- ① 実技試験の当日、演奏順番に遅れた学生の当日の受験は認めません。ただし、特別な事情により遅刻した者について、学科主任が遅刻理由を正当と認めた場合、当日の受験を許可することがあります。
- ② 追試験許可理由 (p.37「追試験許可理由」参照) に準ずる理由により、実技試験を欠席する場合は、必ず事前に教務課に連絡すること。
- ③ 試験時間が他の試験科目と重複している場合は、事前に音楽学部副手室(緑園5号館)または音楽学部共同研究室(山手8号館)に申し出て、指示を受けること。
- ④ 試験において伴奏者を必要とする場合は、原則として学生が担当教員の了解の上で交渉し、決定するものとします。ただし、本学教員及び副手を伴奏者とすることはできません。

伴奏者の氏名等は曲目提出届に必ず記入してから担当教員のサインを得ることになりますが、やむを得ない理由により後から伴奏者を変更する場合は、事前に必ず書面にて、音楽学部共同研究室(山手8号館)・音楽学部副手室(緑園5号館)に届け出ること。

(4) 受験保留者

レッスン回数が規定の回数を満たしていない場合、受験を保留とすることがあります。

【実技試験期間・会場】

	期 間	会 場
前期実技試験	2013年7月30日(火)・31日(水)・8月1日(木)	山手校舎
卒業試験公開演奏会(卒業演奏) 4年次対象 後期実技試験	2014年1月29日(水)・30日(木)	山手校舎
後期実技試験	2014年2月12日(水)・13日(木)・14日(金)	山手校舎

5 実技追試験

病気、その他やむを得ない理由により実技試験を受けられなかった学生は、追試験許可理由のいずれかに該当し、受験資格があると認められた場合に限り、願い出によって追試験を受けることができます。(実技以外の科目の追試験については、pp.37～38「追試験」参照。)

なお、提出書類は、当該科目試験日に受験できなかったことを証明するものでなければなりません。

(1) 実技追試験許可理由

(①～⑦ p.37「追試験許可理由」参照)

⑧ 国内外の音楽講習会への参加(当該講習会のプログラム及び参加を証明する書類並びに関係教員の承諾書を提出)。

⑨ その他特別な事情により、学部教務委員会で判断し、教務部長が正当と認めた場合。

(2) 受験手続

追試験受験を希望する場合は、次の期日までに「追試験願」(教務課・山手事務室備付)に受験料(証紙購入)及び証明書類を添えて、教務課・山手事務室に提出しなければなりません。この期日に遅れると、一切受理されません。(代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。)実技追試験許可者発表日は、手続締切日の翌日となります。

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、実技追試験許可者発表日以降に受験料を返還します。

【実技追試験手続締切日】

前期	2013年8月21日(水)
後期(4年次生)	2014年2月6日(木)
後期(1～3年次生)	2014年2月20日(木)

受験料：1科目につき1,000円(p.37「追試験許可理由」②の場合は受験料は不要です。)

(3) 追試験日程等

① 実技科目追試験の詳細は、追試験許可者発表時に掲示します。

② 追試験の成績評価は、2割減点されます。

③ 追試験の実施は、定められた期日1回限りとします。

【追試験日程・会場】

	期 間	会 場
前期	2013年9月3日(火)～9月5日(木)の期間中に実施。	山手校舎
後期 (4年次生)	2014年2月12日(水)・13日(木)・14日(金)の期間中に実施。	山手校舎
後期 (1～3年次生)	2014年3月4日(火)	山手校舎

6 再試験

音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に実施する必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格(評価「F」)とされた学生は、願い出て認められた場合に、改めて試験を受けることができます。

(1) 再試験実施要領

- ① 評価は「C」を超えない。
- ② 再試験の不合格者に対する、再試験は行わない。また、再試験について、追試験は行わない。
- ③ 追試験については、再試験を行わない。

(2) 受験手続

再試験受験資格者は、「再試験願」(教務課・山手事務室備付)に受験料(証紙購入)を添えて、教務課・山手事務室に提出しなければなりません。

【再試験手続日程】

	再試験該当者発表日	再試験手続締切日
前期	2013年8月2日(金)	2013年8月21日(水)
後期 (4年次生)	2014年1月31日(金)	2014年2月6日(木)
後期 (1～3年次生)	2014年2月17日(月)	2014年2月20日(木)

* 日程等詳細は、「実技試験に関わる日程」発表時に確認してください。

* 8月中の事務取扱い時間は、9:00～15:00です。

* 8月中旬の閉鎖期間(事前に掲示で告知)は事務取扱いを行いません。

【再試験日程・会場】

	期 間	会 場
前期	2013年9月3日(火)～9月5日(木)の期間中に実施。	山手校舎
後期 (4年次生)	2014年2月12日(水)・13日(木)・14日(金)の期間中に実施。	山手校舎
後期 (1～3年次生)	2014年3月4日(火)	山手校舎

受験料：1科目につき3,000円

7 2年次修了公開演奏

対象：演奏学科2年次生

- (1) 「2年次修了公開演奏」は、後期の実技試験期間中に公開演奏会として行います。
- (2) 「2年次修了公開演奏」に関わる日程は、掲示により通知します。
- (3) 「2年次修了公開演奏」に関する諸事項は、「実技試験受験上の注意」に準じます。(p.148 「実技試験」参照)
- (4) 2年次修了演奏を修得できなかった場合には、「専攻実技ⅡB」の履修学期に再履修することとなります。再履修の方法については、音楽学部教務委員の指示に従ってください。

8 学内演奏・学内ソロ・コンサート(2010年度以前入学者)

「学内演奏」「学内ソロ・コンサート」とは、公開で行われる「学内演奏会」又は「学内ソロ・コンサート」に出演し評価を受ける演奏学科の選択必修科目です。2つの科目を履修することはできず、どちらか1つを選択して履修します。

「学内演奏」「学内ソロ・コンサート」の詳細は、6月下旬に掲示により通知します。

(1) 「学内演奏」出演上の注意

- ① 「学内演奏」の履修登録は、履修(出演)する年度の後期に行うこと。
- ② 履修希望者は期日までに「学内演奏曲目提出届」を提出すること。
- ③ 「専攻実技」ではなく、「第2専攻実技」の楽器等での出演を希望する場合、演奏学科主任に申し出てください。ただし、出演は1回限りとし、重複履修はできません。
- ④ 演奏時間は10分以内とします。
- ⑤ 試験において伴奏者を必要とする場合は、原則として学生が担当教員の了解の上で交渉し、決定するものとします。
- ⑥ 「学内演奏曲目提出届」記載内容の変更は、原則として認めません。
- ⑦ 「学内演奏会」の演奏時間に遅刻した学生の当日の出演は認めません。
- ⑧ 4年次生が「学内演奏会」当日、欠席又は遅刻した場合の扱いは、追試験の規定に準じます。演奏日は別に設けます。
- ⑨ その他の事項に関しては、「実技試験受験上の注意」に準じます。(p.148 「実技試験」参照)

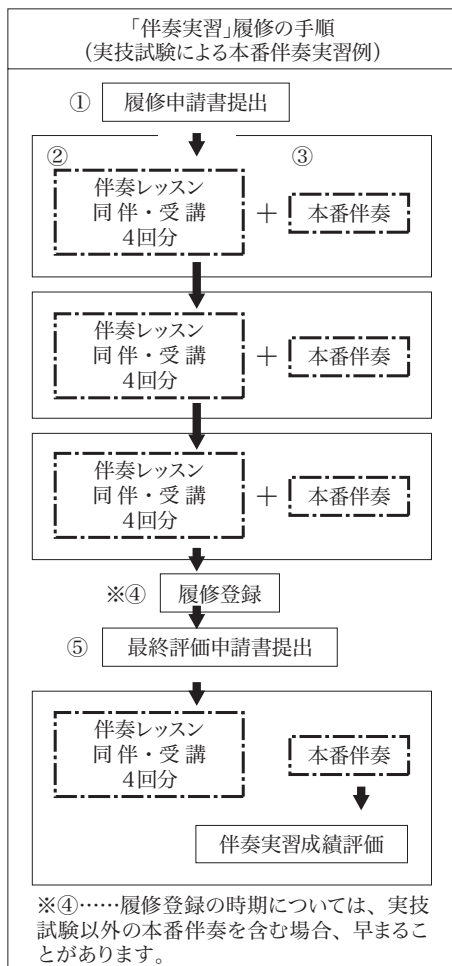
(2) 「学内ソロ・コンサート」出演上の注意

- ① 「専攻実技ソリスト育成特別レッスンⅠ」「専攻実技ソリスト育成特別レッスンⅡ」履修者で、レッスン担当教員の推薦を受けた学生のみ出演が認められます。ハーフリサイタル、又はジョイントリサイタル形式の演奏会です。
- ② 「学内ソロ・コンサート」の履修登録は、出演する年度の後期に学科が行います。

【2013年度学内演奏・学内ソロ・コンサート日程】

	期日・日程	窓口・会場
「学内演奏曲目提出届」提出締切日	2013年7月30日(火)	音楽学部共同研究室(山手8号館) 音楽学部副手室(緑園5号館)
学内演奏会	2013年11月1日(金)・4日(月)	フェリスホール
学内ソロ・コンサート	2013年12月(掲示で発表)	フェリスホール

9 「伴奏実習」



実技試験(専攻実技)、学内演奏、学内オーディション等において、計4回以上の本番伴奏を受験することにより単位が与えられる授業科目です。

4回目以降の本番伴奏において、最終評価を行います。ただし、最終評価は実技試験における伴奏のみが対象となります。

(1) 本番伴奏を受験するためには、同一学生・同一教員のもとで、(2) に指定された専攻実技科目の伴奏者として、4度同伴・受講しなければなりません。ただし、同一の実技試験、学内演奏、学内オーディション等において複数の本番伴奏を行った場合は、1回と数えます。例えば、後期実技試験で声楽1名、器楽1名の伴奏を行う場合、「伴奏実習」としての伴奏対象者を1名に決定してレッスンを受けます。

(2) 「伴奏実習」の対象として認められる専攻実技科目は、次のとおりです。

2010年度以前入学者：「専攻実技(声楽)Ⅲ～Ⅷ」「専攻実技(弦楽器)Ⅲ～Ⅷ」「専攻実技(管楽器)Ⅲ～Ⅷ」

2011年度以降入学者：「専攻実技(声楽)ⅡA・B～ⅣA・B」「専攻実技(弦楽器)ⅡA・B～ⅣA・B」「専攻実技(管楽器)ⅡA・B～ⅣA・B」

(3) 履修方法は、次のとおりです。

① 履修申請：「伴奏実習履修申請書」の提出

伴奏実習を開始する学期始めに、「伴奏実習履修申請書」を提出しなければなりません。履修申請は、履修可能な年次生でなければできません。

【「伴奏実習履修申請書」提出締切日】

	提出締切日	書類配布・提出窓口
前期	2013年4月18日(木)	音楽学部共同研究室(山手8号館)
後期	2013年10月1日(火)	音楽学部副手室(緑園5号館)

② 「伴奏実習受講カード」の提出

1回のレッスン受講につき1枚の「伴奏実習受講カード」(音楽学部共同研究室(山手8号館)、音楽学部副手室(緑園5号館)備付)に、担当教員のサインを受け、その都度音楽学部共同研究室(山手8号館)あるいは音楽学部副手室(緑園5号館)に提出すること。

③ 本番伴奏

レッスンに4度同伴・受講していること、本番伴奏を受験していることを確認の上、

学科主任の確認印を受けます。

本番伴奏受験後、学科主任の確認印を受けるための「伴奏実習受講カード」を当日中に音楽学部共同研究室（山手8号館）に提出すること。

④ 履修登録

各自、4回目以降の本番伴奏受験が予定できる学期の履修登録期間内に、履修登録すること。前期、後期を問わず登録が可能です。

⑤ 「最終評価申請書」の提出

4回目以降の本番伴奏において、最終評価を行います。ただし、最終評価は実技試験における伴奏のみが対象となります。「曲目提出届」提出期間内に、「最終評価申請書」を音楽学部共同研究室（山手8号館）に提出してください。提出がない場合、「H」評価となり、単位は修得できません。次学期以降に再度履修登録し、次回の実技試験において成績評価を受けることになります。

10 海外・学外における演奏活動に対して単位が与えられる授業科目

海外・学外における演奏活動、論文や作品の発表、音楽療法、演奏会等の企画・制作・運営等の実習に対して単位が与えられる授業科目は次のとおりです。

履修する学生は各授業科目の実施要領（教務課備付）に基づき、手続きを行わなければなりません。

授業科目名	内 容	履修対象
「国内音楽研修」	国内における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	演奏学科
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	音楽芸術学科・演奏学科
「学外公開演奏」	学外における演奏会等出演	演奏学科
「学外公開発表Ⅰ・Ⅱ」	学外におけるプロジェクト（作品・論文・演奏）の発表	音楽芸術学科3・4年次生

11 演奏学科の専攻楽器等変更について

演奏学科の専攻楽器等変更を希望する場合は、所定用紙（「演奏学科専攻楽器等変更願」：教務課備付）をもって、所定の期日までに願出しなければなりません（提出窓口：教務課）。選考の上、専攻楽器等の変更が認められることがあります。ただし、願出が可能な対象は次のとおりです。

選択楽器等	願出提出時
ヴァイオリン→ヴィオラ ヴィオラ→ヴァイオリン	原則として1年次生または2年次生に限る
その他の選択楽器等変更	原則として2年次生に限る

【提出締切日】

2013年10月31日(木)

卒業演奏、卒業プロジェクト

1 卒業演奏（演奏学科対象）

- (1) 「卒業演奏」は、通年科目です。出演する年度の前期履修登録期間に必ず自分で履修登録してください。
- (2) 卒業演奏は、「卒業試験公開演奏会」として行います。
- (3) 卒業演奏に関する諸事項は、「実技試験受験上の注意」に準じます。（p.148「実技試験」参照）ただし、担当教員が認めた場合、副手を伴奏者とすることができます。
- (4) 卒業演奏の評価が合格となっても、卒業判定の結果、卒業延期とされた場合、卒業演奏の評価は「保留」（「T」評価）となり、次年度に改めて履修登録を行う必要があります。

【「卒業演奏」曲目提出届 提出期間】 2013年11月11日(月)～15日(金)

【「卒業試験公開演奏会」日程】 2014年1月29日(水)・30日(木)

なお、2013年度9月卒業を希望する者の「卒業演奏」は、前期実技試験期間中(2013年7月30日(火)・7月31日(水)・8月1日(木))に実施します。

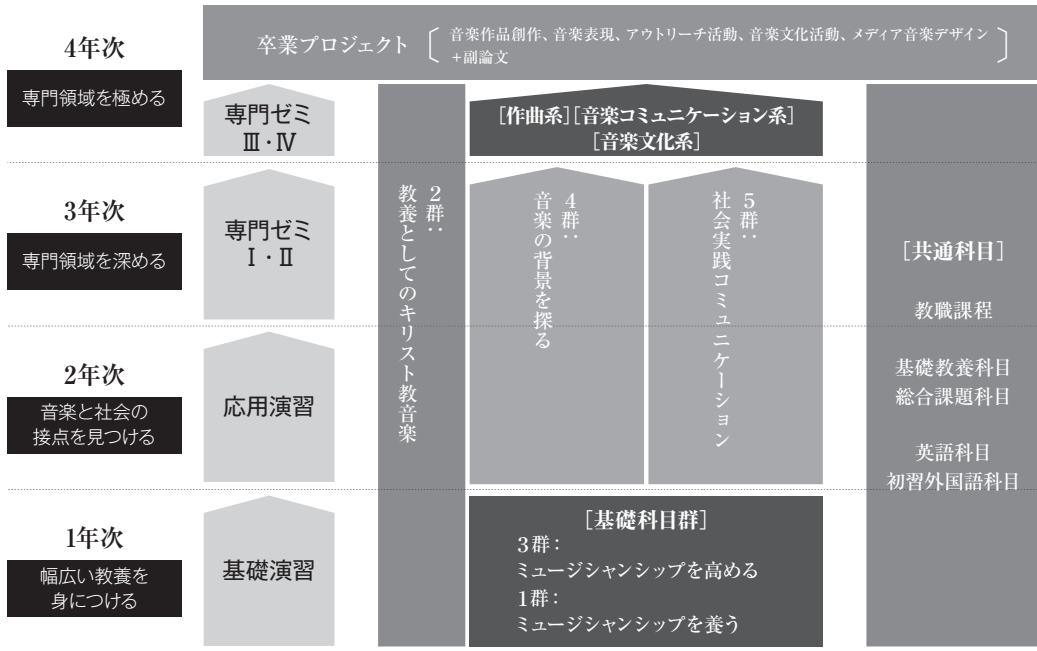
2 卒業プロジェクト（音楽芸術学科）

卒業プロジェクトは、卒業する年度に提出することとします。「卒業プロジェクト」の単位認定は、卒業する年度に限ります。卒業論文等の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が定められています。要件などの詳細に関しては、掲示等に留意してください。

なお、「卒業プロジェクト」は通年科目です。卒業プロジェクトを提出する年度の前期履修登録期間に必ず自分で履修登録してください。

音楽芸術学科カリキュラムマップ

音楽の多様な領域で活躍できる魅力的な女性を育成し、音楽で社会とつながる。



音楽芸術学科（2011年度以降入学者用）カリキュラム表

	1年次	2年次	3年次	4年次	
1 群 ミュージシャンシップを養う	音楽家の基礎知識 (2) 音楽基礎理論 (2) 合唱 I A,B (1)				4 単位以上
	基礎声楽A,B (1,1) 基礎ピアノA,B (1,1) 和声 I A,B (2,2) ソルフェージュ1 (1) ソルフェージュ2 (1) ソルフェージュ3 (1) ソルフェージュ4 (1)		基礎ピアノA,B(2)	(1,1)	
2 群 キリスト教音楽を体験する	賛美歌学 (2)				2 単位以上
		キリスト教音楽概論1,2 (2,2)			
3 群 ミュージシャンシップを高める	和声II A,B (2,2) 伴奏法A,B (1,1) ジャズ・ポップス入門 (2)		対位法A,B (2,2) 共演芸術A,B (2,2) 即興演奏ワークショップ (2) ジャズ・ヴォーカル・ワークショップ (2)		3 単位以上
		合唱II A,B (1,1) 作品分析 (2) ポピュラー音楽理論 (2) 邦楽1,2 (1,1) 編曲のテクニック (2)			
4 群 音楽の背景を探る	西洋音楽通史 (4) 日本音楽通史 (4)				2 単位以上
		音楽社会学 (2) 諸民族の音楽A,B (2,2) 西洋音楽史特殊講義1,2 (2,2) 日本音楽史特殊講義 (2) ポピュラー音楽史 (2) 映画・舞台音楽論 (2) 現代音楽レパートリー (2) 楽器法 (2)			
5 群 社会実践コミュニケーション			音楽情報論 (2) マルチメディア著作権ビジネス (2) メディア・アート (2) コンピュータ音楽制作1,2 (2,2) アニメ・ゲーム音楽制作 (2) アート・マネジメント (2) 環境音楽デザイン (2) 舞台制作ワークショップ (2) 身体表現ワークショップ1,2 (2,2) 映像音楽制作ワークショップ (2) 番組制作ワークショップ (2) 音響機器ワークショップ (2) 録音実技ワークショップ (2) アナウンス・朗読 (2) ミュージカル・ナンバーを歌う (1) 日本歌曲・童謡を歌う (1) 作曲を楽しもうA,B (2,2) ポップスを楽しもう (2) バンドを楽しもう (2) アンサンブルを楽しもう (2)		2 単位以上
			作・編曲法 (2) コーラス・リーダー・ワークショップA,B (2,2) 合奏 (1) 指揮法A,B (2,2) 音楽ジャーナリズム (2) 訳詞の世界 (2) 医療と音楽 (2) 心と音楽 (2,2) 音楽療法1,2 (2,2)		
6 群 専門を深める	基礎演習 (1)	応用演習 (1)	専門ゼミ I (1) 専門ゼミ II (1)	専門ゼミ III (1) 専門ゼミ IV (1)	☆ 4 単位以上
			学外公開発表 I (1) 学外公開発表 II (1)		
7 群 専門を極める			海外音楽研修 (2)		6 単位 必修
				卒業プロジェクト (6)	

☆：「専門ゼミ I～IV」各1単位、合計4単位を選択必修

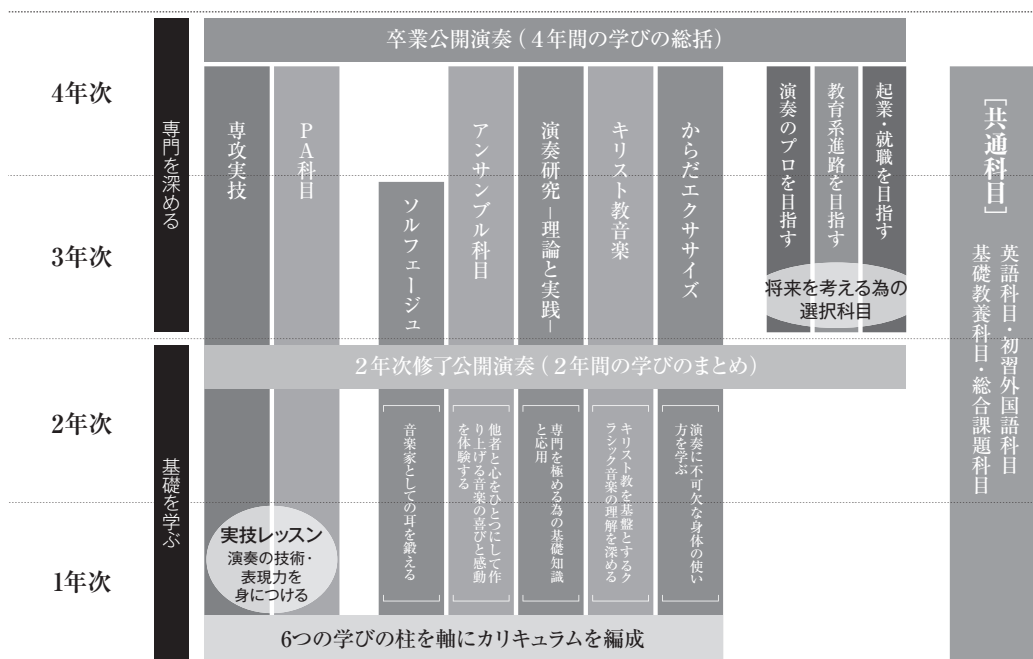
音楽芸術学科（2010年度以前入学者カリキュラム）

	1年次	2年次	3年次	4年次		
1 群 ミュージシャンシップを養う	音楽家の基礎知識 (2) 音楽基礎理論 (2) 合唱 I A,B (1)				4 単位以上	
	基礎声楽A,B (1,1) 基礎ピアノA,B (1,1) 和声 I A,B (2,2) ソルフェージュ1 (1) ソルフェージュ2 (1) ソルフェージュ3 (1) ソルフェージュ4 (1)		基礎ピアノA,B(2)	(1,1)		
2 群 キリスト教音楽を体験する	賛美歌学 (2) キリスト教オルガン音楽概論 (2) キリスト教オルガン実技 (1)		キリスト教オルガン研究基礎 (2) キリスト教オルガン研究応用 (2)		2 単位以上	
3 群 ミュージシャンシップを高める	和声IIA,B (2,2) 伴奏法A,B (1,1) ジャズ・ポップス入門 (2)		ポピュラー音楽理論 (2) 共演芸術A,B (2,2) 即興演奏ワークショップ (2) ジャズ・ポップス実践ワークショップ (2) 合奏A,B (1,1)		34 単位以上 選択必修	
		作品分析 (2) 邦楽1,2 (1,1)				
		合唱IIA,B (1,1)				
4 群 音楽の背景を探る	西洋音楽通史 (4) 日本音楽通史 (4)		キリスト教音楽概論1,2 (2,2) 諸民族の音楽A,B (2,2)		2 単位以上	
	音楽社会学 (2)					
5 群 社会実践コミュニケーション		西洋音楽史特殊講義1,2 (2,2) 日本音楽史特殊講義 (2) ポピュラー音楽史 (2) 映画・舞台音楽論 (2) 現代音楽レパートリー (2) 楽器法 (2) 対位法の魅力 (2)			2 単位以上	
		音楽情報論 (2) マルチメディア著作権ビジネス (2) ポップスを楽しもう (2) バンドを楽しもう (2) メディア・アート (2) コンピュータ音楽制作 (2) アニメ・ゲーム音楽制作 (2) アート・マネージメント (2) 環境音楽デザイン (2) 舞台制作ワークショップ (2)	身体表現ワークショップ1 (2) 身体表現ワークショップ2 (2) 映像音楽制作ワークショップ (2) 番組制作ワークショップ (2) 音響機器ワークショップ (2) 録音実技ワークショップ (2) アナウンス・朗読 (2) ミュージカル・ナンバーを歌う (1) 日本歌曲・童謡を歌う (1)			
		作曲を楽しもうA,B (2,2)	作・編曲法A,B (2,2) コーラス・リーダー・ワークショップA,B (2,2) 指揮法A (2)			
		音楽ジャーナリズム (2) 訳詞の世界 (2) 医療と音楽1,2 (2,2) 心と音楽1,2 (2,2)				
6 群 専門を深める			専門ゼミ I (1) 専門ゼミ II (1)	専門ゼミ III (1) 専門ゼミ IV (1)	☆4 単位以上	
			学外公开发表 I (1) 学外公开发表 II (1)			
		海外音楽研修 (2)				
7 群 極める				卒業プロジェクト(6)	6 単位	必修

☆:「専門ゼミ I～IV」各1単位、合計4単位を選択必修

演奏学科カリキュラムマップ

確かな演奏技法を修得し、豊かな表現者として広く社会に貢献する。



演奏学科（2011年度以降入学者）カリキュラム表

	1年次	2年次	3年次	4年次	
専攻実技 レッスン	専攻実技(声楽) I A,B (3,3) 専攻実技(鍵盤楽器) I A,B (3,3) 専攻実技(弦楽器) I A,B (3,3) 専攻実技(管楽器) I A,B (3,3)	専攻実技(声楽) II A,B (3,3) 専攻実技(鍵盤楽器) II A,B (3,3) 専攻実技(弦楽器) II A,B (3,3) 専攻実技(管楽器) II A,B (3,3)	専攻実技(声楽) III A,B (3,3) 専攻実技(鍵盤楽器) III A,B (3,3) 専攻実技(弦楽器) III A,B (3,3) 専攻実技(管楽器) III A,B (3,3)	専攻実技(声楽) IV A,B (3,3) 専攻実技(鍵盤楽器) IV A,B (3,3) 専攻実技(弦楽器) IV A,B (3,3) 専攻実技(管楽器) IV A,B (3,3)	24 単位 ☆
		2年次修了公開演奏 (3)			3 単位
	国内音楽研修	(1)	海外音楽研修	(2)	卒業公開演奏 (6)
ソルフェージュ	ソルフェージュ I A,B (1,1) ソルフェージュ III A,B (1,1) ソルフェージュ VA,B (1,1)	ソルフェージュ II A,B (1,1) ソルフェージュ IV A,B (1,1) ソルフェージュ VI A,B (1,1)			4 単位 以上
	ソルフェージュ VII A,B (1,1)	ソルフェージュ VIII A,B (1,1)			
必修・ 選択必修科目		管弦アンサンブル A,B (2,2) プラスアンサンブル A,B (1,1)			6 単位 以上
	合唱 I A,B (1,1)		合唱 III A,B (1,1) 声楽アンサンブル A,B (1,1) オペラ・アンサンブル A,B (1,1)		
	ピアノ・デュオ A,B 伴奏法 A,B (1,1)	(1,1)			
		室内楽 1A,B (1,1) 室内楽 2A,B (1,1) 室内楽 3A,B (1,1) 室内楽 4A,B (1,1) 伴奏実習 (1)			
		邦楽 1,2 (1,1)			
演奏研究 —理論と実践—	和声 I A,B (2,2) 和声 II A,B (2,2)		対位法 A,B (2,2) 音楽様式研究 (2) 通奏低音 (2) キーボードハーモニー A,B (2,2) 楽曲分析 A,B (2,2) 共演芸術 A,B (2,2)		8 単位 以上
	副科ピアノクラス A,B (1,1) 副科声楽クラス A,B (1,1)				
	西洋音楽通史 (4) 日本音楽通史 (4)				
		現代音楽レパートリー (2) 諸民族の音楽 A,B (2,2)			
	声楽歌唱法[イタリア語(1) ドイツ語(1) 英語(1) フランス語(1) 日本語(1)] 演奏スペシャル講義 A,B (2,2)				
キリスト教 音楽		キリスト教オルガン音楽実践 A,B (1,1) キリスト教オルガン音楽研究 A,B (2,2)			2 単位 以上
		キリスト教音楽概論 1,2 (2,2)			
からだ エクササイズ			オラトリオ研究 A,B (1,1)		3 単位 以上
		演奏のためのからだづくり A,B (1,1)	アーティストのための身体表現 A,B (2,2)		
将来を 考えるための 選択科目	演奏のプロ を目指す		演奏プロフェッショナル スタディ A,B (2,2) フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ (3) 学外公開演奏 (1) 専攻実技特別レッスン (3)		3 単位 以上
	教育系進路 を目指す		ピアノ指導ワークショップ A,B (2,2) 幼児リトミック指導ワークショップ A,B (2,2) チャペルクワイア指導ワークショップ A,B (2,2) 作・編曲法 (2) 編曲のテクニック (2) 指揮法 A,B (2,2)		
	起業・就職 を目指す		起業家育成ワークショップ A,B (2,2)		
実教科 別納 P A 科目	PA 初習副科個人実技 A,B (1,1)		PA 副科個人実技 A (2)		3 単位 以上
	PA 科目 (Performing Arts)		PA 副科個人実技 B (2) PA 副科グループ実技 A,B (1,1)		
			PA 第2専攻個人実技 A,B (3,3)		

☆：24単位選択必修

演奏学科（2010年度以前入学者）カリキュラム表

		1年次	2年次	3年次	4年次	
1 群	ミュージシャンシップを養う	音楽家の基礎知識 (2)				4 単位以上
		音楽基礎理論 (2)				
2 群	キリスト教音楽を体験する	合唱 I A,B (1,1)				2 単位以上
		和声 I A,B (2,2)				
3 群	ミュージシャンシップを高める	ソルフェージュ1,2 (1,1)	ソルフェージュIII,A,B (1,1)			2 単位以上
		ソルフェージュ3,4 (1,1)	ソルフェージュIV,A,B (1,1)			
4 群	アンサンブルを極める	ソルフェージュ I A,B (1,1)	ソルフェージュ V A,B (1,1)			2 単位以上
		ソルフェージュ II A,B (1,1)	ソルフェージュ VI A,B (1,1)			
5 群	音楽の音景を知る	ソルフェージュ III A,B (1,1)	ソルフェージュ VII A,B (1,1)			2 単位以上
		ソルフェージュ IV A,B (1,1)	ソルフェージュ VIII A,B (1,1)			
6 群	音楽実践コミュニケーション	ソルフェージュ V A,B (1,1)	ソルフェージュ IX A,B (1,1)			2 単位以上
		ソルフェージュ VI A,B (1,1)	ソルフェージュ X A,B (1,1)			
7 群	専門を深める	西洋音楽通史 (4)	キリスト教音楽概論1,2 (2,2)			2 単位以上
		日本音楽通史 (4)	諸民族の音楽A,B (2,2)			
8 群	専門を極める	現代音楽レパートリー (2)	声楽スペシャル講義 (2)			6 単位
		声楽スペシャル講義<Org・Cemb> (2)	器楽スペシャル講義<Org・Cemb> (2)			
1 群	☆1	専攻実技(声楽) I II (3,3)	専攻実技(声楽) III IV (3,3)	専攻実技(声楽) V VI (3,3)	専攻実技(声楽) VII VIII (3,3)	28 単位以上
		専攻実技(鍵盤楽器) I II (3,3)	専攻実技(鍵盤楽器) III IV (3,3)	専攻実技(鍵盤楽器) V VI (3,3)	専攻実技(鍵盤楽器) VII VIII (3,3)	
2 群	☆2	専攻実技(弦楽器) I II (3,3)	専攻実技(弦楽器) III IV (3,3)	専攻実技(弦楽器) V VI (3,3)	専攻実技(弦楽器) VII VIII (3,3)	28 単位以上
		専攻実技(管楽器) III IV (3,3)	専攻実技(管楽器) V VI (3,3)	専攻実技(管楽器) VII VIII (3,3)	専攻実技(管楽器) VII VIII (3,3)	
3 群	専攻実技ソリスト育成特別レッスン I (3,3)	専攻実技ソリスト育成特別レッスン II (3,3)				28 単位以上
		学外公開演奏 (1)				
4 群	専攻実技特別レッスン (3)	学内演奏 (4)				28 単位以上
		学内ソロ・コンサート (4)				
5 群	国内音楽研修 (1)	専攻実技特別レッスン (3)				28 単位以上
		海外音楽研修 (2)				
6 群	第2専攻実技(声楽) V VI (3,3)	第2専攻実技(声楽) VII VIII (3,3)				28 単位以上
		第2専攻実技(鍵盤楽器) V VI (3,3)				
7 群	第2専攻実技(弦楽器) V VI (3,3)	第2専攻実技(弦楽器) VII VIII (3,3)				28 単位以上
		第2専攻実技(管楽器) V VI (3,3)				
8 群	第2専攻実技(管楽器) VII VIII (3,3)	卒業演奏 (6)				6 単位

☆1：24単位選択必修、☆2：4単位選択必修

※「副科実技(声楽・器楽)A,B」「第2副科実技(声楽・器楽・作曲)A,B」「第2専攻実技(声楽・鍵盤楽器・弦楽器・管楽器)A,B」は、専攻実技で選択している楽器等を履修することはできません。

教職課程

教職課程

教職課程

教職課程とは、教育職員免許状を取得するために、正規課程とは別に教育職員免許法等に定められた授業科目及び単位を修得する課程です。

教育職員免許状取得のためには、4年次に行う3～4週間の教育実習（3年次の場合もあり）と主に2年次に行う7日間の介護等体験も必要で、これらの実習は大学以外の学校及び施設で実施されます。さらに、卒業単位に含まれない多くの授業科目の単位を修得しなければならないために、専門科目の履修や就職活動等に大きな影響を及ぼすことが考えられます。それらを充分認識した上で、自覚を持って早い段階から計画的に授業科目の履修を進めることが求められます。

「教職に関する科目」は、その多くが卒業単位に含まれません。「教育原理」「教育思想」「教育心理学」「教育社会学」のみ、教育職員免許状取得希望の有無にかかわらず、卒業単位に含まれます（p.262「教職に関する科目開講科目表」参照）。

(1) 教育職員免許状の種類及び教科について

本学において取得できる教育職員免許状の種類は、次の表のとおりです。

なお、所属学部・学科で認定されている教科以外の免許状の取得を希望する学生は、教職センター（7号館3階）に申し出て、指導を受けてください。

課程認定学部・学科	免許教科	免許状の種類
文学部 英文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
文学部 日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
国際交流学部 国際交流学科	社会	中学校教諭一種免許状
	地理歴史	高等学校教諭一種免許状
	公民	高等学校教諭一種免許状
音楽学部 音楽芸術学科 演奏学科	音楽	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状

(2) 教職課程の履修方法

教育職員免許法には、次のとおり定められています。

免許状の種類	所要資格	大学における最低修得単位数						
		基礎資格		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目				
		教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	情報機器の操作
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	31	8	2	2	2	2
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16	2	2	2	2

上記の表に基づき、本学において教育職員免許状を取得するためには、次ページ以降の表（pp.165～181）に定められた履修科目及び単位を取得しなければなりません。

また、中学校教諭免許状取得のためには、7日間（特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間）の介護等体験が必修です。介護等体験の実施方法等については、オリエンテーションを行うので、指導を受けてください。

中学校教諭免許状取得に必要な単位と高等学校教諭免許状取得に必要な単位は異なりますが、双方の免許状が取得できるように、履修計画を立ててください。

- ① 本学に入学する以前に他大学または短期大学において、教育職員免許状を取得した者または教職課程を中途まで履修した者で、本学において教職課程の履修を希望する者は、入学年度の4月オリエンテーション時までには教務課に申し出て、指導を受けてください。
- ② 編入学者で、教職課程の履修を希望する者は、入学年度の4月オリエンテーション時までには教務課に申し出て、指導を受けてください。
- ③ 本学在学中に他大学等で修得した単位は、原則として教育職員免許状取得のための単位として認定されません。ただし、学生交流に関する協定及び単位互換に関する協定に基づき修得した単位は、次のとおり教育職員免許状取得のための単位として認定されることがあります。詳しくは、事前に教務課に申し出て、指導を受けてください。

同志社女子大学において修得した単位	「教科に関する科目」「教職に関する科目」「日本国憲法」「外国語コミュニケーション」
放送大学において修得した単位	「教科に関する科目」「日本国憲法」「体育」

(3) 教職課程の履修条件

次のいずれかに該当する者は、原則として3年次以降の教職課程の履修を認めません。

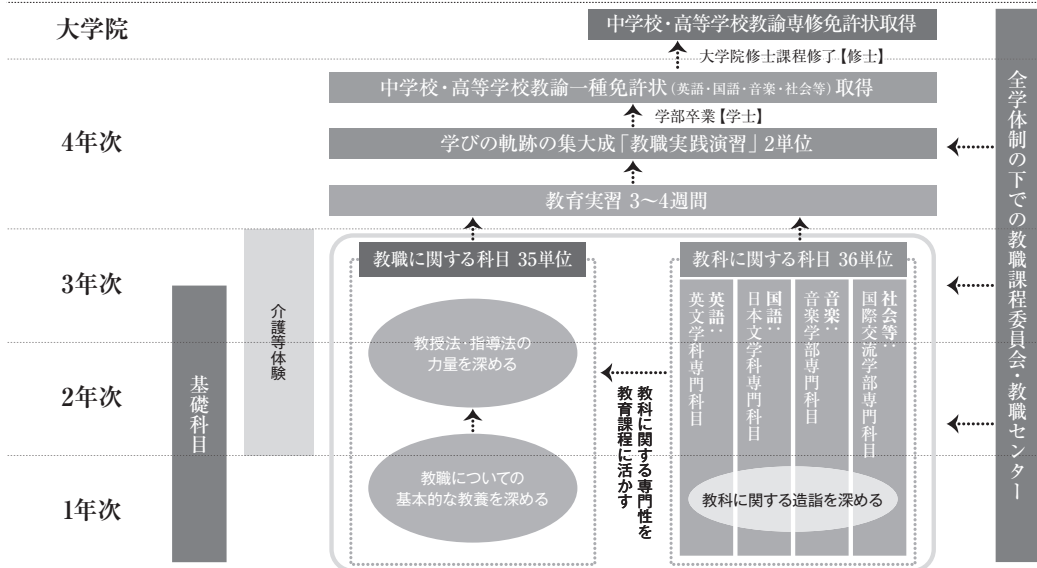
- ① 2年次後期GPAが1.30以下の者
- ② 2年次後期までの累積GPAが1.30以下の者

また、英語の教育職員免許状取得を希望する者は、次の基準のいずれかを満たすことが3年次以降の教職課程履修の条件となります。

実用英語技能検定 2級以上／TOEIC 445点以上／TOEFL (iBT) 45点以上

教職課程カリキュラムマップ

本学の教育理念“For Others”に基づき、「他者のために、他者とともに」という豊かな人間性の醸成を重視したカリキュラム。生徒たちとともに自己が育つ「共育ち」の発想を大切に、教育現場における諸問題にも的確に対応できる教員の養成を目指す。



教科に関する科目

(1) 英語：文学部英文学科

2012・2013年度入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数		開講科目																																										
	中学校	高等学校																																											
英語学	28	36	*1● <table border="0"> <tr><td>英語学研究入門</td><td>(4)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英語のさまざまな側面A</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英語のさまざまな側面B</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英語のしくみを知るA</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英語のしくみを知るB</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英語学特論</td><td>(2)</td><td>英語の歴史A,B</td><td>(2,2)</td></tr> <tr><td>英語と社会・文化</td><td>(2)</td><td>◎ 英語の発音A,B</td><td>(2,2)</td></tr> <tr><td>日英語の発想と表現</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> </table>	英語学研究入門	(4)			英語のさまざまな側面A	(2)			英語のさまざまな側面B	(2)			英語のしくみを知るA	(2)			英語のしくみを知るB	(2)			英語学特論	(2)	英語の歴史A,B	(2,2)	英語と社会・文化	(2)	◎ 英語の発音A,B	(2,2)	日英語の発想と表現	(2)												
英語学研究入門			(4)																																										
英語のさまざまな側面A			(2)																																										
英語のさまざまな側面B			(2)																																										
英語のしくみを知るA	(2)																																												
英語のしくみを知るB	(2)																																												
英語学特論	(2)	英語の歴史A,B	(2,2)																																										
英語と社会・文化	(2)	◎ 英語の発音A,B	(2,2)																																										
日英語の発想と表現	(2)																																												
英米文学	*2● <table border="0"> <tr><td>英米文学研究入門</td><td>(4)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英米文学研究入門(1)</td><td>(4)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英米文学研究入門(2)</td><td>(4)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>アメリカ文学史</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>イギリス文学史A</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>イギリス文学史B</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英米文学特論A,B</td><td>(2,2)</td><td>イギリス小説を読むA,B</td><td>(2,2)</td></tr> <tr><td>イギリス詩の世界A,B</td><td>(2,2)</td><td>アメリカ小説を読むA,B</td><td>(2,2)</td></tr> <tr><td>アメリカ詩の世界A,B</td><td>(2,2)</td><td>キリスト教と英米文学1,2</td><td>(2,2)</td></tr> <tr><td>イギリス演劇の世界A,B</td><td>(2,2)</td><td>英語圏の文学と芸術A,B</td><td>(2,2)</td></tr> <tr><td>アメリカ演劇の世界A,B</td><td>(2,2)</td><td></td><td></td></tr> </table>	英米文学研究入門	(4)			英米文学研究入門(1)	(4)			英米文学研究入門(2)	(4)			アメリカ文学史	(2)			イギリス文学史A	(2)			イギリス文学史B	(2)			英米文学特論A,B	(2,2)	イギリス小説を読むA,B	(2,2)	イギリス詩の世界A,B	(2,2)	アメリカ小説を読むA,B	(2,2)	アメリカ詩の世界A,B	(2,2)	キリスト教と英米文学1,2	(2,2)	イギリス演劇の世界A,B	(2,2)	英語圏の文学と芸術A,B	(2,2)	アメリカ演劇の世界A,B	(2,2)		
英米文学研究入門	(4)																																												
英米文学研究入門(1)	(4)																																												
英米文学研究入門(2)	(4)																																												
アメリカ文学史	(2)																																												
イギリス文学史A	(2)																																												
イギリス文学史B	(2)																																												
英米文学特論A,B	(2,2)	イギリス小説を読むA,B	(2,2)																																										
イギリス詩の世界A,B	(2,2)	アメリカ小説を読むA,B	(2,2)																																										
アメリカ詩の世界A,B	(2,2)	キリスト教と英米文学1,2	(2,2)																																										
イギリス演劇の世界A,B	(2,2)	英語圏の文学と芸術A,B	(2,2)																																										
アメリカ演劇の世界A,B	(2,2)																																												
英語コミュニケーション	*3● <table border="0"> <tr><td>Internet English A</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>Internet English B</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>The English-Speaking World A</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>The English-Speaking World B</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>Academic Writing A</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>Academic Writing B</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> </table>	Internet English A	(2)			Internet English B	(2)			The English-Speaking World A	(2)			The English-Speaking World B	(2)			Academic Writing A	(2)			Academic Writing B	(2)																						
Internet English A	(2)																																												
Internet English B	(2)																																												
The English-Speaking World A	(2)																																												
The English-Speaking World B	(2)																																												
Academic Writing A	(2)																																												
Academic Writing B	(2)																																												
異文化理解	*4● <table border="0"> <tr><td>アメリカの文化A</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>アメリカの文化B</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>アメリカン・スタディーズ</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英語文化研究入門</td><td>(4)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>英米芸術史</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>イギリス文化史</td><td>(2)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>Global Issues</td><td>(4)</td><td></td><td></td></tr> </table>	アメリカの文化A	(2)			アメリカの文化B	(2)			アメリカン・スタディーズ	(2)			英語文化研究入門	(4)			英米芸術史	(2)			イギリス文化史	(2)			Global Issues	(4)																		
アメリカの文化A	(2)																																												
アメリカの文化B	(2)																																												
アメリカン・スタディーズ	(2)																																												
英語文化研究入門	(4)																																												
英米芸術史	(2)																																												
イギリス文化史	(2)																																												
Global Issues	(4)																																												
履修上の注意 ●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。 2) 教職課程履修者は、◎科目を履修することが望まれます。 3) A, Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。																																													

英語：文学部英文学科

2009～2011年度入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数		開講科目	
	中学校	高等学校		
英語学	28	36	*1●	英語学研究入門 (4) 英語のさまざまな側面A (2) 英語のさまざまな側面B (2) 英語のしくみを知るA (2) 英語のしくみを知るB (2) 英語学特論 (2) 英語の歴史A,B (2,2) 英語と社会・文化 (2) ◎ 英語の発音A,B (2,2) 日英語の発想と表現 (2)
英米文学			*2●	英米文学研究入門 (4) 英米文学研究入門(1) (4) 英米文学研究入門(2) (4) アメリカ文学史 (2) イギリス文学史A (2) イギリス文学史B (2) 英米文芸論 (*5) (4) 英米文学論A(*5) (2) 英米文学論B(*5) (2) 英米文学特論A,B (2,2) イギリス小説を読むA,B (2,2) イギリス詩の世界A,B (2,2) アメリカ小説を読むA,B (2,2) アメリカ詩の世界A,B (2,2) キリスト教と英米文学1,2 (2,2) イギリス演劇の世界A,B (2,2) 英語圏の文学と芸術A,B (2,2) アメリカ演劇の世界A,B (2,2)
英語コミュニケーション			*3●	Internet English A (2) Internet English B (2) The English-Speaking World A (2) The English-Speaking World B (2) Debate in English(*5) (2) Academic Writing A (2) Academic Writing B (2)
異文化理解			*4●	アメリカの文化A (2) アメリカの文化B (2) アメリカン・スタディーズ (2) アメリカの文化A(1) (*5) (2) アメリカの文化B(1)(*5) (2) 比較文学・文化研究入門(*5) (4) 英語圏と世界事情A,B(*5) (2,2) Global Issues (4) 比較文学・文化論A,B(*5) (2,2)
履修上の注意 ●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。 *5…「英米文芸論」「英米文学論A,B」「Debate in English」「アメリカの文化A(1),B(1)」「比較文学・文化研究入門」「英語圏と世界事情A,B」「比較文学・文化論A,B」は2009年度以前開講科目です。 2) 教職課程履修者は、◎科目を履修することが望まれます。 3) A, Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。				

(2) 国語：文学部日本文学科

2006年度以降入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数		開 講 科 目	
	中学校	高等学校	2012年度以降開講科目	2011年度以前開講科目
国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)			*1● [日本語学概論A (2) 日本語学概論B (2) *2● 基礎論文演習 (文章表現) (1) 日本語の歴史A,B (2,2) 日本語文法研究の方法 (2) 日本語語彙研究の方法 (2) 方言研究の方法 (2) 日本語の形態と構文 (2) 日本語の意味と語彙 (2) 日本語の音声とアクセント (2) 日本語の音声研究の方法 (2) 日本語の文体と語法 (2) 日本の漢字と国語辞書 (2) 日本語の敬語 (2)	*1● [日本語学概論A (2) 日本語学概論B (2) 文章表現法A (1) 文章表現法B (1) 日本語史A,B (2,2) 日本語学文献研究 (2) 日本語学文献研究(1) (2) 日本語学文献研究(2) (2) 日本語の形態と構文A,B (2,2) 日本語の意味と語彙A,B (2,2) 日本語の音声とアクセント (2) 日本語の音声とアクセント(1) (2) 日本語の音声とアクセント(2) (2) 日本語の文体と表現 (2) 日本語の文体と表現A,B (2,2)
国文学 (国文学史を含む。)	28	36	[日本古典文学史1 (2) 日本古典文学史2 (2) 日本古典文学史3 (2) 日本古典文学史4 (2) *4● [日本近代文学史A (2) 日本近代文学史B (2) 上代文学研究の方法 (2) 中古文学研究の方法 (2) 中世文学研究の方法 (2) 近世文学研究の方法 (2) 近現代文学研究の方法 (2) キリスト教と日本文学 (2) 文学と子ども (2) 文字と文学 (2) 神話の世界 (2) 説話の世界 (2) 物語の世界 (2) 日記の世界 (2) 随筆の世界 (2) 軍記の世界 (2) 古代和歌の世界 (2) 中世和歌の世界 (2) 俳諧の世界 (2) 近世小説の世界 (2) 近代小説の世界 (2) 現代小説の世界 (2) 近現代詩歌の世界 (2) 文学と都市空間 (2) 同時代文学の世界 (2)	*3● [日本古典文学史A (2) 日本古典文学史B (2) *4● [日本近代文学史A (2) 日本近代文学史B (2) 上代文学論 (4) 中古文学論 (4) 中古文学論A,B (2,2) 中世文学論 (4) 中世文学論A (2) 近世文学論 (4) 近世文学論A,B (2,2) 近現代文学論 (4) キリスト教と日本文学 (2) 文学と子ども (2) 言語と子ども (2) 神話・説話の世界 (2) 神話・説話の世界(1) (2) 神話・説話の世界(2) (2) 物語の世界 (2) 物語の世界(1) (2) 物語の世界(2) (2) 和歌の世界 (2) 和歌の世界(1) (2) 和歌の世界(2) (2) 俳諧の世界 (2) 近世小説の世界 (2) 近現代小説の世界(1) (2) 近現代小説の世界(2) (2) 近・現代小説の世界 (4) 文学と都市空間 (2) 同時代の文学 (2)
漢文学			*5● [漢文学概説A (2) 漢文学概説B (2) 漢詩漢文の世界1 (2) 漢詩漢文の世界2 (2) 漢字の世界1 (2) 漢字の世界2 (2) 日中比較言語・文学の世界 (2)	*5● [漢文学概説A (2) 漢文学概説B (2) 漢文学作品論A,B (2,2) 漢字学入門 (2) 漢字学入門(1) (2) 漢字学入門(2) (2) 日中比較言語・文学 (2)
書道 (書写を中心とする。)			*6● [書道A (1) 書道B (1)	*6● [書道A (1) 書道B (1)
履修上の注意 ●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。 *5…いずれか1科目を必修とします。 *6…いずれか1科目を必修とします。 2) 中一種免許状取得については、「書道」の科目をいずれか1科目必修とします。 なお、「書道」の科目は高一種免許状取得のための単位には算入されません。 3) A, Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。				

(3) 社会 (中学) : 国際交流学部国際交流学科

2012・2013年度開講科目

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開講科目		
	中学校			
日本史及び外国史		*1 ● 日本史概説A (2) 日本史概説B (2) *2 ● 世界史概説A (2) 世界史概説B (2) 文化摩擦 (2) 文化交流論A (2) 文化交流論B (2) 日本政治外交史 (4) 日本文化論 (4) 横浜学 (4)	(2) (2) (2) (2) (2) (2) (4) (4) (4) (4)	アジア近・現代史 (4) アジア近・現代史A (2) アジア近・現代史B (2) ヨーロッパ世界の近・現代史 (4) イギリス史A,B (2,2) アメリカ史 (4) 日米外交史 (2) 日本社会思想史 (4)
地理学 (地誌を含む。)		● 人文地理学 (2) ● 自然地理学 (2) ● 地誌 (2) 地球環境 (2) 環境保全行動論 (2) 資源問題 (2) 人口問題 (2) アジアと日本 (日朝・日中) (4) アジアの政治と社会1 (中国研究) (4) アジアの政治と社会2 (朝鮮研究) (4) アジアの政治と社会3 (東南アジア研究1) (4) アジアの政治と社会4 (東南アジア研究2) A,B (2,2) アジアの政治と社会5 (南アジア研究1) (4) ヨーロッパ統合 (4) ヨーロッパ世界の政治と社会1 (西欧研究) (4)	(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (4) (4) (4) (2,2) (4) (4) (4) (4)	ヨーロッパ世界の政治と社会2 (南欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会3 (ロシア・東欧研究) A,B (2,2) ヨーロッパ世界の政治と社会4 (北欧研究) A,B (2,2) イギリスの政治と社会A,B (2,2) イギリス文化論総説A,B (2,2) アメリカの政治と社会A,B (2,2) 現代アメリカ論 (4) カナダの政治と社会 (4) ラテンアメリカ地域文化研究 (4) オーストラリア地域文化研究A,B (2,2) アフリカの政治と社会 (2) 中東の政治と社会 (2)
「法学、政治学」	28	● 政治学概論 (2) 南北問題 (2) 外国人関係諸法A,B (2,2) 平和思想と運動 (2) 軍縮問題 (2) 日本の行政・地方自治法A,B (2,2) 国際関係論 (2) 国際法A,B (2,2) 比較法 (4) 比較憲法 (4) 国際人権法 (2)	(2) (2) (2,2) (2) (2) (2,2) (2) (2,2) (2) (4) (4) (2)	国際政治学 (4) 国際機構論 (4) 国際統合論 (2) 国際平和論 (4) 現代外交論 (2) 統治機構・人権論A,B (2,2) 国際関係史A,B (2,2) 政治思想史A,B (2,2) 国際政治経済学A,B (2,2)
「社会学、経済学」		*3 ● 社会学概論A (2) 社会学概論B (2) 家族計画・保健 (2) 家族・福祉 (2) 国際移民・労働移動 (2) 在日外国人 (2) 余暇と旅行 (2) 民族問題 (2) 日本経済論 (2) 日本経済論(2) (2) 日本経済論(3) (2) 国際経済論 (4) 国際経済史 (4) 国際ビジネス論A,B (2,2)	(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (4) (4) (2,2)	国際社会学A,B (2,2) 国際開発論 (4) 国際協力論 (2) 地域の国際交流・協力 (2) 国際交通論 (2) 社会統計学A,B (2,2) 国際N G O論 (4) 余暇社会学 (2) 社会経済思想史 (4) グローバル社会経済論 (2)
「哲学、倫理学、宗教学」		*4 ● 哲学A(2) (2) 哲学B(2) (2) 世界宗教論 (2) アジアの思想・宗教1 (仏教) A,B (2,2) アジアの思想・宗教2 (儒教) (4) アジアの思想・宗教3 (イスラム) (2)	(2) (2) (2) (2,2) (4) (2)	ヨーロッパ世界の思想・宗教1 (キリスト教) (2) ヨーロッパ世界の思想・宗教2 (近・現代思潮) (2) イギリスの思想・宗教A,B (2,2) アメリカの思想・宗教A,B (2,2)
履修上の注意				
●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。 2) 「哲学A (2)」「哲学B (2)」は基礎教養科目です。 3) A, Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。				

(3) 社会 (中学) : 国際交流学部国際交流学科

2011年度開講科目

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開 講 科 目	
	中学校		
日本史及び外国史	28	*1 ● 日本史概説A (2) 日本史概説B (2)	
		*2 ● 世界史概説A (2) 世界史概説B (2)	
		文化摩擦 (2) 文化交流論 (4) 日本政治外交史 (4) 日本文化論 (4) 横浜学 (4) アジア近・現代史 (4)	ヨーロッパ世界の近・現代史 (4) イギリス史A,B (2,2) アメリカ史 (4) 日米外交史 (2) 日本社会思想史 (4)
地理学 (地誌を含む。)		● 人文地理学 (2) ● 自然地理学 (2) ● 地誌 (2) 地球環境 (2) 環境保全行動論 (2) 資源問題 (2) 人口問題 (2) 観光文化論 (2) アジアと日本 (日朝・日中) (4) アジアの政治と社会1 (中国研究) (4) アジアの政治と社会2 (朝鮮研究) (4) アジアの政治と社会3 (東南アジア研究1) (4) アジアの政治と社会4 (東南アジア研究2) A,B (2,2) アジアの政治と社会5 (南アジア研究1) (4) ヨーロッパ統合 (4) ヨーロッパ世界の政治と社会1 (西欧研究) (4)	ヨーロッパ世界の政治と社会2 (南欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会3 (ロシア・東欧研究) A,B (2,2) ヨーロッパ世界の政治と社会4 (北欧研究) A,B (2,2) イギリスの政治と社会A,B (2,2) イギリス文化論総説A,B (2,2) アメリカの政治と社会A,B (2,2) 現代アメリカ論 (4) カナダの政治と社会 (4) ラテンアメリカ地域文化研究 (4) オーストラリア地域文化研究A,B (2,2) アフリカの政治と社会 (2) 中東の政治と社会 (2)
「法律学、政治学」		● 政治学概論 (2) 南北問題 (2) 外国人関係諸法A,B (2,2) 平和思想と運動 (2) 軍縮問題 (2) 日本の行政・地方自治法A,B (2,2) 国際関係論 (2) 国際法A,B (2,2) 比較法 (4) 比較憲法 (4) 国際人権法 (2)	国際政治学 (4) 国際機構論 (4) 国際統合論 (2) 国際平和論 (4) 現代外交論 (2) 統治機構・人権論A,B (2,2) 国際関係史A,B (2,2) 政治思想史A,B (2,2) 国際政治経済学A,B (2,2)
「社会学、経済学」		*3 ● 社会学概論A (2) 社会学概論B (2) 家族計画・保健 (2) 家族・福祉 (2) 国際移民・労働移動 (2) 在日外国人 (2) 余暇と旅行 (2) 民族問題 (2) 現代社会論 (4) 日本経済論 (2) 日本経済論 (3) (2) 国際経済論 (4) 国際経済史 (4) 国際ビジネス論A,B (2,2)	国際社会学A,B (2,2) 国際開発論 (4) 国際協力論 (2) 地域の国際交流・協力 (2) 国際交通論 (2) 社会統計学A,B (2,2) 国際NGO論 (4) 余暇社会学 (2) 社会経済思想史 (4) グローバル社会経済論 (2)
「哲学、倫理学、宗教学」		*4 ● 哲学A (2) 哲学B (2) 世界宗教論 (2) アジアの思想・宗教1 (仏教) A,B (2,2) アジアの思想・宗教2 (儒教) (4) アジアの思想・宗教3 (イスラム) (2)	ヨーロッパ世界の思想・宗教1 (キリスト教) (2) ヨーロッパ世界の思想・宗教2 (近・現代思潮) (2) イギリスの思想・宗教A,B (2,2) アメリカの思想・宗教A,B (2,2)
履修上の注意 ●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。 2) 「哲学A (2)」「哲学B (2)」は基礎教養科目です。 3) A, Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。			

社会（中学）：国際交流学部国際交流学科

2010年度開講科目

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開講科目	
	中学校		
日本史及び外国史	28	*1● {日本史概説A (2) 日本史概説B (2) 世界史概説A (2) 世界史概説B (2)}	ヨーロッパ世界の近・現代史 (4) イギリス史A,B (2,2) アメリカ史 (4) 日米外交史 (2) 日本社会思想史 (4)
地理学 (地誌を含む。)		●人文地理学 (2) ●自然地理学 (2) ●地誌 (2) 地球環境 (2) 環境保全行動論 (2) 資源問題 (2) 人口問題 (2) 観光文化論 (2) アジアと日本 (日朝・日中) (4) アジアの政治と社会1(中国研究) (4) アジアの政治と社会2(朝鮮研究) (4) アジアの政治と社会3(東南アジア研究1) (4) アジアの政治と社会4(東南アジア研究2)A,B (2,2) アジアの政治と社会5(南アジア研究1) (4) ヨーロッパ統合 (4)	ヨーロッパ世界の政治と社会1(西欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会2(南欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会3(ロシア・東欧研究)A,B (2,2) ヨーロッパ世界の政治と社会4(北欧研究)A,B (2,2) イギリスの政治と社会A,B (2,2) イギリス文化論総説A,B (2,2) アメリカの政治と社会A,B (2,2) 現代アメリカ論 (4) カナダの政治と社会 (4) ラテンアメリカ地域文化研究 (4) オーストラリア地域文化研究A,B (2,2)
「法学、政治学」		●政治学概論 (2) 南北問題 (2) 外国人関係諸法A,B (2,2) 平和思想と運動 (2) 軍縮問題 (2) 日本の行政・地方自治法A,B (2,2) 国際関係論 (2) 国際法A,B (2,2) 比較法 (4) 比較憲法 (4) 国際人権法 (2)	国際政治学 (4) 国際機構論 (4) 国際統合論 (2) 国際平和論 (4) 現代外交論 (2) 統治機構・人権論A,B (2,2) 国際関係史A,B (2,2) 政治思想史A,B (2,2) 国際政治経済学A,B (2,2)
「社会学、経済学」		*3● {社会学概説A (2) 社会学概説B (2) 家族計画・保健 (2) 家族・福祉 (2) 国際移民・労働移動 (2) 在日外国人 (2) 余暇と旅行 (2) 民族問題 (2) 現代社会論 (4) 日本経済論 (2) 日本経済論(2) (2) 日本経済論(3) (2) 国際経済論 (4) 国際経済史 (4)}	国際ビジネス論A,B (2,2) 国際社会学A,B (2,2) 国際開発論 (4) 国際協力論 (2) 地域の国際交流・協力 (2) 国際交通論 (2) 社会統計学A,B (2,2) 国際NGO論 (4) 余暇社会学 (2) 社会経済思想史 (4) グローバル社会経済論 (2)
「哲学、倫理学、宗教学」	*4● {哲学A(2) (2) 哲学B(2) (2) 世界宗教論 (2) アジアの思想・宗教1(仏教)A,B (2,2) アジアの思想・宗教2(儒教) (4) アジアの思想・宗教3(イスラム)A,B (2,2)}	ヨーロッパ世界の思想・宗教1(キリスト教) (2) ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮) (2) イギリスの思想・宗教A,B (2,2) アメリカの思想・宗教A,B (2,2)	
履修上の注意 ●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。 2) 「哲学A(2)」「哲学B(2)」は基礎教養科目です。 3) A, Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。			

(4) 地理歴史（高校）：国際交流学部国際交流学科

2012・2013年度開講科目

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開 講 科 目	
	高等学校		
日本史	36	*1● 日本史概説A (2) 日本史概説B (2) 日本政治外交史 (4) 日本文化論 (4) 横浜学 (4)	日米外交史 (2) 日本社会思想史 (4)
外国史		*2● 世界史概説A (2) 世界史概説B (2) 文化摩擦 (2) 文化交流論A (2) 文化交流論B (2) アジア近・現代史 (4) アジア近・現代史A (2) アジア近・現代史B (2)	ヨーロッパ世界の近・現代史 (4) イギリス史A,B (2,2) アメリカ史 (4)
人文地理学及び自然地理学		●人文地理学 (2) ●自然地理学 (2) 地球環境 (2) 環境保全行動論 (2) 資源問題 (2)	人口問題 (2)
地誌		●地誌 (2) アジアと日本(日朝・日中) (4) アジアの政治と社会1(中国研究) (4) アジアの政治と社会2(朝鮮研究) (4) アジアの政治と社会3(東南アジア研究1) (4) アジアの政治と社会4(東南アジア研究2)A,B (2,2) アジアの政治と社会5(南アジア研究1) (4) ヨーロッパ統合 (4) ヨーロッパ世界の政治と社会1(西欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会2(南欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会3(ロシア・東欧研究)A,B (2,2)	ヨーロッパ世界の政治と社会4(北欧研究)A,B (2,2) イギリスの政治と社会A,B (2,2) イギリス文化論総説A,B (2,2) アメリカの政治と社会A,B (2,2) 現代アメリカ論 (4) カナダの政治と社会 (4) ラテンアメリカ地域文化研究 (4) オーストラリア地域文化研究A,B (2,2) アフリカの政治と社会 (2) 中東の政治と社会 (2)
履修上の注意 ●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 2) A,Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。			

2011年度開講科目

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開 講 科 目	
	高等学校		
日本史	36	*1● 日本史概説A (2) 日本史概説B (2) 日本政治外交史 (4) 日本文化論 (4) 横浜学 (4)	日米外交史 (2) 日本社会思想史 (4)
外国史		*2● 世界史概説A (2) 世界史概説B (2) 文化摩擦 (2) 文化交流論 (4) アジア近・現代史 (4)	ヨーロッパ世界の近・現代史 (4) イギリス史A,B (2,2) アメリカ史 (4)
人文地理学及び自然地理学		●人文地理学 (2) ●自然地理学 (2) 地球環境 (2) 環境保全行動論 (2) 資源問題 (2)	人口問題 (2) 観光文化論 (2)
地誌		●地誌 (2) アジアと日本(日朝・日中) (4) アジアの政治と社会1(中国研究) (4) アジアの政治と社会2(朝鮮研究) (4) アジアの政治と社会3(東南アジア研究1) (4) アジアの政治と社会4(東南アジア研究2)A,B (2,2) アジアの政治と社会5(南アジア研究1) (4) ヨーロッパ統合 (4) ヨーロッパ世界の政治と社会1(西欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会2(南欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会3(ロシア・東欧研究)A,B (2,2)	ヨーロッパ世界の政治と社会4(北欧研究)A,B (2,2) イギリスの政治と社会A,B (2,2) イギリス文化論総説A,B (2,2) アメリカの政治と社会A,B (2,2) 現代アメリカ論 (4) カナダの政治と社会 (4) ラテンアメリカ地域文化研究 (4) オーストラリア地域文化研究A,B (2,2) アフリカの政治と社会 (2) 中東の政治と社会 (2)
履修上の注意 ●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 2) A,Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。			

2009・2010年度開講科目

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開 講 科 目			
	高等学校				
日本史	36	*1●	日本史概説A (2) 日本史概説B (2) 日本政治外交史 (4) 日本文化論 (4) 横浜学 (4)	日米外交史 (2) 日本社会思想史 (4)	
外国史		*2●	世界史概説A (2) 世界史概説B (2) 文化摩擦 (2) 文化交流論 (4) アジア近・現代史 (4)	ヨーロッパ世界の近・現代史 (4) イギリス史A,B (2,2) アメリカ史 (4)	
人文地理学及び自然地理学		●	人文地理学 (2) 自然地理学 (2) 地球環境 (2) 環境保全行動論 (2) 資源問題 (2)	人口問題 (2) 観光文化論 (2)	
地誌		●	地誌 (2) アジアと日本 (日朝・日中) (4) アジアの政治と社会1(中国研究) (4) アジアの政治と社会2(朝鮮研究) (4) アジアの政治と社会3(東南アジア研究1) (4) アジアの政治と社会4(東南アジア研究2)A,B (2,2) アジアの政治と社会5(南アジア研究1) (4) ヨーロッパ統合 (4) ヨーロッパ世界の政治と社会1(西欧研究) (4) ヨーロッパ世界の政治と社会2(南欧研究) (4)	ヨーロッパ世界の政治と社会3(ロシア・東欧研究)A,B (2,2) ヨーロッパ世界の政治と社会4(北欧研究)A,B (2,2) イギリスの政治と社会A,B (2,2) イギリス文化論総説A,B (2,2) アメリカの政治と社会A,B (2,2) 現代アメリカ論 (4) カナダの政治と社会 (4) ラテンアメリカ地域文化研究 (4) オーストラリア地域文化研究A,B (2,2)	
履修上の注意					
●…教職必修科目					
1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。					
2) A,Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。					

(5) 公民 (高校) : 国際交流学部国際交流学科

2012・2013年度開講科目		() 内は単位数	
教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開 講 科 目	
	高等学校		
「法律学 (国際法を含む。)、政治学 (国際政治を含む。)」	36	●政治学概論 (2)	国際政治学 (4)
		南北問題 (2)	国際機構論 (4)
		外国人関係諸法A,B (2,2)	国際統合論 (2)
「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」	36	平和思想と運動 (2)	国際平和論 (4)
		軍縮問題 (2)	現代外交論 (2)
		日本の行政・地方自治法A,B (2,2)	統治機構・人権論A,B (2,2)
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	36	国際関係論 (2)	国際関係史A,B (2,2)
		国際法A,B (2,2)	政治思想史A,B (2,2)
		比較法 (4)	国際政治経済学A,B (2,2)
履修上の注意	●…教職必修科目	比較憲法 (4)	
		国際人権法 (2)	
		社会学概論A (2)	
履修上の注意	●…教職必修科目	社会学概論B (2)	
		家族計画・保健 (2)	国際社会学A,B (2,2)
		家族・福祉 (2)	国際開発論 (4)
履修上の注意	●…教職必修科目	国際移民・労働移動 (2)	国際協力論 (2)
		在日外国人 (2)	地域の国際交流・協力 (2)
		余暇と旅行 (2)	国際交通論 (2)
履修上の注意	●…教職必修科目	民族問題 (2)	社会統計学A,B (2,2)
		日本経済論 (2)	国際NGO論 (4)
		国際経済論 (4)	余暇社会学 (2)
履修上の注意	●…教職必修科目	国際経済史 (4)	社会経済思想史 (4)
		国際ビジネス論A,B (2,2)	グローバル社会経済論 (2)
		哲学A(2) (2)	
履修上の注意	●…教職必修科目	哲学B(2) (2)	
		世界宗教論 (2)	ヨーロッパ世界の思想・宗教1(キリスト教) (2)
		アジアの思想・宗教1(仏教) A,B (2,2)	ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮) (2)
履修上の注意	●…教職必修科目	アジアの思想・宗教2(儒教) (4)	イギリスの思想・宗教A,B (2,2)
		アジアの思想・宗教3(イスラム) (2)	アメリカの思想・宗教A,B (2,2)
		1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。	
履修上の注意	●…教職必修科目	2) 「哲学A(2)」「哲学B(2)」は基礎教養科目です。	
		3) A,Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。	

2011年度開講科目		() 内は単位数	
教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開 講 科 目	
	高等学校		
「法律学 (国際法を含む。)、政治学 (国際政治を含む。)」	36	●政治学概論 (2)	国際政治学 (4)
		南北問題 (2)	国際機構論 (4)
		外国人関係諸法A,B (2,2)	国際統合論 (2)
「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」	36	平和思想と運動 (2)	国際平和論 (4)
		軍縮問題 (2)	現代外交論 (2)
		日本の行政・地方自治法A,B (2,2)	統治機構・人権論A,B (2,2)
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	36	国際関係論 (2)	国際関係史A,B (2,2)
		国際法A,B (2,2)	政治思想史A,B (2,2)
		比較法 (4)	国際政治経済学A,B (2,2)
履修上の注意	●…教職必修科目	比較憲法 (4)	
		国際人権法 (2)	
		社会学概論A (2)	
履修上の注意	●…教職必修科目	社会学概論B (2)	
		家族計画・保健 (2)	国際ビジネス論A,B (2,2)
		家族・福祉 (2)	国際社会学A,B (2,2)
履修上の注意	●…教職必修科目	国際移民・労働移動 (2)	国際開発論 (4)
		在日外国人 (2)	国際協力論 (2)
		余暇と旅行 (2)	地域の国際交流・協力 (2)
履修上の注意	●…教職必修科目	民族問題 (2)	国際交通論 (2)
		現代社会論 (4)	社会統計学A,B (2,2)
		日本経済論 (2)	国際NGO論 (4)
履修上の注意	●…教職必修科目	国際経済論 (4)	余暇社会学 (2)
		国際経済史 (4)	社会経済思想史 (4)
		国際ビジネス論A,B (2,2)	グローバル社会経済論 (2)
履修上の注意	●…教職必修科目	哲学A(2) (2)	
		哲学B(2) (2)	
		世界宗教論 (2)	ヨーロッパ世界の思想・宗教1(キリスト教) (2)
履修上の注意	●…教職必修科目	アジアの思想・宗教1(仏教) A,B (2,2)	ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮) (2)
		アジアの思想・宗教2(儒教) (4)	イギリスの思想・宗教A,B (2,2)
		アジアの思想・宗教3(イスラム) (2)	アメリカの思想・宗教A,B (2,2)
履修上の注意	●…教職必修科目	1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。	
		2) 「哲学A(2)」「哲学B(2)」は基礎教養科目です。	
		3) A,Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。	

2010年度開講科目

()内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	開 講 科 目	
	高等学校		
「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	36	<ul style="list-style-type: none"> ●政治学概論 (2) 南北問題 (2) 外国人関係諸法A,B (2,2) 平和思想と運動 (2) 軍縮問題 (2) 日本の行政・地方自治法A,B (2,2) 国際関係論 (2) 国際法A,B (2,2) 比較法 (4) 比較憲法 (4) 国際人権法 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際政治学 (4) 国際機構論 (4) 国際統合論 (2) 国際平和論 (4) 現代外交論 (2) 統治機構・人権論A,B (2,2) 国際関係史A,B (2,2) 政治思想史A,B (2,2) 国際政治経済学A,B (2,2)
「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		<ul style="list-style-type: none"> *1●社会学概論A (2) 社会学概論B (2) 家族計画・保健 (2) 家族・福祉 (2) 国際移民・労働移動 (2) 在日外国人 (2) 余暇と旅行 (2) 民族問題 (2) 現代社会論 (4) 日本経済論 (2) 国際経済論 (4) 国際経済史 (4) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際ビジネス論A,B (2,2) 国際社会学A,B (2,2) 国際開発論 (4) 国際協力論 (2) 地域の国際交流・協力 (2) 国際交通論 (2) 社会統計学A,B (2,2) 国際NGO論 (4) 余暇社会学 (2) 社会経済思想史 (4) グローバル社会経済論 (2)
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		<ul style="list-style-type: none"> *2●哲学A(2) (2) 哲学B(2) (2) 世界宗教論 (2) アジアの思想・宗教1(仏教) A,B (2,2) アジアの思想・宗教2(儒教) (4) アジアの思想・宗教3(イスラム)A,B (2,2) 	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ世界の思想・宗教1(キリスト教) (2) ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮) (2) イギリスの思想・宗教A,B (2,2) アメリカの思想・宗教A,B (2,2)
<p>履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ●…教職必修科目 1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 2) 「哲学A(2)」「哲学B(2)」は基礎教養科目です。 3) A,Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。 			

(6) 音楽：音楽学部音楽芸術学科

2011年度以降入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数		開講科目	
	中学校	高等学校		
ソルフェージュ			*1●	ソルフェージュ1 (1) ソルフェージュ2 (1) ソルフェージュ3 (1) ソルフェージュ4 (1)
声乐（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）			*2●	合唱ⅠA (1) 合唱ⅠB (1) 合唱ⅡA (1) 合唱ⅡB (1) ■合唱ⅢA (1) ■合唱ⅢA (1) ■声楽アンサンブルA (1) ■声楽アンサンブルB (1) ●邦楽1 (1)
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	28	36	*4●	合奏 (1) ■プラスアンサンブルA (1) ■プラスアンサンブルB (1) ■PA副科個人実技A (2) ■PA副科個人実技B (2) 伴奏法A (1) 伴奏法B (1) *5●
指揮法			*7●	コーラス・リーダー・ワークショップA (2) コーラス・リーダー・ワークショップB (2) 指揮法A (2)
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）			●西洋音楽通史 (4) ●日本音楽通史 (4) 西洋音楽史特殊講義1 (2) 西洋音楽史特殊講義2 (2) 日本音楽史特殊講義 (2) ポピュラー音楽史 (2)	
履修上の注意			●…教職必修科目 ■…音楽学部内開放科目	<p>1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。なお、「PA副科個人実技A, B」については、講義題目：ピアノデュオに限ります。 *5…いずれか1科目を必修とします。なお、「PA副科個人実技A, B」については、講義題目：鍵盤楽器伴奏法に限ります。 *6…いずれか1科目を必修とします。なお、「PA副科個人実技A, B」については、講義題目：オルガン、チェンバロ、クラヴィコード、邦楽（三味線）、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ヴィオラ・ダ・ガンバ、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ハープ、サクソフォーン、ホルン、トランペット、トロンボーンのいずれかに限ります。 *7…いずれか1科目を必修とします。 *8…いずれか1科目を必修とします。 *9…いずれか1科目を必修とします。 2) A,Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。</p>

音楽：音楽学部音楽芸術学科

2006～2010年度入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数		開講科目	
	中学校	高等学校		
ソルフェージュ			*1●	<ul style="list-style-type: none"> ソルフェージュ1 (1) ソルフェージュ2 (1) ソルフェージュ3 (1) ソルフェージュ4 (1)
声乐(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)			*2●	<ul style="list-style-type: none"> 合唱ⅠA (1) 合唱ⅠB (1) 合唱ⅡA (1) 合唱ⅡB (1) 合唱ⅢA (1) 合唱ⅢB (1) 声乐アンサンブルA (1) 声乐アンサンブルB (1) 邦楽Ⅰ (1)
器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	28	36	*4●	<ul style="list-style-type: none"> 合奏A (1) 合奏B (1) 第2副科実技(器楽)A(ピアノデュオ) (2) 第2副科実技(器楽)B(ピアノデュオ) (2) 伴奏法A (1) 伴奏法B (1) 第2副科実技(器楽)A(鍵盤楽器伴奏法) (2) 第2副科実技(器楽)B(鍵盤楽器伴奏法) (2)
指揮法			*7●	<ul style="list-style-type: none"> コーラス・リーダー・ワークショップA (2) コーラス・リーダー・ワークショップB (2) 指揮法A (2)
音楽理論、作曲法(編曲法を含む。)及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)			●	<ul style="list-style-type: none"> 西洋音楽通史 (4) 日本音楽通史 (4) 西洋音楽史特殊講義1 (2) 西洋音楽史特殊講義2 (2) 日本音楽史特殊講義 (2) 日本音楽史特殊講義(2) (2) ポピュラー音楽史 (2)
			*3●	<ul style="list-style-type: none"> 基礎声乐A (1) 基礎声乐B (1) 第2副科実技(声乐)A (2) 第2副科実技(声乐)B (2) イタリア語歌唱法A, B (1,1) ドイツ語歌唱法A, B (1,1)
			*6●	<ul style="list-style-type: none"> 基礎ピアノA (1) 基礎ピアノB (1) キリスト教オルガン実技 (1) 第2副科実技(器楽)A (2) 第2副科実技(器楽)B (2) 第2副科実技(器楽)A(ピアノ) (2) 第2副科実技(器楽)B(ピアノ) (2) 邦楽2 (2)
			*8●	<ul style="list-style-type: none"> 和声ⅠA (2) 和声ⅠB (2) 和声ⅡA (2) 和声ⅡB (2)
			*9●	<ul style="list-style-type: none"> 作・編曲法A (2) 作・編曲法B (2)
			*10●	<ul style="list-style-type: none"> 諸民族の音楽A (2) 諸民族の音楽B (2)
<p>履修上の注意</p> <p>●…教職必修科目 ■…音楽学部内開放科目</p> <p>1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。なお、「第2副科実技(器楽)A, B」については、講義題目：ピアノデュオに限ります。 *5…いずれか1科目を必修とします。なお、「第2副科実技(器楽)A, B」については、講義題目：鍵盤楽器伴奏法に限ります。 *6…いずれか1科目を必修とします。なお、「第2副科実技(器楽)A, B」については、講義題目：オルガン、チェンバロ、クラヴィコード、邦楽(三味線)、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ヴィオラ・ダ・ガンバ、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ハーブ、サクソフォーン、リコーダー、ホルン、トランペット、トロンボーンのいずれかに限ります。 *7…いずれか1科目を必修とします。 *8…いずれか1科目を必修とします。 *9…いずれか1科目を必修とします。 *10…いずれか1科目を必修とします。 2) A, Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。</p>				

(7) 音楽：音楽学部演奏学科

2011年度以降入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数		開講科目			
	中学校	高等学校				
ソルフェージュ	28	36	*1●	ソルフェージュⅠA, B (1,1) ソルフェージュⅡA, B (1,1) ソルフェージュⅢA, B (1,1) ソルフェージュⅣA, B (1,1) ソルフェージュⅤA, B (1,1) ソルフェージュⅥA, B (1,1) ソルフェージュⅦA, B (1,1) ソルフェージュⅧA, B (1,1)		
声乐(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)			*2●	専攻実技(声乐)ⅠA, B (3,3) 専攻実技(声乐)ⅡA, B (3,3) 専攻実技(声乐)ⅢA, B (3,3) 専攻実技(声乐)ⅣA, B (3,3) 副科声乐クラスA, B (1,1) PA初習副科個人実技A, B (1,1) PA副科個人実技A, B (2,2) PA第2専攻個人実技A, B (3,3)	*3●	合唱ⅠA, B (1,1) 合唱ⅡA, B (1,1) 合唱ⅢA, B (1,1) 声乐歌唱法(イタリア語) (1) 声乐歌唱法(ドイツ語) (1) オペラ・アンサンブルA, B (1,1) 声乐アンサンブルA, B (1,1) オラトリオ研究A, B (1,1) ●邦楽Ⅰ (1)
器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)			*4●	専攻実技(鍵盤楽器)ⅠA, B (3,3) 専攻実技(鍵盤楽器)ⅡA, B (3,3) 専攻実技(鍵盤楽器)ⅢA, B (3,3) 専攻実技(鍵盤楽器)ⅣA, B (3,3) 専攻実技(弦楽器)ⅠA, B (3,3) 専攻実技(弦楽器)ⅡA, B (3,3) 専攻実技(弦楽器)ⅢA, B (3,3) 専攻実技(弦楽器)ⅣA, B (3,3) 専攻実技(管楽器)ⅠA, B (3,3) 専攻実技(管楽器)ⅡA, B (3,3) 専攻実技(管楽器)ⅢA, B (3,3) 専攻実技(管楽器)ⅣA, B (3,3) 副科ピアノクラスA, B (1,1) PA初習副科個人実技A, B (1,1) PA副科個人実技A, B (2,2) PA第2専攻個人実技A, B (3,3)	*5●	キリスト教オルガン音楽実践A, B (1,1) 室内楽ⅠA, B (1,1) 室内楽2A, B (1,1) 室内楽3A, B (1,1) 室内楽4A, B (1,1) 管弦アンサンブルA, B (2,2) プラスアンサンブルA, B (1,1) ピアノ・デュオA, B (1,1) ■合奏 (1) PA副科個人実技A, B (2,2) 伴奏法A (1) 伴奏法B (1) *6● PA副科個人実技A(鍵盤楽器伴奏法) (2) PA副科個人実技B(鍵盤楽器伴奏法) (2) 共演芸術A, B (2,2) ●邦楽2 (1)
指揮法			*7●	指揮法A (2) 指揮法B (2)		
音楽理論、作曲法(編曲法を含む。)及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)				●西洋音楽通史 (4) ●日本音楽通史 (4) ■西洋音楽史特殊講義1 (2) ■西洋音楽史特殊講義2 (2) ■日本音楽史特殊講義 (2) ■ポピュラー音楽史 (2)	*8●	和声ⅠA (2) 和声ⅠB (2) 和声ⅡA (2) 和声ⅡB (2) 対位法A, B (2,2) ●作・編曲法 (2) *9● 諸民族の音楽A (2) 諸民族の音楽B (2)
履修上の注意 ●…教職必修科目 ■…音楽学部内開放科目			<p>1) *1…いずれか1科目を必修とします。 *2…いずれか1科目を必修とします。 *3…いずれか1科目を必修とします。</p> <p>*4…いずれか1科目を必修とします。なお、「PA初習副科個人実技A, B」については、講義題目：ピアノ、オルガン、チェンバロ、クラヴィコード、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーンの内いずれかに限ります。また、「PA副科個人実技A, B」については、講義題目：オルガン、チェンバロ、クラヴィコード、邦楽(三味線)、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ヴィオラ・ダ・ガンバ、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ハーブ、サクソフォーン、ホルン、トランペット、トロンボーンの内いずれかに限ります。</p> <p>*5…いずれか1科目を必修とします。なお、「PA副科個人実技A, B」については、講義題目：ピアノデュオに限ります。</p> <p>*6…いずれか1科目を必修とします。なお、「PA副科個人実技A, B」については、講義題目：鍵盤楽器伴奏法に限ります。</p> <p>*7…いずれか1科目を必修とします。 *8…いずれか1科目を必修とします。</p> <p>*9…いずれか1科目を必修とします。</p> <p>2) A, Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。</p> <p>3) 管・弦選択者は、「副科ピアノクラスA, Bの内いずれかを履修することが望まれます。</p>			

音楽：音楽学部演奏学科

2006～2010年度入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数		開 講 科 目	
	中学校	高等学校		
ソルフェージュ			*1● ソルフェージュⅠA,B (1,1) ソルフェージュⅡA,B (1,1) ソルフェージュⅢA,B (1,1) ソルフェージュⅣA,B (1,1) ソルフェージュⅤA,B (1,1) ソルフェージュⅥA,B (1,1) ソルフェージュⅦA,B (1,1) ソルフェージュⅧA,B (1,1)	ソルフェージュ1,2 (1,1) ソルフェージュ3,4 (1,1)
声楽 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)			*2● 専攻実技(声楽)Ⅰ (3) 専攻実技(声楽)Ⅱ (3) 専攻実技(声楽)Ⅲ (3) 専攻実技(声楽)Ⅳ (3) 専攻実技(声楽)Ⅴ (3) 専攻実技(声楽)Ⅵ (3) 専攻実技(声楽)Ⅶ (3) 専攻実技(声楽)Ⅷ (3) 副科実技(声楽)A,B (2,2) 副科実技(声楽)A,B (1,1) 第2副科実技(声楽)A,B (2,2) 第2専攻実技(声楽)Ⅴ (3) 第2専攻実技(声楽)Ⅵ (3) 第2専攻実技(声楽)Ⅶ (3) 第2専攻実技(声楽)Ⅷ (3)	*3● (合唱ⅠA (1) 合唱ⅠB (1) 合唱ⅡA (1) 合唱ⅡB (1) 合唱ⅢA (1) 合唱ⅢB (1) イタリア語歌唱法A,B (1,1) ドイツ語歌唱法A,B (1,1) オペラ・アンサンブルA,B (1,1) 声楽アンサンブルA,B (1,1) オラトリオ研究A,B (1,1) 邦楽1 (1)
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	28	36	*4● 専攻実技(鍵盤楽器)Ⅰ (3) 専攻実技(鍵盤楽器)Ⅱ (3) 専攻実技(鍵盤楽器)Ⅲ (3) 専攻実技(鍵盤楽器)Ⅳ (3) 専攻実技(鍵盤楽器)Ⅴ (3) 専攻実技(鍵盤楽器)Ⅵ (3) 専攻実技(鍵盤楽器)Ⅶ (3) 専攻実技(鍵盤楽器)Ⅷ (3) 専攻実技(弦楽器)Ⅰ (3) 専攻実技(弦楽器)Ⅱ (3) 専攻実技(弦楽器)Ⅲ (3) 専攻実技(弦楽器)Ⅳ (3) 専攻実技(弦楽器)Ⅴ (3) 専攻実技(弦楽器)Ⅵ (3) 専攻実技(弦楽器)Ⅶ (3) 専攻実技(弦楽器)Ⅷ (3) 副科実技(器楽)A,B (2,2) 副科実技(器楽)A,B (1,1) 副科実技(器楽)A,B(ピアノ) (2,2) 副科実技(器楽)A,B(ピアノ) (1,1) 第2副科実技(器楽)A,B (2,2) 第2副科実技(器楽)A,B(ピアノ) (2,2) 第2専攻実技(鍵盤楽器)Ⅴ (3) 第2専攻実技(鍵盤楽器)Ⅵ (3) 第2専攻実技(鍵盤楽器)Ⅶ (3) 第2専攻実技(鍵盤楽器)Ⅷ (3) 第2専攻実技(弦楽器)Ⅴ (3) 第2専攻実技(弦楽器)Ⅵ (3) 第2専攻実技(弦楽器)Ⅶ (3) 第2専攻実技(弦楽器)Ⅷ (3) 第2専攻実技(管楽器)Ⅴ (3) 第2専攻実技(管楽器)Ⅵ (3) 第2専攻実技(管楽器)Ⅶ (3) 第2専攻実技(管楽器)Ⅷ (3)	*5● キリスト教オルガン実践基礎 (1) キリスト教オルガン実践応用 (1) 室内楽ⅠA (1) 室内楽ⅠB (1) 室内楽ⅡA (1) 室内楽ⅡB (1) 管弦アンサンブルA (2) 管弦アンサンブルB (2) ブラスアンサンブルA (1) ブラスアンサンブルB (1) ピアノ・デュオA (1) ピアノ・デュオB (1) ■合奏A (1) ■合奏B (1) 第2副科実技(器楽)A(ピアノデュオ) (2) 第2副科実技(器楽)B(ピアノデュオ) (2) 伴奏法A (1) 伴奏法B (1) *6● 第2副科実技(器楽)A(鍵盤楽器伴奏法) (2) 第2副科実技(器楽)B(鍵盤楽器伴奏法) (2) 共演芸術A,B (2,2) 邦楽2 (1)
指揮法			*7● 指揮法A (2) 指揮法B (2)	
音楽理論、作曲法 (編曲法を含む。) 及び音楽史 (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)			●西洋音楽通史 (4) ●日本音楽通史 (4) ■西洋音楽史特殊講義1 (2) ■西洋音楽史特殊講義2 (2) ■日本音楽史特殊講義 (2) ■日本音楽史特殊講義(2) (2) ■ポピュラー音楽史 (2)	*8● (和声ⅠA (2) 和声ⅠB (2) 和声ⅡA (2) 和声ⅡB (2) *9● 作・編曲法A (2) 作・編曲法B (2) 第2副科実技(作曲)A,B (2,2) *10● 諸民族の音楽A (2) 諸民族の音楽B (2)
履修上の注意 ●…教職必修科目 ■…音楽学部内開放科目 1) *1…すべてのソルフェージュ科目からいずれか1科目を必修とします。「ソルフェージュ5,6,7,8」は2009年度以前開講科目です。 *2…いずれか1科目を必修とします。*3…いずれか1科目を必修とします。 *4…いずれか1科目を必修とします。なお、「副科実技(器楽)A,B」については、 講義題目:ヴィオラ、クラヴィコードのいずれかに限ります。また、「第2副科実技(器楽)A,B」については、 講義題目:オルガン、チェンバロ、クラヴィコード、邦楽(三味線)、ヴァイオリン、チェロ、コントラバス、 ヴァイオリン・ダガンバ、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ハーブ、サクソフォーン、リコーダー、ホルン、 トランペット、トロンボーンのいずれかに限ります。 *5…いずれか1科目を必修とします。なお、「第2副科実技(器楽)A,B」については、 講義題目:ピアノデュオに限りまます。 *6…いずれか1科目を必修とします。なお、「第2副科実技(器楽)A,B」については、 講義題目:鍵盤楽器伴奏法に限りまます。 *7…いずれか1科目を必修とします。*8…いずれか1科目を必修とします。 *9…いずれか1科目を必修とします。 *10…いずれか1科目を必修とします。 2) A,Bの履修については、「シラバス」に記載のとおりとします。 3) 管・弦選択者は、「副科実技(器楽)A,B(ピアノ)」のいずれかを履修することが望まれます。 4) 「副科実技(声楽)A,B」「副科実技(器楽)A,B」「副科実技(器楽)A,B(ピアノ)」は履修年度によって単位数が異なります。				

教職に関する科目

2010年度以降入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数		本学での開講科目	
		中学校	高等学校		
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2	教職入門 (2)	
	教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)				
	進路選択に資する各種の機会の提供等				
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2	2	教育原理 (2) 教育思想 (2)	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	2	2	教育心理学 (2)	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	2	2	教育社会学 (2)	
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	2	2	教育課程論 (2)	
	各教科の指導法	8	8	【2011年度入学者】 英語科教育法Ⅰ (4) 英語科教育法Ⅱ (4) 国語科教育法Ⅰ (4) 国語科教育法Ⅱ (4) 社会・地理歴史科教育法Ⅰ (2) 社会・地理歴史科教育法Ⅱ (2) 社会・公民科教育法Ⅰ (2) 社会・公民科教育法Ⅱ (2) 音楽科教育法Ⅰ (4) 音楽科教育法Ⅱ (4)	
				【2010年度入学者】 英語科教育法Ⅰ (2) 英語科教育法Ⅱ (2) 国語科教育法Ⅰ (2) 国語科教育法Ⅱ (2) 社会・地理歴史科教育法 (2) 社会・公民科教育法 (2) 地理歴史科教育法 (2) 公民科教育法 (2) 音楽科教育法Ⅰ (4) 音楽科教育法Ⅱ (4)	
	道徳の指導法	2		道徳教育の研究 (2)	
	特別活動の指導法	2	2	特別活動 (2)	
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	2	2	教育方法・技術 (2)	
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	2	2	生徒指導 (2)
		進路指導の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			
	教育実習		5	3	教育実習Ⅰ (1) 教育実習Ⅱ (2) 教育実習Ⅲ (2)
教職実践演習		2	2	教職実践演習(中・高) (2)	
合計	【2011年度以降入学者】	35	31		
	【2010年度入学者】	31 (*35)	27 (*31)		

*「音楽科教育法」は、合計8単位数修得しなければなりません。

【履修上の注意】

教科教育法の履修は、次のとおりとします。

2011年度以降入学者

英語(中学校・高等学校共通) …	「英語科教育法Ⅰ」	「英語科教育法Ⅱ」
国語(中学校・高等学校共通) …	「国語科教育法Ⅰ」	「国語科教育法Ⅱ」
社会・地理歴史・公民 (中学校・高等学校共通) …	「社会・地理歴史科教育法Ⅰ」	「社会・地理歴史科教育法Ⅱ」
音楽(中学校・高等学校共通) …	「社会・公民科教育法Ⅰ」	「社会・公民科教育法Ⅱ」
	「音楽科教育法Ⅰ」	「音楽科教育法Ⅱ」

2010年度入学者

英語(中学校・高等学校共通) …	「英語科教育法Ⅰ」	「英語科教育法Ⅱ」
国語(中学校・高等学校共通) …	「国語科教育法Ⅰ」	「国語科教育法Ⅱ」
社会(中学校) ……………	「社会・地理歴史科教育法」	「社会・公民科教育法」
地理歴史(高等学校) ……………	「社会・地理歴史科教育法」	「地理歴史科教育法」
公民(高等学校) ……………	「社会・公民科教育法」	「公民科教育法」
音楽(中学校・高等学校共通) …	「音楽科教育法Ⅰ」	「音楽科教育法Ⅱ」

「教職に関する科目」カリキュラム表

2010年度以降入学者

() 内は単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	
教職の意義等に関する科目	教職入門 (2)				
教育の基礎理論に関する科目	教育原理 (2)	教育思想 (2)			
	教育心理学 (2)				
	教育社会学 (2)				
教育課程及び指導法に関する科目		教育課程論 (2)			
		道徳教育の研究 (2)			
			【2011年度入学者】 英語科教育法Ⅰ (4) 英語科教育法Ⅱ (4) 国語科教育法Ⅰ (4) 国語科教育法Ⅱ (4) 社会・地理歴史科教育法Ⅰ (2) 社会・地理歴史科教育法Ⅱ (2) 社会・公民科教育法Ⅰ (2) 社会・公民科教育法Ⅱ (2) 音楽科教育法Ⅰ (4) 音楽科教育法Ⅱ (4)		
			【2010年度入学者】 英語科教育法Ⅰ (2) 英語科教育法Ⅱ (2) 国語科教育法Ⅰ (2) 国語科教育法Ⅱ (2) 社会・地理歴史科教育法 (2) 社会・公民科教育法 (2) 地理歴史科教育法 (2) 公民科教育法 (2) 音楽科教育法Ⅰ (4) 音楽科教育法Ⅱ (4)		
		*特別活動 (2)	特別活動 (2)		
		*教育方法・技術 (2)	教育方法・技術 (2)		
	生徒指導、教育相談、進路相談等に関する科目		*生徒指導 (2)	生徒指導 (2)	
			*教育相談 (2)	教育相談 (2)	
	教育実習			教育実習1 (1)	
					教育実習2 (2) 教育実習3 (2)
教職実践演習				教職実践演習(中・高) (2)	

*「特別活動」「教育方法・技術」「生徒指導」「教育相談」の2年次開放について
1年次に「教職入門」、「教育原理」または「教育思想」、「教育心理学」、「教育社会学」の4科目を履修し、合計8単位を修得した者に限り、2年次に次の科目の履修を希望することができます。手続き等詳細は4月オリエンテーションで説明します。

「特別活動」「教育方法・技術」「生徒指導」「教育相談」

なお、条件に該当しない者は、3年次に履修すること。

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数		開 講 科 目
	中学校	高等学校	
日本国憲法	2		日本国憲法 (2)
体育	2		●健康・スポーツ (1) 健康科学 (2)
外国語コミュニケーション	2		次の科目を除くすべての語学科目 ・初習外国語「**語(文法)」、「海外語学実習(**語)」 ・古典ギリシア語、ラテン語、日本語 ・2010年度以降に修得した「英語e(**)」科目 ・2009年度以前に修得した「英語e(Basic English)」、 「英語e(TOEIC Preparation)」、 「英語e(TOEFL Preparation)」
情報機器の操作	2		情報リテラシー (2)
履修上の注意 ●教職必修科目 「健康・スポーツ」(1単位)を必修としますが、不足する1単位分については、「健康・スポーツ」「健康科学」のいずれかで修得しなければなりません。			

教職課程料の納入

「教育実習」履修登録者は、教職課程料を納入しなければなりません。なお、一度納入された教職課程料は返還できません。

【納入手続】

納入方法：銀行振込（詳細は別途指示する）

	納入額	納入期限
3年次（「教育実習1」履修者）	10,000円	2013年10月18日(金)
4年次（「教育実習2,3」履修者）	20,000円	2013年5月10日(金)

※「教育実習1,2,3」は、実際の教育現場を知るために、現職の先生、近隣の学校や教育実習校、社会福祉施設等のご協力を得て成り立っています。また、教育職員免許状を取得するために必要な文部科学省や教育委員会等への様々な手続きを大学が一括して行っています。教職課程料は、そのような教職課程の円滑な運営のために使用しています。

教育実習

「教育実習1」（事前指導・授業参観：1単位）は3年次後期に、「教育実習2」（事前指導・実習校実習・事後指導：2単位）と「教育実習3」（事前指導・実習校実習・事後指導：2単位）は4年次前後期に履修します。実習校実習に関しては実習受入校が指定する日程で実施することになります。2週間実習を2回行う場合や3～4週間連続で行う場合など、実習校によって異なるので各自注意してください。また、他の授業科目の履修や就職活動にも影響が及ぶため、あらかじめ十分な認識と教育職員免許状を取得するという明確な意志を持った上で実習校実習に臨んでください。

【実習校で実習するための条件】

- (1) 「教育実習2」「教育実習3」の事前指導に出席すること。
事前指導、授業参観、事後指導の欠席は認められません。ただし、やむを得ない理由（追試験許可理由に準ずる。p.37参照）で欠席する場合は、教職センターに届け出ること。
- (2) 原則として3年次修了までに「教科に関する科目」、「教職に関する科目」（「教育実習2」「教育実習3」「教職実践演習」を除く）のすべての単位を修得済みであること。

教育職員免許状の取得

教育職員免許法で定める所要資格を満たした者は、都道府県教育委員会に申請し、免許状を取得することができます。

本学の規定に基づいて免許状取得に必要な条件を満たした者については、神奈川県教育委員会への教育職員免許状授与一括申請を大学が代行しています。一括申請の取扱いを希望する学生は、4年次の9月下旬の教育職員免許状一括申請説明会に出席し、所定の期日までに手続を行い、申請料を納入しなければなりません。

教育職員免許状は、学位授与式当日に交付されます。

教職課程年間予定表

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程オリエンテーション ・教職課程に関わる履修開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験オリエンテーション ・介護等体験申込 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職3年オリエンテーション（内諾について） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職4年オリエンテーション（教育実習について） ・実習参加書類提出 ・教職課程料納入 ・教育実習事前指導2開始
5月		<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験事前指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・実習校実習開始
6月			<ul style="list-style-type: none"> ・実習校決定 	
7月			<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観オリエンテーション（*） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事後指導（グループ別） —教員採用試験—
9月			<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校授業参観（*） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許状一括申請手続き説明会
10月			<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程料納入 ・教育実習事前指導1開始 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験オリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習仮登録オリエンテーション 		
12月			<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市教員採用試験ガイダンス ・教員採用模擬試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事後指導（グループ別）
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・内諾交渉開始 		<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許状受領（学位授与式当日）

（*）…授業参観及びオリエンテーションの時期は変動する可能性があります。

日本語教員養成講座

日本語教員養成講座

「日本語教員養成講座」は、外国人に対して日本語を教授する人材（日本語教員）を養成することを目的として設置する講座です。日本と外国との交流が活発化するにしたがい、日本語を学習しようとする外国人が増加し、それに対応する教員が、質量ともに求められています。

このような社会的要請に対応するために、日本文学科の専門科目を中心として授業科目を編成し、文部科学省のガイドラインをふまえて講座が設けられています。新規の受講希望者は、4月に実施される「日本語教員養成講座オリエンテーション」に必ず出席し、そこで配布されるハンドブックを熟読してください。受講中の学生は、日本語教員養成講座事務室・2207講師控室にて今年度版のハンドブックを必ず受け取ってください。

講座の課程

(1) 課程の種類

本講座には、日本語教員養成のために、「専修課程（60単位）」、「主専攻課程（45単位）」、「副専攻課程（30単位）」を設置しています。講座修了には、学士の資格を有することが基礎資格となります。

(2) カリキュラム

講座修了のためには、各入学年度で定められた所定の授業科目・単位を修得する必要があります。各年次生の適用カリキュラムは次のとおりです。履修方法は、次ページ以降を確認してください。

対 象	適用カリキュラム
2005年度以降入学者・編入学者	2005年度以降入学者用カリキュラム(pp.192～193)

(3) 修了証の発行

「受講届」を提出し、所定の単位を修得して講座を修了した者には、修得した授業科目及び単位数に応じて、専修課程、主専攻課程、副専攻課程のいずれかの修了証が卒業時に交付されます。大学院生及び科目等履修生には、講座の修了が認定され次第発行されます。(3月、9月)

参考

単位の修得には、標準的・理想的な順番で講座科目を履修した場合、副専攻で約2年間、専修・主専攻で3年以上かかります。講座科目が他の必修等の科目と同一時限に開講されることが多い場合などには、それ以上の期間を必要としますので、計画的に履修するよう心がけてください。

講座年間予定表

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
	新規受講者向けオリエンテーション(ハンドブック配布)、履修相談				
4月	入学前単位認定申請 (4月1日(月)まで)	〈2年次編入学者〉 入学前単位認定申請 (4月1日(月)まで)	〈3年次編入学者〉 入学前単位認定申請 (4月1日(月)まで)	「日本語教育実習1」 履修希望届提出 提出先： 日本語教員養成講座事務局 ・2207講師控室	
5月	講座受講手続きはありませんが、「履修上の注意」に従い、計画的に単位修得しておくこと。		講座受講届提出 講座課程料納入 提出先： 日本語教員養成講座事務局 ・2207講師控室	実習校希望調査 海外・国内実習校決定	
6月					
7月			事前指導 校外実習(主に海外) 実習報告書提出		
8月					
9月					
10月			・「『卒業論文』講座該当科目認定申請書」提出 提出先：教務課		
11月			・「『修士論文指導』講座該当科目認定申請書」提出 提出先：教務課		
12月					
1月					
2月			事前指導 校外実習(国内) 実習報告書提出		
3月			「日本語教員養成講座」 修了証書受領 (学位授与式当日)		

参考

- ・日本語教育能力検定試験（出願：6～8月、試験：10月）
- ・【日本語教員養成講座ハンドブックの項目】
 - (A) 年間スケジュール、学科別修了者数
 - (B) 講座Q&A
 - (C) 日本語教育の主要事項と対応科目一覧
 - (D) 2013年度講座時間割
 - (E) 日本語教員採用状況

- (F) 講座修了証書
- (G) 講座へのアクセス（ホームページ、FerrisPassport、専用メールアドレス）
- (H) 校外実習受入協定校一覧
- (I) 講座チェックシート
 - 《別冊》（3・4年生用：日本語教員養成講座事務室・2207講師控室（2号館2階）にて配布）
 - ① 講座課程料納入手続きについて
 - ② 講座受講届（提出書類）
 - ③ 実習注意・選抜順位
 - ④ 実習個人票（提出書類）
 - ⑤ 校外実習希望届（提出書類）

講座受講の手続き

(1) 課程の選択について

「日本語教員養成講座修了証書」の取得を希望する3年次生は、原則として所定の期日までに下記の要領で「日本語教員養成講座受講届」を提出してください。なお、留学等やむを得ない理由により3年次に提出できなかった4年次生の提出も認められます。

届出用紙	3・4年次用ハンドブック内
講座課程料	「日本語教員養成講座受講届」に10,000円の証紙を貼付
提出期限	2013年5月7日(火)まで
提出場所	日本語教員養成講座事務室・2207講師控室

専修・主専攻・副専攻の課程の選択は、最終的に修得した授業科目及び単位数によって決定されます。(p.187参照)

(2) 登録確認

日本語教員養成講座受講者一覧を掲示しますので、必ず確認してください。訂正、遅延登録を希望する者は、登録確認期間中に願い出て、許可された場合のみ遅延登録が認められます。登録確認期間を過ぎた後にはいっさい受け付けないので注意してください。

受講者一覧発表日	2013年5月14日(火)
登録確認期間	2013年5月14日(火)～6月7日(金)

日本語教育実習 1, 2

(1) 履修前提科目

「日本語教育実習1,2」の履修には、**履修前提科目があります**。詳しくは、各自の入学年度カリキュラム履修上の注意（p.193）を参照してください。

(2) オリエンテーション、説明会への参加

校外実習（国内外）に関する詳細は、4月に実施するオリエンテーション、ハンドブック、掲示等により案内します。説明会には必ず出席してください。オリエンテーション時に「日本語教育実習1」履修希望届を必ず提出してください。出欠は協定校ごとの実習者を選抜する際、参考とします。

(3) 校外実習期間

原則として夏季又は春季休業中とします。

(4) 実習校について：協定校・外部機関

- ① 各人の実習先（協定校）は、希望調査を行った上で、定員等を勘案して日本語教員養成講座委員会が決定します。
- ② 協定校が紹介されない場合、またそれを希望しない場合、**外部機関**（協定関係にない日本語学校など）の実習受入校を各自で申請してください。受入先が適当かどうか日本語教員養成講座委員会が審査します。申請書類は教務課にあります。

(5) 校外実習にかかる費用について

- ① 実習が**海外**の場合：渡航費・宿泊費等の諸費用が各自の負担となります。
- ② 実習が**国内**の場合：交通費・実習謝礼等が各自の負担となります。

講座の単位認定

他大学等で修得した科目、「卒業論文」「修士論文指導」について、本学の「日本語教員養成講座」として単位認定を希望する者は、所定の手続きによって申請してください。日本語教員養成講座委員会で審議の上、認定の可否を決定します。*申請書類は教務課にあります。

	種類	対象	手続き（提出先は全て教務課）
入学前	(1) 他大学等	本学への入学以前に他の大学又は短期大学において修得した科目	提出物：申請書類、「履修要覧」「講義内容」のコピー、成績証明書 期 限：入学年度前期4月1日(月)
入学後 (在学中)	(2) 同志社女子大学 (交流学生)	同志社女子大学「日本語教員課程」にて修得した科目 ただし、「日本語教育実習」は必ず本学の科目を履修しなければなりません。	提出物：申請書類、「履修要覧」「講義内容」のコピー、成績証明書 期 限：別途指示
	(3) 放送大学 (特別聴講学生)	修得した放送大学科目	提出物：申請書類、「履修要覧」「講義内容」のコピー、成績証明書 期 限：前期6月28日(金) 後期1月7日(火)
	(4) 他大学等 (科目等履修制度等)	他大学等における科目等履修生制度により修得した科目 ただし、「日本語教育実習」は必ず本学の科目を履修しなければなりません。	提出物：申請書類、「履修要覧」「講義内容」のコピー、成績証明書 期 限：教務課に問い合わせてください。
	(5) 卒業論文	日本語教育や日本語の研究に関するもの（6単位）。ただし、専修課程に限ります。	提出物：申請書類（指導教員及び日本語学・言語学専攻の専任教員の署名捺印が必要） 期 限：「卒業論文題目届」とともに10月18日(金)
在学中 (大学院)	(6) 修士論文指導	言語の研究に関するもの（4単位）。ただし、専修課程に限ります。	提出物：申請書類（指導教員及び日本語学・言語学専攻の専任教員の署名捺印が必要） 期 限：「修士論文題目届」とともに11月15日(金)

- 卒業や退学時に単位が不足していても、本学における科目等履修制度によって単位を充足した場合には、修了証を取得することができます。なお、修了単位数等の規定は、卒業後2年間までは入学時の制度により、それ以降の場合には申請時の制度によるものとします。
- 本学に籍がない場合の単位修得、校外実習は講座の単位として認定しません。

参考

本学学部からの大学院進学者は、新カリキュラム、入学年度の旧カリキュラムどちらも選択可能です。新カリキュラムの適用を希望する者は、単位認定を申請してください。ただし、学部卒業から2年を超えている場合はそのときの最新制度が適用されるため、それまでの履修単位はすべてその新しい制度による単位認定を再度受けることになります。この場合も単位認定の申請が必要です。単位認定申請は随時受け付けます。

2005年度以降入学者用カリキュラム

対象：2005年度以降入学者、編入学者

群	開講科目	各課程の最低修得科目数および単位数												
I 言語の構造と変異	1 【文】 言語学概説 日本語学概論A,B 言語コミュニケーション概論 【文・国際交流】 日本語教育学・日本語学関係の卒業論文(6) (詳しくはp.191)	専修・主専攻・副専攻：4単位選択必修 (専修：該当卒業論文は6単位の認定)												
	2 【文】 日本語の形態と構文／(同A,B) ことばと記号のコミュニケーション 日本語の音声とアクセント 話しことばを分析する (応用言語学A,B) (対照言語学) (ことばと個人・社会の因果関係を探る(4)) 日本語の意味と語彙／(同A,B) ことばと個人・社会の因果関係を探る 日本語文法研究の方法[非開放] 日本語語彙研究の方法[非開放] 日本語音声研究の方法[非開放] 日本語の敬語 日本語文法論とコミュニケーション 【共通】 日本語 I, II (1,1)	専修：4科目8単位選択必修 主専攻：3科目6単位選択必修 副専攻：2科目4単位選択必修												
	3 【文】 英語のさまざまな側面A,B 英語と社会・文化 日英語の発想と表現 英語の発音A,B 英語の歴史A,B 英語学特論 【共通】 初習外国語 教養外国語 海外語学実習(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語)	I-3群の修得科目は自由選択として扱われる (語学科目は3言語、各2単位まで算入できる)												
II 日本語教育	【文】 日本語教育学概論A,B ※1 { 日本語学習のコースデザイン(日本語教育論 I A) 日本語教育評価法(日本語教育論 I B) ※2 { (日本語教育論 II A,B) 日本語教育の教材分析A,B ※3 { 日本語教育のための異文化理解 (日本語教育学講読A,B) 第二言語習得論 ※4 { (日本語教育特論A,B) 日本語教授法A,B 日本語教育実習1(1),2	専修：4単位必修 主専攻・副専攻：2単位選択必修 専修：※1～4のそれぞれより2単位以上、計12単位選択必修。 主専攻：※1～4のそれぞれより2単位以上、計10単位選択必修。 副専攻：6単位選択必修。 専修・主専攻：2科目3単位必修												
	1 【文】 (日本古典文学史A,B)日本古典文学史1,2,3,4 日本近代文学史A,B 漢文学概説A,B (漢字学入門) 漢字の世界1,2 キリスト教と日本文学 (世界の中の日本文学) 国際日本文学研究を学ぶ 書道A,B(1,1) (言語と子ども) 文字と文学 (コミュニケーション概論(4))／同A,B ビジネス・コミュニケーションスキル コミュニケーション研究方法の全体像 (民俗学) 民俗文化を読み解く 【国際交流】 日本史概説A,B 日本政治外交史(4)／(同A,B) 日本文化論(4) 日本経済論 横浜学(4) 日米外交史 アジアと日本(日朝・日中)(4) 【音楽】 邦楽1,2[非開放](1,1) 日本音楽通史(4) 【共通】 日本国憲法 転換の時代を生きる(現代日本を読むA,B) 【教職等】 教育心理学 教育社会学 【日本語・日本事情】 日本事情A,B	専修・主専攻：3科目6単位選択必修 副専攻：2科目4単位選択必修												
III 地球社会	2 【文】 (対人コミュニケーションの心理学(4)) 対人コミュニケーションの心理学 身体としぐさの心理学 多文化・多言語社会を考える (異文化のコミュニケーション(4)／同A,B) 異文化のコミュニケーション これからの多文化教育 異文化トレーニング 共生のフィールドワーク(4) 社会的行為としてのコミュニケーション デイアスポラ(離散)の思想 先住民族の言語・文化と共生 ファシリテーターの理論と実践 【国際交流】 在日外国人 文化摩擦 国際社会学A,B (文化交流論(4))／同A,B	専修・主専攻：3科目6単位選択必修 副専攻：2科目4単位選択必修												
	3 【文】 (上代文学論(4))上代文学研究の方法 (中古文学論／同A,B) 中古文学研究の方法 (中世文学論(4)／同A(2)) 中世文学研究の方法 (近世文学論(4)／同A,B) 近世文学研究の方法 (近現代文学論(4)) 近現代文学研究の方法 アメリカ現地実習 イギリス現地実習 通訳技法A,B 英語圏と世界事情A,B 【国際交流】 専門科目(該当しない科目一覧はp.193の「履修上の注意」に掲載)	III-3群の修得科目は自由選択として扱われる												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>選択必修</th> <th>自由選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専修課程：60単位</td> <td>45単位以上</td> <td>15単位以下</td> </tr> <tr> <td>主専攻課程：45単位</td> <td>37単位以上</td> <td>8単位以下</td> </tr> <tr> <td>副専攻課程：30単位</td> <td>24単位以上</td> <td>6単位以下</td> </tr> </tbody> </table>		選択必修	自由選択	専修課程：60単位	45単位以上	15単位以下	主専攻課程：45単位	37単位以上	8単位以下	副専攻課程：30単位	24単位以上	6単位以下
	選択必修	自由選択												
専修課程：60単位	45単位以上	15単位以下												
主専攻課程：45単位	37単位以上	8単位以下												
副専攻課程：30単位	24単位以上	6単位以下												

表中の【文】【国際交流】【音楽】は各学部の開講科目群、()内の数字は単位数を示す。()がない科目は2単位である。専修課程修了のために最低8単位必修であることを「専修：8単位必修」と表示してある。「主専攻課程」は主専攻、「副専攻課程」は副専攻と略している。 I-1-3群、III-1-3群の単位及びそれ以外の群の単位を規定以上に修得した場合は自由選択の単位となる。

履修上の注意

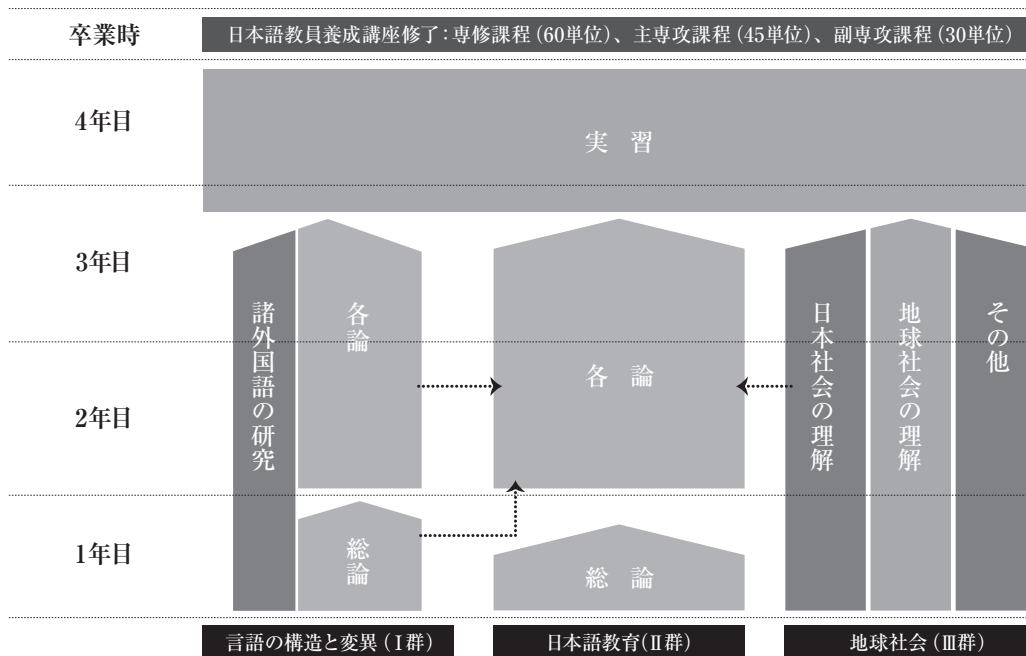
I. 履修前提条件について

- ① 「日本語教育実習1, 2」の履修条件：
「日本語教育論ⅠA, B」「日本語教育論ⅡA, B」「日本語学習のコースデザイン」「日本語教育評価法」「日本語教育の教材分析A, B」より4単位を修得済みであること。
- ② 「日本語教育実習1, 2」は原則として同一年度に、同一担当者の科目を1（前期）→2（後期）の順で履修すること。
- ③ 科目等履修生には上記履修条件を適用しない。

II. その他

- ① 各課程の最低修得単位数を満たしていても、修得科目数を満たしていない場合は、その課程を修了することはできない。
- ② 重複履修可能科目を複数回単位修得しても、本講座においては1科目として認定する。
例：「日本語の音声とアクセント」「日本語の音声とアクセント(1)」「日本語の音声とアクセント(2)」をそれぞれ単位修得しても、本講座では1科目として認定する。
- ③ 修得した単位は、一つの群にのみ算入可能とする。
- ④ Ⅲ-3群：国際交流学部の専門科目については、以下の科目を除く。
「導入演習」、「研究入門」、「基礎演習」、「地球環境実習」、「地球社会現地実習」、「情報処理演習」、「専門演習」、「卒業論文」

日本語教員養成講座カリキュラムマップ



大学院科目の専修課程単位算入

専修課程修了を目指す大学院生及び科目等履修生については、下記の大学院の開講科目を本講座の単位として認定します。なお、専修課程修了単位に不足が生じた場合、下記科目修得単位を主専攻課程、副専攻課程修了のための単位として算入することはできません。

専攻	科目	区分		備考
		2005年度以降カリキュラム		
英文学専攻	英語学研究3A,B 英語学演習1A,B 英語学演習2A,B	I-3	諸外国語の研究	
	コミュニケーション研究A,B* ¹	III-1	日本社会の理解	
	上記以外の科目	III-2	地球社会の理解	修士論文指導を除く
日本文学専攻	歴史日本語学研究A,B 現代日本語学研究A,B 言語教育学研究A,B 日本語学演習A,B 現代日本語学演習A,B	I-2	言語の構造と変異・各論	
	コミュニケーション研究A,B* ¹	III-1	日本社会の理解	
	上記以外の科目	III-1	日本社会の理解	修士論文指導を除く
コミュニケーション学専攻	言語コミュニケーション演習1A,B 言語コミュニケーション研究1A,B 言語コミュニケーション研究2A,B	I-2	言語の構造と変異・各論	
	上記以外の科目	III-2	地球社会の理解	修士論文指導を除く
国際交流専攻	全ての科目	III-2	地球社会の理解	修士論文指導を除く
各専攻	修士論文指導	I-1	言語の構造と変異・総論	言語学関係

*1…「コミュニケーション研究A,B」は2007年度以前開講科目です。

外国人留学生の履修について

外国人留学生の履修について

外国人留学生の必修科目

外国人留学生（*1）の教育課程は、基本的には一般学生のものと同じです。基礎教養科目と語学科目において一部異なっている部分があるので、以下の指示にしたがって履修をすすめてください。

- 外国人留学生の日本語運用能力を高めることを目的として日本語科目が設けられています。修得単位は、語学科目の単位となります。
- 外国人留学生の日本に対する理解を深めることを目的として、日本事情に関する科目が設けられています。修得単位は、基礎教養科目の単位となります。

2010年度以降入学者

- (1) 文学部英文学科
 - ① 「留学生日本語」 10単位（*2）
 - ② 英語科目12単位（2か国語履修コース）または20単位（英語インテンシブ・コース）
 - ③ 「日本事情A,B」 から4単位
- (2) 文学部日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部
 - ① 「留学生日本語」 10単位（*2）
 - ② 「日本事情A,B」 から4単位

2005～2009年度入学者

- (1) 文学部英文学科
 - ① 「留学生日本語」 12単位（*2）
 - ② 英語科目12単位（2か国語履修コース）または20単位（英語インテンシブ・コース）
 - ③ 「日本事情A, B」 から4単位
- (2) 文学部日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部
 - ① 「留学生日本語」 12単位（*2）
 - ② 「日本事情A, B」 から4単位

※2008年度以前に修得した「日本語（初中級・上級）」は「留学生日本語」に読み替えます。

*1 ここでは、大学教育を受ける目的をもって入国し、本学1年次に入学した外国人学生（私費留学生）を指します。本学が外国の協定校から一定期間受け入れている学生（受入交換留学生）の履修については、p.201を見てください。

*2 留学生の日本語能力が非常に高いと留学生科目委員会が認めた場合、必修単位のうち2単位を他の科目で読み替えることができます。該当者には、1年次後期以降の学期末に通知がありますので、手続きを行ってください。

語学科目の履修方法

(1) 日本語科目について

2013年度以降入学者

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		必修単位
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
留学生日本語	2	2	2	2	2				10

1年次		2年次		3年次		4年次		必修単位
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
アカデミック・ライティング (小説文・要約の基礎) [1]	アカデミック・ライティング (文章表現) [1]	アカデミック・ライティング (レポート作成演習) [1]	アカデミック・ライティング (論説文読解・要約) [1]	読解 (新聞を読む) [1]				10単位
聴解・発表 (講義聴解・ ノートテイキング) [1]	読解 (読解ストラテジー 養成) [1]	聴解・発表 (プレゼンテーション) [1]	会話 (コミュニケーション 能力養成) [1]	会話 (ビジネス日本語) [1]				
4単位		4単位		2単位				

2010～2012年度入学者

「留学生日本語」必修10単位 (*2) のうち、1年次前期に4単位、1年次後期に4単位、計8単位を必ず履修してください。

[] 内の数は、単位数

1年次	2年次	3年次	4年次	必修単位
アカデミック・ライティング [2,2]				4単位
聴解・発表[1,1]	読解[1,1]			6単位
会話[1,1]				
		総合[1,1]		10単位

2005～2009年度入学者

「留学生日本語」必修12単位（*2）のうち、1年次前期に4単位、1年次後期に4単位、計8単位を必ず履修してください。

[]内の数は、単位数

1年次	2年次	3年次	4年次	必修単位
アカデミック・ライティング1 [2,2]				4単位
	アカデミック・ライティング2 [1,1] アカデミック・ライティング3 [1,1]			2単位
聴解・発表[2,2]	読解[1,1]			6単位
会話（復習）[1,1]				
総合[1,1]				
			専門日本語[1,1]	
				12単位

(2) 日本語以外の語学科目について

文学部英文学科

英語科目必修12単位（2か国語履修コース）または20単位（英語インテンシブ・コース）は、2年次以降に履修してください。また、その際、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出等必要な手続きを行なってください。

- 英語科目は、2年次前期は語学責任者との履修相談、2年次後期以降は英語プレイズメント・テストの結果に基づきクラス指定が行われます。2年次6月に英語プレイズメント・テストを必ず受験してください。受験申し込み方法等の詳細については、教務課の掲示で確認してください。
- 外国人留学生在が次頁の表①のとおり、必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した場合、英語インテンシブ・コース修了とします。修了判定は4年次前期までの修得状況に基づいて行われ、4年次後期（9月）に交付される成績通知書から記載されます。その他の取扱いについては、一般学生と同じとします。

① 英語インテンシブ・コース

2009年度以降入学者

[]内の数は、単位数

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
日本語	[2010年度以降入学者] 留学生日本語10単位必修(p.197の表を参照) [2009年度入学者] 留学生日本語12単位必修(p.198の表を参照)			
英語	/		【英語スタンダード科目】 英語 I s(読む・書く) [1] 英語 I s(聞く・話す) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 II i(Reading) [1] 英語 II i(Writing) [1] 英語 II i(Listening) [1] 英語 II i(Speaking) [1] 英語 II i(Language Development) [1] 英語 II i(講読) [1]
言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
日本語				
英語	【英語インテンシブ科目】 英語 III i(Reading) [1] 英語 III i(Writing) [1] 英語 III i(Listening) [1] 英語 III i(Speaking) [1] 英語 III i(Language Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 IV i(Reading) [1] 英語 IV i(Writing) [1] 英語 IV i(Listening) [1] 英語 IV i(Speaking) [1] 英語 IV i(講読) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 V i(Reading) [1] 英語 V i(Speaking) [1]	

② 2か国語履修コース

2009年度以降入学者

[]内の数は、単位数

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
日本語	[2010年度以降入学者] 留学生日本語10単位必修(p.197の表を参照) [2009年度入学者] 留学生日本語12単位必修(p.198の表を参照)			
英語	/		【英語スタンダード科目】 英語 I s(読む・書く) [1] 英語 I s(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s(読む・書く) [1] 英語 II s(聞く・話す) [1]
言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
日本語				
英語	【英語スタンダード科目】 英語 III s(読む・書く) [1] 英語 III s(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 IV s(読む・書く) [1] 英語 IV s(聞く・話す) [1]		

上記の他に英語e科目を2年次前期から4年次前期までの間に、4単位追加選択履修が必要。

文学部日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部

日本語以外の語学を履修する場合、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出等必要な手続きを行ってください。

● **英語の履修を希望する場合**

2年次前期に、英語科目の履修を希望する場合は、2年次4月に履修相談を受けてください。また2年次後期以降引き続き履修を希望する場合は、2年次6月に英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。受験申し込み方法等の詳細については、教務課の掲示で確認してください。

2013年度以降入学者は、1年次前期に英語スタンダード科目「英語 I s（読む・書く）」及び「英語 I s（読む・書く）」を履修することができます。4月のオリエンテーション時に実施するアンケートに基づき履修クラスが指定されます。

● **初習外国語の履修を希望する場合**

2年次前期以降、初習外国語の履修を希望する場合は、あらかじめ語学責任者に相談してください。

2013年度以降入学者

言語	1年次	2年次	3年次	4年次
日本語	留学生日本語10単位必修(p.197の表を参照)			
日本語以外の言語	前期に履修可 英語 I s(読む・書く) 英語 I s(聞く・話す)	履修する場合は2年次以降		

2010～2012年度入学者

言語	1年次	2年次	3年次	4年次
日本語	留学生日本語10単位必修(p.197の表を参照)			
日本語以外の言語	履修する場合は2年次以降			

2005～2009年度入学者

言語	1年次	2年次	3年次	4年次
日本語	留学生日本語12単位必修(p.197の表を参照)			
日本語以外の言語	履修する場合は2年次以降			

(3) その他

外国人留学生在が母語を語学科目の履修言語として選択することは、原則としてできません。特別な事情により履修を希望する場合には、当該言語の語学責任者、指導教員に申し出て、指示にしたがってください。

専門科目の履修方法

専門科目の履修方法については、すべて一般学生と同一です。不明な点がある場合には学科教務委員に相談してください。3・4年次演習（ゼミ）科目は、あらかじめ『履修が望ましい、あるいは必須の語学科目・コース』を定めている場合があります。

受入交換留学生の履修

受入交換留学生は、原則としてすべての共通科目（基礎教養科目、総合課題科目、語学科目）及び専門科目を履修できます。ただし、次の事項に注意してください。不明な点は、教務課に問い合わせてください。

- (1) 受入交換留学生は、GPA制度及び履修登録科目の取り消し制度が適用されません。
- (2) 履修者数制限科目は、一般科目の登録期間より受付期間が短いので、早めに手続きを行う必要があります。許可された科目の変更及び取り消しはできません。p.30を参照してください。
- (3) 語学科目は、履修相談で履修する科目・クラスの指定を受けてください。ただし、英語科目は、原則として「英語e」に限るものとします。
- (4) 学科選抜科目は、あらかじめ履修相談を受けてください。p.30を参照してください。
- (5) 日本語科目（「留学生日本語Ⅰ・Ⅱ」）及び日本事情に関する科目（「日本事情A、B」）は受入交換留学生にも配慮して開講されているので、p.263以降を参照の上、積極的に履修してください。日本語科目の履修を希望する場合、必ず日本語プレイスメント・テストを受験してください。

日本語プレイスメント・テストの実施について

日本語プレイスメント・テストは、日本語科目のクラス編成（習熟度別）を行うために実施されます。対象者は次のとおりです。必ず受験してください。日程及び詳細は個別に通知します。

【日本語プレイスメント・テスト実施日程】

日 程	対象者（私費留学生）
2013年3月下旬	1年次生（新入生）

学部開講科目表

この情報は2013年3月1日現在の情報をもとに作成しています。

最新情報はWebシラバスで確認してください。

●基礎教養科目

群	種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
キリスト教の基礎	必修	00010	キリスト教 I	キリスト教とは何か	2		吉田 新	1	月 1	緑園	「キリスト教 I」 (1科目:2単位)、「キリスト教 II、III」(3科目6単位)合わせて8単位まで卒業要件に算入		
		00011			2		廣石 望	1	月 2	緑園			
		00012			2		廣石 望	1	火 1	緑園			
		00013			2		廣石 望	1	火 2	緑園			
		00014			2		相澤 一	1	水 1	緑園			
		00015			2		相澤 一	1	水 2	緑園			
		00016			2		吉田 新	1	金 1	緑園			
		00017			2		山田 香里	1	木 1	緑園			
		00018			2		山田 香里	1	木 2	緑園			
		00019			2		内藤 幹子	1	火 1	緑園			
		00020			2		内藤 幹子	1	火 2	緑園			
		00021			2		相澤 一	1	水 1	緑園			
思考リテラシー	選択	01380	哲学A(2)	哲学の基本的問題	2		永野 潤	1234	月 5	緑園			
		01390	哲学B(2)	哲学の歴史的展開	2		永野 潤	1234	月 5	緑園			
		03950	心理学	ココロロジーからサイエンスへ	2		鍛冶 美幸	1234	火 2	緑園			◆120 ①
		03951	心理学	ココロロジーからサイエンスへ	2		鍛冶 美幸	1234	火 2	緑園			◆120 ①
		02170	青年心理	青年期の心	2		鍛冶 美幸	1234	水 4	緑園			◆120
		02171	青年心理	青年期の心	2		鍛冶 美幸	1234	水 4	緑園			◆120
		03470	現代教育学	いのちと教育という営みの同時代史	2		和田 悠	1234	火 4	緑園			②
		03480	子ども・教育・保育	世界的な視座から幼い子どもの教育・保育を考える	2		森 真理	1234	木 4	緑園			◆120
		03490	論理学	論理的思考と文章表現への応用	2		鈴木 勝博	1234	金 4	緑園			
		06540	数的思考の初歩	キャリアに活かせる初歩の数学	2		國頭 直子	1234	木 3	緑園			◆120
コミュニケーション・リテラシー	選択	03980	読み書きのスキル(文学系)(2)	読む力・書く力	2		藤江 峰夫	1234	月 4	緑園	◆25		
		03510	読み書きのスキル(社会系)	「叙述する」力を身につけよう	2		寛 雅博	1234	金 3	緑園	◆3		
		06670	今年の一冊(10)		2		(休 講)	1234					
		06710	今年の一冊(11)	おとなの本としての「星の王子さま」	2		横山 安由美	1234	火 3	緑園	◆120		
		03520			2		大島 武	1234	月 1	緑園	初50 ④		
		03521	聞く話すのスキル	プレゼンテーション入門	2		大島 武	1234	月 1	緑園	初50 ④		
		03530	情報とメディアのリテラシー(1)	電子商取引とソーシャルメディアについて学ぶ	2		坂田 淳一	1234	金 5	緑園			
		03531	情報とメディアのリテラシー(2)	ビジネスと情報システムの関係について学ぶ	2		坂田 淳一	1234	金 5	緑園			
		06680	読書とメディア(4)		2		(休 講)	1234					
		06720	読書とメディア(5)	メディア社会における「読書」の多様な可能性を探る	2		長谷川 一	1234	火 5	緑園			
社会リテラシー	選択	03990	社会科学入門(2)	現代オーストラリアを考える1	2		ベンヤミン D. ミドルトン	1234	木 2	緑園			
		03550	近現代史入門	ヒトの移動から見た近現代史	2		中川 正紀	1234	月 3	緑園			
		03840	社会経済史	経済発展と社会変化をたどる	2		水野 里香	1234	火 4	緑園			
		01640	社会学A(5)	私達が生きるという営みと社会	2		藤山 嘉夫	1234	水 4	緑園			
		01650	社会学B(5)	ひとりひとりが生きることと家族・コミュニケーション	2		藤山 嘉夫	1234	水 4	緑園			
		04050	マスコミュニケーション論A(4)		2		(未 定)	1234	未定	緑園			◆120
		04060	マスコミュニケーション論B(4)		2		(未 定)	1234	未定	緑園			◆120
		03560	現代における法学入門	ライフステージと法	2		田辺 江美子	1234	木 5	緑園			
		03570	民法(家族法)		2		(休 講)	1234					⑤
		06450	民法(家族法)A	親族法を学ぶ	2		荒井 真	1234	火 2	緑園			(隔) ⑥
		06460	民法(家族法)B	相続法を学ぶ	2		荒井 真	1234	火 2	緑園			(隔) ⑦
		00450	日本国憲法	世界のなかの日本国憲法	2		常岡(兼本) せつ子	1234	月 2	緑園			◆120
		00451	日本国憲法	世界のなかの日本国憲法	2		常岡(兼本) せつ子	1234	月 2	緑園			
		03580	商法・会社法	商法・会社法に関する一般的講義	2		隅谷 史人	1234	金 5	緑園			
		03590	消費者関連法		2		(休 講)	1234					
		06470	消費者関連法A		2		(休 講)	1234					(隔) ⑧
		06480	消費者関連法B		2		(休 講)	1234					(隔) ⑨
		03600	行政学A	国(中央政府)の政治行政関係	2		成瀬 トーマス 誠	1234	水 5	緑園			
		03610	行政学B	地方の政治行政関係	2		成瀬 トーマス 誠	1234	水 5	緑園			
		03620	経済学入門	資本主義経済のしくみ	4		八幡 清文	1234	火 4/金 4	緑園			(週2) ⑩
03640	現代の経済問題	金融論の基礎と日本の金融	2		齊藤 直	1234	金 4	緑園	(隔)				
03650	社会保障論		2		(休 講)	1234			(隔)				

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」
 ①＝2010年度以前開講「心理学」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ②＝2008年度以前開講「教育学(3)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ③＝2009年度以前開講「文章を書く(1)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ④＝2009年度以前開講「ビジネス・スキルを高める(2)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑤＝2009年度以前開講「法学(2)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑥＝2011年度以前「法学(3)」「民法(家族法)」「法学(2)」を修得済みの学生は履修できません。
 ⑦＝「民法(家族法)A」を修得済みであることが極めて望ましい。
 ⑧＝2011年度以前「消費者関連法」を修得済みの学生は履修できません。
 ⑨＝「消費者関連法A」を修得済みであることが極めて望ましい。

●基礎教養科目

群	種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前後						
社会リテラシー	選択	03660	マクロ経済学	国民経済全体の活動を分析する	2	伊藤 哲	1234	月 5	緑園	⑪	「ボランティア活動」合わせて8単位まで卒業要件に算入
		03670	ミクロ経済学	経済主体(家計と企業)の行動を分析する	2	伊藤 哲	1234	月 5	緑園	⑫	
		04030	経営学入門A(3)	組織のマネジメントとガバナンスA	2	原田 要之助	1234	水 4	緑園	◆120	
		03690	経営学入門A(2)	組織のマネジメント	2	大島 武	1234	月 2	緑園		
		04040	経営学入門B(3)	組織のマネジメントとガバナンスB	2	原田 要之助	1234	水 4	緑園	◆120	
		03710	経営学入門B(2)	競争のマネジメント	2	大島 武	1234	月 2	緑園	◆120	
		03720	現代企業論1	ステークホルダーの視点からみた現代の企業	2	境 新一	1234	金 2	緑園		
		03730	現代企業論2	経営と法律の視点からみた現代の企業	2	境 新一	1234	金 2	緑園		
		02940	ボランティア論	いちばんはじめのボランティアーあなたと世界をつなぐ	2	渡邊 義昭	1234	水 5	緑園	⑬	
		02941			2	渡邊 義昭	1234	水 5	緑園	⑭	
		03390	ボランティア活動1		1	相澤 一	234		緑園	活動時間45時間以上。要手続	
		03391			1	相澤 一	1234		緑園	要手続	
		03400	ボランティア活動2		2	横山 正樹	234		緑園	活動時間90時間以上。要手続	
		03401			2	横山 正樹	234		緑園	要手続	
		02060	ボランティア活動3		6	星野 聡	234		緑園	活動時間270時間以上。要手続	
02061			6	星野 聡	234		緑園	要手続			
文化リテラシー	選択	03970	文学(日本文学)(2)		2	(休 講)	1234			◆120	
		06730	文学(日本文学)(3)	日本の神話と伝承	2	松田 浩	1234	金 2	緑園	◆120	
		03750	文学(外国文学)	アメリカ文学と映画	2	福永 保代	1234	火 4	緑園	◆120	
		04000	音楽A(2)	音楽家のエピソードを交えた誰にも分かり易い音楽史A	2	落合 敦	1234	火 3	緑園	◆110	
		04010	音楽B(2)	音楽家のエピソードを交えた誰にも分かり易い音楽史B	2	落合 敦	1234	火 3	緑園	◆110	
		02000	音楽実技A	声楽	1	土屋 広次郎	1234	月 4	緑園	要手続12	
		02001		ピアノ	1	新井 啓泰	1234	月 2	緑園	要手続6	
		02002		オルガン	1	宮本 とも子	1234	火 5	緑園	要手続12	
		02003	音楽実技B	室内合唱	1	蔵田 雅之	1234	月 3	緑園	要手続20	
		02010		声楽	1	土屋 広次郎	1234	月 4	緑園	要手続12	
		02012		ピアノ	1	新井 啓泰	1234	月 2	緑園	要手続6	
		02013		オルガン	1	宮本 とも子	1234	火 5	緑園	要手続12	
		02014		室内合唱	1	蔵田 雅之	1234	月 3	緑園	要手続20	
		03780	美術芸術論	美術入門。制度・思想・技術・様式から見る。	2	足立 元	1234	火 2	緑園	(隔) ◆120	
		03790	舞台芸術入門	様々な舞台芸術に触れ、その多様性について考える	2	白井 春人	1234	金 1	緑園	◆120	
科学リテラシー	選択	03800	科学技術入門	不思議でロマンチックな科学技術	2	牟田 淳	1234	金 1	緑園	◆120	
		03360	数学の基礎		2	(休 講)	1234			(隔) 初60	
		03810	統計の基礎	事例とデータを通じて学ぶ統計学の基本	2	鈴木 勝博	1234	金 5	緑園	(隔) 初60	
		03820	環境学入門(1)	公害から見る環境問題	2	佐藤 克春	1234	火 5	緑園	⑭	
		03821	環境学入門(2)	環境問題の現代的課題	2	佐藤 克春	1234	火 5	緑園	◆120 ⑭	
		05890	生き物との共生	命のつながりを考える一人と動物の関係ー	2	並木 美砂子	1234	水 5	緑園	⑮	
		03830	情報科学(1)	コンピュータ超入門	2	春木 良且	1234	月 2	緑園	⑯	
		03850	情報科学(2)	コンピュータの仕組みとビジネスについて学ぶ	2	坂田 淳一	1234	金 4	緑園		
		03860	情報科学(3)	ITと私たち・情報の持つ力	2	春木 良且	1234	月 2	緑園	⑰	
		03870	情報科学(4)	ソフトウェアの仕組みとビジネスについて学ぶ	2	坂田 淳一	1234	金 4	緑園	◆120	

- ⑩=2009年度以前開講「経済学(1)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑪=2009年度以前開講「経済学原論A(2)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑫=2009年度以前開講「経済学原論B(2)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑬=「ボランティア活動1~3」履修者は履修が望ましい
- ⑭=2009年度以前開講「環境学A(3)」「環境学B(3)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑮=2009年度以前開講「環境の世紀をつくる(生き物との共生)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑯=2009年度以前開講「情報科学A(8)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑰=2009年度以前開講「情報科学B(8)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

□=読書運動関連科目(2005~2008年度「特色GP」採択関連科目)

▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【開放欄】

【科目名欄】 網掛けは重複履修可能(p.26)

●基礎教養科目

群	種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前後						
科学リテラシー	選択	03070	情報リテラシー(11)	大学での学びのためのパソコン入門	2	春木 良且	1234	火 3	緑園	◆60 (教職クラス) ◆60	
		03071			2	春木 良且	1234	火 2	緑園	◆60	
		03072			2	春木 良且	1234	火 2	緑園	◆60	
		03880	情報リテラシー(15)	現代のリベラルアーツ	2	野田 浩平	1234	水 1	緑園	◆60	
		03881			2	野田 浩平	1234	水 1	緑園	◆60	
		03890	情報リテラシー(16)	学習と仕事に不可欠なコンピュータリテラシーを養う	2	清水 哲郎	1234	金 1	緑園	(教職クラス) ◆60	
		03891			2	清水 哲郎	1234	金 1	緑園	(教職クラス) ◆60	
03892	2	清水 哲郎			1234	金 2	緑園	(教職クラス) ◆60			
身体リテラシー	選択	05510	女性のエクササイズパフォーマンス		2	(休講)	1234				「健康・スポーツ」合わせて8単位まで卒業要件に算入
		00810	健康科学	健康・スポーツと家族・社会	2	和田 浩一	1234	水 1	緑園		
		00811			2	和田 浩一	1234	水 1	緑園		
		00822	健康・スポーツ(1)	バレーボール・バドミントン	1	小木曾 航平	1234	木 2	緑園	◆30	
		00823			1	小木曾 航平	1234	木 3	緑園	◆30	
		00820	健康・スポーツ(1)	バレーボール・バドミントン	1	小木曾 航平	1234	金 2	緑園	◆30	
		00821			1	小木曾 航平	1234	金 3	緑園	◆30	
		00830	健康・スポーツ(2)	アーチェリー	1	村松 茂	1234	月 3	緑園	◆30	
		00831			1	村松 茂	1234	月 3	緑園	◆30	
		00860	健康・スポーツ(5)	ゴルフ1	1	(休講)	1234			◆30	
		00861			1	(休講)	1234			◆30	
		00872	健康・スポーツ(6)	テニス初級	1	小木曾 航平	1234	金 2	緑園	◆32	
		00873			1	小木曾 航平	1234	金 3	緑園	◆32	
		00880	健康・スポーツ(7)	テニス中・上級	1	(休講)	1234			◆32	
		00881			1	(休講)	1234			◆32	
		00890	健康・スポーツ(8)	シーズンスポーツ(スキー)	1	高橋 京子/ 和田 浩一	1234	集中	緑園	要手続40	
		00900	健康・スポーツ(9)	軽スポーツ	1	橋本 彩	1234	水 3	緑園	◆30	
		00901			1	橋本 彩	1234	水 4	緑園	◆30	
		00930	健康・スポーツ(12)	フィットネス・卓球	1	村松 茂	1234	月 4	緑園	◆30	
		00931			1	村松 茂	1234	月 4	緑園	◆30	
		00940	健康・スポーツ(13)	ゴルフ2	1	(休講)	1234			◆30	
		00941			1	(休講)	1234			◆30	
		00960	健康・スポーツ(15)	水泳(水と楽しく遊ぶ)	1	原 英喜	1234	集中	緑園	◆30	
		06630	健康・スポーツ(21)	ニュースポーツ	1	橋本 彩	1234	水 3	緑園	◆30	
		06631			1	橋本 彩	1234	水 4	緑園	◆30	
		06640	健康・スポーツ(22)	ダンス・クリエイション(創作ダンス)	1	高橋 京子	1234	火 4	緑園	◆30	
		06641			1	高橋 京子	1234	火 3	緑園	◆30	
		06650	健康・スポーツ(23)	世界の舞踊	1	高橋 京子	1234	水 2	緑園	◆30	
		06651			1	(休講)	1234			◆30	
		06660	健康・スポーツ(24)	フィジカルエクササイズ(インドの身体技法)	1	高橋 京子	1234	火 2	緑園	◆30	
06740	健康・スポーツ(26)	バレー・ストレッチ	1	高橋 京子	1234	水 2	緑園	◆30			
06750	健康・スポーツ(27)	バドミントンⅠ	1	和田 浩一	1234	木 4	緑園	◆30			
06751			1	和田 浩一	1234	木 3	緑園	◆30			
06760	健康・スポーツ(28)	バドミントンⅡ	1	和田 浩一	1234	木 4	緑園	◆30			

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」

- ①＝2010年度以前開講「心理学」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ②＝2008年度以前開講「教育学(3)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ③＝2009年度以前開講「文章を書く(1)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ④＝2009年度以前開講「ビジネス・スキルを高める(2)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑤＝2009年度以前開講「法学(2)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑥＝2011年度以前「法学(3)」「民法(家族法)」「法学(2)」を修得済みの学生は履修できません。
- ⑦＝「民法(家族法)A」を修得済みであることが極めて望ましい。
- ⑧＝2011年度以前「消費者関連法」を修得済みの学生は履修できません。
- ⑨＝「消費者関連法A」を修得済みであることが極めて望ましい。
- ⑩＝2009年度以前開講「経済学(1)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑪＝2009年度以前開講「経済原論A(2)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑫＝2009年度以前開講「経済原論B(2)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑬＝「ボランティア活動1～3」履修者は履修が望ましい
- ⑭＝2009年度以前開講「環境学A(3)」「環境学B(3)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑮＝2009年度以前開講「環境の世紀をつくる(生き物との共生)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑯＝2009年度以前開講「情報科学A(8)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑰＝2009年度以前開講「情報科学B(8)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

□＝読書運動関連科目(2005～2008年度「特色GP」採択関連科目)

▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

●総合課題科目

群	種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
キリスト教の展開	選択必修	06570	キリスト教Ⅱ(51)	旧約聖書とユダヤ教の不思議な世界	2	(休 講)		1234				「キリスト教Ⅰ」 (1科目:2単位)、「キリスト教Ⅱ、Ⅲ」(3科目6単位)合わせて8単位まで卒業要件に算入	
		06780	キリスト教Ⅱ(57)	「山上の説教」の解釈	2	廣石 望		1234	火 1	緑園			
		02230	キリスト教Ⅱ(35)	社会問題とキリスト教	2	内藤 幹子		1234	火 2	緑園			
		02270	キリスト教Ⅱ(39)	キリスト教信仰と経験	2	廣石 望		1234	月 2	緑園	◆120		
		06790	キリスト教Ⅱ(58)	キリスト教と西洋思想(近代編)	2	相澤 一		1234	水 2	緑園			
		06590	キリスト教Ⅱ(53)	キリスト教と仏教とイスラム教	2	相澤 一		1234	金 2	緑園			
		06800	キリスト教Ⅱ(59)	佐藤研『旅のパウロ』を読む	2	廣石 望		1234	火 2	緑園	初35		
		02240	キリスト教Ⅱ(36)	キリスト教の暦と祝祭	2	内藤 幹子		1234	火 1	緑園			
		02250	キリスト教Ⅱ(37)		2	(休 講)		1234					
		06810	キリスト教Ⅱ(60)	キリスト教と西洋思想(古代・中世編)	2	相澤 一		234	金 2	緑園			
		06820	キリスト教Ⅱ(61)	初期キリスト教美術	2	山田 香里		1234	木 2	緑園			
		06830	キリスト教Ⅱ(62)	教会堂建築とキリスト教	2	山田 香里		1234	木 1	緑園			
		06850	キリスト教Ⅱ(63)	イエス: その言葉と行い	2	吉田 新		1234	月 1	緑園			
		06860	キリスト教Ⅱ(64)	キリスト教の礼拝と音楽	2	秋岡 陽		1234	金 1	緑園			
		02910	キリスト教Ⅲ(1)	ボランティア活動実習	2	廣石 望		1234		緑園	要手続16		
		02920	キリスト教Ⅲ(2)		2	(休 講)		1234			要手続15		
		自分を見つめ、自分の場を知る	選択	06360	フェリス女学院で学ぶということ(1)		2	(休 講)		1234			
06370	フェリス女学院で学ぶということ(2)				2	(休 講)		1234			(隔) ①		
05450	女性(11)				2	(休 講)		1234			◆120 ③		
05460	女性(12)			日本の社会と女性	2	金子 幸子		1234	水 3	緑園			
05470	女性(13)				2	(休 講)		1234			◆120 ④		
06500	女性(16)				2	(休 講)		1234			⑤		
06440	女性(28)				2	(休 講)		1234					
06410	女性(27)				2	(休 講)		1234			◆120		
06200	女性(24)				2	(休 講)		1234					
05820	女性(23)			身体とセクシュアリティの諸問題	2	宮 淑子		1234	金 3	緑園		◆120 ⑥	
06490	女性(29)				2	(休 講)		1234					
06770	女性(30)			文学や映画に描かれた「女の友情」	2	田丸 理砂		1234	金 3	緑園			
06840	女性(31)			中国古代女性の生きる知恵	2	末岡 実		1234	木 4	緑園		◆120	
05860	他者との共生: For Others(14)				2	(休 講)		1234					
06210	他者との共生: For Others(18)			社会的起業と女性	2	春木 良且		1234	火 5	緑園		◆50 ①	
05970	他者との共生: For Others(16)			「食」の安全と市民リテラシー	2	高雄 綾子		1234	火 3	緑園		◆60 ⑦	
06230	他者との共生: For Others(19)				2	(休 講)		1234				(隔) ① ②⑤ ◆160	
06030	他者との共生: For Others(17)			今CSRを考える	2	影山 摩子弥		1234	火 2	緑園		⑧	

【備考欄】

◆=「履修者数制限科目(定員_名)」(p.29) 学=「学科選択科目(定員_名)」(p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員_名)」(p.29)
 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2) = 「週2回授業」 (2連) = 「2時限連続授業」 (通年) = 「通年科目」
 (隔) = 「隔年開講科目」

- ①=専任教員によるコラボレート授業
- ②=2010年度開講「創立140周年記念科目」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ③=2009年度以前開講「女性(女性史・女性教育とフェリス)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ④=2009年度以前開講「女性(女性の権利と法)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑤=2009年度以前開講「女性(描かれた女性)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑥=2009年度以前開講「女性(身体とセクシュアリティの諸問題)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑦=2009年度以前開講「他者との共生: For Others(「食」の安全を考える)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑧=2009年度以前開講「他者との共生: For Others: (今CSRを考える)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑨=2009年度以前開講「私のキャリアを考える2」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑩=2009年度以前開講「私のキャリアを考える4」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑪=2009年度以前開講「ビジネス・スキルを高める1」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑫=2009年度以前開講「ビジネス・スキルを高める3」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑬=「わたしのキャリアを考える(4)」履修済みが望ましい
- ⑭=2009年度以前開講「転換の時代を生きる(現代日本を読むA)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑮=2009年度以前開講「転換の時代を生きる(現代日本を読むB)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑯=2009年度以前開講「転換の時代を生きる(生命の科学と倫理A)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑰=2009年度以前開講「転換の時代を生きる(生命の科学と倫理B)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑱=2009年度以前開講「他者との共生: For Others(地球環境ケーススタディ)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑲=2009年度以前開講「環境の世紀をつくる(地球環境ケーススタディ)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑳=2008年度以前開講「環境の世紀をつくる(様々な観点から考える環境問題)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ㉑=2009年度以前開講「環境の世紀をつくる(都市環境・デザイン)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ㉒=学生提案による今学期限定開講
- ㉓=教職員提案による今学期限定開講
- ㉔=専任教員3名によるコラボ授業: 3学部横断演習形式
- ㉕=「身近な環境を知る」と隔年開講

【開放欄】

□=読書運動関連科目(2005~2008年度「特色G」採択関連科目)
 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】

網掛け は重複履修可能(p.26)

●総合課題科目

群	種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前後						
自分を見つめ、 自分の場を知る	選択	06260	私のキャリアを考える(1)		2	(休講)	1234				「私のキャリアを 考える」「ビジネス・スキルを高める」を合わせて合計8単位まで卒業要件に算入
		06270	私のキャリアを考える(2)	キャリアデザインの基本知識	2	鈴木 美伸	12	月 4	緑園	◆70 ⑨	
		06280	私のキャリアを考える(3)	ライフサイクルと家族心理学—ライフ キャリアを考える	2	宮城 まり子	234	火 5	緑園		
		06290	私のキャリアを考える(4)		2	(休講)	1234			◆70 ⑩	
		06291	私のキャリアを考える(4)		2	(休講)	1234				
		06300	私のキャリアを考える(5)	「働く」を理解する	2	鈴木 寿彦	123	木 5	緑園	◆50	
		06310	ビジネス・スキルを高める(1)	ビジネス・会計情報	2	高沢 修一	1234	金 3	緑園		
		06311	ビジネス・スキルを高める(1)		2	高沢 修一	1234	金 3	緑園	◆120 ⑪	
		06320	ビジネス・スキルを高める(2)		2	(休講)	1234				
		06330	ビジネス・スキルを高める(3)	ビジネス文書の基本を学ぶ	2	高木 聖	1234	月 5	緑園		
		06331	ビジネス・スキルを高める(3)		2	高木 聖	1234	水 5	緑園	◆120 ⑫	
		03290	キャリア実習(短期インターンシ ップ)	キャリアの実現 現場の体験から学 ぶ	1	高嶋 成豪	123	時外	緑園	要手続 ⑬	
		03291	キャリア実習(短期インターンシ ップ)		1	高嶋 成豪	1234	時外	緑園		
		03300	キャリア実習(長期インターンシ ップ)	キャリアの実現 現場の体験から学 ぶ	2	高嶋 成豪	123	時外	緑園	要手続 ⑬	
		03301	キャリア実習(長期インターンシ ップ)		2	高嶋 成豪	1234	時外	緑園		
過去から未来	選択	05630	転換の時代を生きる(1)	現代日本を読むA	2	笈 雅博	1234	金 2	緑園	⑭	
		05640	転換の時代を生きる(2)	現代日本を読むB	2	笈 雅博	1234	金 2	緑園	⑮	
		06060	転換の時代を生きる(13)	時事問題へのアプローチ	2	上原 良子	1234	金 4	緑園		
		06070	転換の時代を生きる(14)	今、働き方を考える	2	木曾 順子	1234	金 2	緑園		
		05690	転換の時代を生きる(7)	生命の科学と倫理 A	2	佐々木 能章	1234	木 1	緑園	⑯	
		05700	転換の時代を生きる(8)	生命の科学と倫理 B	2	佐々木 能章	1234	木 1	緑園	⑰	
		06090	転換の時代を生きる(16)		2	(休講)	1234				
		06180	転換の時代を生きる(19)		2	(休講)	1234			◆120	
		06240	転換の時代を生きる(20)	日本企業の過去・現在・未来	2	齊藤 直	1234	金 3	緑園		
		06110	転換の時代を生きる(17)	中国文化大革命略史	2	福島 仁	1234	金 2	緑園		
		06120	転換の時代を生きる(18)	平和学	2	横山 正樹	1234	月 4	緑園		
		06520	転換の時代を生きる(21)	日本外交入門	2	古内 洋平	1234	木 2	緑園		
		06130	環境と人間(1)	地境環境ケース・スタディ	2	佐藤 輝	1234	木 4	緑園	(隔) ① ◆120 ⑱ ⑲	
		06140	環境と人間(2)		2	(休講)	1234			(隔) ① 要手続120 ⑳	
		06150	環境と人間(3)		2	(休講)	1234			①	
06160	環境と人間(4)	環境と教育	2	高雄 綾子	1234	金 3	緑園				
06250	環境と人間(5)	都市環境のリデザイン	2	鎌田 一夫	1234	水 4	緑園	㉑			
新しい世界を知る	選択	06420	私たちが学びたいこと(14)		2	(休講)	1234			◆120 ㉒	
		06530	私たちが学びたいこと(15)	科学と社会の関係を考える	2	標葉 隆馬	1234	水 4	緑園	◆120 ㉒	
		06430	学びの世界を広げる(3)		2	(休講)	1234			◆120 (隔) ㉓	
		06170	新たな学びの世界への招待(1)	全学部横断セミナー・フェリスエッセ ンス	2	春木 良且/ 梅崎 透/ 島村 輝	12	金 5	緑園	◆20 ㉔	

【備考欄】

- ◆=「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学=「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
- 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)=「週2回授業」 (2連)=「2時限連続授業」 (通年)=「通年科目」
- (隔)=「隔年開講科目」
- ①=専任教員によるコラボ授業
- ②=2010年度開講「創立140周年記念科目」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ③=2009年度以前開講「女性(女性史・女性教育とフェリス)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ④=2009年度以前開講「女性(女性の権利と法)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑤=2009年度以前開講「女性(描かれた女性)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑥=2009年度以前開講「女性(身体とセクシュアリティの諸問題)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑦=2009年度以前開講「他者との共生：ForOthers(「食」の安全を考える)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑧=2009年度以前開講「他者との共生：ForOthers(「今CSRを考える)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑨=2009年度以前開講「私のキャリアを考える2」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑩=2009年度以前開講「私のキャリアを考える4」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑪=2009年度以前開講「ビジネス・スキルを高める1」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑫=2009年度以前開講「ビジネス・スキルを高める3」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑬=「わたしのキャリアを考える(4)」履修済みが望ましい
- ⑭=2009年度以前開講「転換の時代を生きる(現代日本を読むA)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑮=2009年度以前開講「転換の時代を生きる(現代日本を読むB)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑯=2009年度以前開講「転換の時代を生きる(生命の科学と倫理A)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑰=2009年度以前開講「転換の時代を生きる(生命の科学と倫理B)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑱=2009年度以前開講「他者との共生：ForOthers(地球環境ケーススタディ)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑲=2009年度以前開講「環境の世紀をつくる(地球環境ケーススタディ)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ⑳=2008年度以前開講「環境の世紀をつくる(様々な観点から考える環境問題)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ㉑=2009年度以前開講「環境の世紀をつくる(都市環境・デザイン)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
- ㉒=学生提案による今学期限定開講
- ㉓=教職員提案による今学期限定開講
- ㉔=専任教員3名によるコラボ授業：3学部横断演習形式

【開放欄】

- =読書運動関連科目(2005~2008年度「特色GP」採択関連科目)
- ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】

- 網掛け は重複履修可能(p.26)

●語学科目
英語

英語スタンダード科目(1年次前期)

種別	CODE	科目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考		
			前	後								
選択必修	11220	英語 I s(読む・書く)	1		G.T.M.Okuhara	1	月 2	緑園	①			
	11221		1		河野 利佳子	1	月 1	緑園				
	11222		1		J.Grindley	1	水 2	緑園				
	11223		1		佐藤 あずさ	1	月 1	緑園				
	11224		1		多羅 深雪	1	月 2	緑園				
	11225		1		渡辺 信二	1	水 1	緑園				
	11226		1		渡辺 信二	1	水 2	緑園				
	11227		1		J.Grindley	1	金 1	緑園				
	11228		1		河野 利佳子	1	月 2	緑園				
	11229		1		中川 正紀	1	水 1	緑園				
	11230		1		竹内 美紀	1	月 1	緑園				
	11231		1		J.Grindley	1	水 1	緑園				
	11232		1		饒平名 尚子	1	水 2	緑園				
	11233		1		佐藤 あずさ	1	月 2	緑園				
	11234		1		G.T.M.Okuhara	1	月 1	緑園				
	11235		1		D.Ferreira	1	月 2	緑園				
	11236		1		竹中 久美子	1	水 1	緑園				
	11237		1		福島 久恵	1	水 1	緑園				
	11238		1		竹中 久美子	1	水 2	緑園				
	11239		1		F.A.Marikkar	1	水 2	緑園				
	11240		1		D.Ferreira	1	水 2	緑園				
	11241		1		向井 秀忠	1	月 2	緑園				
	11242		1		饒平名 尚子	1	水 1	緑園				
	11243		1		丸山 悦子	1	金 1	緑園				
	11244		1		上原 寿和子	1	金 1	緑園				
	10120		1	英語 I s(聞く・話す)	1		S.M.Tamada	1			水 1	緑園
	10121	1			J.Pak	1	水 2	緑園				
	10122	1			D.McCann	1	月 1	緑園				
	10124	1			E.Onodera	1	水 2	緑園				
	10125	1			J.Pak	1	水 1	緑園				
	10130	1			S.M.Tamada	1	月 2	緑園				
	10131	1			H.Armstrong	1	金 1	緑園				
	10132	1			中込 幸子	1	月 2	緑園				
	10133	1			G.C.Sweeney	1	水 2	緑園				
	10134	1			K.Husky	1	月 2	緑園				
	10135	1			G.Mohamed	1	水 2	緑園				
	10136	1			D.McCann	1	月 2	緑園				
	10137	1			A.B.Marikkar	1	月 1	緑園				
	10138	1			G.C.Sweeney	1	水 1	緑園				
	10126	1			佐藤 あずさ	1	水 1	緑園				
	10129	1			A.Dinglasan	1	水 2	緑園				
	10127	1			E.Onodera	1	月 1	緑園				
10139	1		R.Chaikul		1	月 1	緑園					
10123	1		K.Husky		1	月 1	緑園					
10128	1		中込 幸子		1	月 1	緑園					
11500	1		多羅 深雪		1	金 1	緑園					
11501	1		J.Moore		1	金 1	緑園					
11502	1		G.Mohamed		1	月 1	緑園					
11503	1		J.L.Sargent		1	月 2	緑園					
11504	1		H.Armstrong		1	水 1	緑園					

全学科
1年次生クラス

【備考欄】 ①=2009年度以前開講「英語 I s(読む)」を修得済みの学生の履修不可

英語インテンシブ科目

英語インテンシブ科目は、英語インテンシブ・コース専用科目です。英語インテンシブ・コース履修者以外の履修は認めません。インテンシブ・コースのクラス別指定授業は次のとおりです。各授業は、必ず履修しなければなりません。

英語インテンシブ科目(1年次後期)

種別	CODE	科目	単位	担当者	履修 年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
			前 後							
選 択 必 修	10150	英語 II i(Reading)	1	中込 幸子	1	月 1	緑園	A クラス 指定	(AB合同)	後 期 に す べ て 修 得
	10170	英語 II i(Writing)	1	D.McCann	1	月 2	緑園			
	11150	英語 II i(Listening)	1	H.Armstrong	1	金 2	緑園			
	10160	英語 II i(Speaking)	1	H.Armstrong	1	水 1	緑園			
	11130	英語 II i(Language Development)	1	丸山 悦子	1	火 2	緑園			
	11210	英語 II i(講読)	1	牧田 義也	1	金 1	緑園	B クラス 指定	(AB合同)	
	10151	英語 II i(Reading)	1	J.Grindley	1	水 2	緑園			
	10171	英語 II i(Writing)	1	J.Grindley	1	金 1	緑園			
	11151	英語 II i(Listening)	1	S.M.Tamada	1	月 2	緑園			
	10161	英語 II i(Speaking)	1	S.M.Tamada	1	水 1	緑園			
	11130	英語 II i(Language Development)	1	丸山 悦子	1	火 2	緑園	C クラス 指定	(CD合同)	
	11211	英語 II i(講読)	1	由井 哲哉	1	金 2	緑園			
	10152	英語 II i(Reading)	1	大山 悦子	1	月 1	緑園			
	10172	英語 II i(Writing)	1	大山 悦子	1	水 2	緑園			
	11152	英語 II i(Listening)	1	A.Dinglasan	1	火 1	緑園			
	10162	英語 II i(Speaking)	1	K.Husky	1	月 2	緑園	D クラス 指定	(CD合同)	
	11132	英語 II i(Language Development)	1	J.Moore	1	金 1	緑園			
	11212	英語 II i(講読)	1	鈴木 周太郎	1	金 2	緑園			
	10153	英語 II i(Reading)	1	D.Ferreira	1	月 2	緑園			
	10173	英語 II i(Writing)	1	D.Ferreira	1	水 1	緑園			
	11153	英語 II i(Listening)	1	三村 千恵子	1	火 1	緑園	E クラス 指定	(EF合同)	
	10163	英語 II i(Speaking)	1	K.Husky	1	月 1	緑園			
	11132	英語 II i(Language Development)	1	J.Moore	1	金 1	緑園			
	11213	英語 II i(講読)	1	近藤 存志	1	金 2	緑園			
	10154	英語 II i(Reading)	1	福島 久恵	1	水 1	緑園			
	10174	英語 II i(Writing)	1	R.Chaikul	1	月 2	緑園			
	11154	英語 II i(Listening)	1	J.Pak	1	火 1	緑園			
	10164	英語 II i(Speaking)	1	G.C.Sweeney	1	水 2	緑園			
	11134	英語 II i(Language Development)	1	D.Ferreira	1	月 1	緑園			
	11214	英語 II i(講読)	1	鈴木 周太郎	1	金 1	緑園	G クラス 指定	(GH合同)	
10155	英語 II i(Reading)	1	福島 久恵	1	水 2	緑園				
10175	英語 II i(Writing)	1	丸山 悦子	1	火 1	緑園				
11155	英語 II i(Listening)	1	A.Dinglasan	1	火 2	緑園				
10165	英語 II i(Speaking)	1	G.C.Sweeney	1	水 1	緑園				
11134	英語 II i(Language Development)	1	D.Ferreira	1	月 1	緑園	H クラス 指定	(GH合同)		
11215	英語 II i(講読)	1	丸山 悦子	1	金 1	緑園				
10156	英語 II i(Reading)	1	J.Moore	1	火 1	緑園				
10176	英語 II i(Writing)	1	J.Moore	1	金 2	緑園				
11156	英語 II i(Listening)	1	J.Pak	1	火 2	緑園				
10166	英語 II i(Speaking)	1	齋藤 有希子	1	金 1	緑園	I クラス 指定	(IJ合同)		
11136	英語 II i(Language Development)	1	豊浦 アマンダ レネー	1	水 1	緑園				
11216	英語 II i(講読)	1	竹内 美紀	1	月 1	緑園				
10157	英語 II i(Reading)	1	A.B.Marikkar	1	月 2	緑園				
10177	英語 II i(Writing)	1	F.A.Marikkar	1	水 2	緑園				
11157	英語 II i(Listening)	1	R.Chaikul	1	月 1	緑園	J クラス 指定	(IJ合同)		
10167	英語 II i(Speaking)	1	J.Pipe	1	金 1	緑園				
11136	英語 II i(Language Development)	1	豊浦 アマンダ レネー	1	水 1	緑園				
11217	英語 II i(講読)	1	由井 哲哉	1	火 2	緑園				
10158	英語 II i(Reading)	1	G.Mohamed	1	水 2	緑園				
10178	英語 II i(Writing)	1	G.Mohamed	1	月 1	緑園	J クラス 指定	(IJ合同)		
11158	英語 II i(Listening)	1	三村 千恵子	1	火 2	緑園				
10168	英語 II i(Speaking)	1	上原 寿和子	1	金 1	緑園				
11138	英語 II i(Language Development)	1	R.Chaikul	1	火 1	緑園				
11218	英語 II i(講読)	1	牧田 義也	1	金 2	緑園				
10159	英語 II i(Reading)	1	豊浦 アマンダ レネー	1	月 2	緑園	J クラス 指定	(IJ合同)		
10179	英語 II i(Writing)	1	佐藤 あずさ	1	水 1	緑園				
11159	英語 II i(Listening)	1	E.Onodera	1	水 2	緑園				
10169	英語 II i(Speaking)	1	E.Onodera	1	月 1	緑園				
11138	英語 II i(Language Development)	1	R.Chaikul	1	火 1	緑園				
11219	英語 II i(講読)	1	富樫 剛	1	金 1	緑園				

英語インテンシブ科目(2年次前期・後期)

種別	CODE	科目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
			前	後							
選択必修	10270	英語Ⅲi(Reading)	1		J.Grindley	2	金 2	緑園	Aクラス指定	(AB合同)	前期にすべて修得
	10290	英語Ⅲi(Writing)	1		S.W.Smith	2	火 2	緑園			
	11510	英語Ⅲi(Listening)	1		丸山 悦子	2	月 1	緑園			
	10280	英語Ⅲi(Speaking)	1		丸山 悦子	2	水 2	緑園			
	11170	英語Ⅲi(Language Development)	1		豊浦 アマンダ レネー	2	水 1	緑園	Aクラス指定	(AB合同)	後期にすべて修得
	10360	英語Ⅳi(Reading)	1		R.Chaikul	2	金 2	緑園			
	10380	英語Ⅳi(Writing)	1		R.Chaikul	2	火 2	緑園			
	11530	英語Ⅳi(Listening)	1		J.L.Sargent	2	月 1	緑園			
	10370	英語Ⅳi(Speaking)	1		J.L.Sargent	2	水 2	緑園	Aクラス指定	(AB合同)	後期にすべて修得
	11540	英語Ⅳi(講読)	1		富樫 剛	2	水 1	緑園			
	10271	英語Ⅲi(Reading)	1		R.Chaikul	2	金 2	緑園			
	10291	英語Ⅲi(Writing)	1		R.Chaikul	2	火 2	緑園			
	11511	英語Ⅲi(Listening)	1		J.L.Sargent	2	月 1	緑園	Bクラス指定	(AB合同)	前期にすべて修得
	10281	英語Ⅲi(Speaking)	1		J.L.Sargent	2	水 2	緑園			
	11170	英語Ⅲi(Language Development)	1		豊浦 アマンダ レネー	2	水 1	緑園			
	10361	英語Ⅳi(Reading)	1		J.Grindley	2	金 2	緑園			
	10381	英語Ⅳi(Writing)	1		S.W.Smith	2	火 2	緑園	Bクラス指定	(AB合同)	後期にすべて修得
	11531	英語Ⅳi(Listening)	1		丸山 悦子	2	月 1	緑園			
	10371	英語Ⅳi(Speaking)	1		丸山 悦子	2	水 2	緑園			
	11540	英語Ⅳi(講読)	1		富樫 剛	2	水 1	緑園			
	10272	英語Ⅲi(Reading)	1		牧田 義也	2	金 2	緑園	Cクラス指定	(CD合同)	前期にすべて修得
	10292	英語Ⅲi(Writing)	1		S.W.Smith	2	火 1	緑園			
	11512	英語Ⅲi(Listening)	1		J.Moore	2	月 2	緑園			
	10282	英語Ⅲi(Speaking)	1		J.Moore	2	水 1	緑園			
	11171	英語Ⅲi(Language Development)	1		丸山 悦子	2	火 2	緑園	Cクラス指定	(CD合同)	後期にすべて修得
	10362	英語Ⅳi(Reading)	1		D.Ferreira	2	金 1	緑園			
	10382	英語Ⅳi(Writing)	1		D.Ferreira	2	火 1	緑園			
	11532	英語Ⅳi(Listening)	1		E.Onodera	2	月 2	緑園			
	10372	英語Ⅳi(Speaking)	1		E.Onodera	2	水 1	緑園	Cクラス指定	(CD合同)	後期にすべて修得
	11541	英語Ⅳi(講読)	1		中川 正紀	2	水 2	緑園			
	10273	英語Ⅲi(Reading)	1		D.Ferreira	2	金 1	緑園			
	10293	英語Ⅲi(Writing)	1		D.Ferreira	2	火 1	緑園			
	11513	英語Ⅲi(Listening)	1		E.Onodera	2	月 2	緑園	Dクラス指定	(CD合同)	前期にすべて修得
	10283	英語Ⅲi(Speaking)	1		E.Onodera	2	水 1	緑園			
	11171	英語Ⅲi(Language Development)	1		丸山 悦子	2	火 2	緑園			
	10363	英語Ⅳi(Reading)	1		大畑 甲太	2	金 2	緑園			
	10383	英語Ⅳi(Writing)	1		S.W.Smith	2	火 1	緑園	Dクラス指定	(CD合同)	後期にすべて修得
	11533	英語Ⅳi(Listening)	1		J.Moore	2	月 2	緑園			
	10373	英語Ⅳi(Speaking)	1		J.Moore	2	水 1	緑園			
	11541	英語Ⅳi(講読)	1		中川 正紀	2	水 2	緑園			
	10274	英語Ⅲi(Reading)	1		G.Mohamed	2	月 2	緑園	Eクラス指定	(EF合同)	前期にすべて修得
	10294	英語Ⅲi(Writing)	1		G.Mohamed	2	水 1	緑園			
11514	英語Ⅲi(Listening)	1		R.Chaikul	2	金 1	緑園				
10284	英語Ⅲi(Speaking)	1		R.Chaikul	2	水 2	緑園				
11172	英語Ⅲi(Language Development)	1		D.Ferreira	2	月 1	緑園	Eクラス指定	(EF合同)	後期にすべて修得	
10364	英語Ⅳi(Reading)	1		丸山 悦子	2	月 2	緑園				
10384	英語Ⅳi(Writing)	1		丸山 悦子	2	水 1	緑園				
11534	英語Ⅳi(Listening)	1		H.Armstrong	2	金 1	緑園				
10374	英語Ⅳi(Speaking)	1		H.Armstrong	2	水 2	緑園	Eクラス指定	(EF合同)	後期にすべて修得	
11542	英語Ⅳi(講読)	1		近藤 存志	2	火 2	緑園				
10275	英語Ⅲi(Reading)	1		丸山 悦子	2	月 2	緑園				
10295	英語Ⅲi(Writing)	1		丸山 悦子	2	水 1	緑園				
11515	英語Ⅲi(Listening)	1		H.Armstrong	2	金 2	緑園	Fクラス指定	(EF合同)	前期にすべて修得	
10285	英語Ⅲi(Speaking)	1		H.Armstrong	2	水 2	緑園				
11172	英語Ⅲi(Language Development)	1		D.Ferreira	2	月 1	緑園				
10365	英語Ⅳi(Reading)	1		G.Mohamed	2	月 2	緑園				
10385	英語Ⅳi(Writing)	1		G.Mohamed	2	水 1	緑園	Fクラス指定	(EF合同)	後期にすべて修得	
11535	英語Ⅳi(Listening)	1		R.Chaikul	2	金 1	緑園				
10375	英語Ⅳi(Speaking)	1		R.Chaikul	2	水 2	緑園				
11542	英語Ⅳi(講読)	1		近藤 存志	2	火 2	緑園				
10276	英語Ⅲi(Reading)	1		S.M.Tamada	2	月 1	緑園	Gクラス指定	(GH合同)	前期にすべて修得	
10296	英語Ⅲi(Writing)	1		S.M.Tamada	2	水 2	緑園				
11516	英語Ⅲi(Listening)	1		D.Ferreira	2	金 2	緑園				
10286	英語Ⅲi(Speaking)	1		D.Ferreira	2	火 2	緑園				
11173	英語Ⅲi(Language Development)	1		R.Chaikul	2	火 1	緑園	Gクラス指定	(GH合同)	後期にすべて修得	
10366	英語Ⅳi(Reading)	1		J.Moore	2	月 1	緑園				
10386	英語Ⅳi(Writing)	1		J.Moore	2	水 2	緑園				
11536	英語Ⅳi(Listening)	1		J.Pipe	2	金 2	緑園				
10376	英語Ⅳi(Speaking)	1		K.M.Young(Kondo)	2	火 2	緑園	Gクラス指定	(GH合同)	後期にすべて修得	
11543	英語Ⅳi(講読)	1		向井 秀忠	2	月 2	緑園				

英語インテンシブ科目(2年次前期・後期)

種別	CODE	科目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
			前	後							
選択必修	10277	英語Ⅲi(Reading)	1		J.Moore	2	月 1	緑園	Hクラス指定	(GH合同)	前期にすべて修得
	10297	英語Ⅲi(Writing)	1		J.Moore	2	水 2	緑園			
	11517	英語Ⅲi(Listening)	1		J.Pipe	2	金 1	緑園			
	10287	英語Ⅲi(Speaking)	1		K.M.Young(Kondo)	2	火 2	緑園			
	11173	英語Ⅲi(Language Development)	1		R.Chaikul	2	火 1	緑園			
	10367	英語Ⅳi(Reading)	1		S.M.Tamada	2	月 1	緑園		(GH合同)	後期にすべて修得
	10387	英語Ⅳi(Writing)	1		S.M.Tamada	2	水 2	緑園			
	11537	英語Ⅳi(Listening)	1		D.Ferreira	2	金 2	緑園			
	10377	英語Ⅳi(Speaking)	1		D.Ferreira	2	火 2	緑園			
	11543	英語Ⅳi(講読)	1		向井 秀忠	2	月 2	緑園			
	10279	英語Ⅲi(Reading)	1		大山 悦子	2	月 2	緑園	Iクラス指定	(IJ合同)	前期にすべて修得
	10299	英語Ⅲi(Writing)	1		大山 悦子	2	水 1	緑園			
	11519	英語Ⅲi(Listening)	1		J.Campbell	2	金 1	緑園			
	10289	英語Ⅲi(Speaking)	1		豊浦 アマンダ レネー	2	火 1	緑園			
	11174	英語Ⅲi(Language Development)	1		J.Moore	2	金 2	緑園			
	10369	英語Ⅳi(Reading)	1		D.Burleigh	2	月 2	緑園		(IJ合同)	後期にすべて修得
	10389	英語Ⅳi(Writing)	1		D.Burleigh	2	水 1	緑園			
	11538	英語Ⅳi(Listening)	1		大畑 甲太	2	金 1	緑園			
	10379	英語Ⅳi(Speaking)	1		佐藤 あずさ	2	水 2	緑園			
	11544	英語Ⅳi(講読)	1		梅崎 透	2	金 2	緑園			
	10278	英語Ⅲi(Reading)	1		D.Burleigh	2	月 2	緑園	Jクラス指定	(IJ合同)	前期にすべて修得
	10298	英語Ⅲi(Writing)	1		D.Burleigh	2	水 1	緑園			
	11518	英語Ⅲi(Listening)	1		三村 千恵子	2	火 2	緑園			
	10288	英語Ⅲi(Speaking)	1		佐藤 あずさ	2	水 2	緑園			
11174	英語Ⅲi(Language Development)	1		J.Moore	2	金 2	緑園				
10368	英語Ⅳi(Reading)	1		大山 悦子	2	月 2	緑園	(IJ合同)		後期にすべて修得	
10388	英語Ⅳi(Writing)	1		大山 悦子	2	水 1	緑園				
11539	英語Ⅳi(Listening)	1		J.Campbell	2	金 1	緑園				
10378	英語Ⅳi(Speaking)	1		K.M.Young(Kondo)	2	火 1	緑園				
11544	英語Ⅳi(講読)	1		梅崎 透	2	金 2	緑園				

英語インテンシブ科目(3年次前期)

種別	CODE	科目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
			前	後							
選択必修	11680	英語Vi(Reading)	1		鈴木 周太郎	3	金 1	緑園	Aクラス	(GH合同)	前期にすべて修得
	11690	英語Vi(Speaking)	1		A.Dinglasan	3	水 1	緑園			
	11681	英語Vi(Reading)	1		齋藤 有希子	3	金 1	緑園	Bクラス		
	11691	英語Vi(Speaking)	1		J.Pak	3	火 1	緑園			
	11682	英語Vi(Reading)	1		牧田 義也	3	金 1	緑園	Cクラス		
	11692	英語Vi(Speaking)	1		J.Moore	3	火 1	緑園			
	11683	英語Vi(Reading)	1		梅崎 透	3	金 1	緑園	Dクラス		
	11693	英語Vi(Speaking)	1		A.Dinglasan	3	火 1	緑園			
	11684	英語Vi(Reading)	1		藤本 朝巳	3	金 1	緑園	Eクラス		
	11694	英語Vi(Speaking)	1		K.M.Young(Kondo)	3	火 1	緑園			
	11685	英語Vi(Reading)	1		三村 千恵子	3	火 1	緑園	Fクラス		
	11695	英語Vi(Speaking)	1		J.L.Sargent	3	水 1	緑園			
	11686	英語Vi(Reading)	1		丸山 悦子	3	火 1	緑園	Gクラス		
	11696	英語Vi(Speaking)	1		F.A.Marikkar	3	水 1	緑園			
	11687	英語Vi(Reading)	1		大山 悦子	3	月 1	緑園	Hクラス		
	11697	英語Vi(Speaking)	1		R.Chaikul	3	水 1	緑園			
	11688	英語Vi(Reading)	1		富樫 剛	3	月 1	緑園	Iクラス		
	11698	英語Vi(Speaking)	1		D.Ferreira	3	水 1	緑園			
	11689	英語Vi(Reading)	1		大畑 甲太	3	金 1	緑園	Jクラス		
	11699	英語Vi(Speaking)	1		豊浦 アマンダ レネー	3	月 1	緑園			

英語スタンダード科目(1年次後期、2年次前期・後期)

種別	CODE	科目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講校舎	クラス	備考	
			前	後							
選択必修	11250	英語Ⅱs(読む・書く)	1		F.A.Marikkar	1	水 1	緑園	①	全学科 1年次生クラス	
	11251		1		D.Burleigh	1	水 2	緑園			
	11252		1		竹中 久美子	1	水 1	緑園			
	11253		1		竹中 久美子	1	水 2	緑園			
	11254		1		多羅 深雪	1	月 2	緑園			
	11255		1		多羅 深雪	1	金 1	緑園			
	11256		1		佐藤 あずさ	1	月 2	緑園			
	11257		1		河野 利佳子	1	月 2	緑園			
	11258		1		佐藤 あずさ	1	月 1	緑園			
	11259		1		河野 利佳子	1	月 1	緑園			
	10250	英語Ⅱs(聞く・話す)	1		J.L.Sargent	1	月 2	緑園			
	10251		1		D.McCann	1	月 1	緑園			
	10252		1		G.T.M.Okuhara	1	月 2	緑園			
	10253		1		G.T.M.Okuhara	1	月 1	緑園			
	10254		1		J.L.Sargent	1	水 1	緑園			
	10257		1		A.Dinglasan	1	水 2	緑園			
	10258		1		A.Dinglasan	1	水 1	緑園			
	10259		1		J.Pak	1	水 1	緑園			
	10255		1		J.Pak	1	水 2	緑園			
	10256		1		J.Grindley	1	水 1	緑園			
選択必修	11550	英語Ⅲs(読む・書く)	1		大谷 歩	2	水 1	緑園	②	全学科 2年次生クラス	
	11551		1		G.T.M.Okuhara	2	水 1	緑園			
	11552		1		G.T.M.Okuhara	2	水 2	緑園			
	11553		1		大谷 歩	2	水 2	緑園			
	11554		1		齋藤 有希子	2	金 2	緑園			
	11555		1		多羅 深雪	2	金 2	緑園			
	11556		1		竹内 美紀	2	月 2	緑園			
	11557		1		涌井 陽子	2	月 2	緑園			
	11558		1		涌井 陽子	2	月 1	緑園			
	11559		1		多羅 深雪	2	月 1	緑園			
	10340	英語Ⅲs(聞く・話す)	1		J.Campbell	2	金 2	緑園			
	10341		1		上原 寿和子	2	金 2	緑園			
	10342		1		福永 保代	2	月 2	緑園			
	10343		1		S.W.Smith	2	月 2	緑園			
	10344		1		A.B.Marikkar	2	月 2	緑園			
	10345		1		S.W.Smith	2	月 1	緑園			
	10346		1		中込 幸子	2	水 1	緑園			
	10347		1		D.McCann	2	水 1	緑園			
	10348		1		中込 幸子	2	水 2	緑園			
	10349		1		D.McCann	2	水 2	緑園			
	11570	英語Ⅳs(読む・書く)	1		大谷 歩	2	水 1	緑園			③
	11571		1		G.T.M.Okuhara	2	水 1	緑園			
	11572		1		G.T.M.Okuhara	2	水 2	緑園			
	11573		1		大谷 歩	2	水 2	緑園			
	11574		1		齋藤 有希子	2	金 2	緑園			
	11575		1		多羅 深雪	2	金 2	緑園			
	11576		1		竹内 美紀	2	月 2	緑園			
	11577		1		涌井 陽子	2	月 2	緑園			
	11578		1		涌井 陽子	2	月 1	緑園			
	11579		1		多羅 深雪	2	月 1	緑園			
	10430	英語Ⅳs(聞く・話す)	1		J.Campbell	2	金 2	緑園			
	10431		1		上原 寿和子	2	金 2	緑園			
	10432		1		福永 保代	2	月 2	緑園			
	10433		1		S.W.Smith	2	月 2	緑園			
	10434		1		A.B.Marikkar	2	月 1	緑園			
	10435		1		S.W.Smith	2	月 1	緑園			
	10436		1		中込 幸子	2	水 1	緑園			
	10437		1		D.McCann	2	水 1	緑園			
	10438		1		中込 幸子	2	水 2	緑園			
	10439		1		D.McCann	2	水 2	緑園			

【備考欄】 ①=2009年度以前開講「英語Ⅱs(読む)」を修得済みの学生の履修不可
 ②=2010年度以前開講「英語Ⅲs(読む)」を修得済みの学生の履修不可
 ③=2010年度以前開講「英語Ⅳs(読む)」を修得済みの学生の履修不可

英語選択科目(インテンシブ・スタンダード共通)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考
				前	後					
選択	11600	英語e(Academic Listening)	英語による講義のリスニング・ノートテイキング	1		大畑 甲太	1234	金 2	緑園	初30
	11260	英語e(Academic Reading)		1		(休 講)	1234			
	11261		Globalizationを読む		1	梅崎 透	1234	火 2	緑園	
	11490	英語e(Academic Reading: Advanced)	人文学分野の英文学術書を読む	1		近藤 存志	1234	火 2	緑園	初25 ①
	11700	英語e(Business Communication)	Key Business Concepts	1		J.Pipe	1234	金 2	緑園	初30
	11560	英語e(Conversation Skills: Basic)		1		J.Pak	1234	火 2	緑園	初35 ②
	11561				1	(休 講)	1234			
	11300	英語e(Conversation Skills)		1		A.Dinglasan	1234	火 2	緑園	初30
	11301				1	J.Campbell	1234	金 3	緑園	
	11630	英語e(Conversation Skills: Advanced)		1		J.Moore	1234	火 2	緑園	初25 ③
	11590	英語e(Creative Writing)		1		(休 講)	1234			初30
	11610	英語e(Debating Culture)		1		(休 講)	1234			
	11320	英語e(Discussion and Debate)		1		(休 講)	1234			
	11330	英語e(English through Drama)		1		(休 講)	1234			
	11760	英語e(English through Movies: Basic)		1		(休 講)	1234			初35 ④
	11340	英語e(English through Movies)		1		(休 講)	1234			初30
	11640	英語e(English through Music: Basic)		1		(休 講)	1234			初35 ⑤
	11650	英語e(Grammar: Basic)	Basic Grammer in Use	1		福島 久恵	1234	水 2	緑園	初35 ⑥
	11651		実践のための基礎英文法	1		中川 正紀	1234	月 3	緑園	
	11652			1		福永 保代	1234	火 2	緑園	
	11580	英語e(News and Views)	News Media English	1		D.Ferreira	1234	水 2	緑園	初30 ⑦
	11780	英語e(News and Views: Advanced)		1		(休 講)	1234			初25
	11770	英語e(Pronunciation: Basic)		1		J.Moore	1234	火 2	緑園	初35 ⑧
	11370	英語e(Pronunciation)		1		(休 講)	1234			初30
	11380	英語e(Public Speaking)		1		(休 講)	1234			初30
	11620	英語e(Reading Fantasy: Basic)		1		(休 講)	1234			初35
	11390	英語e(Reading Fiction)		1		(休 講)	1234			初30
	11720	英語e(Reading Literature) A	児童文学と聖書を読む	1		藤本 朝巳	1234	火 2	緑園	
11730	英語e(Reading Literature) B		1		(休 講)	1234				
11400	英語e(Reading Poetry)		1		(休 講)	1234			初25	
11710	英語e(Speech and Debate)		1		上原 寿和子	1234	金 3	緑園	初30	

【備考欄】 初 = 「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)

①=2010年度開講「英語e(Academic Reading(Advanced))」を修得済みの学生の履修不可

②=2010年度開講「英語e(Conversation Skills(Basic))」を修得済みの学生の履修不可

③=2010年度開講「英語e(Conversation Skills(Advanced))」を修得済みの学生の履修不可

④=「英語e(English through Movies)」を修得済みの学生の履修不可

⑤=2010年度開講「英語e(English through Music(Basic))」を修得済みの学生の履修不可

英語選択科目(インテンシブ・スタンダード共通)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考
				前	後					
選 択	11410	英語e(TOEFL-iBT Preparation I)		1		G.C.Sweeney	1234	水 3	緑園	初35
	11411			1		丸山 悦子	1234	金 2	緑園	
	11412			1		G.C.Sweeney	1234	水 3	緑園	
	11420	英語e(TOEFL-iBT Preparation II)		1		鈴木 周太郎	1234	金 2	緑園	初30
	11421			1		(休 講)	1234			
	11430	英語e(TOEFL-iBT Preparation III)		1		丸山 悦子	1234	金 2	緑園	初25
	11440	英語e(TOEIC Preparation I)		1		大谷 歩	1234	水 3	緑園	初35
	11441			1		R.Chaikul	1234	水 1	緑園	
	11442			1		中込 幸子	1234	月 2	緑園	
	11450	英語e(TOEIC Preparation II)		1		(休 講)	1234			初30
	11451			1		(休 講)	1234			
	11740	英語e(TOEIC Preparation II : Listening)		1		R.Chaikul	1234	月 2	緑園	
	11750	英語e(TOEIC Preparation II : Reading)		1		大谷 歩	1234	水 3	緑園	
	11460	英語e(TOEIC Preparation III)		1		大山 悦子	1234	水 2	緑園	初25
	11660	英語e(Vocabulary: Basic)		1		J.Campbell	1234	金 3	緑園	初35 ⑨
	11810	英語e(Vocabulary)		1		豊浦 アマンダ レネー	1234	火 1	緑園	初30
	11670	英語e(World Englishes: Advanced)	Varieties of English	1		豊浦 アマンダ レネー	1234	月 3	緑園	初25 ⑩
	11790	英語e(Writing Skills)		1		上原 寿和子	1234	金 3	緑園	初30

- ⑥=2010年度開講「英語e(Grammar(Basic))」を修得済みの学生の履修不可
- ⑦=2012年度開講「英語e(News and Views)」を修得済みの学生の履修不可
- ⑧=2010年度開講「英語e(Pronunciation)」を修得済みの学生の履修不可
- ⑨=2010年度開講「英語e(Vocabulary(Basic))」を修得済みの学生の履修不可
- ⑩=2010年度開講「英語e(World Englishes(Advanced))」を修得済みの学生の履修不可

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

フランス語

入門(インテンシブ・スタンダード共通)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	14010	フランス語 I (入門)		1		神田 浩一	1	火 2	緑園	英・日・国	初	
	14011			1		志々見 剛	1	金 2	緑園	英・日・音		
	14012			1		大野 英二郎	1	金 2	緑園	コ・国		
	14013			1		村山 いくみ	1	木 2	緑園	日・国・音		
	14014			1		神田 浩一	1	火 3	緑園	コ・国		
	14015			1		(休 講)	1					
	14016			1		村山 いくみ	1	木 1	緑園	英・音		
	14017			1		横山 安由美	1	火 1	緑園	コ・国		
	14018			1		(休 講)	1					

インテンシブ科目(1年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
選択必修	14020	フランス語 II i(文法)		3	横山 安由美	1	火 1/水 1 /水 2	緑園		(週3)	II迄すべて修得
	14030	フランス語 II i(読む1)		1	大野 英二郎	1	火 2	緑園			
	14040	フランス語 II i(読む2)		1	大野 英二郎	1	金 2	緑園			
	14050	フランス語 II i(LL)		1	F.Mizokuchi	1	月 1	緑園	指定あり	いずれか1つを履修	
	14051		1	F.Mizokuchi	1	月 2	緑園				

インテンシブ科目(2年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
選択必修	14080	フランス語 III i(文法)		2	村山 いくみ	2	金 1/金 2			(週2)	III迄すべて修得
	14090	フランス語 III i(読む)		1	横山 安由美	2	水 1	緑園			
	14100	フランス語 III i(話す)		1	F.Mizokuchi	2	月 1	緑園	指定あり	いずれか1つを履修	
	14101		1	F.Mizokuchi	2	月 2	緑園				
	14110	フランス語 III i(書く)		1	神田 浩一	2	火 1	緑園			
	14120	フランス語 III i(LL)		1	A.Kremer	2	火 3	緑園			
	14180	フランス語 IV i(読む1)		1	村山 いくみ	2	木 2	緑園			
	14190	フランス語 IV i(読む2)		1	神田 浩一	2	火 2	緑園			
	14200	フランス語 IV i(話す)		1	A.Kremer	2	火 3	緑園	指定あり	いずれか1つを履修	
	14201		1	A.Kremer	2	火 4	緑園				
	14210	フランス語 IV i(書く)		1	志々見 剛	2	金 2	緑園			
	14220	フランス語 IV i(LL)		1	L.S.Martinel	2	木 1	緑園			

インテンシブ科目(3年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
選択必修	14370	フランス語 V i(読む)	『椿姫』と悲劇の恋	1	横山 安由美	34	水 2	緑園		★★	VIから1単位以上修得
	14270	フランス語 V i(話す)	文章を読んでからその内容について皆で会話します。	1	F.Mizokuchi	34	月 4	緑園			
	14280	フランス語 V i(書く)	フランス語作文の実践	1	志々見 剛	34	金 3	緑園			
	14290	フランス語 V i(LL)	フランス語会話を中心に	1	A.Kremer	34	火 4	緑園			
	14380	フランス語 VI i(読む)	フランス的モラルとは何か	1	村山 いくみ	34	木 3	緑園			VIから1単位以上修得
	14310	フランス語 VI i(話す)	ビデオで聞き取り訓練したり、その内容について話す	1	F.Mizokuchi	34	月 4	緑園			
	14320	フランス語 VI i(書く)	映像とともに学ぶフランス語作文	1	神田 浩一	34	火 3	緑園			
14330	フランス語 VI i(LL)	映画を通してフランス文化を知る	1	L.S.Martinel	34	木 2	緑園				

【クラス欄】 英=「英文学科」 日=「日本文学科」 コ=「コミュニケーション学科」 国=「国際交流学科」 音=「音楽学部」
 【備考欄】 初=「初回授業時選抜科目」(p.29) (週2)=「週2回授業」 (週3)=「週3回授業」 ☆=「インテンシブ・コースとスタンダード・コース共用クラス」
 ★=「初習外国語インテンシブ・コース以外の者が履修する場合は、あらかじめ語学責任者に相談することが望ましい。」
 【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

スタンダード科目(1・2年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	14060	フランス語Ⅱs(文法)		1	黒川 学	1	木 1	緑園	学科・コースによるクラス指定あり		クラス指定については、各学期初めの掲示を参照すること。	
	14061			1	黒川 学	1	木 2	緑園				
	14062			1	上杉 恭子	1	火 3	緑園				
	14070	フランス語Ⅱs(読む)		1	上杉 恭子	1	火 1	緑園				
	14071			1	上杉 恭子	1	火 2	緑園				
	14072			1	泉 美知子	1	木 1	緑園				
	14360	フランス語Ⅱs(LL)		1	A.Kremer	1	金 2	緑園				
	14130	フランス語Ⅲs(文法)		1	黒川 学	2	木 1	緑園				
	14131			1	黒川 学	2	木 2	緑園				
	14150	フランス語Ⅲs(読む)		1	上杉 恭子	2	火 1	緑園				
	14151			1	上杉 恭子	2	火 2	緑園				
	14160	フランス語Ⅲs(話す)		1	F.Mizokuchi	2	月 3	緑園				
	14170	フランス語Ⅲs(LL)		1	(休 講)	2						
	14240	フランス語Ⅳs(読む)		1	神田 浩一	2	火 1	緑園				
	14241			1	志々見 剛	2	金 1	緑園				
	14242			1	泉 美知子	2	木 2	緑園				
	14243			1	(休 講)	2						
	14340	フランス語Ⅳs(話す)		1	F.Mizokuchi	2	月 3	緑園				
14250	フランス語Ⅳs(LL)		1	(休 講)	2							

選択科目

選択	CODE	科目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
	14350	海外語学実習(フランス語)	2	上原 良子	1234	時外	学外	要手続①	

【備考欄】 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29)

①＝「詳細は学生要覧【海外研修】を参照」

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

ドイツ語

入門(インテンシブ・スタンダード共通)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	15030	ドイツ語 I (入門)		1		桑田 文	1	木 1	緑園	日・音	初	
	15031			1		亀ヶ谷 昌秀	1	火 2	緑園	文学部		
	15032			1		矢野 久美子	1	木 2	緑園	英・国		
	15033			1		中山 直子	1	火 1	緑園	音		
	15034			1		田丸 理砂	1	金 2	緑園	コ・国		

インテンシブ科目(1年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限		開講 校舎	クラス	備考	履修方法
							月 1	火 2/水 1				
選択必修	15040	ドイツ語 II i(文法)		3	N.Kaczmarek 田丸 理砂	1	月 1	緑園		(週3)	IIをすべて修得	
	15050	ドイツ語 II i(読む1)		1	N.Kaczmarek	1	水 2	緑園				
	15060	ドイツ語 II i(読む2)		1	矢野 久美子	1	木 2	緑園				
	15070	ドイツ語 II i(LL)		1	鈴木 直樹	1	木 1	緑園		☆		

インテンシブ科目(2年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限		開講 校舎	クラス	備考	履修方法
							木 1/木 2	火 2				
選択必修	15100	ドイツ語 III i(文法)		2	鈴木 直樹	2	木 1/木 2	緑園		(週2)	IIIをすべて修得	
	15110	ドイツ語 III i(読む)		1	田丸 理砂	2	火 2	緑園				
	15120	ドイツ語 III i(話す)		1	N.Kaczmarek	2	月 1	緑園				
	15130	ドイツ語 III i(書く)		1	N.Kaczmarek	2	水 2	緑園				
	15140	ドイツ語 III i(LL)		1	石井 寿子	2	火 1	緑園		☆		
	15200	ドイツ語 IV i(読む1)		1	田丸 理砂	2	水 2	緑園		IVから4単位以上修得		
	15210	ドイツ語 IV i(読む2)		1	高雄 綾子	2	金 2	緑園				
	15220	ドイツ語 IV i(話す)		1	N.Kaczmarek	2	水 1	緑園				
	15230	ドイツ語 IV i(書く)		1	桑田 文	2	木 1	緑園				
	15240	ドイツ語 IV i(LL)		1	石井 寿子	2	火 1	緑園				

インテンシブ科目(3年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
15290	ドイツ語 VI i(話す)	ドイツ語で話そう(中級ドイツ語)(1)	1	N.Kaczmarek	34	月 2	緑園				
15300	ドイツ語 VI i(書く)	初級文法を復習しながら独作文のトレーニングを行う	1	豊田 洋美	34	木 2	緑園				
15310	ドイツ語 VI i(LL)	ドイツ語を聞く(1)	1	石井 寿子	34	火 2	緑園				
15390	ドイツ語 VII i(読む)	読む楽しさを知ろう	1	矢野 久美子	34	火 3	緑園	VIから1単位以上修得			
15330	ドイツ語 VII i(話す)	ドイツ語で話そう(中級ドイツ語)(2)	1	N.Kaczmarek	34	月 2	緑園				
15340	ドイツ語 VII i(書く)	文法の総復習=基本から応用まで	1	鈴木 直樹	34	木 2	緑園				
15350	ドイツ語 VII i(LL)	ドイツ語を聞く(2)	1	石井 寿子	34	火 2	緑園				

【クラス欄】 英=「英文学科」 日=「日本文学科」 コ=「コミュニケーション学科」 国=「国際交流学科」 音=「音楽学部」
 【備考欄】 初=「初回授業時選抜科目」(p.29) (週2)=「週2回授業」 (週3)=「週3回授業」 ☆=「インテンシブ・コースとスタンダード・コース共用クラス」
 ★=「初習外国語インテンシブ・コース以外の者が履修する場合は、あらかじめ語学責任者に相談することが望ましい。」
 【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

スタンダード科目(1・2年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	15080	ドイツ語Ⅱs(文法)		1	亀ヶ谷 昌秀	1	火 2	緑園	学科コースによるクラス指定あり		クラス指定については、各学期初めの掲示を参照すること。	
	15081			1	豊田 洋美	1	木 1	緑園				
	15090	ドイツ語Ⅱs(読む)		1	豊田 洋美	1	木 2	緑園				
	15091			1	中山 直子	1	火 1	緑園				
	15070	ドイツ語Ⅱi(LL)		1	鈴木 直樹	1	木 1	緑園				☆
	15150	ドイツ語Ⅲs(文法)		1	豊田 洋美	2	木 1	緑園				
	15151			1	亀ヶ谷 昌秀	2	火 1	緑園				
	15170	ドイツ語Ⅲs(読む)		1	中山 直子	2	火 2	緑園				
	15180	ドイツ語Ⅲs(話す)		1	N.Kaczmarek	2	水 1	緑園				
	15140	ドイツ語Ⅲi(LL)		1	石井 寿子	2	火 1	緑園				☆
	15260	ドイツ語Ⅳs(読む)		1	高雄 綾子	2	金 1	緑園				
	15261			1	中山 直子	2	火 2	緑園				
	15270	ドイツ語Ⅳs(LL)		1	亀ヶ谷 昌秀	2	火 1	緑園				

音楽学部演奏学科対象クラス(1年次又は2年次)

選択必修	15010	ドイツ語Ⅰ(文法)		1	村田 えりな	12	木 1	緑園	演奏学科クラス
	15020	ドイツ語Ⅰ(読む)		1	村田 えりな	12	木 2	緑園	
	15082	ドイツ語Ⅱs(文法)		1	村田 えりな	12	木 1	緑園	
	15092	ドイツ語Ⅱs(読む)		1	村田 えりな	12	木 2	緑園	

選択科目

選択	15360	海外語学実習(ドイツ語)		2	高雄 綾子	1234	時外	学外	要手続①
----	-------	--------------	--	---	-------	------	----	----	------

【備考欄】 ☆＝「インテンシブ・コースとスタンダード・コース共用クラス」
要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29)
①＝「詳細は学生要覧【海外研修】を参照」

【科目名欄】 網掛け () は重複履修可能(p.26)

スペイン語

入門(インテンシブ・スタンダード共通)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	16010	スペイン語 I (入門)		1		大貫 良史	1	木 2	緑園	英・日・国	初	
	16011			1		安藤 弥生	1	火 1	緑園	日・コ・音		
	16012			1		前田 伸人	1	火 2	緑園	英・コ・音		
	16013			1		岡本 年正	1	木 2	緑園	英・コ・音		
	16014			1		杉下 由紀子	1	金 2	緑園	国		
	16015			1		寺尾 隆吉	1	火 2	緑園			
	16016			1		ヒガ, マルセーロ	1	木 1	緑園			
	16017			1		川上 英	1	水 2	緑園	コ・国		

インテンシブ科目(1年次)

選択必修	16020	スペイン語 II i(文法)		3	寺尾 隆吉 ヒガ, マルセーロ	1	火 1/水 2 木 2	緑園	(週3)	IIをすべて修得
	16030	スペイン語 II i(読む1)		1	ヒガ, マルセーロ	1	月 2	緑園		
	16040	スペイン語 II i(読む2)		1	杉下 由紀子	1	金 2	緑園		
	16050	スペイン語 II i(LL)		1	前田 伸人	1	火 2	緑園		

インテンシブ科目(2年次)

選択必修	16080	スペイン語 III i(文法)		2	寺尾 隆吉	2	火 1/水 2	緑園	(週2)	IIIをすべて修得
	16090	スペイン語 III i(読む)		1	杉下 由紀子	2	金 1	緑園		
	16100	スペイン語 III i(話す)		1	富田 広樹	2	木 1	緑園		
	16110	スペイン語 III i(書く)		1	V.Aparicio	2	月 1	緑園		
	16120	スペイン語 III i(LL)		1	ヒガ, マルセーロ	2	木 2	緑園		
	16180	スペイン語 IV i(読む1)		1	寺尾 隆吉	2	火 2	緑園	IVから4単位以上修得	
	16190	スペイン語 IV i(読む2)		1	杉下 由紀子	2	金 1	緑園		
	16200	スペイン語 IV i(話す)		1	富田 広樹	2	木 1	緑園		
	16210	スペイン語 IV i(書く)		1	V.Aparicio	2	月 1	緑園		
	16220	スペイン語 IV i(LL)		1	H.Sierra	2	水 3	緑園		

インテンシブ科目(3年次)

選択必修	16370	スペイン語 VI i(読む)	スペインの歴史を読む1	1	中塚 次郎	34	金 2	緑園	☆☆	VIから1単位以上を修得
	16280	スペイン語 VI i(話す)	映像音声教材を利用して会話の練習をする。	1	富田 広樹	34	木 2	緑園		
	16290	スペイン語 VI i(書く)	簡潔な文章を書く3	1	V.Aparicio	34	月 2	緑園		
	16300	スペイン語 VI i(LL)	スペイン語表現3	1	川上 英	34	水 1	緑園		
	16380	スペイン語 VII i(読む)	スペインをの歴史を読む2	1	中塚 次郎	34	金 2	緑園		VIから1単位以上を修得
	16320	スペイン語 VI i(話す)	スペイン語会話2	1	H.Sierra	34	水 4	緑園		
	16330	スペイン語 VI i(書く)	簡潔な文章を書く4	1	V.Aparicio	34	月 2	緑園		
	16340	スペイン語 VI i(LL)	映像音声教材を利用して会話の表現を学ぶ。	1	富田 広樹	34	木 2	緑園		

【クラス欄】 英=「英文学科」 日=「日本文学科」 コ=「コミュニケーション学科」 国=「国際交流学科」 音=「音楽学部」
 【備考欄】 初=「初回授業時選抜科目」(p.29) (週2)=「週2回授業」 (週3)=「週3回授業」
 ☆=「インテンシブ・コースとスタンダード・コース共用クラス」
 ☆★=「初習外国語インテンシブ・コース以外の者が履修する場合は、あらかじめ語学責任者に相談することが望ましい。」
 【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

スタンダード科目(1・2年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	16060	スペイン語Ⅱs(文法)		1	安藤 弥生	1	火 1	緑園	学科・コースによるクラス指定あり			
	16061			1	安藤 弥生	1	火 2	緑園				
	16070	スペイン語Ⅱs(読む)		1	岡本 年正	1	木 1	緑園				
	16071			1	岡本 年正	1	木 2	緑園				
	16360	スペイン語Ⅱs(LL)		1	大貫 良史	1	木 2	緑園				
	16130	スペイン語Ⅲs(文法)		1	大貫 良史	2	木 1	緑園				
	16131			1	安藤 弥生	2	火 2	緑園				
	16150	スペイン語Ⅲs(読む)		1	岡本 年正	2	木 1	緑園				
	16151			1	前田 伸人	2	火 1	緑園				
	16160	スペイン語Ⅲs(話す)		1	(休 講)	2						
	16170	スペイン語Ⅲs(LL)		1	(休 講)	2						
	16240	スペイン語Ⅳs(読む)		1	前田 伸人	2	火 1	緑園				
	16241			1	大貫 良史	2	木 1	緑園				
	16250	スペイン語Ⅳs(話す)		1	川上 英	2	水 1	緑園				
	16251			1	川上 英	2	水 2	緑園				
	16260	スペイン語Ⅳs(LL)		1	(休 講)	2						

選択科目

選択	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
	16350	海外語学実習(スペイン語)		2	ヒガ, マルセーロ	1234	時外	学外		要手続①	

【備考欄】 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29)

①=「詳細は学生要覧【海外研修】を参照」

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

中国語

入門(インテンシブ・スタンダード共通)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	17010	中国語Ⅰ(入門)		1	温 琳	1	火 1	緑園	国	初		
	17011			1	鄭 浩瀾	1	木 2	緑園	国			
	17012			1	(休 講)	1						
	17013			1	末岡 実	1	木 2	緑園	日・コ			
	17014			1	味岡 美玲	1	水 3	緑園	英・音			
	17015			1	衛藤 安奈	1	金 2	緑園	日・コ			
	17016			1	飯田 敦子	1	金 2	緑園	国			
	17017			1	華 金玲	1	木 1	緑園	英・音			
	17019			1	李 彦銘	1	水 3	緑園	日・コ			

インテンシブ科目(1年次)

選択必修	17020	中国語Ⅱi(文法)		3	江上 幸子 飯田 敦子	1	火 2/木 2 金 2	緑園		(週3)	Ⅱをすべて修得
	17030	中国語Ⅱi(読む1)		1	魯 俐	1	水 2	緑園			
	17040	中国語Ⅱi(読む2)		1	魯 俐	1	火 1	緑園			
	17050	中国語Ⅱi(LL)		1	衛藤 安奈	1	金 1	緑園	指定あり	いずれか1つを履修	
	17051			1	鄭 浩瀾	1	月 2	緑園			

インテンシブ科目(2年次)

選択必修	17080	中国語Ⅲi(文法)		2	江上 幸子	2	火 2/木 2	緑園		(週2)	Ⅲをすべて修得
	17090	中国語Ⅲi(読む)		1	飯田 敦子	2	金 1	緑園			
	17100	中国語Ⅲi(話す)		1	石原 正代	2	金 2	緑園	指定あり	いずれか1つを履修	
	17101			1	味岡 美玲	2	月 4	緑園			
	17110	中国語Ⅲi(書く)		1	鄭 浩瀾	2	月 2	緑園			
	17120	中国語Ⅲi(LL)		1	李 彦銘	2	水 2	緑園			
	17121			1	(休 講)	2					
	17180	中国語Ⅳi(読む1)		1	華 金玲	2	木 3	緑園			
	17190	中国語Ⅳi(読む2)		1	飯田 敦子	2	金 1	緑園			
	17200	中国語Ⅳi(話す)		1	魯 俐	2	水 3	緑園	指定あり	いずれか1つを履修	
	17201			1	温 琳	2	火 1	緑園			
	17210	中国語Ⅳi(書く)		1	味岡 美玲	2	月 4	緑園			
	17220	中国語Ⅳi(LL)		1	鄭 浩瀾	2	木 2	緑園			

インテンシブ科目(3年次)

選択必修	17370	中国語Ⅴi(読む)	中国語文を読む	1	江上 幸子	34	木 3	緑園		★★	Ⅴiから1単位以上修得
	17280	中国語Ⅴi(話す)	楽しく中国語を話そう	1	温 琳	34	火 2	緑園			
	17290	中国語Ⅴi(書く)	日中翻訳(1)	1	味岡 美玲	34	月 2	緑園			
	17300	中国語Ⅴi(LL)	映像中国語	1	李 彦銘	34	水 4	緑園			
	17380	中国語Ⅴi(読む)	中国の社会問題を読む13	1	福島 仁	34	火 2	緑園			Ⅴiから1単位以上修得
	17320	中国語Ⅴi(話す)	すべて中国語で話そう	1	魯 俐	34	木 2	緑園			
	17330	中国語Ⅴi(書く)	日中翻訳(2)	1	味岡 美玲	34	月 2	緑園			
	17340	中国語Ⅴi(LL)	中国語検定	1	李 彦銘	34	水 4	緑園			

【クラス欄】 英=「英文学科」 日=「日文学科」 コ=「コミュニケーション学科」 国=「国際交流学科」 音=「音楽学部」

【備考欄】 初=「初回授業時選抜科目」(p.29) (週2)=「週2回授業」 (週3)=「週3回授業」

☆=「インテンシブ・コースとスタンダード・コース共用クラス」

★=「初習外国語インテンシブ・コース以外の者が履修する場合は、あらかじめ語学責任者に相談することが望ましい。」

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

スタンダード科目(1・2年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	17060	中国語Ⅱs(文法)		1	衛藤 安奈	1	金 2	緑園	学科・コースによるクラス指定あり		クラス指定については、各学期初めの掲示を参照すること。	
	17061			1	石原 正代	1	火 2	緑園				
	17070	中国語Ⅱs(読む)		1	華 金玲	1	木 2	緑園				
	17071			1	味岡 美玲	1	水 3	緑園				
	17360	中国語Ⅱs(LL)		1	李 彦銘	1	水 2	緑園				
	17130	中国語Ⅲs(文法)		1	衛藤 安奈	2	金 1	緑園				
	17131			1	石原 正代	2	火 2	緑園				
	17150	中国語Ⅲs(読む)		1	華 金玲	2	木 2	緑園				
	17151			1	角崎 信也	2	火 1	緑園				
	17160	中国語Ⅲs(話す)		1	姚 毅	2	木 3	緑園				
	17170	中国語Ⅲs(LL)		1	(休 講)	2						
	17241	中国語Ⅳs(読む)		1	石原 正代	2	木 2	緑園				
	17242			1	角崎 信也	2	火 1	緑園				
	17250	中国語Ⅳs(話す)		1	姚 毅	2	木 3	緑園				
	17251			1	温 琳	2	火 2	緑園				
17260	中国語Ⅳs(LL)		1	李 彦銘	2	水 3	緑園					

選択科目

種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
選択	17350	海外語学実習(中国語)		2	鄭 浩瀾	1234	時外	学外		要手続①	

【備考欄】 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29)

①=「詳細は学生要覧【海外研修】を参照」

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

朝鮮語

入門(インテンシブ・スタンダード共通)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	18010	朝鮮語Ⅰ(入門)		1		阪堂 千津子	1	木 2	緑園	英・コ・音	初	
	18011			1		荻野 優子	1	火 1	緑園	英・日・国		
	18012			1		金 香男	1	火 2	緑園	コ・国・音		
	18013			1		北村 唯司	1	木 1	緑園	日・コ・国		
	18014			1		丁 元泰	1	金 2	緑園	英・日・国		
	18015			1		李 吟京	1	水 3	緑園	日・コ・音		

インテンシブ科目(1年次)

選択必修	18020	朝鮮語Ⅱi(文法)		3		金 香男	1	火 1/火 2 /水 1	緑園		(週3)	Ⅱをすべて修得
	18030	朝鮮語Ⅱi(読む1)		1		北村 唯司	1	木 1	緑園			
	18040	朝鮮語Ⅱi(読む2)		1		丁 元泰	1	金 2	緑園			
	18050	朝鮮語Ⅱi(LL)		1		阪堂 千津子	1	木 2	緑園		☆	

インテンシブ科目(2年次)

選択必修	18080	朝鮮語Ⅲi(文法)		2		金 香男	2	水 1/水 2	緑園		(週2)	Ⅲをすべて修得
	18090	朝鮮語Ⅲi(読む)		1		北村 唯司	2	木 2	緑園			
	18100	朝鮮語Ⅲi(話す)		1		趙 美景	2	火 2	緑園			
	18110	朝鮮語Ⅲi(書く)		1		丁 元泰	2	金 1	緑園			
	18120	朝鮮語Ⅲi(LL)		1		阪堂 千津子	2	木 1	緑園		☆	Ⅳiから4単位以上修得
	18180	朝鮮語Ⅳi(読む1)		1		北村 唯司	2	木 2	緑園			
	18190	朝鮮語Ⅳi(読む2)		1		趙 美景	2	金 2	緑園			
	18200	朝鮮語Ⅳi(話す)		1		趙 美景	2	火 2	緑園			
	18210	朝鮮語Ⅳi(書く)		1		丁 元泰	2	金 1	緑園			
	18220	朝鮮語Ⅳi(LL)		1		阪堂 千津子	2	木 1	緑園			

インテンシブ科目(3年次)

選択必修	18370	朝鮮語Ⅴi(読む)	ネットで見る現代韓国・朝鮮事情(1)	1		並木 真人	34	火 5	緑園		☆☆	Ⅴiから1単位以上修得
	18280	朝鮮語Ⅴi(話す)	楽しく話そう(1)	1		趙 美景	34	火 3	緑園			
	18290	朝鮮語Ⅴi(書く)	中級文法で作文する(1)	1		李 吟京	34	水 4	緑園			
	18300	朝鮮語Ⅴi(LL)	めざせ検定合格対策講座基礎	1		阪堂 千津子	34	木 5	緑園			
	18380	朝鮮語Ⅴi(読む)	ネットで見る現代韓国・朝鮮事情(2)	1		並木 真人	34	火 5	緑園			Ⅴiから1単位以上修得
	18320	朝鮮語Ⅴi(話す)	楽しく話そう(2)	1		趙 美景	34	火 3	緑園			
	18330	朝鮮語Ⅴi(書く)	中級文法で作文する(2)	1		李 吟京	34	木 3	緑園			
	18340	朝鮮語Ⅴi(LL)	めざせ検定合格対策講座応用	1		阪堂 千津子	34	木 5	緑園			

【クラス欄】 英=「英文学科」 日=「日本文学科」 コ=「コミュニケーション学科」 国=「国際交流学科」 音=「音楽学部」
 【備考欄】 初=「初回授業時選抜科目」(p.29) (週2)=「週2回授業」 (週3)=「週3回授業」
 ☆=「インテンシブ・コースとスタンダード・コース共用クラス」
 ★=「初習外国語インテンシブ・コース以外の者が履修する場合は、あらかじめ語学責任者に相談することが望ましい。」
 【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

スタンダード科目(1・2年次)

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法				
				前	後											
選択必修	18060	朝鮮語Ⅱs(文法)		1		荻野 優子	1	火 1	緑園	学科・コースによるクラス指定あり		クラス指定については、各学期初めの掲示を確認すること。				
	18061			1									荻野 優子	1	火 2	緑園
	18070	朝鮮語Ⅱs(読む)		1		李 聆京	1	木 1	緑園							
	18071			1									李 聆京	1	木 2	緑園
	18050	朝鮮語Ⅱi(LL)		1		阪堂 千津子	1	木 2	緑園				☆			
	18130	朝鮮語Ⅲs(文法)		1		金 順玉	2	火 1	緑園							
	18131			1									金 順玉	2	火 2	緑園
	18150	朝鮮語Ⅲs(読む)		1		李 泓毅	2	木 1	緑園							
	18151			1									李 泓毅	2	木 2	緑園
	18120	朝鮮語Ⅲi(LL)		1		阪堂 千津子	2	木 1	緑園				☆			
	18240	朝鮮語Ⅳs(読む)		1		李 泓毅	2	木 1	緑園							
	18241			1									李 泓毅	2	木 2	緑園
	18242			1									(休 講)	2		
	18243			1									(休 講)	2		
	18390	朝鮮語Ⅳs(話す)		1		金 順玉	2	火 1	緑園							
18391	1				金 順玉					2	火 2	緑園				

選択科目

種別	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
選択	18350	海外語学実習(朝鮮語)		2	金 香男	1234	時外	学外		要手続①	

【備考欄】 ☆=「インテンシブ・コースとスタンダード・コース共用クラス」 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29)

①=「詳細は学生要覧【海外研修】を参照」

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

古典ギリシア語・ラテン語・イタリア語・日本語

種別	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	クラス	備考	履修方法
				前	後							
選択必修	19010	古典ギリシア語Ⅰ(文法)	古典ギリシア語の世界ーギリシア語の初歩とその文化	1		久保田 忠利	1234	月 4	緑園	(隔)		
	19020	古典ギリシア語Ⅱ(文法)	古典ギリシア語の基礎ー語形の変化を学ぶ	1		久保田 忠利	1234	月 4	緑園			
	19030	古典ギリシア語Ⅲ(読む)		1		(休 講)	234					
	19040	古典ギリシア語Ⅳ(読む)		1		(休 講)	234					
	19050	ラテン語Ⅰ(文法)	ラテン語の世界ーラテン語の初歩とローマ時代の文化	1		久保田 忠利	1234	月 3	緑園	(隔)		
	19060	ラテン語Ⅱ(文法)	ラテン語の基礎ー語形の変化を学ぶ	1		久保田 忠利	1234	月 3	緑園			
	19070	ラテン語Ⅲ(読む)		1		(休 講)	234					
	19080	ラテン語Ⅳ(読む)		1		(休 講)	234					
	19090	イタリア語Ⅰ(文法)		1		江花 妃奈子	1234	木 2	緑園	演奏		
	19091			1		小田原 琳	1234	木 4	緑園			
	19100	イタリア語Ⅰ(読む)		1		江花 妃奈子	1234	木 3	緑園	演奏		
	19101			1		小田原 琳	1234	木 5	緑園			
	19110	イタリア語Ⅱ(文法)		1		江花 妃奈子	1234	木 2	緑園	演奏		
	19111			1		小田原 琳	1234	木 4	緑園			
19120	イタリア語Ⅱ(読む)		1		江花 妃奈子	1234	木 3	緑園	演奏			
19121			1		小田原 琳	1234	木 5	緑園				
19130	日本語Ⅰ		1		渡部 涼子	1234	水 2	緑園				
19140	日本語Ⅱ		1		渡部 涼子	1234	水 2	緑園				

●英文学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
選択必修Ⅰ		2A010	R&R(入門ゼミ)		1		大畑 甲太	1	金 3	緑園	学	R&R、基礎ゼミを各1単位、合計2単位を修得	
		2A012			1		富樫 剛	1	月 5	緑園			
		2A013			1		由井 哲哉	1	火 3	緑園			
		2A014			1		デイヴィッド パーレイ	1	火 3	緑園			
		2A015			1		鏡平名 尚子	1	木 4	緑園			
		2A020	英米文化基礎ゼミ	現代アメリカの諸相	1		梅崎 透	1	金 4	緑園			
		2A022		イギリス芸術をめぐる旅	1		近藤 存志	1	金 4	緑園			
		2A023		Good language learning strategies	1		豊浦 アマダ レネー	1	月 3	緑園			
		2A024		ジャンルでみるアメリカ映画	1		福永 保代	1	月 3	緑園			
	2A025		アメリカ文学を教材としながら英語力の伸長を目指す	1		渡辺 信二	1	月 3	緑園				
選択必修Ⅱ	▲	2A030	アメリカ研究入門	人種・民族・移民の歴史からアメリカ合衆国を考える	4		中川 正紀	12	月 4/木 4	緑園	(週2)	Ⅱ群から12単位以上を修得	
	▲	2A040	イギリス研究入門	‘文芸’両道のイギリス文化史	4		近藤 存志/ 向井 秀忠	12	火 4/金 4	緑園			
	▲	2A890	英米文学研究入門(1)	人生いろいろ、イギリス詩いろいろ 2013	4		富樫 剛	12	月 4/月 5	緑園	(2連)		
	▲	2A900	英米文学研究入門(2)	エリザベス朝演劇研究入門	4		由井 哲哉	12	火 4/金 4	緑園			
	▲	2B200	英語文化研究入門	子どもと絵本・昔話	4		藤本 朝巳	12	火 3/金 3	緑園	(週2)		
	▲	2A080	英語学研究入門	女と男と言語学	4		鏡平名 尚子	12	火 4/金 4	緑園			
選択必修Ⅲ		2A910	アメリカを読み解く(1)	アメリカのいまを読み解く	2		梅崎 透	2	金 4	緑園	学	Ⅲ群から14単位以上を修得	
		2A920	アメリカを読み解く(2)	アメリカに関する課題を自分たちで設定し口頭発表する	2		渡辺 信二	2	月 3	緑園			
		2A100	イギリスを読み解く	古くて新しいイギリスの魅力	2		近藤 存志	2	火 3	緑園			
		2B210	イギリスを読み解く(2)	イギリスの社会を文学・文化から読み解く	2		向井 秀忠	2	金 5	緑園			
		2A130	英語の実像を探る	英語を知ること・学ぶことは？	2		大畑 甲太	2	火 3	緑園			
		2B220	英語文献を読み解く	速読と精読	2		富樫 剛	2	月 3	緑園			
	▲	51020	現代アメリカ論	第二次世界大戦後のアメリカ社会の変遷	4		中川 正紀	234	月 4/木 4	緑園			(週2) ①
	▲	2A150	アメリカの政治と社会A	アメリカ政治外交史	2		佐藤 真千子	234	金 5	緑園			①
	▲	2A160	アメリカの政治と社会B	アメリカ政治	2		佐藤 真千子	234	金 5	緑園			
	▲	2A170	アメリカの思想・宗教A	あるべきアメリカ像の変容過程A	2		松原 宏之	234	金 2	緑園			
	▲	2A180	アメリカの思想・宗教B	あるべきアメリカ像の変容過程B	2		松原 宏之	234	金 2	緑園			
	▲	2A190	アメリカの文化A	米大衆文化に見るエスニシティの喪失	2		杉原 志啓	1234	火 2	緑園			
	▲	2A200	アメリカの文化B	映像に見るアメリカ文化一進るスポーツの力	2		福島 君子	1234	火 3	緑園			◆100
	▲	2A210	アメリカ史	近現代アメリカの歴史と文化	4		梅崎 透	234	火 3/金 3	緑園			(週2) ①
	▲	2B230	アメリカン・スタディーズ	世界史のなかのアメリカ	2		梅崎 透	1234	金 3	緑園			
	▲	2A240	イギリスの政治と社会A	イギリスの政治と社会A	2		菅原 未宇	234	水 4	緑園			
	▲	2A250	イギリスの政治と社会B	イギリスの政治と社会B	2		菅原 未宇	234	水 5	緑園			
	▲	2A260	イギリスの思想・宗教A	『カンタベリー物語』で少し古い英語に触れてみよう	2		土家 典生	1234	木 4	緑園			①
	▲	2A270	イギリスの思想・宗教B	巡礼に行く人々の描写から当時の社会が見えてくる	2		土家 典生	1234	木 4	緑園			
	▲	2A280	イギリス文化論総説A	ファンタジーの系譜	2		千森 幹子	1234	月 4	緑園			① ◆120
	▲	2A290	イギリス文化論総説B	子どもと少女の表象	2		千森 幹子	1234	木 4	緑園			①
	▲	2B360	イギリス文化史		2		(休 講)	1234					
	▲	2A300	イギリス史A	イギリス史概説A	2		菅原 未宇	1234	水 5	緑園			①
	▲	2A310	イギリス史B	イギリス史概説B	2		菅原 未宇	1234	水 4	緑園			
	▲	2A320	カナダの政治と社会		4		(休 講)	234					(週2) ①
	▲	2A330	オーストラリア地域文化研究A	多文化社会オーストラリアの歴史と展望	2		関根 薫	1234	水 5	緑園			①
	▲	2A340	オーストラリア地域文化研究B	多文化社会オーストラリアの諸問題と課題	2		関根 薫	1234	水 5	緑園			
	▲	2A360	キリスト教と英米文学1		2		(休 講)	234					
▲	2A370	キリスト教と英米文学2	英米文学にみるキリスト教	2		藤村 待子	234	水 5	緑園				
▲	2B240	アメリカ文学史	アメリカ国家の特徴を念頭においてアメリカ文学を概観	2		渡辺 信二	12	月 4	緑園				
▲	2B250	イギリス文学史A		2		(休 講)	12						
▲	2B260	イギリス文学史B		2		(休 講)	12						
▲	2B270	英米文学特論A	『女性映画』を読む	2		福永 保代	1234	火 4	緑園				
▲	2B280	英米文学特論B		2		(休 講)	1234						

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」

●英文学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択必修Ⅲ	▲	2B370	アメリカ小説を読むA	19世紀の小説を中心に読み考え報告する	2		渡辺 信二	1234	月 4	緑園		
	▲	2B380	アメリカ小説を読むB		2		(休 講)	1234				
	▲	2A420	イギリス小説を読むA	トマス・ハーディの『ダーバヴィル家のテス』を読む	2		向井 秀忠	1234	月 3	緑園		
	▲	2A430	イギリス小説を読むB	E.M.フォースターの『眺めのいい部屋』を読む	2		向井 秀忠	1234	月 3	緑園		
	▲	2A440	アメリカ詩の世界A		2		(休 講)	1234				
	▲	2A450	アメリカ詩の世界B	植民地時代から現代までの女性詩人を概観する	2		渡辺 信二	1234	木 3	緑園		
	▲	2A460	イギリス詩の世界A	ロマン派特集2013	2		富樫 剛	1234	月 4	緑園		
	▲	2A470	イギリス詩の世界B		2		(休 講)	1234				
	▲	2A480	アメリカ演劇の世界A	アメリカ演劇の魅力や本質、文化的背景を探求する。	2		竹島 達也	1234	月 5	緑園		
	▲	2A490	アメリカ演劇の世界B		2		(休 講)	1234				
	▲	2A500	イギリス演劇の世界A		2		(休 講)	1234				
	▲	2A510	イギリス演劇の世界B	シェイクスピアの世界	2		由井 哲哉	1234	火 3	緑園		
	▲	2B290	フォークロアの世界A	妖精の世界A	2		藤本 朝巳	1234	金 4	緑園		
	▲	2B300	フォークロアの世界B	妖精の世界B	2		藤本 朝巳	1234	金 2	緑園		
	▲	2B310	英語圏文学A	映画と原作—G・グリーンとデュ・モリアの不思議界	2		福島 君子	1234	火 3	緑園	◆100	
	▲	2B320	英語圏文学B	原文でたのしむ子どもの本	2		西村 静子	1234	月 3	緑園	初50	
	▲	2A550	英語圏の映画と映像A	アメリカ映画の歴史 I	2		福永 保代	234	月 4	緑園	◆120	
	▲	2A560	英語圏の映画と映像B	アメリカ映画の歴史 II	2		福永 保代	234	月 4	緑園		
	▲	2A570	英語圏の文学と芸術A	19世紀イギリス絵画と聖書・聖書物語	2		近藤 存志	1234	金 3	緑園		
	▲	2A580	英語圏の文学と芸術B	続・19世紀イギリス絵画と聖書・聖書物語	2		近藤 存志	1234	金 3	緑園		
	▲	2B330	英米芸術史		2		(休 講)	1234				
	▲	2A600	英語のさまざまな側面A	ASPECTS OF MEANING	2		マーティン, ロジャー	1234	火 3	緑園		
	▲	2A610	英語のさまざまな側面B	ASPECTS OF SYNTAX	2		マーティン, ロジャー	1234	火 3	緑園		
	▲	2A620	英語のしくみを知るA	ENGLISH LINGUISTICS	2		マーティン, ロジャー	1234	火 4	緑園	②	
	▲	2A630	英語のしくみを知るB	ENGLISH SYNTAX	2		マーティン, ロジャー	1234	火 4	緑園		
	▲	2A640	英語と社会・文化	Language in society	2		饒平名 尚子	1234	火 4	緑園		
	▲	2B340	英語学特論	第二言語習得論から見る英語学習	2		大畑 甲太	1234	金 3	緑園		
	▲	2A650	日英語の発想と表現	Key Concepts of Japanese Culture	2		大畑 甲太	1234	火 3	緑園	◆40 ②	
	▲	2A660	英語の発音A	英語の音声A	2		松浪 晋也	1234	水 4	緑園	◆48	
	▲	2A661	英語の発音A	英語の音声A	2		松浪 晋也	1234	水 5	緑園	◆48	
	▲	2A670	英語の発音B	英語の音声B	2		松浪 晋也	1234	水 3	緑園	◆48	
	▲	2A671	英語の発音B	英語の音声B	2		松浪 晋也	1234	水 4	緑園	◆48	
	▲	2A680	英語の歴史A	目から鱗の英語の歴史、驚くばかりの世界の展開	2		土家 典生	1234	木 3	緑園		
	▲	2A690	英語の歴史B	英語の単語に埋もれた歴史とドラマ、こんなに面白	2		土家 典生	1234	木 3	緑園		
	▲	2A700	翻訳技法A	YA・児童文学を中心として	2		三辺 律子	234	水 3	緑園	初40	
	▲	2A710	翻訳技法B		2		(休 講)	234				
	▲	2A720	通訳技法A	通訳基礎A	2		福島 久恵	234	木 3	緑園		
	▲	2A730	通訳技法B	通訳基礎B	2		福島 久恵	234	木 3	緑園		
	▲	2A740	同時通訳技法A	通訳A	2		村瀬 弘美	234	木 4	緑園	初30	
	▲	2A750	同時通訳技法B	通訳B	2		村瀬 弘美	234	木 4	緑園		
▲	2A760	時事英語研究A		2		(休 講)	1234					
▲	2A770	時事英語研究B		2		(休 講)	1234				初40	
▲	2A790	Academic Writing A	Writing professionally	2		豊浦 アマンダ レネー	234	月 2	緑園	初20 ②		
▲	2A791			2		豊浦 アマンダ レネー	234	火 2	緑園			
▲	2A800	Academic Writing B		2		(休 講)	234					
▲	2A810	Global Issues		4		(休 講)	1234			初30 ② (週2)		
▲	2A970	Internet English A	Basic Internet Skills	2		豊浦 アマンダ レネー	1234	火 2	緑園	初45 ②		
▲	2A980	Internet English B	Basic Internet Skills	2		豊浦 アマンダ レネー	1234	水 2	緑園			
▲	2A990	The English-Speaking World A	Tales from Other Countries	2		ディヴィッド バーレイ	1234	月 4	緑園			
▲	2B010	The English-Speaking World B	Tales from Other Countries	2		ディヴィッド バーレイ	1234	月 4	緑園	②		
▲	2A850	English for Kids A	How children learn a language	2		海崎 百合子	234	水 1	緑園			
▲	2A860	English for Kids B	How to teach children English	2		海崎 百合子	234	水 1	緑園	初30 ②		
▲	2A870	Teaching Japanese Language A		2		(休 講)	234					
▲	2A880	Teaching Japanese Language B		2		(休 講)	234			②		
▲	2B350	Ferris Special English Program		2		(休 講)	234					

Ⅲ群から14単位以上を修得

①=英文学科・国際交流学科複式開講科目 ②=英語による授業 ③=詳細は【海外研修】を参照

【開放欄】 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛けは重複履修可能(p.26)

●英文学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択必修Ⅲ	▲	AA010	カルチュラルスタディーズA	カルチュラル・スタディーズの理論を理解	2		関根 薫	1234	水 4	緑園		Ⅲ群から14単 位以上を修得
	▲	AA020	カルチュラルスタディーズB	カルチュラル・スタディーズの理論を分析	2		関根 薫	1234	水 4	緑園		
	▲	AA030	古典と表象文化A		2		(休 講)	1234			◆120	
	▲	AA040	古典と表象文化B		2		(休 講)	1234			◆120	
	▲	AA050	テキスト生成と批評A	近代文学の(終り)を読む	2		高橋 修	1234	月 4	緑園		
	▲	AA060	テキスト生成と批評B	テキスト生成の現場に立ち会う：詩人たちの場合	2		渡辺 信二	1234	木 4	緑園		
	▲	AA070	ポピュラーカルチャーA		2		(休 講)	1234			◆120	
	▲	AA080	ポピュラーカルチャーB		2		(休 講)	1234			◆120	
	▲	AA090	声の文化と文字の文化A	口承文芸を通して学ぶ日本語表現学	2		椎名 渉子	1234	木 2	緑園		
	▲	AA100	声の文化と文字の文化B	気持ちとことば	2		鏡平名 尚子	1234	火 5	緑園		
	▲	AA110	ジェンダー・フェミニズム批評A	読みなおす、読みかえる①	2		黒岩 裕市	1234	水 4	緑園		
	▲	AA120	ジェンダー・フェミニズム批評B	読みなおす、読みかえる②	2		黒岩 裕市	1234	水 4	緑園		
	▲	AA130	児童文学論A	ジャンルとテーマで読む児童文学	2		西村 醇子	1234	月 2	緑園	初	
	▲	AA140	児童文学論B	宮沢賢治『風の又三郎』を読む	2		吉田 文憲	1234	月 4	緑園	初60	
	▲	AA150	キリスト教と文学	キリスト教と演劇／文学	2		水谷 八也	1234	金 3	緑園	◆80	
選択必修Ⅳ		2B050	英米文化専門ゼミA	日英語比較分析ゼミA	1		鏡平名 尚子	3	火 5	緑園	学	専門ゼミA・B、 卒論ゼミA・B を各1単位、合 計4単位を修 得
		2B051		応用言語学：第二言語の学習・習得研究(1)	1		大畑 甲太	3	火 5	緑園		
		2B052		イギリス芸術文化研究(1)	1		近藤 存志	3	金 2	緑園		
		2B053		イギリス詩1	1		富樫 剛	3	金 2	緑園		
		2B054		アメリカ合衆国の諸相A	1		中川 正紀	3	木 5	緑園		
		2B055		"Home and Abroad" in English Literature	1		ディヴィッド バーレイ	3	月 3	緑園		
		2B056		アメリカ映画の文化 I	1		福永 保代	3	火 5	緑園		
		2B057		児童文学&伝承文学A	1		藤本 朝巳	3	金 3	緑園		
		2B058		アメリカ文学を教材として言語能力の涵養を図る	1		渡辺 信二	3	月 5	緑園		
		2B059		ジェイン・オースティンの小説を読む	1		向井 秀忠	3	月 4	緑園		
		2B150		イギリス・ルネサンス演劇研究A	1		由井 哲哉	3	金 3	緑園		
		2B060		日英語比較分析ゼミB	1		鏡平名 尚子	3	火 3	緑園		
		2B061		応用言語学：第二言語の学習・習得研究(2)	1		大畑 甲太	3	火 5	緑園		
		2B062		イギリス芸術文化研究(2)	1		近藤 存志	3	火 3	緑園		
		2B063		イギリス詩2	1		富樫 剛	3	金 2	緑園		
		2B064	アメリカ合衆国の諸相B	1		中川 正紀	3	木 5	緑園			
		2B065	英米文化専門ゼミB	"Home and Abroad" in English Literature	1		ディヴィッド バーレイ	3	月 3	緑園	学	
		2B066	アメリカ映画の文化 II	1		福永 保代	3	火 5	緑園			
		2B067	児童文学&伝承文学B	1		藤本 朝巳	3	火 4	緑園			
		2B068	アメリカ文学を教材として言語能力の伸長を図る	1		渡辺 信二	3	月 2	緑園			
		2B069	シャーロット・ブロンテの小説を読む	1		向井 秀忠	3	月 4	緑園			
		2B160	イギリス・ルネサンス演劇研究B	1		由井 哲哉	3	金 4	緑園			
		2B070	光と影のアメリカA	1		梅崎 透	4	火 4	緑園			
		2B071	応用言語学：第二言語の学習・習得研究(1)	1		大畑 甲太	4	火 5	緑園			
		2B072	イギリス芸術文化研究(1)	1		近藤 存志	4	金 2	緑園			
		2B073	イギリス詩1	1		富樫 剛	4	金 2	緑園			
		2B074	アメリカ合衆国の諸相A	1		中川 正紀	4	木 5	緑園			
		2B075	英米文化卒論ゼミA	"Home and Abroad" in English Literature	1		ディヴィッド バーレイ	4	月 3	緑園	学	
	2B076	アメリカ映画の文化 I	1		福永 保代	4	火 5	緑園				
	2B077	児童文学&伝承文学A	1		藤本 朝巳	4	金 3	緑園				
	2B078	アメリカ南部の魅力と神秘に迫る	1		前田 純子	4	木 3	緑園				
	2B079	ジェイン・オースティンの小説を読む	1		向井 秀忠	4	月 4	緑園				
	2B170	イギリス・ルネサンス演劇研究A	1		由井 哲哉	4	金 3	緑園				

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」

●英文学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
選択必修Ⅳ		2B080	英米文化卒論ゼミB	光と影のアメリカB	1		梅崎 透	4	水 2	緑園	学	専門ゼミA・B、卒論ゼミA・Bを各1単位、合計4単位を修得	
		2B081		応用言語学：第二言語の学習・習得研究(2)	1		大畑 甲太	4	火 5	緑園			
		2B082		イギリス芸術文化研究(2)	1		近藤 存志	4	火 3	緑園			
		2B083		イギリス詩2	1		富樫 剛	4	金 2	緑園			
		2B084		アメリカ合衆国の諸相B	1		中川 正紀	4	木 5	緑園			
		2B085		"Home and Abroad" in English Literature	1		ディヴィッド バーレイ	4	月 3	緑園			
		2B086		アメリカ映画の文化Ⅱ	1		福永 保代	4	火 5	緑園			
		2B087		児童文学&伝承文学B	1		藤本 朝巳	4	火 4	緑園			
		2B088		アメリカ南部の魅力と神秘に迫る	1		前田 絢子	4	木 3	緑園			
		2B089		シャーロット・ブロンテの小説を読む	1		向井 秀忠	4	月 4	緑園			
	2B180	イギリス・ルネサンス演劇研究B	1		由井 哲哉	4	金 4	緑園					
選択必修Ⅴ		2B090	卒業論文		6		梅崎 透	4	時外	緑園	学(通年)	6単位修得	
		2B091			6		大畑 甲太	4	時外	緑園			
		2B092			6		近藤 存志	4	時外	緑園			
		2B093			6		富樫 剛	4	時外	緑園			
		2B094			6		中川 正紀	4	時外	緑園			
		2B095			6		ディヴィッド バーレイ	4	時外	緑園			
		2B096			6		福永 保代	4	時外	緑園			
		2B097			6		藤本 朝巳	4	時外	緑園			
		2B098			6		前田 絢子	4	時外	緑園			
		2B099			6		向井 秀忠	4	時外	緑園			
	2B190		6		由井 哲哉	4	時外	緑園					
選択	▲	2B100	アメリカ現地実習	夏のアメリカで言葉と文化を学ぶ	2		鏡平名 尚子	1234	時外	学外	要手続24 ③		
	▲	2B110	イギリス現地実習	スコットランドで学ぶイギリスの歴史と現代事情	2		ディヴィッド バーレイ	1234	時外	学外			
	▲	2B130	フィールド・スタディ1		1		(休 講)	1234					要手続20
	▲	2B140	フィールド・スタディ2	シェイクスピアを巡る旅	1		由井 哲哉	1234	時外	学外			③

①＝英文学科・国際交流学科複式開講科目 ②＝英語による授業 ③＝詳細は【海外研修】を参照

【開放欄】 ▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

●日本文学専攻専攻科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択必修Ⅰ		3A010	R&R(入門ゼミ)		1	勝田 耕起	1	木 3	緑園	学	R&R、基礎ゼミを各1単位、合計2単位を修得	
		3A011			1	松田 浩	1	金 4	緑園			
		3A012			1	竹内 正彦	1	金 5	緑園			
		3A013			1	谷 知子	1	金 4	緑園			
		3A014			1	島村 輝	1	金 5	緑園			
		3A015	1	佐藤 裕子	1	月 4	緑園	学				
		3A020	日本語文化基礎ゼミ	日本語の調査・研究法入門	1	勝田 耕起	1		木 3	緑園		
		3A021		古代人の思考を探る	1	松田 浩	1		金 5	緑園		
		3A022		中文学研究の基礎を学ぶ	1	竹内 正彦	1		金 5	緑園		
		3A023		百人一首の歌人と和歌	1	谷 知子	1		金 4	緑園		
	3A024	近代の短歌を読む		1	島村 輝	1	金 4	緑園				
	3A025	夏目漱石『坊っちゃん』を読む	1	佐藤 裕子	1	月 3	緑園					
選択必修Ⅱ	▲	3A030	日本語学概説A	日本語学入門-音韻・語彙を中心に-	2	竹田 晃子	12	木 2	緑園	II群から12単位以上を修得		
	▲	3A040	日本語学概説B	日本語学入門-文法・語用論を中心に-	2	竹田 晃子	12	木 1	緑園			
	▲	3B190	日本語の歴史A	文法史・文字表記史	2	勝田 耕起	12	月 3	緑園			
	▲	3B200	日本語の歴史B	音韻史・語彙史	2	勝田 耕起	12	月 3	緑園			
	▲	3B210	日本古典文学史1	古事記・万葉集の世界	2	松田 浩	12	火 3	緑園			
	▲	3B220	日本古典文学史2	中文学の発生と展開	2	竹内 正彦	12	金 3	緑園			
	▲	3B230	日本古典文学史3	古典文学の魅力	2	谷 知子	12	金 3	緑園			
	▲	3B240	日本古典文学史4	近世の文学とその時代	2	藤江 峰夫	12	木 4	緑園			
	▲	3A090	日本近代文学史A	維新から二十世紀初頭まで	2	佐藤 裕子	12	火 4	緑園			
	▲	3A100	日本近代文学史B	近現代文学史B-二十世紀初頭から現代まで	2	島村 輝	12	火 4	緑園			
	▲	3A110	漢文学概説A	中国古代の諸思想	2	末岡 実	12	木 5	緑園			
	▲	3A120	漢文学概説B	中国の漢詩文と日本の文学	2	末岡 実	12	木 5	緑園			
	▲	3A130	言語学概説	一般言語学入門：言語をめぐる視点と論点	2	千葉 庄寿	12	水 3	緑園			
選択必修Ⅲ		3B250	基礎論文演習(文章表現)	論文の書き方を学ぶ	1	津島 昭宏	1	水 5	緑園	学	III群から18単位以上を修得	
		3B260			1	椎名 渉子	1	水 3	緑園			
		3B270			1	鈴木 貴子	1	水 3	緑園			
		3B280			1	佐藤 裕子	1	火 3	緑園			
	▲	3B290			1	津島 昭宏	1	水 5	緑園			◆35
		3B300	書誌学・くずし字の基礎	くずし字に親しもう	2	丸山 陽子	12	木 2	緑園	◆120		
		3B310	古典読解の基礎	古典を読み深めるために	2	丸山 陽子	12	木 2	緑園			
		3B320	漢文読解の基礎	漢文読解の基礎	2	石村 貴博	12	水 5	緑園			
		3B330	文学理論の基礎	読むための理論を学ぶ	2	佐藤 裕子	12	月 4	緑園			
		3B340	日本史の基礎(古代～近世)	文化財から読みとく歴史(古代・中世)	2	石神 裕之	12	水 5	緑園			
		3B350	日本史の基礎(近現代)	文化財から読みとく歴史(近世・近現代)	2	石神 裕之	12	水 5	緑園			
		3A140	日本語資料を読む	古文書の解読と言語調査方法の基礎	4	勝田 耕起	2	月 4/木 4	緑園			
		3A150	古典文学を読む1	万葉集を読み解く	4	松田 浩	2	火 3/金 3	緑園			
		3A160	古典文学を読む2	源氏物語「葵」巻を読む	4	竹内 正彦	2	火 3/金 3	緑園			
		3B090	古典文学を読む3	恋する女たち	4	谷 知子	2	火 3/金 3	緑園			
		3B100	古典文学を読む4	『西鶴諸国ばなし』を読む	4	藤江 峰夫	2	月 3/木 3	緑園			学(週2)
		3A170	近現代文学を読む1	日本近・現代小説を読む-く異界>への誘い	4	佐藤 裕子	2	月 3/木 3	緑園			
		3B110	近現代文学を読む2	志賀直哉の短篇を読む	4	島村 輝	2	火 3/金 3	緑園			
		3A180	中国文学を読む	唐代の文学作品を読む	4	末岡 実	2	月 4/木 4	緑園			
		3B360	日本語文法研究の方法	日本語文法論の基礎	2	津留崎 由紀子	234	火 2	緑園			
		3B370	日本語語彙研究の方法	方言の語彙と意味	2	竹田 晃子	234	木 2	緑園			
		3B380	日本語音声研究の方法	音声学入門	2	鎌水 兼貴	234	金 2	緑園			
		3B390	方言研究の方法	調査を設計する	2	竹田 晃子	234	木 1	緑園			
		3B400	上代文学研究の方法	上代文学研究の方法	2	松田 浩	234	金 3	緑園			
		3B410	中文学研究の方法	源氏物語研究の方法	2	竹内 正彦	234	火 5	緑園			
		3B420	中世文学研究の方法	中世の紀行文を読む-東海道・東北・山陽道の旅-	2	谷 知子	234	火 3	緑園			
		3B430	近世文学研究の方法	西鶴研究をめぐって	2	藤江 峰夫	234	木 3	緑園			
	3B440	近現代文学研究の方法	テクストを読むための理論	2	島村 輝	234	金 4	緑園				
▲	3A370	キリスト教と日本文学	聖書の人間ドラマ-漱石から『聖☆おにいさん』まで(4)	2	佐藤 裕子	1234	木 4	緑園				
▲	3B450	日本語の形態と構文	日本語のしくみを考える	2	津留崎 由紀子	234	火 2	緑園				
▲	3B460	日本語の意味と語彙	方言研究法・方言調査法	2	椎名 渉子	234	木 3	緑園				
▲	3B170	日本語の音声とアクセント	あなたの発音を声紋分析器で解明しつつ音声研究を学ぶ	2	齋藤 孝滋	234	木 4	緑園	初60			
▲	3B470	日本語の文体と語法	近代の語法に関する演習	2	勝田 耕起	234	月 5	緑園				
▲	3B480	日本の漢字と国語辞書	古辞書と中近世の語彙・用字に関する演習	2	勝田 耕起	234	月 4	緑園				
▲	3B490	日本語の敬語	敬語の諸問題からみる日本語学	2	椎名 渉子	234	木 2	緑園				
▲	3B500	神話の世界	動植物と人と	2	猪股 ときわ	234	水 3	緑園				
▲	3B510	説話の世界	説話を楽しむ	2	丸山 陽子	234	木 1	緑園				
▲	3B520	古代和歌の世界	万葉集と古代伝承	2	松田 浩	234	金 2	緑園				
▲	3B180	物語の世界	源氏物語を読み解く1	2	竹内 正彦	234	金 4	緑園				

【備考欄】 ◆「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」
 ①＝同一担当者のクラスを前期・後期セットで履修すること

●日本文学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択必修Ⅲ	▲	3B530	日記の世界	紫式部日記を読む	2		竹内 正彦	234	金 4	緑園		
	▲	3B540	随筆の世界		2		(休 講)	234				
	▲	3B550	中世和歌の世界	勅撰十三代集でよむ中世和歌の世界	2		佐々木 孝浩	234	火 4	緑園		
	▲	3B560	軍記の世界		2		(休 講)	234				
	▲	3A430	俳諧の世界		2		(休 講)	234				
	▲	3A440	近世小説の世界	西鶴の世界	2		藤江 峰夫	234	木 4	緑園		
	▲	3B570	近代小説の世界	夏目漱石初期作品を読む	2		佐藤 裕子	234	木 3	緑園		
	▲	3B580	現代小説の世界	二十世紀初頭のプロレタリア文学を読む	2		島村 輝	234	火 3	緑園		
	▲	3B590	近現代詩歌の世界	現代の名詩を味わう	2		島村 輝	234	金 3	緑園		
	▲	3B600	同時代文学の世界	芥川賞作品を読む(続き)	2		島村 輝	234	火 4	緑園		
	▲	3B610	能・狂言の世界	読む、観る—『平家物語』などを中心に—	2		中司 由起子	234	水 3	緑園		
	▲	3B620	歌舞伎の世界	歌舞伎の劇場	2		中村 恵	234	火 3	緑園	◆120	
	▲	3B630	浄瑠璃の世界	作品世界からみる人形浄瑠璃史	2		田草川 みずき	234	水 3	緑園		
	▲	3B640	近現代演劇の世界	現代演劇から近代を見る(日本編)	2		水谷 八也	234	金 4	緑園	◆80	
	▲	3B650	漢字の世界1	漢字の歴史—『説文解字』の六書を中心に—	2		末岡 実	234	月 5	緑園		
	▲	3B660	漢字の世界2		2		(休 講)	234				
	▲	3B670	漢詩漢文の世界1	漢文で聖書を読んでみよう	2		中村 聡	234	金 5	緑園		
	▲	3B680	漢詩漢文の世界2	日本の漢詩文を読む	2		白石 真子	234	火 4	緑園		
	▲	3B690	日中比較言語・文学の世界	中国人はいま何を読んでいるか／中国を読む—翻訳	2		泉 京鹿	234	水 4	緑園		
	▲	3B700	書道芸術の世界	印(判子)・篆刻の役割・歴史・変遷。	2		石坂 雅彦	234	木 4	緑園		
	▲	3B710	言語と文化	「文化をうつすことば」と「言語の多様性」	2		長崎 郁	234	月 4	緑園		
	▲	3B720	方言と社会言語学	社会言語学入門	2		鎌水 兼貴	234	金 1	緑園		
	▲	3B730	コンピュータと言語学	言語の研究・教育へのコンピュータの活用	2		千葉 庄寿	234	水 3	緑園		
	▲	3A380	文学と子ども	江國香織「つめたいよるに」を読む	2		吉田 文憲	234	月 4	緑園		
	▲	3B740	文字と文学		2		(休 講)	234				
	▲	3A460	文学と都市空間	宮崎駿『風の谷のナウシカ』の世界観	2		佐藤 裕子	234	木 4	緑園	◆120	
	▲	3B750	地域文化を読み解く		2		(休 講)	234				
	▲	3B760	民俗文化を読み解く	歌の発生と民俗文化	2		遠藤 耕太郎	234	木 5	緑園		
	▲	3B770	絵巻・絵図を読み解く	絵図を読み解く	2		恋田 知子	234	金 3	緑園		
	▲	3A710	マンガ・アニメ文化を読み解く	マンガ・アニメ文化を読み解く2013	2		今 秀生	234	水 4	緑園	◆120	Ⅲ群から18単位以上を修得
	▲	3B780	日本伝統文化を学ぶ	日本の歌—沖繩の唄と三線・歌曲・楽器をたのしむ	2		谷 知子	1234	集中	緑園	◆30	
	▲	3B790	国際日本文学研究を学ぶ		2		(休 講)	1234				
	▲	3B800	小説創作を学ぶ	小説の構造を学び小説を書く	2		ほしお さなえ	1234	月 2	緑園		
	▲	3B810	短歌創作を学ぶ	短歌の実作と鑑賞	2		今井 恵子	1234	水 2	緑園		
	▲	3B820	現代詩創作を学ぶ	詩の実作を通して「言葉」について考えてみよう	2		城戸 朱理	1234	金 1	緑園		
	▲	3B830	報道文を学ぶ	記事、コラム、見出しなどの読み方を知る。	2		牧村 健一郎	1234	火 4	緑園	◆30	
	▲	3B840	編集を学ぶ	編集を学ぶ	2		及川 卓也	1234	金 1	緑園		
	▲	3B850	朗読・アナウンスを学ぶ	音声と全身を使った表現で新たな個性と魅力を創る。	2		赤平 大	1234	木 1	緑園		
	▲	3B940	日本語教育学概論A	日本語教育学概論A	2		原田 三千代	12	木 1	緑園		
	▲	3B950	日本語教育学概論B	日本語教育と社会、歴史	2		河先 俊子	12	水 3	緑園		
	▲	3B860	日本語教育の教材分析A	日本語初級教材の分析	2		津留崎 由紀子	234	火 3	緑園		
	▲	3B870	日本語教育の教材分析B	日本語中・上級教材の分析	2		津留崎 由紀子	234	火 3	緑園		
	▲	3B880	日本語学習のコースデザイン	日本語のクラスのデザイン・運営のプロセス	2		河先 俊子	234	水 5	緑園		
	▲	3B890	日本語教育評価法	中・上級の教え方と評価法	2		椎名 渉子	234	木 5	緑園		
	▲	3B900	第二言語習得論	日本語を教えるための第二言語習得	2		金澤 裕之	234	木 2	緑園		
	▲	3B910	日本語教育のための異文化理解	「文化」を教える／学ぶとはどういうことか	2		河先 俊子	234	水 3	緑園		
	▲	3B920	日本語教授法A	日本語教授法A	2		原田 三千代	234	月 3	緑園		
▲	3B930	日本語教授法B	日本語教授法B	2		原田 三千代	234	月 3	緑園			
▲	3B961	日本語教育実習1	日本語教育実習1	1		椎名 渉子	34	木 4	緑園			
▲	3B962	日本語教育実習1	教案作成と模擬授業(初級の授業)	1		河先 俊子	34	水 4	緑園			
▲	3B963	日本語教育実習1	教材の分析・作成と模擬授業(初級)	1		津留崎 由紀子	34	火 4	緑園	要手続		
▲	3B971	日本語教育実習2	日本語教育実習2	2		椎名 渉子	34	木 4	緑園	① ②		
▲	3B972	日本語教育実習2	教案作成と模擬授業(技能別の授業)	2		河先 俊子	34	水 4	緑園			
▲	3B973	日本語教育実習2	教材の分析・作成と模擬授業(中・上級)	2		津留崎 由紀子	34	火 4	緑園			
▲	AA010	カルチュラルスタディーズA	カルチュラル・スタディーズの理論を理解	2		関根 薫	1234	水 4	緑園			
▲	AA020	カルチュラルスタディーズB	カルチュラル・スタディーズの理論を分析	2		関根 薫	1234	水 4	緑園			
▲	AA030	古典と表象文化A		2		(休 講)	1234			◆120		
▲	AA040	古典と表象文化B		2		(休 講)	1234					

②＝日本語教員養成講座受講者は、「日本語教育論ⅠA、B」「日本語教育論ⅡA、B」「日本語学習のコースデザイン」「日本語教育評価法」「日本語教育の教材分析A、B」より4単位を修得済みであること。

【開放欄】 ▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

●日本文学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法		
					前	後								
選択必修Ⅲ	▲	AA050	テキスト生成と批評A	近代文学の(終り)を読む	2		高橋 修	1234	月 4	緑園		Ⅲ群から18 単位以上を 修得		
	▲	AA060	テキスト生成と批評B	テキスト生成の現場に立ち会う：詩人たちの場合	2		渡辺 信二	1234	木 4	緑園				
	▲	AA070	ポピュラーカルチャーA		2		(休講)	1234			◆120			
	▲	AA080	ポピュラーカルチャーB		2		(休講)	1234			◆120			
	▲	AA090	声の文化と文字の文化A	口承文芸を通して学ぶ日本語表現学	2		椎名 渉子	1234	木 2	緑園				
	▲	AA100	声の文化と文字の文化B	気持ちとことば	2		鏡平名 尚子	1234	火 5	緑園				
	▲	AA110	ジェンダー・フェミニズム批評A	読みなおす、読みかえる①	2		黒岩 裕市	1234	水 4	緑園				
	▲	AA120	ジェンダー・フェミニズム批評B	読みなおす、読みかえる②	2		黒岩 裕市	1234	水 4	緑園				
	▲	AA130	児童文学論A	ジャンルとテーマで読む児童文学	2		西村 醇子	1234	月 2	緑園	初			
	▲	AA140	児童文学論B	宮沢賢治『風の又三郎』を読む	2		吉田 文憲	1234	月 4	緑園	初60			
	▲	AA150	キリスト教と文学	キリスト教と演劇／文学	2		水谷 八也	1234	金 3	緑園	◆80			
	選択必修Ⅳ		3A730	日本語文化専門ゼミA	日本語研究の諸問題A	1		勝田 耕起	3	木 2	緑園		学	専門ゼミA・ B・卒論ゼミ A・Bを各1 単位、合計 4単位を修 得
			3A731		上代文学研究A	1		松田 浩	3	火 4	緑園			
			3A732		中古文学研究A	1		竹内 正彦	3	火 4	緑園			
			3A733		中世文学研究の方法A	1		谷 知子	3	火 4	緑園			
		3A734	近世文学研究・その1		1		藤江 峰夫	3	火 5	緑園				
		3A735	日本近・現代文学研究A		1		佐藤 裕子	3	火 2	緑園				
		3A736	近代の名作小説を読む		1		島村 輝	3	火 5	緑園				
		3A737	個々のテーマによるR&R		1		末岡 実	3	月 3	緑園				
		3A738	新聞コラムから小説まで、社会の視点から		1		牧村 健一郎	3	火 5	緑園				
		3A739	現代日本語と日本語教育A		1		原田 三千代	3	月 2	緑園				
		3A740	日本語研究の諸問題B		1		勝田 耕起	3	木 2	緑園				
		3A741	上代文学研究B		1		松田 浩	3	火 4	緑園				
		3A742	中古文学研究B		1		竹内 正彦	3	火 4	緑園				
		3A743	中世文学研究の方法B		1		谷 知子	3	火 4	緑園				
		3A744	近世文学研究・その2		1		藤江 峰夫	3	火 5	緑園				
		3A745	日本近・現代文学研究B	1		佐藤 裕子	3	火 2	緑園					
		3A746	近代の名作小説を読む	1		島村 輝	3	火 5	緑園					
		3A747	個々のテーマによるR&R	1		末岡 実	3	月 3	緑園					
		3A748	新聞コラムから小説まで、社会の視点から	1		牧村 健一郎	3	火 5	緑園					
		3A749	現代日本語と日本語教育B	1		原田 三千代	3	月 2	緑園					
		3A750	日本語文化専門ゼミB	日本語研究の諸問題A	1		勝田 耕起	4	木 2	緑園	学			
		3A751		上代文学研究A	1		松田 浩	4	火 4	緑園				
		3A752		中古文学研究A	1		竹内 正彦	4	火 4	緑園				
		3A753		中世文学研究の方法A	1		谷 知子	4	火 4	緑園				
		3A754		近世文学研究・その1	1		藤江 峰夫	4	火 5	緑園				
		3A755		日本近・現代文学研究A	1		佐藤 裕子	4	火 2	緑園				
		3A756		近代の名作小説を読む	1		島村 輝	4	火 5	緑園				
		3A757		個々のテーマによるR&R	1		末岡 実	4	月 3	緑園				
		3A758		新聞コラムから小説まで、社会の視点から	1		牧村 健一郎	4	火 5	緑園				
		3A759		現代日本語と日本語教育A	1		原田 三千代	4	月 2	緑園				
	3A760	日本語研究の諸問題B		1		勝田 耕起	4	木 2	緑園					
	3A761	上代文学研究B		1		松田 浩	4	火 4	緑園					
	3A762	中古文学研究B		1		竹内 正彦	4	火 4	緑園					
	3A763	中世文学研究の方法B		1		谷 知子	4	火 4	緑園					
	3A764	近世文学研究・その2		1		藤江 峰夫	4	火 5	緑園					
	3A765	日本近・現代文学研究B	1		佐藤 裕子	4	火 2	緑園						
	3A766	近代の名作小説を読む	1		島村 輝	4	火 5	緑園						
	3A767	個々のテーマによるR&R	1		末岡 実	4	月 3	緑園						
	3A768	新聞コラムから小説まで、社会の視点から	1		牧村 健一郎	4	火 5	緑園						
	3A769	現代日本語と日本語教育B	1		原田 三千代	4	月 2	緑園						
選択必修Ⅴ		3A770	卒業論文		6		勝田 耕起	4	時外	緑園	学(通年)	6単位修得		
		3A771			6		松田 浩	4	時外	緑園				
		3A772			6		竹内 正彦	4	時外	緑園				
		3A773			6		谷 知子	4	時外	緑園				
		3A774			6		藤江 峰夫	4	時外	緑園				
		3A775			6		佐藤 裕子	4	時外	緑園				
		3A776			6		島村 輝	4	時外	緑園				
		3A777			6		末岡 実	4	時外	緑園				
		3A778			6		牧村 健一郎	4	時外	緑園				
		3A779			6		原田 三千代	4	時外	緑園				
選択	▲	3A800	書道A	毛筆の基本及び楷書学習	1		石坂 雅彦	2	木 5	緑園	◆30			
	▲	3A810	書道B	行書学習と芸術表現	1		石坂 雅彦	2	木 5	緑園				

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(揭示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」
 ①＝同一担当者のクラスを前期・後期セットで履修すること
 ②＝日本語教員養成講座受講者は、「日本語教育論ⅠA、B」「日本語教育論ⅡA、B」「日本語学習のコースデザイン」「日本語教育評価法」「日本語教育の教材分析A、B」より4単位を修得済みであること。
 【開放欄】 ▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27)
 【科目名欄】 網掛け 〇 は重複履修可能(p.26)

●コミュニケーション学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時間	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
選択必修Ⅰ		4A010	R&R(入門ゼミ)		1		齋藤 孝滋	1	金 5	緑園	学	R&R、基礎ゼミを各1単位、合計2単位を修得	
		4A011			1		諸橋 泰樹	1	火 3	緑園			
		4A012			1		大倉 一郎	1	木 4	緑園			
		4A013			1		渡辺 浪二	1	木 3	緑園			
		4A014			1		潮村 公弘	1	木 3	緑園			
		4A015			1		(休講)	1					
		4A020	コミュニケーション基礎ゼミ	音声・アクセントの声紋分析器による分析法と学習法	1		齋藤 孝滋	1	金 5	緑園			学
		4A021		新聞を読んで社会のことを知ろう	1		諸橋 泰樹	1	火 3	緑園			
		4A022		共生学としてのコミュニケーション論	1		大倉 一郎	1	木 4	緑園			
		4A023		コミュニケーション手段としての身体	1		高橋 京子	1	金 3	緑園			
	4A024	心理・組織・言語からみたコミュニケーション		1		潮村 公弘	1	木 3	緑園				
	4A025			1		(休講)	1						
選択必修Ⅱ	▲	4B180	言語コミュニケーション概論	言語学の基礎を学ぶ	2		齋藤 孝滋	12	金 3	緑園	II群から12単位以上を修得		
	▲	4B190	社会コミュニケーション概論	近代のコミュニケーションの成立をめぐって	2		諸橋 泰樹	12	木 4	緑園			
	▲	4B200	文化コミュニケーション概論		2		(休講)	12					
	▲	4B210	心理コミュニケーション概論		2		(休講)	12					
	▲	4A780	コミュニケーション概論A		2		(休講)	12					
	▲	4A790	コミュニケーション概論B		2		(休講)	12					
	▲	4A040	コミュニケーション研究方法の全体像	コミュニケーションの様々な研究法	2		潮村 公弘	12	金 3	緑園		◆100	
	▲	4A041	実験の研究計画をたてる	心理学実験計画入門	2		平山 修平	12	水 4	緑園		◆60	
	▲	4A050	アンケート・社会調査の方法	調査企画・設計から実査・入力・集計・分析・報告まで	2		渡辺 浪二	12	木 4	緑園		◆25	
	▲	4A062			2		諸橋 泰樹	12	火 5	緑園		初50	
	▲	4A061			2		坂場 登	12	水 4	緑園		◆50	
	▲	4A070			2		(休講)	12				初50	
	▲	4A071	インタビュー・面接のスキル	インタビュー・面接のスキル	2		横溝 環	12	金 4	緑園		◆25	
	▲	4A072			2		(休講)	12					
	▲	4A080	話しこばを分析する	あなたの形容詞活用体系・言語規則を解明する	2		齋藤 孝滋	12	金 4	緑園		初60	
	▲	4A090	文献・情報の集め方	データ収集と情報処理の効率的な方法	2		平山 修平	12	水 3	緑園		◆60	
	▲	4A100			2		(休講)	12				初40	
	▲	4A101	データを数量から読み解く	データ分析のためのExcel, SPSS	2		河野 康成	12	木 4	緑園		◆40	
	▲	4A102		統計の基礎とデータ分析	2		平山 修平	12	水 5	緑園			
	▲	4A110	フィールドワークとエスノグラフィ		2		(休講)	12					
選択必修Ⅲ		4B000	コミュニケーション学探求1	対人コミュニケーションの基礎	2		渡辺 浪二	2	木 4	緑園	学	III群から18単位以上を修得	
		4B010	コミュニケーション学探求2	日本文化とキリスト教の不思議な関係	2		相澤 一	2	金 4	緑園			
		4B020	コミュニケーション学探求3	文化と認知の心理学の基礎を学ぶ	2		潮村 公弘	2	金 4	緑園			
		4B030	コミュニケーション学探求4	共生学のまなざしと現代日本社会	2		大倉 一郎	2	金 5	緑園			
		4B040	コミュニケーション学探求5	声紋分析ソフトを用いた音声分析法と発話訓練法	2		齋藤 孝滋	2	木 4	緑園			
		4B050	コミュニケーション学探求6	学校・教育とジェンダー	2		井上 恵美子	2	木 4	緑園			
		4B060	コミュニケーション学探求7	メディア分析の方法を学ぶ	2		諸橋 泰樹	2	木 4	緑園			
		4B070	コミュニケーション学探求8		2		(休講)	2					
	▲	4B080	コミュニケーション学探求9	身体表現の技法—ダンスによる動きのテクニック	4		高橋 京子	2	火 3/金 3	緑園			学25 (週2) ①②
	▲	4B090	コミュニケーション学探求10	編集はコミュニケーションである	2		夏目 純	2	木 4	緑園			学
	▲	4B100	対人コミュニケーションの心理学	社会心理学入門	2		渡辺 浪二	1234	木 3	緑園			初100 ③
	▲	4A130	ことばと記号のコミュニケーション	あなたが使っていることばの記号体系が今明かされる!	2		田中 香織	1234	集中	緑園			◆30
	▲	4B320	日本語文法論とコミュニケーション	日本語文法論の基礎を学ぶ	2		齋藤 孝滋	1234	金 3	緑園			
	▲	4A140	社会的行為としてのコミュニケーション	社会の中のメディア	2		山口 仁	1234	金 1	緑園			◆120
	▲	4A150	マスメディアと情報社会	マス・メディアの効果とメディアリテラシー	2		黄 允一	1234	月 5	緑園			
	▲	4A160	組織の中の人間関係	応用心理学の視点から職場の仕事について考える	2		田中 堅一郎	1234	水 4	緑園			◆100

- 【備考欄】 ◆「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学=「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)=「2回授業」 (2連)=「2時間連続授業」 (通年)=「通年科目」
 (隔)=「隔年開講科目」
 ①=他学部・他学科生は初回授業時選抜科目
 ②=2010年度以前開講「身体表現の技法」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ③=2010年度以前開講「対人コミュニケーションの心理学」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ④=2010年度以前開講「文化の心理学」「文化の心理学A」「文化の心理学B」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑤=2010年度以前開講「子どもの発達とこれからの教育問題B」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑥=2010年度以前開講「ジェンダー問題と男女共同参画社会」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑦=(週1回+時間外)
 ⑧=コミュニケーション学科、演奏学科複式開講科目
- 【開放欄】 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)
- 【科目名欄】 網掛けは重複履修可能(p.26)

●コミュニケーション学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択必修Ⅲ	▲	4A170	身体とくさの心理学	非言語コミュニケーションを読み解く	2		横溝 環	1234	金 5	緑園		
	▲	4A171				2	(休 講)	1234			◆120	
	▲	4A180	多文化・多言語社会を考える	日本の多文化社会とボランティア活動	2		大倉 一郎	1234	金 4	緑園	初25	
	▲	4A190	クレオール文化の考え方・読み方		2		(休 講)	1234				
	▲	4B330	先住民族の言語・文化と共生	先住民族の言語と文化	2		小野 智香子	1234	月 5	緑園	◆30	
	▲	4A980	ディアスポラ(離散)の思想	在日コリアンから「多文化共生」を学ぶⅡ	2		東 宏乃	234	火 4	緑園	◆12	
	▲	4B110	異文化のコミュニケーション	異文化コミュニケーションの理論と実際	2		相澤 一	1234	火 2	緑園	◆120	
	▲	4B120	文化の心理学	文化と心理の関わり	2		潮村 公弘	1234	金 3	緑園	④	
	▲	4A230	これからの多文化教育	多文化共生の中の学校	2		大倉 一郎	1234	金 4	緑園	初25	
	▲	4A240	ことばと個人・社会の因果関係を探る		2		(休 講)	1234				
	▲	4B310	歴史言語コミュニケーション概説		2		(休 講)	1234				
	▲	4A250	アジアとの出会いと異文化体験	県営1団地の定住外国人をめぐるフィールドスタディー	2		東 宏乃	1234	火 4	緑園	初15	
	▲	4B130	多文化社会の人間学	共生の実践者たちー 人と思想	2		大倉 一郎	1234	金 3	緑園		
	▲	4A260	多文化体験としての都市フィールドワーク	大都市下位文化のフィールドワーク	2		田村 公人	1234	水 3	緑園	初70	
	▲	4A270	異文化トレーニング	異文化トレーニング：方法と実践	2		横溝 環	1234	金 5	緑園	初50	
	▲	4B140	ことばのフィールドワーク	あなたの談話規則を言語的・パラ言語的視点で解明する	2		齋藤 孝滋	1234	金 4	緑園	初60	
	▲	4A290	エスニックマイノリティの問題を考えるA	エスニックマイノリティの日本「国民」統合政策と抵抗	2		山田 貴夫	1234	水 4	緑園		
	▲	4A300	エスニックマイノリティの問題を考えるB	多民族共生社会・日本の構想一越境する移住者と人権	2		山田 貴夫	1234	水 4	緑園		
	▲	4B150	子どもの発達とこれからの教育問題	児童虐待(DVを含む)から考える	2		井上 恵美子	1234	木 4	緑園	⑤	
	▲	4A330	これからの家族問題A	現代の日本における家族のあり方を社会学的に学ぶ	2		開内 文乃	1234	月 4	緑園	◆120	
	▲	4A340	これからの家族問題B		2		(休 講)	1234				
	▲	4A350	健康・医療におけるコミュニケーションの問題	健康とストレス	2		遠藤 公久	1234	月 5	緑園		
	▲	4A360	HIV・難病問題と向き合う	HIV・難病の心理社会的理解と心理臨床を考える	2		高田 知恵子	1234	集中	緑園		
	▲	4A370	PTSDと被害者のグリーフワーク	災害等被害者・遺族への心理臨床と地域支援を考える	2		高田 知恵子	1234	集中	緑園	◆50	
	▲	4B160	ジェンダー問題と男女共同参画社会	ジェンダー、セクシュアリティ、女男平等を社会科学する	2		諸橋 泰樹	1234	火 4	緑園	⑥	
	▲	4A390	障害者の心理学と共生社会	障害者と共に生きるための福祉心理学	2		加藤 啓	1234	火 1	緑園		
	▲	4A400	エイジングの心理学と高齢社会	高齢者と共に生きるための福祉心理学	2		加藤 啓	1234	火 1	緑園		
	▲	4A410	アジアとのネットワーク	ベトナムとのネットワークを考える(5)	2		加藤 麻子	1234	水 4	緑園		
	▲	4B340	ファンリテーターの理論と実践	参加型でファシリテーションの理論と実践を学ぶ	2		中村 絵乃	1234	水 2	緑園		
	▲	4A420	視覚障害の理解と点字の技法A	視覚障害とコミュニケーション 点字・点訳の基礎	2		大内 進	1234	金 2	緑園		
	▲	4A430	視覚障害の理解と点字の技法B	視覚障害とコミュニケーション 点字・点訳の応用	2		大内 進	1234	金 2	緑園	◆30	
	▲	4A440	聴覚障害の理解と手話の技法	手話を学ぶーろう者のコミュニケーション	2		奥田 啓子	1234	金 2	緑園		
▲	4A441			2		奥田 啓子	1234	金 2	緑園			
▲	4A450	共生のフィールドワーク	外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援と交流	4		大倉 一郎	1234	金 5/時外	緑園	初16 ⑦		
▲	4A460	メディアリテラシーを身につける	メディア社会を生きる力	2		田島 知之	1234	水 4	緑園	◆50		
▲	4A461			2		(休 講)	1234					
▲	4A470	放送文化と制度を考える	多メディア時代とアナウンサー	2		遠田 恵子	1234	月 5	緑園	◆25		
▲	4A480	新聞・出版ワークショップ	編集・出版産業分析・雑誌分析のワーク	2		諸橋 泰樹	1234	火 4	緑園			
▲	4B170	マルチメディアの現在と未来		2		(休 講)	1234					
▲	4B300	テキスト分析と物語構造分析を学ぶ		2		(休 講)	1234				初60	
▲	4A500	ネットワークによるコミュニケーションの構築		2		(休 講)	1234				初25	
▲	4A510	コンピュータによる調査データの解析A	調査に必要なデータ分析の基礎から応用	2		河野 康成	1234	木 5	緑園	◆25		
▲	4A520	コンピュータによる調査データの解析B	SPSSによるデータ分析の応用的展開	2		潮村 公弘	1234	木 4	緑園	初25		

Ⅲ群から18単位以上を修得

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」
 ①＝他学部・他学科生は初回授業時選抜科目
 ②＝2010年度以前開講「身体表現の技法」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ③＝2010年度以前開講「対人コミュニケーションの心理学」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ④＝2010年度以前開講「文化の心理学」「文化の心理学A」「文化の心理学B」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

●コミュニケーション学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
選択必修Ⅲ	▲	4A530	文献・情報にアクセスする	女性情報でエンパワーメント研究・就職・人生の選択	2		青木 玲子	1234	月 4	緑園	◆30	Ⅲ群から18単位以上を修得	
	▲	4A890	映像取材A	映像と音声を中心にテレビジャーナリズムを考えるA	2		縄田 恵	1234	木 2	緑園	◆25		
	▲	4A900	映像取材B	映像と音声を中心にテレビジャーナリズムを考えるB	2		縄田 恵	1234	木 2	緑園			
	▲	4A560	マルチメディア制作Ⅰ(CG・DTP編集)A		2		(休 講)	1234					初25
	▲	4A570	マルチメディア制作Ⅰ(CG・DTP編集)B		2		(休 講)	1234					
	▲	4A580	マルチメディア制作Ⅱ(情報デザイン)A	MIDIによるデジタル音楽制作手法	2		小元 隆久	1234	水 4	緑園	◆15		
	▲	4A590	マルチメディア制作Ⅱ(情報デザイン)B		2		小元 隆久	1234	水 4	緑園			
	▲	4A600	プレゼンテーションの方法A	就職活動や社会に通用するプレゼンテーションテクニック	2		河野 康成	1234	木 4	緑園	◆30		
	▲	4A610	プレゼンテーションの方法B	受講生自身で企画を選出して進めるグループ学習	2		河野 康成	1234	木 5	緑園			
	▲	4A620	取材と記事のレッスン	取材し記事を書く実務を通して学生に記者体験をさせる	2		重川 治樹	1234	木 2	緑園	◆40		
	▲	4A630	ディベートと自己主張	ディベートと自己主張	2		川合 雅子	1234	水 4	緑園	◆30		
	▲	4A631			2		川合 雅子	1234	水 4	緑園			
	▲	4A640	ビジネス・コミュニケーションスキル	ビジネス・コミュニケーションスキル(9)	2		(休 講)	1234					
	▲	4A641			2		川合 雅子	1234	水 3	緑園			
	▲	4A650	身体表現の技法		4		(休 講)	1234					初25 (週2) ⑧
	▲	4B260	編集デザインスキル	商業デザインの基本	2		夏目 純	1234	木 4	緑園	◆25		
	▲	4A660	ファッション文化	装いの歴史から身体、精神、政治等との関係性を解く	2		青木 淳子	234	火 3	緑園	◆60		
	▲	4A670	スポーツ文化	社会的・歴史的に考察する現代スポーツの論点	2		滝口 隆司	234	木 2	緑園			
	▲	4A680	現代人と宗教	宗教社会学からみる現代日本	2		塚田 穂高	234	木 4	緑園			
	▲	4A690	映画・映像文化	映画の歴史を学ぶことで映像の持つ訴求力について学ぶ	2		野村 梓	234	火 3	緑園			
	▲	4A700	広告とマーケティング	新しい広告コミュニケーションを考える	2		兼高 聖雄	234	水 1	緑園	◆100		
	▲	AA010	カルチュラルスタディーズA	カルチュラル・スタディーズの理論を理解	2		関根 薫	1234	水 4	緑園			
	▲	AA020	カルチュラルスタディーズB	カルチュラル・スタディーズの理論を分析	2		関根 薫	1234	水 4	緑園			
	▲	AA030	古典と表象文化A		2		(休 講)	1234			◆120		
	▲	AA040	古典と表象文化B		2		(休 講)	1234					
	▲	AA050	テキスト生成と批評A	近代文学の(終り)を読む	2		高橋 修	1234	月 4	緑園			
	▲	AA060	テキスト生成と批評B	テキスト生成の現場に立ち会う：詩人たちの場合	2		渡辺 信二	1234	木 4	緑園			
	▲	AA070	ポピュラーカルチャーA		2		(休 講)	1234			◆120		
	▲	AA080	ポピュラーカルチャーB		2		(休 講)	1234			◆120		
	▲	AA090	声の文化と文字の文化A	口承文芸を通して学ぶ日本語表現学	2		椎名 渉子	1234	木 2	緑園			
	▲	AA100	声の文化と文字の文化B	気持ちとことば	2		饒平名 尚子	1234	火 5	緑園			
	▲	AA110	ジェンダー・フェミニズム批評A	読みなおす、読みかえる①	2		黒岩 裕市	1234	水 4	緑園			
▲	AA120	ジェンダー・フェミニズム批評B	読みなおす、読みかえる②	2		黒岩 裕市	1234	水 4	緑園				
▲	AA130	児童文学論A	ジャンルとテーマで読む児童文学	2		西村 醇子	1234	月 2	緑園	初			
▲	AA140	児童文学論B	宮沢賢治『風の又三郎』を読む	2		吉田 文憲	1234	月 4	緑園	初60			
▲	AA150	キリスト教と文学	キリスト教と演劇／文学	2		水谷 八也	1234	金 3	緑園	◆80			
選択必修Ⅳ		4A820	コミュニケーション専門ゼミⅠA	メディア・ジェンダー・コミュニケーションの研究手法	1		諸橋 泰樹	3	木 5	緑園		専門ゼミⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBを各1単位、合計4単位を修得	
		4A821		多文化共生学重要文献を精読する	1		大倉 一郎	3	木 5	緑園			
		4A822			1		(休 講)	3					
		4A823		身体表現・コミュニケーションと社会	1		高橋 京子	3	金 4	緑園			
		4A824		言語コミュニケーション研究法A	1		齋藤 孝滋	3	木 2	緑園			
		4A825		文化と認知の心理学A	1		潮村 公弘	3	金 5	緑園			
		4A826		対人関係の社会心理A	1		渡辺 浪二	3	火 3	緑園			
		4A827		コミュニケーション・センスをUPする	1		相澤 一	3	火 5	緑園			
		4A828		ジェンダーと文化・教育A	1		井上 恵美子	3	火 3	緑園			
		4A829		出版企画および出版編集の実務を学ぶA	1		夏目 純	3	木 5	緑園			
	4A910		1		(休 講)	3							

⑤=2010年度以前開講「子どもの発達とこれからの教育問題B」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

⑥=2010年度以前開講「ジェンダー問題と男女共同参画社会」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

⑦=(週1回+時間外)

⑧=コミュニケーション学科、演奏学科複式開講科目

【開放欄】 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け ■ は重複履修可能(p.26)

●コミュニケーション学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択必修IV		4A830	コミュニケーション専門ゼミI B	メディア・ジェンダー・コミュニケーションの分析方法	1		諸橋 泰樹	3	木 5	緑園	専門ゼミI A・II B、II A・II Bを各1単位、合計4単位を修得	
		4A831		アイデンティティ・自由・共生	1		大倉 一郎	3	木 5	緑園		
		4A832			1		(休講)	3				
		4A833		身体表現・コミュニケーションと社会	1		高橋 京子	3	金 4	緑園		
		4A834		言語コミュニケーション研究法B	1		齋藤 孝滋	3	木 2	緑園		
		4A835		文化と認知の心理学B	1		潮村 公弘	3	金 4	緑園		
		4A836		対人関係の社会心理B	1		渡辺 浪二	3	火 3	緑園		
		4A837		コミュニケーション・センスをUPする	1		相澤 一	3	火 5	緑園		
		4A838		ジェンダーと文化・教育B	1		井上 恵美子	3	火 3	緑園		
		4A839		出版企画および出版編集の実務を学ぶB	1		夏目 純	3	木 5	緑園		
		4A920		1		(休講)	3					
		4A840	コミュニケーション専門ゼミII A	メディア・ジェンダー・コミュニケーションの研究手法	1		諸橋 泰樹	4	木 5	緑園		
		4A841		多文化共生学重要文献を精読する	1		大倉 一郎	4	木 5	緑園		
		4A842			1		(休講)	4				
		4A843		身体表現・コミュニケーションと社会	1		高橋 京子	4	金 4	緑園		
		4A844		言語コミュニケーション研究法A	1		齋藤 孝滋	4	木 2	緑園		
		4A845		文化と認知の心理学A	1		潮村 公弘	4	金 5	緑園		
		4A846		対人関係の社会心理A	1		渡辺 浪二	4	火 3	緑園		
		4A847		コミュニケーション・センスをUPする	1		相澤 一	4	火 5	緑園		
		4A848		ジェンダーと文化・教育A	1		井上 恵美子	4	火 3	緑園		
	4A849	出版企画および出版編集の実務を学ぶA		1		夏目 純	4	木 5	緑園			
	4A950		1		(休講)	4						
	4A850	コミュニケーション専門ゼミII B	メディア・ジェンダー・コミュニケーションの分析方法	1		諸橋 泰樹	4	木 5	緑園			
	4A851		アイデンティティ・自由・共生	1		大倉 一郎	4	木 5	緑園			
	4A852			1		(休講)	4					
	4A853		身体表現・コミュニケーションと社会	1		高橋 京子	4	金 4	緑園			
	4A854		言語コミュニケーション研究法B	1		齋藤 孝滋	4	木 2	緑園			
	4A855		文化と認知の心理学B	1		潮村 公弘	4	金 4	緑園			
	4A856		対人関係の社会心理B	1		渡辺 浪二	4	火 3	緑園			
	4A857		コミュニケーション・センスをUPする	1		相澤 一	4	火 5	緑園			
	4A858		ジェンダーと文化・教育B	1		井上 恵美子	4	火 3	緑園			
	4A859		出版企画および出版編集の実務を学ぶB	1		夏目 純	4	木 5	緑園			
	4A960		1		(休講)	4						
選択必修V		4A750	卒業論文・卒業制作		6		諸橋 泰樹	4	時外	緑園	学(通年)	6単位修得
		4A751			6		大倉 一郎	4	時外	緑園		
		4A752			6		(休講)	4				
		4A753			6		高橋 京子	4	時外	緑園		
		4A754			6		齋藤 孝滋	4	時外	緑園		
		4A755			6		潮村 公弘	4	時外	緑園		
		4A756			6		渡辺 浪二	4	時外	緑園		
		4A757			6		相澤 一	4	時外	緑園		
		4A758			6		井上 恵美子	4	時外	緑園		
		4A759			6		夏目 純	4	時外	緑園		
	4A970		6		(休講)	4						

【備考欄】 ◆=「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学=「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)=「週2回授業」 (2連)=「2時限連続授業」 (通年)=「通年科目」
 (隔)=「隔年開講科目」
 ①=他学部・他学科生は初回授業時選抜科目
 ②=2010年度以前開講「身体表現の技法」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ③=2010年度以前開講「対人コミュニケーションの心理学」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ④=2010年度以前開講「文化の心理学」「文化の心理学A」「文化の心理学B」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑤=2010年度以前開講「子どもの発達とこれからの教育問題B」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑥=2010年度以前開講「ジェンダー問題と男女共同参画社会」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑦=(週1回+時間外)
 ⑧=コミュニケーション学科、演奏学科複式開講科目

【開放欄】 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

●国際交流学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法		
					前	後								
導入演習		51970	導入演習	国際交流学部での学び方	1		木曾 順子	1	金 5	緑園	学 (クラス 指定)	1年前期に1単 位を修得		
		51971			1		上原 良子	1	金 4	緑園				
		51972			1		古内 洋平	1	木 4	緑園				
		51973			1		大西 比呂志	1	火 3	緑園				
		51974			1		佐藤 輝	1	月 3	緑園				
		51975			1		横山 正樹	1	月 5	緑園				
		51976			1		矢野 久美子	1	木 3	緑園				
		51977			1		中塚 次郎	1	火 3	緑園				
		51978			1		馬橋 憲男	1	月 3	緑園				
		51979			1		齊藤 直	1	金 3	緑園				
		51980			1		常岡(乗本) せつ子	1	月 4	緑園				
		51981			1		高雄 綾子	1	金 3	緑園				
		51982			1		鄭浩 瀾	1	月 4	緑園				
		51983			1		ベンヤミン D. ミド ルトン	1	月 3	緑園				
研究入門		50030	研究入門(1)		2		(休 講)	12			1年前期に2単 位を修得			
		50040	研究入門(2)	映像に見る日本文化の諸相	2		寛 雅博	12	火 3	緑園				
		50050	研究入門(3)		2		(休 講)	12						
		50060	研究入門(4)		2		(休 講)	12						
		50070	研究入門(5)		2		(休 講)	12						
		50080	研究入門(6)		2		(休 講)	12						
		50090	研究入門(7)		2		(休 講)	12						
		50100	研究入門(8)		2		(休 講)	12						
		50110	研究入門(9)		2		(休 講)	12						
		50120	研究入門(10)	中国社会的現状を考える13	2		福島 仁	12	金 4	緑園				
		50130	研究入門(11)		2		(休 講)	12						
		50140	研究入門(12)		2		(休 講)	12						
		50150	研究入門(13)		2		(休 講)	12						
		50160	研究入門(14)	人権入門	2		常岡(乗本) せつ子	12	月 3	緑園				
		50170	研究入門(15)		2		(休 講)	12						
		50180	研究入門(16)		2		(休 講)	12						
		50190	研究入門(17)	第2次大戦後の国際関係の動向	2		八幡 清文	12	金 4	緑園				
		50200	研究入門(18)		2		(休 講)	12						
		50210	研究入門(19)		2		(休 講)	12						
		50220	研究入門(20)		2		(休 講)	12						
		51940	研究入門(21)		2		(休 講)	12						
		51990	研究入門(22)		2		(休 講)	12						
		52030	研究入門(23)		2		(休 講)	12						
基礎演習		50230	基礎演習	21世紀の地球環境 I	1		佐藤 輝	2	月 4	緑園	学25	1年後期から2 年後期まで各 学期1単位を 修得		
		50231			1		(休 講)	2						
		50237			1		(休 講)	2						
		50232			1		戦後日本経済史の基礎を学ぶ	1	齊藤 直	2			木 3	緑園
		50234			1		開発途上国研究入門	1	木曾 順子	2			金 4	緑園
		50243			1		ドイツ政治文化論入門	1	矢野 久美子	2			火 3	緑園
		50238			1		法律問題・社会問題について議論する Ⅲ	1	荒井 真	2			金 3	緑園
		50239			1		私たちの基本的人権Ⅱ	1	常岡(乗本) せつ子	2			金 3	緑園
		50240			1		地球社会と私たち	1	馬橋 憲男	2			月 4	緑園
		50241			1		地域研究の基礎1	1	大西 比呂志	2			月 3	緑園
		50242			1		(休 講)	1						
		50245			1		ツーリズムの社会学入門1	1	ベンヤミン D. ミド ルトン	2			木 3	緑園
		50248			1		(休 講)	1						
		50265			1		PBLによる新たな学び	1	春木 良且	2			月 3	緑園
		50249			1		レポートの書き方	1	大野 英二郎	2			火 3	緑園
		50246			1		21世紀の地球環境Ⅱ	1	佐藤 輝	12			月 4	緑園
		50247			1		日本文化に触れて見よう	1	寛 雅博	12			金 4	緑園
		50244			1		持続可能なライフスタイル	1	高雄 綾子	12			火 3	緑園
		50250			1		日中関係を考える	1	鄭 浩瀾	12			月 4	緑園
		50251			1		現代日本経済の基礎を学ぶ	1	齊藤 直	12			木 3	緑園
	50252	1		ラテンアメリカ地域の国際交流	1	ヒガ, マルセーロ	12	月 3	緑園					

【備考欄】 ◆=「履修者数制限科目(定員_名)」(p.29) 学=「学科選抜科目(定員_名)」(p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員_名)」(p.29)
 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2) =「週2回授業」 (2連) =「2時限連続授業」 (通年) =「通年科目」
 (隔) =「隔年開講科目」 環 =「環境関連科目」
 ①=英文学科・国際交流学科複式開講科目 ②=英語による授業 ③=「海外環境フィールド実習」と隔年開講
 ④=2009年度以前開講「地球環境実習」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。 ⑤=「環境保全行動論」と隔年開講
 ⑥=詳細は学生要覧【海外研修】・【国際交流学部「現地実習」科目について】参照 ⑦=コラボレート授業
 ⑧=「ヨーロッパ統合(2)」と隔年開講 ⑨=「ヨーロッパ女性論(1)」「ヨーロッパ女性論(2)」「ヨーロッパ女性論(3)」をローテーションして開講
 ⑩=2007年度以前開講「ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑪=2008年度以前開講「比較法」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
 ⑫=「比較憲法(1)」「比較憲法(2)」「比較憲法(3)」をローテーションして開講

【開放欄】 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け 学 号 は重複履修可能(p.26)

●国際交流学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前 後						
基礎演習		50253	基礎演習	国境なき国際政治	1	古内 洋平	12	木 4	緑園	学25	1年後期から2年後期まで各学期1単位を修得
		50254		中国社会と女性	1	江上 幸子	12	木 3	緑園		
		50255		フランスの文化と歴史	1	横山 安由美	12	火 3	緑園		
		50257		スペイン研究3	1	中塚 次郎	12	火 3	緑園		
		50258		経済学の考え方	1	木曾 順子	12	金 4	緑園		
		50259		法律問題・社会問題について議論するIV	1	荒井 真	12	金 3	緑園		
		50260		私たちの基本的人権III	1	常岡(兼本) せつ子	12	金 3	緑園		
		50261		スポーツを解体する	1	和田 浩一	12	月 3	緑園		
		50262		地域研究の基礎2	1	大西 比呂志	12	月 3	緑園		
		50264		21世紀の国際社会と国際問題・入門	1	八幡 清文	12	金 3	緑園		
		50263		アジアの環境問題と平和	1	横山 正樹	12	月 4	緑園		
		50267		発表のしかた	1	大野 英二郎	12	金 3	緑園		
		50266		ツーリズムの社会学入門2	1	ベンヤミン D. ミドルトン	12	木 3	緑園		
		50268		ドイツ語圏文化研究入門ージェンダーの視点からー	1	田丸 理紗	12	火 3	緑園		
		50235		現代韓国研究II	1	金 香男	12	火 3	緑園		
		50233		スペイン語圏の現代文化	1	寺尾 隆吉	12	金 3	緑園		
	50236	中国の社会を考える13	1	福島 仁	12	金 4	緑園				
環境と人間	▲	50270	人文地理学	産業と企業の地理学	2	中村 努	1234	月 4	緑園		
	▲	50280	自然地理学	地図とGISで空・海・陸から地球診断	2	太田 弘	1234	金 2	緑園	⑧	
	▲	50290	地誌	流通から読みとく地域のすがた	2	中村 努	1234	月 4	緑園		
	▲	52020	地球環境	どうなる人類の未来	2	佐藤 輝	1234	火 4	緑園	⑧ ◆120	
	▲	52010	環境保全行動論	私たちにできること(入門編)	2	佐藤 輝	234	月 3	緑園	⑧ ③ ◆60	
	▲	52100	環境と社会	ドイツの環境教育とESD	2	高雄 綾子	1234	金 1	緑園		
	▲	52110	環境と社会運動		2	(休 講)	1234				
	▲	50310	南北問題		2	(休 講)	1234				
	▲	50320	資源問題	資源と私たちの生活	2	佐藤 輝	1234	木 4	緑園	⑧ ◆120	
	▲	50330	人口問題	世界の人口問題の多様性を社会経済との関わりから探る	2	早瀬 保子	234	木 1	緑園		
	▲	50340	家族計画・保健	世界のリプロダクティブヘルスをジェンダーから考える	2	早瀬 保子	34	木 2	緑園		
	▲	51960	家族・福祉	現代家族と福祉	2	金 香男	234	火 5	緑園		
	▲	52420	格差社会とアイデンティティ	現代日本の格差と貧困	2	脇田 彩	1234	金 5	緑園		
	▲	52430	若者の労働環境	不安定雇用の時代を生きる	2	脇田 彩	1234	金 5	緑園		
	▲	52440	グリーン経済への転換A	グリーン経済と自然資本への投資	2	松本 奈穂子	1234	木 3	緑園		
	A群地球社会	▲	52450	グリーン経済への転換B	グリーン経済とエネルギー・資源効率への投資	2	松本 奈穂子	1234	木 3	緑園	
▲		52460	地域と食文化	クオリティの高い食と環境のネットワークは活性化の要	2	金丸 弘美	1234	月 4	緑園		
▲		51900	地球環境実習		1	(休 講)					
▲		52580	身近な環境を知る	自然からの恵みと私たちの健康	2	佐藤 輝	234	火 4	緑園	(隔) ◆20 ④	
▲		52490	海外環境フィールド実習		2	(休 講)	123			⑤ 初10	
▲		50350	国際移民・労働移動	現代の国際労働移動：女性と子どもの移動を中心に	2	小ヶ谷 千穂	234	木 2	緑園		
▲		50360	在日外国人	ニューカマーとオールドカマー	2	橋本 みゆき	1234	水 5	緑園		
▲		52470	文化交流論A	中国と外部世界III ロシアと現代中国13	2	福島 仁	234	金 2	緑園		
▲		52480	文化交流論B	中国と外部世界I 日本にきた清末の改革思想家	2	福島 仁	234	金 3	緑園		
▲		50370	余暇と旅行	日本人の余暇と旅行スタイル	2	齋藤 明子	34	木 5	緑園	◆120	
▲		52410	観光文化論	観光の大衆化とエコツーリズム	2	高橋 夕起子	1234	水 3	緑園		
▲		51540	外国人関係諸法A		2	(休 講)	34				
▲		51550	外国人関係諸法B		2	(休 講)	34				
▲		52510	スポーツと国際社会	オリンピックから見える国際社会	2	和田 浩一	1234	木 2	緑園		
▲		52520	比較スポーツ論	似て非なるスポーツの面白さ	2	和田 浩一	1234	木 2	緑園		
▲		51710	地球社会現地実習		2	各担当教員	234		緑園	⑥	
紛争と平和	▲	50390	民族問題	アジアの国際化とポストコロナル	2	崔 学松	1234	火 2	緑園		
	▲	52400	文化摩擦	移住と文化の問題	2	ヒガ、マルセーロ	234	月 5	緑園		
	▲	50410	平和思想と運動	私たちの暮らしと地球の平和	2	馬橋 憲男	1234	月 3	緑園		
	▲	50420	軍縮問題	軍備管理：軍縮と国際安全保障	2	佐藤 丙午	234	月 2	緑園		
	▲	52530	紛争と平和構築	平和を造り支えるための方法を考える	4	古内 洋平	1234	月 3/木 3	緑園	(週2)	

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員_名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員_名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員_名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」 ⑧＝環境関連科目
 ①＝英文学科・国際交流学科複式開講科目 ②＝英語による授業 ③＝「海外環境フィールド実習」と隔年開講
 ④＝2009年度以前開講「地球環境実習」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。「他者との共生 For Others(19)」と隔年開講
 ⑤＝「環境保全行動論」と隔年開講 ⑥＝詳細は学生要覧【海外研修】・【国際交流学部「現地実習」科目について】参照

●国際交流学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
世界の文化	▲	51810	地域社会研究A	西洋におけるユートピア	2		大野 英二郎	1234	金 3	緑園		
	▲	51820	地域社会研究B	アジア共同体論—多角的な視点から	2		金 香男	1234	水 2	緑園	⑦	
		52370	地域社会研究B(2)		2		(休 講)	1234				
		52040	英語文獻講読(地域社会)		2		(休 講)	1234			初30	
	▲	51560	世界史概説A	近代の世界：世界史と日本史の狭間から	2		木村 宏一郎	1234	水 3	緑園		
	▲	51570	世界史概説B	現代の世界：アジアの中の日本を視点に	2		木村 宏一郎	1234	水 3	緑園		
	▲	50450	現代文化論A	メディア文化から社会を考える	2		角田 隆一	1234	月 2	緑園		
	▲	50460	現代文化論B	世界の紛争・話題を読み解く	2		大澤 文護	1234	木 2	緑園		
	▲	52540	現代社会論A	現代社会におけるメディアコミュニケーション考察	2		荻野 健一	1234	水 5	緑園		
	▲	52550	現代社会論B	世界に情報発信！	2		内田 奈津子	1234	月 5	緑園		
日本の社会と文化	▲	50500	世界宗教論		2		(休 講)	1234			(隔)	
	▲	51580	日本史概説A	日本史の「本質」を知る試み	2		笈 雅博	1234	金 4	緑園		
	▲	51590	日本史概説B	近代社会の形成と展開	2		本宮 一男	1234	木 1	緑園		
	▲	52130	日本政治外交史	近代日本の政治と外交	4		大西 比呂志	1234	火 4/火 5	緑園	(2連)	
	▲	50560	日本文化論	日本文化の「原風景」を求めて	4		笈 雅博	1234	火 3/金 3	緑園	(週2)	
	▲	52050	日本の文化交流	国際社会における日本の文化交流の現状と将来の展望	2		清水 基久	1234	水 3	緑園	◆90	
	▲	50570	日本の行政・地方自治法A		2		(休 講)	1234				
	▲	50580	日本の行政・地方自治法B		2		(休 講)	1234				
	▲	50590	日本経済論		2		(休 講)	1234				
	▲	52210	日本経済論(2)	戦後における日本経済の発展	2		齊藤 直	1234	木 2	緑園		
B群(国際社会・文化)	▲	52220	日本経済論(3)	現代の日本経済	2		齊藤 直	234	木 2	緑園		
	▲	50600	横浜学	国際港都の歴史と未来	4		大西 比呂志	1234	火 4/火 5	緑園	(2連)	
	▲	50610	アジア近・現代史		4		(休 講)	1234			(週2)	
	▲	52560	アジア近・現代史A	近世から近代へ	2		並木 真人	234	金 3	緑園		【2009年度以降入学者】B群から4単位以上を修得(A・B・C群から合計32単位以上を修得)
	▲	52570	アジア近・現代史B	近代から現代へ	2		並木 真人	234	金 3	緑園		
	▲	50620	アジアと日本(日朝・日中)	朝鮮近代史の基礎	4		並木 真人	234	火 4/金 4	緑園	(週2)	
	▲	50630	アジアの政治と社会1(中国研究)	20世紀中国の歴史と社会	4		鄧 浩瀾	1234	月 3/木 3	緑園	(週2)	
	▲	50640	アジアの政治と社会2(朝鮮研究)	朝鮮近代史の基礎	4		並木 真人	234	火 4/金 4	緑園	(週2)	
	▲	50650	アジアの政治と社会3(東南アジア研究1)	東南アジアの日本の平和研究：フィリピンを軸に学ぶ	4		横山 正樹	1234	月 3/木 3	緑園	(週2)	【2008年度以前入学者】B群から2単位以上を修得(A・B・C群から合計20単位以上を修得)
	▲	50660	アジアの政治と社会4(東南アジア研究2)A	東南アジアの国際関係A	2		遠藤 聡	1234	水 4	緑園		
▲	50670	アジアの政治と社会4(東南アジア研究2)B	東南アジアの国際関係B	2		遠藤 聡	1234	水 4	緑園			
▲	51920	アジアの政治と社会5(南アジア研究1)	南アジアの社会と経済	4		木曾 順子	234	火 3/金 3	緑園	(週2)		
▲	50680	アジアの思想・宗教1(仏教)A		2		(休 講)	1234					
▲	50690	アジアの思想・宗教1(仏教)B		2		(休 講)	1234					
▲	50700	アジアの思想・宗教2(儒教)	儒教の思想家たち	4		福島 仁	234	火 3/金 3	緑園	(週2)		
▲	52280	アジアの思想・宗教3(イスラム)	イスラームをめぐる諸問題	2		今澤 紀子	1234	水 3	緑園			
アジアの社会と文化	▲	51790	アジアの文化1(文学)	近現代中国の文学を読む	2		(休 講)	1234				
	▲	50740	アジアの文化2(芸術)A	中国美術の図像学A	2		杉原 たく哉	1234	金 2	緑園		
	▲	50750	アジアの文化2(芸術)B	中国美術の図像学B	2		杉原 たく哉	1234	金 2	緑園		
	▲	50770	アジア現地実習(2)	平和学の方法エクスポージャーでフィリピンを学ぶ	2		横山 正樹	1234	時外	学外	⑥	
	▲	50780	ヨーロッパ世界の近・現代史	19世紀のヨーロッパ	4		中塚 次郎	1234	火 4/金 4	緑園	(週2)	
	▲	52240	ヨーロッパ統合(2)	危機の中のEU	4		上原 良子	234	火 3/金 3	緑園	(週2) ⑧	
	▲	52500	ヨーロッパ女性論(3)		2		(休 講)	1234			⑨	
	▲	52150	ヨーロッパ女性論(1)	女性と写真—1920年代、1930年代を中心に—	2		田丸 理砂	1234	火 5	緑園	⑨	
	▲	50790	ヨーロッパ世界の政治と社会1(西欧研究)	フランス現代史と国際関係	4		上原 良子	1234	火 3/金 3	緑園	(週2)	
	▲	50800	ヨーロッパ世界の政治と社会2(南欧研究)	スペインにおけるナショナリズム	4		中塚 次郎	234	火 4/金 4	緑園	(週2)	
ヨーロッパの社会と文化	▲	50810	ヨーロッパ世界の政治と社会3(ロシア・東欧研究)A	ロシア・東欧・ユーラシアの国際関係A	2		日臺 健雄	1234	金 5	緑園		
	▲	50820	ヨーロッパ世界の政治と社会3(ロシア・東欧研究)B	ロシア・東欧・ユーラシアの国際関係B	2		日臺 健雄	1234	金 5	緑園		

⑦=コラボレート授業

⑧=「ヨーロッパ統合(2)」と隔年開講

⑨=「ヨーロッパ女性論(1)」「ヨーロッパ女性論(2)」「ヨーロッパ女性論(3)」をローテーションして開講

⑩=2007年度以前開講「ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

⑪=2008年度以前開講「比較法」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

⑫=「比較憲法(1)」「比較憲法(2)」「比較憲法(3)」をローテーションして開講

▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【開放欄】 網掛け 色 は重複履修可能(p.26)

●国際交流学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前 後						
B群(国際社会・文化)	ヨーロッパの社会と文化	▲ 50830	ヨーロッパ世界の政治と社会4(北欧研究)A	周辺から見たヨーロッパ世界A	2	今村 芳	1234	月 2	緑園		
		▲ 50840	ヨーロッパ世界の政治と社会4(北欧研究)B	周辺から見たヨーロッパ世界B	2	今村 芳	1234	月 2	緑園		
		▲ 52120	ヨーロッパ世界の思想・宗教1(キリスト教)	キリスト教と宗教多元主義	2	廣石 望	1234	火 5	緑園	(隔)	
		▲ 52060	ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮)	異郷の生と身体	2	矢野 久美子	1234	木 3	緑園	⑩	
		▲ 50870	ヨーロッパ世界の文化1(文学)		4	(休 講)	1234				(週2)
		▲ 50880	ヨーロッパ世界の文化2(芸術)A	ヨーロッパ絵画史 I	2	江川 均	1234	月 5	緑園		
		▲ 50890	ヨーロッパ世界の文化2(芸術)B	ヨーロッパ絵画史 II	2	江川 均	1234	月 5	緑園		
		▲ 51740	ヨーロッパ世界の文化3(文学と言語)A	ヨーロッパの彩色写本を解読する	2	村山 いくみ	1234	木 3	緑園		
		▲ 51750	ヨーロッパ世界の文化3(文学と言語)B	現代ラテンアメリカの小説文学	2	寺尾 隆吉	1234	金 4	緑園		
		▲ 50900	ヨーロッパ現地実習		2	(休 講)	1234				
		▲ 2A300	イギリス史A	イギリス史概説A	2	菅原 未宇	1234	水 5	緑園	①	
		▲ 2A310	イギリス史B	イギリス史概説B	2	菅原 未宇	1234	水 4	緑園	①	
		▲ 2A240	イギリスの政治と社会A	イギリスの政治と社会A	2	菅原 未宇	234	水 4	緑園	①	
		▲ 2A250	イギリスの政治と社会B	イギリスの政治と社会B	2	菅原 未宇	234	水 5	緑園	①	
		▲ 2A260	イギリスの思想・宗教A	『カンタベリ物語』で少し古い英語に触れてみよう	2	土家 典生	1234	木 4	緑園	①	
		▲ 2A270	イギリスの思想・宗教B	巡礼に行く人々の描写から当時の社会が見えてくる	2	土家 典生	1234	木 4	緑園	①	
		▲ 2A280	イギリス文化論総説A	ファンタジーの系譜	2	千森 幹子	1234	月 4	緑園	① ◆120	
		▲ 2A290	イギリス文化論総説B	子どもと少女の表象	2	千森 幹子	1234	木 4	緑園	①	
		▲ 2A210	アメリカ史	近現代アメリカの歴史と文化	4	梅崎 透	234	火 3/金 3	緑園	(週2) ①	
	▲ 2A150	アメリカの政治と社会A	アメリカ政治外交史	2	佐藤 真千子	234	金 5	緑園	①		
	▲ 2A160	アメリカの政治と社会B	アメリカ政治	2	佐藤 真千子	234	金 5	緑園	①		
	▲ 2A170	アメリカの思想・宗教A	あるべきアメリカ像の変容過程A	2	松原 宏之	234	金 2	緑園	①		
	▲ 2A180	アメリカの思想・宗教B	あるべきアメリカ像の変容過程B	2	松原 宏之	234	金 2	緑園	①		
	▲ 51020	現代アメリカ論	第二次世界大戦後のアメリカ社会の変遷	4	中川 正紀	234	月 4/木 4	緑園	(週2) ①		
	▲ 2A320	カナダの政治と社会		4	(休 講)	234				(週2) ①	
	▲ 51040	ラテンアメリカ地域文化研究	ラテンアメリカの新しい姿	4	ヒガ、マルセーロ	1234	月 3/木 3	緑園	(週2)		
	▲ 2A330	オーストラリア地域文化研究A	多文化社会オーストラリアの歴史と展望	2	関根 薫	1234	水 5	緑園	①		
	▲ 2A340	オーストラリア地域文化研究B	多文化社会オーストラリアの諸問題と課題	2	関根 薫	1234	水 5	緑園	①		
	▲ 52260	オーストラリア現地実習	Australia Study Tour III	2	ベンヤミン D. ミドルトン	1234	時外	学外			
中東・アフリカ世界 の社会と文化	▲ 52290	アフリカの政治と社会	アフリカ社会の歴史と現在	2	壽賀 一仁	1234	月 2	緑園			
	▲ 52300	中東の政治と社会	中東情勢を知るための基礎知識	2	今澤 紀子	1234	水 3	緑園			
C群(国際社会基礎理論)	法と政治	▲ 51830	国際社会研究A	CURRENT GLOBAL AFFAIRS	2	カーウ スピッツァー	1234	水 3	緑園	②	
		▲ 51840	国際社会研究B	The Bible translators and the dawn of modern Japan	2	中井 純子	1234	水 4	緑園	②	
		▲ 52310	Globalization Studies	Tourism Studies 1	2	ベンヤミン D. ミドルトン	234	木 2	緑園	②	
		▲ 52070	英語で世界を学ぶ I	英語で世界を学ぶ I	2	馬橋 憲男	234	木 4	緑園	初30	
		▲ 52071	英語文献講読(国際社会)	英語で世界を学ぶⅡ	2	馬橋 憲男	234	月 4	緑園	初30	
		▲ 52072		社会科学に関する英語文献を読むⅢ	2	荒井 真	234	金 4	緑園	初30	
		▲ 51070	国際関係論	現代の国際関係の諸問題を考える	2	梶島 洋美	1234	水 2	緑園		
		▲ 51080	国際法A	国際社会における法の役割と性質	2	森川 俊孝	234	木 3	緑園		
		▲ 51090	国際法B	国際協力と国際法	2	森川 俊孝	234	木 4	緑園		
		▲ 52160	比較法(1)		4	(休 講)	234				(2連) ①
		▲ 52170	比較憲法(1)		4	(休 講)	234				(2連) ②
		▲ 52230	比較憲法(2)	女性の人権とジェンダースタディーズ	4	常岡(乗本) せつ子	234	月 3/月 4	緑園	(2連) ②	

【2009年度以降入学者】B群から4単位以上を修得(A・B・C群から合計32単位以上を修得)

【2008年度以前入学者】B群から2単位以上を修得(A・B・C群から合計20単位以上を修得)

【2009年度以降入学者】C群から4単位以上を修得(A・B・C群から合計32単位以上を修得)

【2008年度以前入学者】C群から2単位以上を修得(A・B・C群から合計20単位以上を修得)

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(揭示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」 (環)＝「環境関連科目」
 ①＝英文学科・国際交流学科複式開講科目 ②＝英語による授業 ③＝「海外環境フィールド実習」と隔年開講
 ④＝2009年度以前開講「地球環境実習」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。 ⑤＝「環境保全行動論」と隔年開講
 ⑥＝詳細は学生要覧「海外研修」・「国際交流学部「現地実習」科目について」参照 ⑦＝コラボレート授業

●国際交流学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
法と政治	▲	51120	国際人権法	国際人権保障システムとその実践	2		寺中 誠	234	木 3	緑園			
	▲	51130	政治学概論	現代政治学の基礎	2		古内 洋平	1234	木 2	緑園			
	▲	51140	国際政治学	戦争と平和の国際政治学	4		古内 洋平	234	月 3/木 3	緑園	(週2)		
	▲	51150	国際機構論		4		(休 講)	234				(週2)	
	▲	51160	国際統合論	アジア版EUは可能か	2		柘島 洋美	234	水 3	緑園			
	▲	51170	国際平和論	私たちの生き残りをかけた平和学：開発・環境問題	4		横山 正樹	1234	月 3/木 3	緑園	(週2)		
	▲	51180	現代外交論		2		(休 講)	234					
	▲	51880	統治機構・人権論A		2		(休 講)	234				◆120	
	▲	51890	統治機構・人権論B		2		(休 講)	234					
	▲	51200	国際関係史A	第二次世界大戦前の国際関係史	2		高光 佳絵	1234	金 4	緑園			
	▲	51210	国際関係史B	第二次世界大戦後の国際関係史	2		高光 佳絵	1234	金 4	緑園			
	▲	51220	日米外交史	協調と対立の歴史を振り返る	2		鈴木 宏尚	234	水 4	緑園			
	▲	51230	政治思想史A	西洋	2		細井 保	234	木 2	緑園			
	▲	51240	政治思想史B	日本	2		細井 保	234	木 2	緑園			
	C群(国際社会基礎理論)	▲	51250	日本社会思想史		4		(休 講)	1234				(週2)
▲		52320	国際環境政治論		2		(休 講)	234					
▲		51670	国際政治経済学A	グローバル化と女性活用小国日本の克服	2		竹信 三恵子	1234	集中	緑園			
▲		51680	国際政治経済学B	豊かさを再考する	2		中野 佳裕	1234		緑園			
▲		51930	国際経済論	国際経済と開発途上国	4		木曾 順子	234	火 3/金 3	緑園	(週2)		
▲		51280	国際経済史	資本主義の発展と国際関係の展開	4		八幡 清文	234	火 3/金 3	緑園	(週2)		
▲		51760	国際ビジネス論A	企業経営の国際化ー国際ビジネス入門ー	2		西村 陽一郎	234	火 1	緑園			
▲		51770	国際ビジネス論B		2		(休 講)	234					
▲		52190	企業と社会	現代社会における企業の役割	2		齊藤 直	234	金 4	緑園			
▲		51640	社会学概論A	グローバル・ソシオロジー1	2		ベンヤミン D. ミドルトン	1234	月 2	緑園	◆120		
▲		51650	社会学概論B	グローバル・ソシオロジー2	2		ベンヤミン D. ミドルトン	1234	月 2	緑園	◆120		
▲		51310	国際社会学A	グローバル化する社会を読み解く	2		平野 恵子	234	木 3	緑園			
▲		51320	国際社会学B	国際協力と社会学	2		平野 恵子	234	木 3	緑園			
▲		51330	国際開発論		4		(休 講)	234				(週2)	
▲		51340	国際協力論		2		(休 講)	234					
▲		52180	地域の国際交流・協力	地域で国際交流・協力を実践する	2		馬橋 憲男	234	木 4	緑園			
▲		51350	国際交通論	国際交通論ーエアライン業務とヨーロッパ鉄道の歴史	2		森口 茂	234	月 4	緑園			
▲		51360	社会統計学A	統計とは何か、統計的な考え方の基本を事例から学ぶ	2		中西 規之	1234	木 4	緑園	◆60		
▲		51370	社会統計学B	社会統計学のさまざまな分析手法を事例から学ぶ	2		中西 規之	1234	火 4	緑園	◆60		
▲		51910	国際NGO論		4		(休 講)	234				(週2)	
▲		51390	余暇社会学		2		(休 講)	34					
▲		51400	社会経済思想史		4		(休 講)	1234				(週2)(隔)	
▲		52200	グローバル社会経済論		2		(休 講)	234					
情報処理学		▲	51410	情報処理論	コンピュータを詳しく知ろう。プログラムって何？	2		春木 良且	234	月 3	緑園		
		▲	51420	情報処理演習		1		(休 講)	234				
		▲	51430	国際情報流通論	メディアとしてのインターネットの活用のすすめ	2		柳沢 富夫	234	木 5	緑園		
		▲	51440	国際情報処理演習		1		(休 講)	234				◆20

【2009年度以降
入学者】C群から
4単位以上を
修得(A・B・C
群から合計32
単位以上を修
得)

【2008年度以前
入学者】C群から
2単位以上を
修得(A・B・C
群から合計20
単位以上を修
得)

⑧＝「ヨーロッパ統合(2)」と隔年開講
⑨＝「ヨーロッパ女性論(1)」「ヨーロッパ女性論(2)」「ヨーロッパ女性論(3)」をローテーションして開講
⑩＝2007年度以前開講「ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
⑪＝2008年度以前開講「比較法」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。
⑫＝「比較憲法(1)」「比較憲法(2)」「比較憲法(3)」をローテーションして開講

【開放欄】 ▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27)
【科目名欄】 網掛け ■は重複履修可能(p.26)

●国際交流学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前後						
		51450		資源循環型社会への取り組み I	1	佐藤 輝	34	木 2	緑園		
		51451		資源循環型社会への取り組み II	1	佐藤 輝	34	木 2	緑園		
		51664		ジェンダー視点でみる中国 I	1	江上 幸子	34	火 3	緑園		
		51665		ジェンダー視点でみる中国 II	1	江上 幸子	34	火 3	緑園		
		51452		スペイン研究Ⅲ	1	中塚 次郎	34	金 3	緑園		
		51453		スペイン研究Ⅳ	1	中塚 次郎	34	金 3	緑園		
		51454		日本文化を学んで卒業論文を書くⅠ	1	寛 雅博	34	火 4	緑園		
		51455		日本文化を学んで卒業論文を書くⅡ	1	寛 雅博	34	火 4	緑園		
		51456		韓国の社会と家族 I	1	金 香男	34	火 4	緑園		
		51457		韓国の社会と家族 II	1	金 香男	34	火 4	緑園		
		51458		スペイン語と現代文化 I	1	寺尾 隆吉	34	火 3	緑園		
		51459		スペイン語と現代文化 II	1	寺尾 隆吉	34	火 3	緑園		
		51460		フランスと日本の文化的関係A	1	大野 英二郎	34	火 4	緑園		
		51461		フランスと日本の文化的関係B	1	大野 英二郎	34	火 4	緑園		
		51462		ドイツ語圏文化研究 I	1	田丸 理砂	34	火 4	緑園		
		51463		ドイツ語圏文化研究 II	1	田丸 理砂	34	火 4	緑園		
		51464		持続可能な開発のための学びと実践 I	1	高雄 綾子	34	火 4	緑園		
		51465		持続可能な開発のための学びと実践 II	1	高雄 綾子	34	火 4	緑園		
		51466		歴史のなかのフランス文化 I	1	横山 安由美	34	火 2	緑園		
		51467		歴史のなかのフランス文化 II	1	横山 安由美	34	火 2	緑園		
		51666		多文化世界における宗教と社会Ⅲ	1	廣石 望	34	火 4	緑園		
		51667		多文化世界における宗教と社会Ⅳ	1	廣石 望	34	火 4	緑園		
		51468		歴史からみる現代中国 I	1	鄭 浩瀾	34	木 4	緑園		
		51469		歴史からみる現代中国 II	1	鄭 浩瀾	34	木 4	緑園		
		51470		日本の経済発展と企業 I	1	齊藤 直	34	木 4	緑園		
		51471		日本の経済発展と企業 II	1	齊藤 直	34	木 4	緑園		
		51472		ホモ・ルーデンスを読むⅠ	1	和田 浩一	34	月 4	緑園		
		51473		ホモ・ルーデンスを読むⅡ	1	和田 浩一	34	月 4	緑園		
		51474		東アジア地域研究(1)	1	並木 真人	34	金 5	緑園		
		51475		東アジア地域研究(2)	1	並木 真人	34	金 5	緑園		
		51476		中国社会の現代化Ⅰ 13	1	福島 仁	34	火 4	緑園		
		51477	専門演習	中国社会の現代化Ⅱ 13	1	福島 仁	34	火 4	緑園	学22	
		51478		フランスの国際関係とヨーロッパⅠ	1	上原 良子	34	火 4	緑園		
		51479		フランスの国際関係とヨーロッパⅡ	1	上原 良子	34	火 4	緑園		
		51480		ドイツ政治文化論Ⅰ	1	矢野 久美子	34	火 4	緑園		
		51481		ドイツ政治文化論Ⅱ	1	矢野 久美子	34	火 4	緑園		
		51482		ラテンアメリカの文化動態Ⅰ	1	ヒガ、マルセーロ	34	木 4	緑園		
		51483		ラテンアメリカの文化動態Ⅱ	1	ヒガ、マルセーロ	34	木 4	緑園		
		51484		現代社会の諸問題について議論するⅠ	1	荒井 真	34	火 3	緑園		
		51485		現代社会の諸問題について議論するⅡ	1	荒井 真	34	火 3	緑園		
		51486		基本的人権・デモクラシー・平和主義Ⅰ	1	常岡(乗本) せつ子	34	金 4	緑園		
		51487		基本的人権・デモクラシー・平和主義Ⅱ	1	常岡(乗本) せつ子	34	金 4	緑園		
		51488		ボーダーレス時代を生きるⅠ	1	馬橋 憲男	34	木 3	緑園		
		51489		ボーダーレス時代を生きるⅡ	1	馬橋 憲男	34	木 3	緑園		
		51490		国際関係の理論と現実Ⅰ	1	古内 洋平	34	月 4	緑園		
		51491		国際関係の理論と現実Ⅱ	1	古内 洋平	34	月 4	緑園		
		51492		横浜学の総合的研究1	1	大西 比呂志	34	月 4	緑園		
		51493		横浜学の総合的研究2	1	大西 比呂志	34	月 4	緑園		
		51494		グローバリゼーションと現代経済の諸問題Ⅰ	1	八幡 清文	34	火 5	緑園		
		51495		グローバリゼーションと現代経済の諸問題Ⅱ	1	八幡 清文	34	火 5	緑園		
		51496		開発経済学を学ぶⅠ	1	木曾 順子	34	火 2	緑園		
		51497		開発経済学を学ぶⅡ	1	木曾 順子	34	火 2	緑園		
		51660		グローバル・ソシオロジー研究1	1	ベンヤミン D. ミドルトン	34	月 4	緑園		
		51661		グローバル・ソシオロジー研究2	1	ベンヤミン D. ミドルトン	34	月 3	緑園		
		51498		現代社会と情報技術Ⅰ	1	春木 良且	34	月 5	緑園		
		51499		現代社会と情報技術Ⅱ	1	春木 良且	34	月 5	緑園		
		51662		アジア太平洋の開発・環境問題と平和	1	横山 正樹	34	木 5	緑園		
		51663		平和学のケーススタディー	1	横山 正樹	34	木 5	緑園		

【卒業論文選択者】3・4年次に4単位を修得
【卒業論文を選択しない者】3年次に2単位を修得

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」 環＝「環境関連科目」
 ①＝英文学科・国際交流学科複式開講科目 ②＝(英語による授業) ③＝「海外環境フィールド実習」と隔年開講
 ④＝2009年度以前開講「地球環境実習」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。 ⑤＝「環境保全行動論」と隔年開講
 ⑥＝詳細は学生要覧「海外研修」・「国際交流学科「現地実習」科目について」参照 ⑦＝コラボレート授業

●国際交流学科専門科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
卒業論文		51500	卒業論文		6		佐藤 輝	4		緑園	学	卒業論文(6単位)に代えて、指導教員の指定する専門科目(6単位)を修得することができる。
		51527			6		江上 幸子	4		緑園		
		51501			6		中塚 次郎	4		緑園		
		51502			6		笥 雅博	4		緑園		
		51503			6		金 香男	4		緑園		
		51504			6		寺尾 隆吉	4		緑園		
		51505			6		大野 英二郎	4		緑園		
		51506			6		田丸 理砂	4		緑園		
		51520			6		高雄 綾子	4		緑園		
		51507			6		横山 安由美	4		緑園		
		51528			6		廣石 望	4		緑園		
		51508			6		鄭 浩瀾	4		緑園		
		51509			6		齊藤 直	4		緑園		
		51529			6		古内 洋平	4		緑園		
		51511			6		並木 真人	4		緑園		
		51512			6		福島 仁	4		緑園		
		51513			6		上原 良子	4		緑園		
		51514			6		矢野 久美子	4		緑園		
		51515			6		ヒガ、マルセーロ	4		緑園		
		51516			6		荒井 真	4		緑園		
		51517			6		常岡(乗本) せつ子	4		緑園		
		51518			6		馬橋 憲男	4		緑園		
		51519			6		木曾 順子	4		緑園		
		51510			6		大西 比呂志	4		緑園		
		51521			6		八幡 清文	4		緑園		
		51522			6		(休 講)	4				
		51524			6		ベンヤミン D. ミドルトン	4		緑園		
		51523			6		春木 良且	4		緑園		
	51525	6		横山 正樹	4		緑園					
	51526	6		和田 浩一	4		緑園					

⑧＝「ヨーロッパ統合(2)」と隔年開講 ⑨＝「ヨーロッパ女性論(1)」「ヨーロッパ女性論(2)」「ヨーロッパ女性論(3)」をローテーションして開講

⑩＝2007年度以前開講「ヨーロッパ世界の思想・宗教2(近・現代思潮)」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

⑪＝2008年度以前開講「比較法」と同一内容のため当該科目を修得済みの学生は履修できません。

⑫＝「比較憲法(1)」「比較憲法(2)」「比較憲法(3)」をローテーションして開講

▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【開放欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

●音楽芸術学科専門科目（2010年度以前入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
1群 （音楽系）		6A000	音楽家の基礎知識		2		船場 ひさお	1	火 3	緑園	初 ①	4単位以上を 修得（1～6群 から合計34単 位修得）
		6A001			2		（休講）	1				
		6A780	音楽基礎理論	音楽基礎理論	2		川本 聡胤	1	火 3	緑園	初 ①	
		6A781			2		川本 聡胤	1	火 3	緑園		
		▲6A010	合唱 I A		1		土屋 広次郎	1	月 3	緑園	①	
		▲6A020	合唱 I B		1		土屋 広次郎	1	月 3	緑園	①	
		6A030			1		星野 聡	12	木 4	緑園		
		6A031	基礎声楽A		1		山村 尚子	12	木 4	緑園		
		6A032			1		牧野 真由美	12	木 4	緑園		
		6A040			1		星野 聡	12	木 4	緑園		
		6A041	基礎声楽B		1		山村 尚子	12	木 4	緑園		
		6A042			1		牧野 真由美	12	木 4	緑園		
		6A050			1		立神 粧子	12	火 4	緑園		
		6A052			1		北原 葉子	12	水 4	緑園		
		6A053			1		末松 茂敏	12	水 3	緑園		
		6A054	基礎ピアノA		1		清水 将仁	12	金 3	緑園	学	
		6A055			1		清水 将仁	12	金 4	緑園		
		6A056			1		新井 啓泰	12	月 3	緑園		
		6A057			1		新井 啓泰	12	月 4	緑園		
		6B160	基礎ピアノA(2)		1		北原 葉子	34	火 1	山手	学 教職クラス	
		6A060			1		立神 粧子	12	火 4	緑園		
		6A062			1		北原 葉子	12	水 4	緑園		
		6A063			1		末松 茂敏	12	水 3	緑園		
		6A064	基礎ピアノB		1		清水 将仁	12	金 3	緑園	学	
		6A065			1		清水 将仁	12	金 4	緑園		
		6A066			1		新井 啓泰	12	月 3	緑園		
		6A067			1		新井 啓泰	12	月 4	緑園		
		6B170	基礎ピアノB(2)		1		北原 葉子	34	火 1	山手	学 教職クラス	
	6A070	和声 I A	和声の基礎1	2		岡島 雅興	12	月 4	緑園	① 演奏クラス		
	6A071			2		岡島 雅興	12	月 3	緑園	① 音芸クラス		
	6A080	和声 I B	和声の基礎2	2		岡島 雅興	12	月 4	緑園	① 演奏クラス		
	6A081			2		岡島 雅興	12	月 3	緑園	① 音芸クラス		
	6A090	ソルフェージュ1	音楽の基礎知識を身につけるパート1	1		末松 茂敏	12	水 4	緑園			
	6A100	ソルフェージュ2	音楽の基礎知識を身につけるパート2	1		末松 茂敏	12	水 4	緑園			
	6A110	ソルフェージュ3	移調ができるようになる	1		末松 茂敏	12	水 5	緑園	初 ①		
	6A120	ソルフェージュ4	スコアに親しもう	1		末松 茂敏	12	水 5	緑園			
2群 （音楽系）	▲	6A130	賛美歌学		2		谷口 昭弘	12	木 4	緑園		2単位以上を 修得（1～6群 から合計34単 位修得）
	▲	6A930	賛美歌学(2)	賛美歌を創ろう	2		岡島 雅興	12	金 5	緑園	初25	
	▲	6A140	キリスト教オルガン音楽概論		2		（休講）	12				
		6A150	キリスト教オルガン実技		1		（休講）	12			初	
		6D150	キリスト教オルガン研究基礎	プロテスタントの礼拝音楽の基礎を学ぶA	2		宇内 千晴	34	木 3	山手	①	
		6D160	キリスト教オルガン研究応用	プロテスタントの礼拝音楽の基礎を学ぶB	2		宇内 千晴	34	木 3	山手	①	
3群 （音楽系）		6A180	和声 II A	和声の展開1	2		岡島 雅興	12	月 5	緑園	① ②	1～6群から合 計34単位修得
		6A190	和声 II B	和声の展開2	2		岡島 雅興	12	月 5	緑園	① ②	
	■	6A200	作品分析	音楽のなりたちを暴く！	2		川本 聡胤	234	火 4	緑園		
		6A800	ジャズ・ポップス入門	ポピュラー音楽の基礎	2		川本 聡胤	12	火 5	緑園		
	■	6A210	ポピュラー音楽理論	コード、メロディ、形式、リズム、テクニチャー	2		川本 聡胤	34	金 5	山手		
		6D520	共演芸術A		2		立神 粧子	34	金 2	山手	初 ①	
		6D530	共演芸術B		2		立神 粧子	34	金 2	山手	初 ①	
	■	6A220	即興演奏ワークショップ		2		落合 敦	34	木 2	山手		
	■	6A230	ジャズ・ポップス実践ワーク ショップ	楽譜にあるメロディーを自分の歌にしまし よう	2		富田 久美	34	水 3	山手		
	■	6A240	合奏A	いつでもどこでも誰とでも ～合奏の可 能性を広げよう～	1		船場 ひさお	34	月 3	山手		
	■	6A250	合奏B		1		（休講）	34				
		6A260	伴奏法A		1		立神 粧子	12	火 3	緑園	初	
		6A270	伴奏法B		1		立神 粧子	12	火 3	緑園	初	

【備考欄】 学＝「学科選抜科目(定員__名) (p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名) (p.29)
 ①＝音楽芸術学科・演奏学科複式開講科目 ②＝音芸・演奏合同クラス
 ③＝「邦楽1」履修を前提とする ④＝6A570「アート・マネジメント」と隔年開講
 ⑤＝6A480「マルチメディア著作権ビジネス」と隔年開講 ⑥＝コーディネート授業

●音楽芸術学科専門科目（2010年度以前入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法			
					前	後									
6群 （音楽情報科学）		6A280	邦楽1	三味線入門・基礎実技	1		東音河野 文	234	月 3	緑園	◆29 ①	1～6群から合計34単位修得			
		6A281					1		東音河野 文	234	月 4		緑園		
		6A290	邦楽2	三味線 歌舞伎音楽を弾く「勸進帳」に挑戦	1		東音河野 文	234	月 3	緑園	◆29		① ③		
		6A291					1		東音河野 文	234	月 4			緑園	
	▲	6A300			合唱ⅡA	他声部の響きをききながらハーモニーをつくる	1		蔵田 雅之	2	金 4			緑園	①
▲	6A310	合唱ⅡB	ヘンデルメサイアの舞台を目指そう	1		蔵田 雅之	2	金 4	緑園	①					
4群 音楽の背景を探る	▲	6A320	キリスト教音楽概論1		2		谷口 昭弘	34	火 2	山手	①				
	▲	6A330	キリスト教音楽概論2		2		谷口 昭弘	34	火 2	山手	①				
	▲	6A340	西洋音楽通史		4		谷口 昭弘	12	月 5/木 5	緑園	(週2)				
	▲	6A350	日本音楽通史		4		谷口 昭弘	12	月 5/木 5	緑園	◆76 ①				
	▲	6A360	西洋音楽史特殊講義1	バロック	2		益山 典子	234	金 3	緑園					
	▲	6A370	西洋音楽史特殊講義2	古典派	2		益山 典子	234	金 3	緑園					
	▲	6A380	日本音楽史特殊講義	日本音楽の近代化	2		千葉 優子	234	木 2	山手					
	▲	6A390	ポピュラー音楽史	ポピュラー音楽史	2		川本 聡胤	234	金 5	山手					
	▲	6A400	映画・舞台音楽論	映画音楽の歴史と制作理論	2		瀬藤 康嗣	234	月 3	緑園	④				
	▲	6D710	現代音楽レパートリー	楽譜から録音へ：複製技術と20世紀の音楽	2		瀬藤 康嗣	234	月 3	緑園	◆80 ①				
	▲	6A410	音楽社会学		2		谷口 昭弘	1234	木 4	緑園					
	■	6A420	楽器法	管弦楽に用いられる西洋音楽について	2		塚本 一実	234	月 4	緑園					
	▲	6A430	諸民族の音楽A	諸民族の音楽構造	2		千葉 優子	34	木 1	山手	①				
	▲	6A440	諸民族の音楽B	諸民族の楽器と音楽様式	2		千葉 優子	34	木 1	山手	①				
■	6A450	対位法の魅力	二声の対位法	2		塚本 一実	234	月 4	緑園						
5群 社会実践ゲーム	▲	6A460	音楽情報論		2		(休講)	234		緑園	◆20 ⑤				
	▲	6A470	音楽ジャーナリズム		2		谷口 昭弘	1234	月 4	緑園					
	▲	6A480	マルチメディア著作権ビジネス	エンターテインメント・ビジネスと著作権法の関係	2		安藤 和宏	234	月 3	緑園	⑥ ⑦				
	▲	6A490	訳詞の世界		2		(休講)	1234							
		6A500	作曲を楽しもうA	得意な楽器で作る	2		岡島 雅興	2	金 4	緑園					
		6A510	作曲を楽しもうB		2		(休講)	2							
	6B080	ポップスを楽しもう	おしゃれなアレンジに挑戦	2		西上 和子	234	水 2	緑園						
	▲	6B090	バンドを楽しもう	バンドを楽しもう	2		川本 聡胤	234	火 2	山手					
		6A520	作・編曲法A		2		塚本 一実	34	月 5	緑園	①				
		6A530	作・編曲法B		2		塚本 一実	34	月 5	緑園	①				
	▲	6A540	メディア・アート		2		瀬藤 康嗣	234	月 5	山手	初20				
	▲	6B110	コンピュータ音楽制作		2		瀬藤 康嗣	234	木 3	山手					
	▲	6B111	コンピュータ音楽制作		2		瀬藤 康嗣	234	木 4	山手	初20				
	▲	6B120	コンピュータ音楽制作(2)		2		瀬藤 康嗣	234	木 3	山手					
	▲	6A560	アニメ・ゲーム音楽制作		2		瀬藤 康嗣	234	木 4	山手					
	▲	6A570	アート・マネージメント		2		(休講)	234			⑥ ⑧				
	■	6B010	環境音楽デザイン		2		船場 ひさお	234	月 4	山手	初20				
	▲	6A580	舞台制作ワークショップ		2		星野 聡	234	木 2	緑園	◆15				
	6B020	身体表現ワークショップ1		2		笠井 博美	234	木 2	緑園						
	6B030	身体表現ワークショップ2		2		田村 真樹子	234	集中	緑園						
	6B040	映像音楽制作ワークショップ	映像音楽制作ワークショップ	2		鈴木 誠一郎	234	金 5	山手						
	6B050	番組制作ワークショップ	番組制作ワークショップ	2		鈴木 誠一郎	234	金 4	山手						
	■	6B060	音響機器ワークショップ		2		船場 ひさお	234	火 5	緑園					
	6B070	録音実技ワークショップ		2		船場 ひさお	234	火 5	緑園	初15					
	▲	6A590	アナウンス・朗読	表現・会話の仕方	2		出川 有	234	集中	山手	◆25				
	6A600	ミュージカル・ナンバーを歌う		1		星野 聡	234	木 3	緑園						
	6A610	日本歌曲・童謡を歌う	日本語を美しく歌う	1		星野 聡	234	木 3	緑園						
		6A620	コーラス・リーダー・ワークショップA	合唱指導法の研究と実践	2		松村 努	34	火 2	山手					
		6A630	コーラス・リーダー・ワークショップB	合唱指導法の研究と実践	2		松村 努	34	火 2	山手					
		6A640	指揮法A		2		上野 正博	34	木 2	山手	①				
	▲	6A960	医療と音楽1	「生きる」を支えることとは？	2		儀賀 理暁	1234	木 1	緑園	◆60 ⑨				
	▲	6A950	心と音楽1		2		(休講)	1234			⑩				
	▲	6A970	医療と音楽2	音楽療法の役割と可能性	2		堀川 千絵	1234	火 2	山手					
	▲	6A980	心と音楽2	医療現場における音楽療法	2		堀川 千絵	1234	火 2	山手					

⑦＝6A460「音楽情報論」と隔年開講

⑧＝6A400「映画・舞台音楽論」と隔年開講

⑨＝「心と音楽1」と隔年開講

⑩＝「医療と音楽1」と隔年開講

【開放欄】 ▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

●音楽芸術学科専門科目（2010年度以前入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
6群 (専門を深める)		6A690	専門ゼミⅠ	音楽の諸相を探る1「聴く・知る・創る」	1		岡島 雅興	3	火 2	山手	4単位以上を 修得(1~6群 から合計34単 位修得)	
		6A691		ポピュラー音楽ゼミ	1		川本 聡胤	3	金 2	山手		
		6A692		ヴォーカルコミュニケーションⅠ	1		星野 聡	3	火 4	山手		
		6A693		共演コミュニケーションⅠ	1		立神 粧子	3	木 2	山手		
		6A694		音環境デザイン・音のユニバーサルデザインⅠ	1		船場 ひさお	3	金 2	山手		
		6A695		音とメディアテクノロジーⅠ	1		瀬藤 康嗣	3	火 3	山手		
		6A700	専門ゼミⅡ	音楽の諸相を探る2「聴く・知る・創る」	1	1	岡島 雅興	3	火 2	山手		
		6A701		ポピュラー音楽ゼミ	1		川本 聡胤	3	金 2	山手		
		6A702		ヴォーカルコミュニケーションⅡ	1		星野 聡	3	火 4	山手		
		6A703		共演コミュニケーションⅡ	1		立神 粧子	3	木 2	山手		
		6A704		音環境デザイン・音のユニバーサルデザインⅡ	1		船場 ひさお	3	金 2	山手		
		6A705		音とメディアテクノロジーⅡ	1		瀬藤 康嗣	3	火 3	山手		
		6A710	専門ゼミⅢ	音楽の諸相を探る3「聴く・知る・創る」	1		岡島 雅興	4	火 3	山手		
		6A711		ポピュラー音楽ゼミ	1		川本 聡胤	4	金 3	山手		
		6A712		ヴォーカルコミュニケーションⅢ	1		星野 聡	4	火 5	山手		
		6A713		共演コミュニケーションⅢ	1		立神 粧子	4	木 3	山手		
		6A714		音環境デザイン・音のユニバーサルデザインⅢ	1		船場 ひさお	4	金 3	山手		
		6A715		音とメディアテクノロジーⅢ	1		瀬藤 康嗣	4	火 4	山手		
		6A720	専門ゼミⅣ	音楽の諸相を探る4「聴く・知る・創る」	1	1	岡島 雅興	4	火 3	山手		
		6A721		ポピュラー音楽ゼミ	1		川本 聡胤	4	金 3	山手		
		6A722		ヴォーカルコミュニケーションⅣ	1		星野 聡	4	火 5	山手		
		6A723		共演コミュニケーションⅣ	1		立神 粧子	4	木 3	山手		
		6A724		音環境デザイン・音のユニバーサルデザインⅣ	1		船場 ひさお	4	金 3	山手		
		6A725		音とメディアテクノロジーⅣ	1		瀬藤 康嗣	4	火 4	山手		
	6A730	学外公开发表Ⅰ		1		学科教員	34	時外	学外			
	6A731			1		学科教員	34	時外	学外			
	6A740	学外公开发表Ⅱ		1		学科教員	34	時外	学外			
	6A741			1		学科教員	34	時外	学外			
	6A750	海外音楽研修		2		学科教員	234	時外	学外			
	6A751			2		学科教員	234	時外	学外			
7群 (専門を極める)		6A760	卒業プロジェクト		6		岡島 雅興	4	時外		6単位修得	
		6A761			6		川本 聡胤	4	時外			
		6A762			6		星野 聡	4	時外			
		6A763			6		立神 粧子	4	時外			
		6A764			6		船場 ひさお	4	時外			
		6A765			6		瀬藤 康嗣	4	時外			

【備考欄】 学=「学科選抜科目(定員__名)(p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員__名)(p.29)

- ①=音楽芸術学科・演奏学科複式開講科目
- ②=音芸・演奏合同クラス
- ③=「邦楽1」履修を前提とする
- ④=6A570「アート・マネジメント」と隔年開講
- ⑤=6A480「マルチメディア著作権ビジネス」と隔年開講
- ⑥=コーディネート授業
- ⑦=6A460「音楽情報論」と隔年開講
- ⑧=6A400「映画・舞台音楽論」と隔年開講
- ⑨=「心と音楽1」と隔年開講
- ⑩=「医療と音楽1」と隔年開講

【開放欄】 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

●音楽芸術学科専門科目（2011年度以降入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
1群 (音楽芸術学科)		6A000	音楽家の基礎知識		2		船場 ひさお	1	火 3	緑園	初	4単位以上を 修得(1~6群 から合計34単 位以上を修得)
		6A001			2		(休講)	1				
		6A780	音楽基礎理論	音楽基礎理論	2		川本 聡胤	1	火 3	緑園		
		6A781			2		川本 聡胤	1	火 3	緑園		
		▲6A010	合唱 I A			1	土屋 広次郎	1	月 3	緑園	①	
		▲6A020	合唱 I B			1	土屋 広次郎	1	月 3	緑園		
		6A030	基礎音楽A			1	星野 聡	12	木 4	緑園	学	
		6A031				1	山村 尚子	12	木 4	緑園		
		6A032				1	牧野 真由美	12	木 4	緑園	学	
		6A040	基礎音楽B			1	星野 聡	12	木 4	緑園		
		6A041				1	山村 尚子	12	木 4	緑園	学	
		6A042				1	牧野 真由美	12	木 4	緑園		
		6A050	基礎ピアノ			1	立神 粧子	12	火 4	緑園	学	
		6A052				1	北原 葉子	12	水 4	緑園		
		6A053				1	末松 茂敏	12	水 3	緑園	学	
		6A054	基礎ピアノA			1	清水 将仁	12	金 3	緑園		
		6A055				1	清水 将仁	12	金 4	緑園	学	
		6A056				1	新井 啓泰	12	月 3	緑園		
		6A057				1	新井 啓泰	12	月 4	緑園	学	
		6B160	基礎ピアノ(2)			1	北原 葉子	34	火 1	山手		
		6A060	基礎ピアノB			1	立神 粧子	12	火 4	緑園	学	
		6A062				1	北原 葉子	12	水 4	緑園		
		6A063				1	末松 茂敏	12	水 3	緑園	学	
		6A064				1	清水 将仁	12	金 3	緑園		
		6A065				1	清水 将仁	12	金 4	緑園	学	
		6A066				1	新井 啓泰	12	月 3	緑園		
		6A067				1	新井 啓泰	12	月 4	緑園	学	
		6B170	基礎ピアノB(2)			1	北原 葉子	34	火 1	山手		
		6A070	和声 I A	和声の基礎1		2	岡島 雅興	12	月 4	緑園	① 演奏クラス	
		6A071				2	岡島 雅興	12	月 3	緑園		
		6A080	和声 I B	和声の基礎2		2	岡島 雅興	12	月 4	緑園	① 演奏クラス	
		6A081				2	岡島 雅興	12	月 3	緑園		
		6A090	ソルフェージュ1	音楽の基礎知識を身につけるパート1		1	末松 茂敏	12	水 4	緑園	初	
		6A100	ソルフェージュ2	音楽の基礎知識を身につけるパート2		1	末松 茂敏	12	水 4	緑園		
	6A110	ソルフェージュ3	移調ができるようになろう		1	末松 茂敏	12	水 5	緑園	初		
	6A120	ソルフェージュ4	スコアに親しもう		1	末松 茂敏	12	水 5	緑園			
音楽学科 専攻 音楽学	▲	6A130	賛美歌学		2	谷口 昭弘	12	木 4	緑園	①	2単位以上を 修得(1~6群 から合計34単 位以上を修得)	
	▲	6A320	キリスト教音楽概論1		2	谷口 昭弘	234	火 2	山手			
音楽学科 専攻 音楽学	▲	6A330	キリスト教音楽概論2		2	谷口 昭弘	234	火 2	山手	①	2単位以上を 修得(1~6群 から合計34単 位以上を修得)	
	▲	6A930	キリスト教音楽基礎	賛美歌を創ろう	2	岡島 雅興	12	金 5	緑園	初25		
		6B150	キリスト教音楽実践			2	(休講)	34				
		6A180	和声 II A	和声の展開1		2	岡島 雅興	12	月 5	緑園		① ②
		6A190	和声 II B	和声の展開2		2	岡島 雅興	12	月 5	緑園		
		6A260	伴奏法A			1	立神 粧子	12	火 3	緑園		初
		6A270	伴奏法B			1	立神 粧子	12	火 3	緑園		初
		6A800	ジャズ・ポップス入門	ポピュラー音楽の基礎		2	川本 聡胤	12	火 5	緑園		①
		6A450	対位法A	二声の対位法		2	塚本 一実	34	月 4	緑園		
		6H080	対位法B			2	(休講)	34				①
		6D520	共演芸術A			2	立神 粧子	34	金 2	山手		初 ①
		6D530	共演芸術B			2	立神 粧子	34	金 2	山手		初 ①

【備考欄】 学=「学科選抜科目(定員__名) (p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)

要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29)

①=音楽芸術学科・演奏学科複次開講科目

③=「邦楽1」履修を前提とする

⑤=6A480「マルチメディア著作権ビジネス」と隔年開講

⑦=6A460「音楽情報論」と隔年開講

⑨=6A670「心と音楽」と隔年開講

【開放欄】 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27) ■=「他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛けは重複履修可能(p.26)

②=音楽・演奏合同クラス

④=6A570「アート・マネジメント」と隔年開講

⑥=コーディネート授業

⑧=6A400「映画・舞台音楽論」と隔年開講

⑩=6A650「医療と音楽」と隔年開講

●音楽芸術学科専門科目（2011年度以降入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
3群(ミュージシャンを高めるための)	■	6A220	即興演奏ワークショップ			2	落合 敦	34	木 2	山手		
	■	6A230	ジャズ・ヴォーカル・ワークショップ	楽譜にあるメロディを自分の歌にしましょう		2	富田 久美	34	水 3	山手		
	▲	6A300	合唱 II A	他声部の響きをききながらハーモニーをつくる		1	蔵田 雅之	2	金 4	緑園	①	
	▲	6A310	合唱 II B	ヘンデルメサイアの舞台を目指そう		1	蔵田 雅之	2	金 4	緑園		
	■	6A200	作品分析	音楽のなりたちを暴く!		2	川本 聡胤	234	火 4	緑園		
	■	6A210	ポピュラー音楽理論	コード、メロディ、形式、リズム、テクスチャー		2	川本 聡胤	234	金 5	山手		
		6A280	邦楽1	三味線入門・基礎実技		1	東音河野 文	234	月 3	緑園	◆29 ①	
		6A281				1	東音河野 文	234	月 4	緑園		
		6A290	邦楽2	三味線 歌舞伎音楽を弾く。「勸進帳」に挑戦。		1	東音河野 文	234	月 3	緑園	◆29 ①	
		6A291				1	東音河野 文	234	月 4	緑園	③	
	6A530	編曲のテクニック			2	塚本 一実	234	月 5	緑園	①		
4群(音楽の背景を探る)	▲	6A340	西洋音楽通史			4	谷口 昭弘	12	月 5/木 5	緑園	(週2)	
	▲	6A350	日本音楽通史			4	谷口 昭弘	12	月 5/木 5	緑園	◆76 ①	
	▲	6A410	音楽社会学			2	谷口 昭弘	1234	木 4	緑園		
	▲	6A430	諸民族の音楽A	諸民族の音楽構造		2	千葉 優子	234	木 1	山手	①	
	▲	6A440	諸民族の音楽B	諸民族の楽器と音楽様式		2	千葉 優子	234	木 1	山手	①	
	▲	6A360	西洋音楽史特殊講義1	バロック		2	益山 典子	234	金 3	緑園		
	▲	6A370	西洋音楽史特殊講義2	古典派		2	益山 典子	234	金 3	緑園		
	▲	6A380	日本音楽史特殊講義	日本音楽の近代化		2	千葉 優子	234	木 2	山手		
	▲	6A390	ポピュラー音楽史	ポピュラー音楽史		2	川本 聡胤	234	金 5	山手		
	▲	6A400	映画・舞台音楽論	映画音楽の歴史と制作理論		2	瀬藤 康嗣	234	月 3	緑園	④	
5群(社会実践プロジェクト)	▲	6D710	現代音楽レパートリー	楽譜から録音へ：複製技術と20世紀の音楽		2	瀬藤 康嗣	234	月 3	緑園	◆80 ①	
	■	6A420	楽器法	管弦楽に用いられる西洋音楽について		2	塚本 一実	234	月 4	緑園		
	▲	6A460	音楽情報論			2	(休講)	234			◆20 ⑤	
	▲	6A480	マルチメディア著作権ビジネス	エンターテインメント・ビジネスと著作権法の関係		2	安藤 和宏	234	月 3	緑園	⑥ ⑦	
	▲	6A540	メディア・アート			2	瀬藤 康嗣	234	月 5	山手	初20	
	▲	6B110	コンピュータ音楽制作1			2	瀬藤 康嗣	234	木 3	山手	初20	
	▲	6B111	コンピュータ音楽制作2			2	瀬藤 康嗣	234	木 4	山手	初20	
	▲	6B120	コンピュータ音楽制作3			2	瀬藤 康嗣	234	木 3	山手	初20	
	▲	6A560	アニメ・ゲーム音楽制作			2	瀬藤 康嗣	234	木 4	山手	初20	
	▲	6A570	アート・マネージメント			2	(休講)	234			⑧	
5群(社会実践プロジェクト)	■	6B010	環境音楽デザイン			2	船場 ひさお	234	月 4	山手	初20	
	▲	6A580	舞台制作ワークショップ			2	星野 聡	234	木 2	緑園	◆15	
	6B020	身体表現ワークショップ1			2	笠井 博美	234	木 2	緑園			
	6B030	身体表現ワークショップ2			2	田村 真樹子	234	集中	緑園			
	6B040	映像音楽制作ワークショップ	映像音楽制作ワークショップ		2	鈴木 誠一郎	234	金 5	山手	◆20		
	6B050	番組制作ワークショップ	番組制作ワークショップ		2	鈴木 誠一郎	234	金 4	山手			
	■	6B060	音響機器ワークショップ			2	船場 ひさお	234	火 5	緑園	初15	
	6B070	録音実技ワークショップ			2	船場 ひさお	234	火 5	緑園			
	▲	6A590	アナウンス・朗読	表現・会話の仕方		2	出川 有	234	集中	山手	◆25	
	6A600	ミュージカル・ナンバーを歌う			2	星野 聡	234	木 3	緑園			
	6A610	日本歌曲・童謡を歌う	日本語を美しく歌う		1	星野 聡	234	木 3	緑園			
	6A500	作曲を楽しもうA	得意な楽器で作る。		2	岡島 雅興	234	金 4	緑園			
	6A510	作曲を楽しもうB			2	(休講)	234					
	6B080	ポップスを楽しもう	おしゃれなアレンジに挑戦		2	西上 和子	234	水 2	緑園			
	▲	6B090	バンドを楽しもう	バンドを楽しもう		2	川本 聡胤	234	火 2	山手		
	6B130	アンサンブルを楽しもう	リコーダーや好きな楽器を使ってアンサンブルを楽しむ		2	船場 ひさお	234	月 3	山手			
	6A520	作・編曲法			2	塚本 一実	34	月 5	緑園	①		
	6A620	コーラス・リーダー・ワークショップA	合唱指導法の研究と実践		2	松村 努	34	火 2	山手			
	6A630	コーラス・リーダー・ワークショップB	合唱指導法の研究と実践		2	松村 努	34	火 2	山手			
	6A240	合奏	いつでもどこでも誰とでも ～合奏の可能性を拡げよう～		1	船場 ひさお	34	月 3	山手			
6A640	指揮法A			2	上野 正博	34	木 2	山手	①			
6D810	指揮法B			2	上野 正博	34	木 2	山手				
▲	6A470	音楽ジャーナリズム			2	谷口 昭弘	1234	月 4	緑園			
▲	6A490	訳詞の世界			2	(休講)	1234					
▲	6A960	医療と音楽	「生きる」を支えることは?		2	儀賀 理暁	1234	木 1	緑園	◆60 ⑨		
▲	6A950	心と音楽			2	(休講)	1234			⑩		
▲	6A970	音楽療法1	音楽療法の役割と可能性		2	堀川 千絵	1234	火 2	山手			
▲	6A980	音楽療法2	医療現場における音楽療法		2	堀川 千絵	1234	火 2	山手			

2単位以上を
修得(1~6群
から合計34単
位以上を修得)

2単位以上を
修得(1~6群
から合計34単
位以上を修得)

【備考欄】 学=「学科選抜科目(定員__名) (p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員__名)」 (p.29)

要手続=「説明会出席など別途手続が必要(揭示等を確認)」 (p.29)

①=音楽芸術学科・演奏学科複式開講科目

③=「邦楽1」履修を前提とする

⑤=6A480「マルチメディア著作権ビジネス」と隔年開講

②=音楽・演奏合同クラス

④=6A570「アート・マネージメント」と隔年開講

⑥=コーディネーター授業

●音楽芸術学科専門科目（2011年度以降入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
6群 (専門を深める)		6H320	基礎演習	大学での学び、レポートの書き方、プレゼンの仕方	1		福田 貴成	1	火 5	緑園	学	4単位以上を修得(1~6群から合計34単位以上を修得)	
		6H321				1		福田 貴成	1	火 5			緑園
		6H330	応用演習	音楽の文章術	1		福田 貴成	2	火 4	緑園	学		
		6H331				1		福田 貴成	2	火 4			緑園
		6A690	専門ゼミ I	音楽の諸相を探る1「聴く・知る・創る」	1		岡島 雅興	3	火 2	山手	学		
		6A691				1		川本 聡胤	3	金 2			山手
		6A692				1		星野 聡	3	火 4			山手
		6A693				1		立神 粧子	3	木 2			山手
		6A694	専門ゼミ I	音環境デザイン・音のユニバーサルデザイン I	1		船場 ひさお	3	金 2	山手	学		
		6A695				1		瀬藤 康嗣	3	火 3			山手
		6A696				1		谷口 昭弘	3	火 4			山手
		6A700	専門ゼミ II	音楽の諸相を探る2「聴く・知る・創る」	1		岡島 雅興	3	火 2	山手	学		
		6A701				1		川本 聡胤	3	金 2			山手
		6A702				1		星野 聡	3	火 4			山手
		6A703				1		立神 粧子	3	木 2			山手
		6A704	専門ゼミ II	音環境デザイン・音のユニバーサルデザイン II	1		船場 ひさお	3	金 2	山手	学		
		6A705				1		瀬藤 康嗣	3	火 3			山手
		6A706				1		谷口 昭弘	3	火 4			山手
		6A710	専門ゼミ III		1		2014年度開講予定	4			学		
		6A711				1			4				
		6A712				1			4				
		6A713				1			4				
		6A714				1			4				
		6A715		1		4							
	6A720	専門ゼミ IV		1		2014年度開講予定	4			学			
	6A721				1			4					
	6A722				1			4					
	6A723				1			4					
	6A724				1			4					
	6A725		1		4								
	6A730	学外公开发表 I		1		学科教員	34	時外	学外				
	6A731				1		学科教員	34	時外		学外		
	6A740	学外公开发表 II		1		学科教員	34	時外	学外				
	6A741				1		学科教員	34	時外		学外		
	6A750	海外音楽研修		2		学科教員	234	時外	学外				
	6A751				2		学科教員	234	時外		学外		
7群 (専門を極める)			卒業プロジェクト			2014年度開講予定	4	時外		学	6単位修得		

⑦=6A460「音楽情報論」と隔年開講

⑨=6A670「心と音楽」と隔年開講

⑧=6A400「映画・舞台音楽論」と隔年開講

⑩=6A650「医療と音楽」と隔年開講

【開放欄】 ▲ = 「他学部・他学科への開放科目」(p.27) ■ = 「他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

●演奏学科専門科目（2010年度以前入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前後							
1群 ① （①～⑩）		6A000	音楽家の基礎知識		2	船場 ひさお	1	火 3	緑園	初 ①	1群から4単位以上を修得	
		6A001			2	(休講)	1					
		6A780	音楽基礎理論	音楽基礎理論		2	川本 聡胤	1	火 3	緑園		
		6A781				2	川本 聡胤	1	火 3	緑園		
	▲	6A010	合唱 I A			1	土屋 広次郎	1	月 3	緑園		①
	▲	6A020	合唱 I B			1	土屋 広次郎	1	月 3	緑園		①
		6A070	和声 I A	和声の基礎1		2	岡島 雅興	12	月 4	緑園		① 演奏クラス
		6A071				2	岡島 雅興	12	月 3	緑園		① 音芸クラス
		6A080	和声 I B	和声の基礎2		2	岡島 雅興	12	月 4	緑園		① 演奏クラス
		6A081				2	岡島 雅興	12	月 3	緑園		① 音芸クラス
		6A090	ソルフェージュ1	音楽の基礎知識を身につけるパート1		1	末松 茂敏	12	水 4	緑園		初 ①
		6A100	ソルフェージュ2	音楽の基礎知識を身につけるパート2		1	末松 茂敏	12	水 4	緑園		
		6A110	ソルフェージュ3	移調ができるようになろう		1	末松 茂敏	12	水 5	緑園		
		6A120	ソルフェージュ4	スコアに親しもう		1	末松 茂敏	12	水 5	緑園		
		6F530	ソルフェージュ I A			1	坂本 貴輝	12	木 3	緑園		学 ②
		6F540	ソルフェージュ I B			1	坂本 貴輝	12	木 3	緑園		
		6F550	ソルフェージュ II A			1	西 由起子	12	金 5	緑園		
		6F560	ソルフェージュ II B			1	西 由起子	12	金 5	緑園		
		6F570	ソルフェージュ III A			1	宮本 とも子	12	火 3	緑園		
		6F580	ソルフェージュ III B			1	宮本 とも子	12	火 3	緑園		
		6F590	ソルフェージュ IV A			1	江端 伸昭	12	木 4	緑園		
		6F600	ソルフェージュ IV B			1	江端 伸昭	12	木 4	緑園		
		6G040	ソルフェージュ V A			1	江端 伸昭	12	木 5	緑園		
		6G050	ソルフェージュ V B			1	江端 伸昭	12	木 5	緑園		
		6G060	ソルフェージュ VI A			1	久木山 直	12	月 4	緑園		
		6G070	ソルフェージュ VI B			1	久木山 直	12	月 4	緑園		
	6G080	ソルフェージュ VII A			1	久木山 直	123	月 3	緑園			
	6G090	ソルフェージュ VII B			1	久木山 直	123	月 3	緑園			
	6G100	ソルフェージュ VIII A			1	(休講)	123					
	6G110	ソルフェージュ VIII B			1	(休講)	123					
2群 ② （①～⑩）		6D130		オルガンと讃美歌に出会う	1	宮本 とも子	34	火 4	緑園	初	2群から2単位以上を修得	
		6D131	キリスト教オルガン実践基礎		1	飯沼 彩	34	木 2	山手			
		6D132				1	三浦 はつみ	34	月 3	山手		
		6D140				1	宮本 とも子	34	火 4	緑園		
		6D141	キリスト教オルガン実践応用	オルガンで讃美歌や聖歌に基づく曲を学ぶ		1	飯沼 彩	34	木 2	山手		
		6D142				1	三浦 はつみ	34	月 3	山手		
		6D150	キリスト教オルガン研究基礎	プロテスタントの礼拝音楽の基礎を学ぶA		2	宇内 千晴	34	木 3	山手		①
	6D160	キリスト教オルガン研究応用	プロテスタントの礼拝音楽の基礎を学ぶB		2	宇内 千晴	34	木 3	山手			
3群 ③ （①～⑩）		6A180	和声 II A	和声の展開1	2	岡島 雅興	12	月 5	緑園	① ③	3群から2単位以上を修得	
		6A190	和声 II B	和声の展開2	2	岡島 雅興	12	月 5	緑園	① ③		
	■	6D190	音楽様式研究	JSバッハのコーラル作品様式に迫る！	2	宮本 とも子	34	木 4	山手			
		6H090	通奏低音	基礎からアンサンブル応用まで	2	宮本 とも子	34	木 3	山手			
		6H300	キーボードハーモニーA		2	(休講)	34					
		6H100	キーボードハーモニーB		2	久木山 直	34	月 5	緑園	初		
		6H110	楽曲分析A		2	江端 伸昭	34	木 2	山手			
		6H120	楽曲分析B		2	江端 伸昭	34	木 2	山手			
		6F400	副科実技(声楽)A	声楽	1		1			要手続		
		6F410	副科実技(声楽)B	声楽	1		1					
		6F420	副科実技(器楽)A(ピアノ)	ピアノ	1		1					
		6F430		オルガン	1	(休講)	1					
		6F435		チェンバロ	1		1					
		6F436		クラヴィコード	1		1					
	6F437		ヴァイオリン	1		1						
	6F440	副科実技(器楽)A	ヴァイオリン	1		1						
	6F441		チェロ	1		1						
	6F445		コントラバス	1		1						
	6F448		オーボエ	1		1						

【備考欄】 学＝「学科選抜科目(定員__名) (p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名) (p.29)

要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(揭示等を確認)」(p.29)

①＝音楽芸術学科・演奏学科複式開講科目

③＝音芸・演奏合同クラス

⑤＝30分個人レッスン

②＝(クラス指定)ブレイスメントテストによるクラス分け

④＝「ピアノ・デュオA,B」修得済を前提とする

⑥＝90分グループレッスン

●演奏学科専門科目（2010年度以前入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
3群 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟		6F449	副科実技(器楽)A	クラリネット	1		(休講)	1			要手続	3群から2単位以上を修得
		6F450		ファゴット	1			1				
		6F451		ホルン	1			1				
		6F452		トランペット	1			1				
		6F453		トロンボーン	1			1				
		6F460	副科実技(器楽)B(ピアノ)	ピアノ	1	1	(休講)	1			要手続	
		6F470		オルガン	1	1		1				
		6F475		チェンバロ	1	1		1				
		6F476		クラヴィコード	1	1		1				
		6F477		ヴァイオリン	1	1		1				
		6F480		ヴィオラ	1	1		1				
		6F481		チェロ	1	1		1				
		6F485		コントラバス	1	1		1				
		6F488		オーボエ	1	1		1				
		6F489		クラリネット	1	1		1				
		6F490		ファゴット	1	1		1				
		6F491		ホルン	1	1		1				
		6F492		トランペット	1	1		1				
		6F493		トロンボーン	1	1		1				
		▲ 6H0301		第2副科実技(声楽)A	声楽	2		2	学科教員	234		
		▲ 6H0401	第2副科実技(声楽)B	声楽	2	2	学科教員	1234				
		▲ 6H0501	第2副科実技(器楽)A(ピアノ)	ピアノ	2	2	学科教員	234				
		▲ 6H0522		オルガン	2	2	学科教員	234				
		▲ 6H0528		チェンバロ	2	2	早島 万紀子	234				
		▲ 6H0529		クラヴィコード	2	2	宮本 とも子	234				
		▲ 6H0530		邦楽(三味線)	2	2	東音河野 文	234				
		▲ 6H0531		ヴァイオリン	2	2	学科教員	234				
		▲ 6H0536		ヴィオラ	2	2	鈴木 康浩	234				
		▲ 6H0537		チェロ	2	2	学科教員	234				
		▲ 6H0541		コントラバス	2	2	学科教員	234				
		▲ 6H0544		ヴィオラ・ダ・ガンバ	2	2	神戸 愉樹美	234				
		▲ 6H0545		ハーブ	2	2	宮原 真弓	234				
		▲ 6H0546		フルート	2	2	学科教員	234				
	▲ 6H0550	オーボエ		2	2	学科教員	234					
	▲ 6H0553	クラリネット		2	2	学科教員	234					
	▲ 6H0556	サクソフォーン		2	2	小森 慶子	234					
	▲ 6H0557	ファゴット		2	2	学科教員	234					
	▲ 6H0560	ホルン		2	2	学科教員	234					
	▲ 6H0561	トランペット		2	2	阿部 ちさと	234					
	▲ 6H0562	トロンボーン	2	2	宮下 宣子	234						
	▲ 6H0570	ポピュラー系キーボード	2	2	落合 敦	234						
	▲ 6H0563	第2副科実技(器楽)A(ピアノデュオ)	ピアノデュオ	2	2	久保 浩	234	レッスン		学④⑤ 実技料別納		
	▲ 6H0564	第2副科実技(器楽)A(鍵盤楽器伴奏法)	鍵盤楽器伴奏法(ピアノ)	2	2	学科教員	234					
	▲ 6H0569	第2副科実技(器楽)A(鍵盤楽器伴奏法)	鍵盤楽器伴奏法(オルガン・チェンバロ)	2	2	桐山 建志	234					
	▲ 6H0601	第2副科実技(器楽)B(ピアノ)	ピアノ	2	2	学科教員	1234			学⑤ 実技料別納		
	▲ 6H0622		オルガン	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0628		チェンバロ	2	2	早島 万紀子	1234					
	▲ 6H0629		クラヴィコード	2	2	宮本 とも子	1234					
	▲ 6H0630		邦楽(三味線)	2	2	東音河野 文	1234					
	▲ 6H0631		ヴァイオリン	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0636		ヴィオラ	2	2	鈴木 康浩	1234					
	▲ 6H0637		チェロ	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0641		コントラバス	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0644		ヴィオラ・ダ・ガンバ	2	2	神戸 愉樹美	1234					
	▲ 6H0645		ハーブ	2	2	宮原 真弓	1234					
	▲ 6H0646		フルート	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0650		オーボエ	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0653		クラリネット	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0656		サクソフォーン	2	2	小森 慶子	1234					
	▲ 6H0657		ファゴット	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0660		ホルン	2	2	学科教員	1234					
	▲ 6H0661		トランペット	2	2	阿部 ちさと	1234					
	▲ 6H0662	トロンボーン	2	2	宮下 宣子	1234						
	■ 6H0670	ポピュラー系キーボード	2	2	落合 敦	1234						

⑦=他学部の履修希望者にはオーディションを行う

⑧=評価を受ける学期に履修登録すること

⑨=コミュニケーション学科、演奏学科模試開講科目

▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27) ■=「他学科への開放科目」(p.27)

【開放欄】

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

⑩=他学部・他学科及び声楽・鍵盤楽器専攻の学生にはオーディションを行う

⑪=(「邦楽1」履修を前提とする)

⑫=45分個人レッスン

●演奏学科専門科目（2010年度以前入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修 年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法		
					前 後								
3群 （総合芸術学）	▲	6H0663	第2副科実技(器楽)B(ピアノデュオ)	ピアノデュオ	2	久保 浩	1234	レッスン	緑園	学④⑤ 実技料別納	3群から2単位以上を修得		
	▲	6H0664	第2副科実技(器楽)B(鍵盤楽器伴奏法)	鍵盤楽器伴奏法(ピアノ)	2	学科教員	1234						
	▲	6H0669	第2副科実技(器楽)B(鍵盤楽器伴奏法)	鍵盤楽器伴奏法(オルガン・チェンバロ)	2	桐山 建志	1234						
	▲	6H0571	第2副科実技(作曲)A		2	岡島 雅興	234						学⑤ 実技料別納
	▲	6H0572			2	塚本 一実	234						
	▲	6H0573	第2副科実技(作曲)B		2	瀬藤 康嗣	234						
	▲	6H0671			2	岡島 雅興	1234						
	▲	6H0672		2	塚本 一実	1234							
	▲	6H0673		2	瀬藤 康嗣	1234							
	▲	6H010	第2副科実技(バレエ)A		1	乃羽 ひとみ	1234			緑園		学⑥	
	▲	6H020	第2副科実技(バレエ)B		1	乃羽 ひとみ	1234			緑園		実技料別納	
	■	6D280	イタリア語歌唱法A		1	土屋 広次郎	1234		月2	山手			
	■	6D310	イタリア語歌唱法B		1	(休講)	1234						
	■	6D320	ドイツ語歌唱法A		1	(休講)	34						
	■	6D330	ドイツ語歌唱法B		1	西 由起子	34	金4	緑園				
		6D340	フランス語歌唱法		1	太田 朋子	34	火2	山手				
		6D350	英語歌唱法		1	辻 裕久	34	月3	山手				
		6D360	日本語歌唱法A		1	小栗 純一	34	月2	山手				
		6D370	日本語歌唱法B		1	小栗 純一	34	月2	山手				
	4群 アンサンブルを極める	■	6G900	室内楽ⅠA		1	前田 美由紀	234	火3	山手	学	4群から2単位以上を修得	
		■	6G910	室内楽ⅠB		1	前田 美由紀	234	火3	山手	学		
			6G920	室内楽ⅡA		1	名倉 淑子/ 井上 雅代	234	火3	山手	学		
			6G940			1	久保 浩	234	木2	緑園			
			6G960		1	細川 順三	234	火4	山手				
			6G930	室内楽ⅡB		1	名倉 淑子/ 井上 雅代	234	火3	山手	学		
			6G950			1	久保 浩	234	木2	緑園			
			6G970			1	細川 順三	234	火4	山手			
		▲	6D420	管弦アンサンブルA		2	学科教員	1234	金3/金4	山手	(2連)⑧		
		▲	6D430	管弦アンサンブルB		2	学科教員	1234	金3/金4	山手			
		▲	6G120	ブラスアンサンブルA		1	飯吉 高	1234	金5	山手	⑦		
		▲	6G130	ブラスアンサンブルB		1	飯吉 高	1234	金5	山手			
			6D440	ピアノ・デュオA		1	久保 浩	34	木3	緑園	初		
			6D450	ピアノ・デュオB		1	久保 浩	34	木3	緑園	初		
		6D460	オペラ・アンサンブルA		1	土屋 広次郎	34	木3	山手				
		6D470	オペラ・アンサンブルB		1	土屋 広次郎	34	木3	山手				
■		6D480	声楽アンサンブルA	ハーモニーを楽しもう1	1	西 由起子	34	月4	山手				
■		6D490	声楽アンサンブルB	ハーモニーを楽しもう2	1	西 由起子	34	月4	山手				
		6D500	オラトリオ研究A		1	田中 奈美子	34	火4	山手				
		6D510	オラトリオ研究B		1	田中 奈美子	34	火4	山手				
		6D520	共演芸術A		2	立神 粧子	34	金2	山手	初①			
		6D530	共演芸術B		2	立神 粧子	34	金2	山手	初①			
▲		6A300	合唱ⅡA	他声部の響きをききながらハーモニーをつくる	1	蔵田 雅之	2	金4	緑園	①			
▲		6A310	合唱ⅡB	ヘンデルメサイアの舞台を目指そう	1	蔵田 雅之	2	金4	緑園	①			
▲		6D560	合唱ⅢA	合唱の実践	1	松村 努	34	火3	山手				
▲		6D570	合唱ⅢB	合唱の実践	1	松村 努	34	火3	山手				
		6D580	伴奏実習		1		234				⑨		
		6D581			1	学科教員	234		時外				
		6A280	邦楽1	三味線入門・基礎実技	1	東音河野 文	234	月3	緑園	◆29①			
		6A281			1	東音河野 文	234	月4	緑園				
		6A290	邦楽2	三味線 歌舞伎音楽を弾く。「勅進帳」に挑戦。	1	東音河野 文	234	月3	緑園	◆29①⑩			
		6A291			1	東音河野 文	234	月4	緑園				
		6D610	伴奏法A		1	落合 敦	12	火2	緑園				
	6D620	伴奏法B		1	落合 敦	12	火2	緑園					

【備考欄】 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)

要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(揭示等を確認)」(p.29)

①＝音楽芸術学科・演奏学科複式開講科目

③＝音楽・演奏合同クラス

⑤＝30分個人レッスン

②＝(クラス指定)ブレイスメントテストによるクラス分け

④＝「ピアノ・デュオA,B」修得済を前提とする

⑥＝90分グループレッスン

●演奏学科専門科目（2010年度以前入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
5群（音楽の背景を知る）	▲	6A320	キリスト教音楽概論1		2		谷口 昭弘	34	火 2	山手	①	5群から2単位以上を修得
	▲	6A330	キリスト教音楽概論2		2		谷口 昭弘	34	火 2	山手	①	
	▲	6A340	西洋音楽通史		4		谷口 昭弘	12	月 5/木 5	緑園	(週2) ◆76 ①	
	▲	6A350	日本音楽通史		4		谷口 昭弘	12	月 5/木 5	緑園	(週2) ◆76 ①	
		6A430	諸民族の音楽A	諸民族の音楽構造	2		千葉 優子	34	木 1	山手	①	
		6A440	諸民族の音楽B	諸民族の楽器と音楽様式	2		千葉 優子	34	木 1	山手	①	
	▲	6D690	声楽スペシャル講義	声楽に必須な知識－オペラ・歌曲・オラトリオ	2		蔵田 雅之	1234	木 1	山手		
	▲	6D700	器楽スペシャル講義	目からうろこの理論と実践	2		宮本 とも子	1234	木 4	山手		
	▲	6D710	現代音楽レパートリー	楽譜から録音へ：複製技術と20世紀の音楽	2		瀬藤 康嗣	234	月 3	緑園	◆80 ①	
6群（音楽実践のコミュニケーション）		6A520	作・編曲法A		2		塚本 一実	34	月 5	緑園	①	6群から2単位以上を修得
		6A530	作・編曲法B		2		塚本 一実	34	月 5	緑園	①	
		6D740	声楽指導ワークショップA		2		(休 講)	234				
		6D750	声楽指導ワークショップB		2		(休 講)	234				
		6D760	オルガン指導ワークショップA		2		(休 講)	1234				
		6D770	オルガン指導ワークショップB		2		(休 講)	1234				
		6D780	ピアノ指導ワークショップA	ピアノ指導の体験1	2		林 今日子	34	火 5	山手		
		6D790	ピアノ指導ワークショップB	ピアノ指導の体験2	2		林 今日子	34	火 5	山手		
		6H160	幼児リトミック指導ワークショップA		2		(休 講)	34				
		6H170	幼児リトミック指導ワークショップB		2		(休 講)	34				
		6H180	チャペルクワイア指導ワークショップA		2		宇内 千晴	34	木 4	山手	初25	
		6H190	チャペルクワイア指導ワークショップB		2		三浦 はつみ	34	水 4	山手	初25	
		6H200	起業家育成ワークショップA	経済・資本・市場の基礎から起業へ	2		椿(野口) 紅子	34	木 3	山手		
		6H210	起業家育成ワークショップB	経済・資本・市場の基礎から起業へ	2		椿(野口) 紅子	34	木 3	山手		
		6A640	指揮法A		2		上野 正博	34	木 2	山手	①	
	■	6D810	指揮法B		2		上野 正博	34	木 2	山手		
		4A650	身体表現の技法		4		(休 講)	1234			初25 (週2) ①	
		6F610	アーティストのための身体表現A		2		三輪 えり花	1234	木 5	山手		
	6F620	アーティストのための身体表現B		2		三輪 えり花	1234	木 5	山手			
7群（専門を深める）		6D830	専攻実技(声楽)Ⅰ		3		(休 講)	1				各専攻の専攻実技を1から順に履修し、24単位を修得(24単位を超えて履修することはできない)
		6D850	専攻実技(声楽)Ⅱ		3		(休 講)	1				
		6G8101	専攻実技(声楽)Ⅲ		3		(休 講)	2				
		6G8201	専攻実技(声楽)Ⅳ		3		(休 講)	2				
		6D910	専攻実技(声楽)Ⅴ		3		学科教員	3				
		6D930	専攻実技(声楽)Ⅵ		3		学科教員	3		レッスン		
		6D950	専攻実技(声楽)Ⅶ		3		学科教員	4				
		6D970	専攻実技(声楽)Ⅷ		3		学科教員	4				
		6D990	専攻実技(鍵盤楽器)Ⅰ		3		(休 講)	1				
		6E020	専攻実技(鍵盤楽器)Ⅱ		3		(休 講)	1				
		6G8301	専攻実技(鍵盤楽器)Ⅲ		3		(休 講)	2				
		6G8401	専攻実技(鍵盤楽器)Ⅳ		3		(休 講)	2			レッスンを履修登録すること	
		6E110	専攻実技(鍵盤楽器)Ⅴ		3		学科教員	3				
		6E140	専攻実技(鍵盤楽器)Ⅵ		3		学科教員	3				
		6E170	専攻実技(鍵盤楽器)Ⅶ		3		学科教員	4		レッスン		
		6E200	専攻実技(鍵盤楽器)Ⅷ		3		学科教員	4				
		6E230	専攻実技(弦楽器)Ⅰ		3		(休 講)	1				
		6E240	専攻実技(弦楽器)Ⅱ		3		(休 講)	1				
		6G8501	専攻実技(弦楽器)Ⅲ		3		(休 講)	2				
		6G8601	専攻実技(弦楽器)Ⅳ		3		(休 講)	2				
		6E270	専攻実技(弦楽器)Ⅴ		3		学科教員	3				
	6E280	専攻実技(弦楽器)Ⅵ		3		学科教員	3		レッスン			
	6E290	専攻実技(弦楽器)Ⅶ		3		学科教員	4					
	6E300	専攻実技(弦楽器)Ⅷ		3		学科教員	4					

⑦＝他学部の履修希望者にはオーディションを行う

⑧＝評価を受ける学期に履修登録すること

⑨＝コミュニケーション学科、演奏学科模試開講科目

▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27) ■＝「他学科への開放科目」(p.27)

【開放欄】

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

⑩＝他学部・他学科及び声楽・鍵盤楽器専攻の学生にはオーディションを行う

⑪＝(「邦楽1」履修を前提とする)

⑫＝45分間個人レッスン

●演奏学科専門科目（2010年度以前入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
7群 (専門を深める)		6E310	専攻実技(管楽器)Ⅰ		3		(休講)	1			レッスン担当者の科目を履修登録すること	各専攻の専攻実技を1から順に履修し、24単位を修得(24単位を超えて履修することはできない)
		6E330	専攻実技(管楽器)Ⅱ		3		(休講)	1				
		6G8701	専攻実技(管楽器)Ⅲ		3		(休講)	2				
		6G8801	専攻実技(管楽器)Ⅳ		3		(休講)	2				
		6E390	専攻実技(管楽器)Ⅴ		3		学科教員	3				
		6E410	専攻実技(管楽器)Ⅵ		3		学科教員	3				
		6E430	専攻実技(管楽器)Ⅶ		3		学科教員	4				
		6E450	専攻実技(管楽器)Ⅷ		3		学科教員	4				
		6E470	専攻実技ソリスト育成特別レッスンⅠ		3		学科教員	23				
		6F036			3		学科教員	23				
		6E490	専攻実技ソリスト育成特別レッスンⅡ		3		学科教員	34				
		6F133			3		学科教員	34				
		6E510	専攻実技特別レッスン		3		(休講)	1234				
		6F340	学外公開演奏		1		学科教員	34	時外	学外		
		6F341			1		学科教員	34	時外	学外		
		6E540	学内演奏		4		学科教員	34	時外	山手		
		6E550	学内ソロ・コンサート		4		学科教員	34	時外	山手		
		6F350	国内音楽研修		1		学科教員	1234				
		6F351			1		学科教員	1234				
		6E560	海外音楽研修		2		学科教員	1234				
		6E561			2		学科教員	1234				
		6E570	第2専攻実技(声楽)Ⅴ		3		学科教員	3				
		6E590	第2専攻実技(声楽)Ⅵ		3		学科教員	3				
		6E610	第2専攻実技(声楽)Ⅶ		3		学科教員	4				
		6E630	第2専攻実技(声楽)Ⅷ		3		学科教員	4				
		6E650	第2専攻実技(鍵盤楽器)Ⅴ		3		学科教員	3				
		6E670	第2専攻実技(鍵盤楽器)Ⅵ		3		学科教員	3				
		6E690	第2専攻実技(鍵盤楽器)Ⅶ		3		学科教員	4				
		6E710	第2専攻実技(鍵盤楽器)Ⅷ		3		学科教員	4				
		6E730	第2専攻実技(弦楽器)Ⅴ		3		学科教員	3				
		6E740	第2専攻実技(弦楽器)Ⅵ		3		学科教員	3				
		6E750	第2専攻実技(弦楽器)Ⅶ		3		学科教員	4				
		6E760	第2専攻実技(弦楽器)Ⅷ		3		学科教員	4				
	6E770	第2専攻実技(管楽器)Ⅴ		3		学科教員	3					
	6E790	第2専攻実技(管楽器)Ⅵ		3		学科教員	3					
	6E810	第2専攻実技(管楽器)Ⅶ		3		学科教員	4					
	6E830	第2専攻実技(管楽器)Ⅷ		3		学科教員	4					
8群 (専門を極める)		6E850	卒業演奏		6		学科教員	4	時外	通年		6単位修得

【備考欄】 学＝「学科選抜科目(定員__名) (p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」 (p.29)

要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」 (p.29)

①＝音楽芸術学科・演奏学科複式開講科目

②＝音芸・演奏合同クラス

③＝30分個人レッスン

④＝他学部の履修希望者にはオーディションを行う

⑤＝評価を受ける学期に履修登録すること

⑥＝コミュニケーション学科・演奏学科複式開講科目

⑦＝(クラス指定)プレースメントテストによるクラス分け

⑧＝「ピアノ・デュオA,B」修得済を前提とする

⑨＝90分グループレッスン

⑩＝他学部・他学科及び声楽・鍵盤楽器専攻の学生にはオーディションを行う

⑪＝(「邦楽」)履修を前提とする

⑫＝45分間個人レッスン

【開放欄】 ▲＝「他学部・他学科への開放科目」 (p.27) ■＝「他学科への開放科目」 (p.27)

【科目名欄】 網掛けは重複履修可能(p.26)

●演奏学科専門科目（2011年度以降入学用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前後						
専攻実技レッスン		6D830	専攻実技(声楽) I A		3	学科教員	1	レッスン	①	各専攻の専攻実技を I A から順に履修し 24単位を修得 (24単位を超えて履修することはできない)	
		6D850	専攻実技(声楽) I B		3	学科教員	1				
		6G8101	専攻実技(声楽) II A		3	学科教員	2				
		6G8201	専攻実技(声楽) II B		3	学科教員	2				
		6D910	専攻実技(声楽) III A		3	学科教員	3				
		6D930	専攻実技(声楽) III B		3	学科教員	3				
		6D950	専攻実技(声楽) IV A		3	2014年度開講予定	4				
		6D970	専攻実技(声楽) IV B		3	2014年度開講予定	4				
		6D990	専攻実技(鍵盤楽器) I A		3	学科教員	1				
		6E020	専攻実技(鍵盤楽器) I B		3	学科教員	1				
		6G8301	専攻実技(鍵盤楽器) II A		3	学科教員	2				
		6G8401	専攻実技(鍵盤楽器) II B		3	学科教員	2				
		6E110	専攻実技(鍵盤楽器) III A		3	学科教員	3				
		6E140	専攻実技(鍵盤楽器) III B		3	学科教員	3				
		6E170	専攻実技(鍵盤楽器) IV A		3	2014年度開講予定	4				
		6E200	専攻実技(鍵盤楽器) IV B		3	2014年度開講予定	4				
		6E230	専攻実技(弦楽器) I A		3	学科教員	1				
		6E240	専攻実技(弦楽器) I B		3	学科教員	1				
		6G8501	専攻実技(弦楽器) II A		3	学科教員	2				
		6G8601	専攻実技(弦楽器) II B		3	学科教員	2				
		6E270	専攻実技(弦楽器) III A		3	学科教員	3				
		6E280	専攻実技(弦楽器) III B		3	学科教員	3				
		6E290	専攻実技(弦楽器) IV A		3	2014年度開講予定	4				
		6E300	専攻実技(弦楽器) IV B		3	2014年度開講予定	4				
		6E310	専攻実技(管楽器) I A		3	学科教員	1				
		6E330	専攻実技(管楽器) I B		3	学科教員	1				
		6G8701	専攻実技(管楽器) II A		3	学科教員	2				
		6G8801	専攻実技(管楽器) II B		3	学科教員	2				
		6E390	専攻実技(管楽器) III A		3	学科教員	3				
		6E410	専攻実技(管楽器) III B		3	学科教員	3				
		6E430	専攻実技(管楽器) IV A		3	2014年度開講予定	4				
		6E450	専攻実技(管楽器) IV B		3	2014年度開講予定	4				
		6G890	2年次修了公開演奏		3	学科教員	2				
	6E850	卒業公開演奏				4			通年	6単位修得	
	6F350	国内音楽研修		1	学科教員	1234	時外	学外			
	6F351	海外音楽研修		1	学科教員	1234					
	6E560	海外音楽研修		2	学科教員	1234					
	6E561	海外音楽研修		2	学科教員	1234					
ソルフェージュ		6F530	ソルフェージュ I A		1	坂本 貴輝	12	木 3	緑園	学 ②	4単位以上修得
		6F540	ソルフェージュ I B		1	坂本 貴輝	12	木 3	緑園		
		6F550	ソルフェージュ II A		1	西 由起子	12	金 5	緑園		
		6F560	ソルフェージュ II B		1	西 由起子	12	金 5	緑園		
		6F570	ソルフェージュ III A		1	宮本 とも子	12	火 3	緑園		
		6F580	ソルフェージュ III B		1	宮本 とも子	12	火 3	緑園		
		6F590	ソルフェージュ IV A		1	江端 伸昭	12	木 4	緑園		
		6F600	ソルフェージュ IV B		1	江端 伸昭	12	木 4	緑園		
		6G040	ソルフェージュ V A		1	江端 伸昭	12	木 5	緑園		
		6G050	ソルフェージュ V B		1	江端 伸昭	12	木 5	緑園		
		6G060	ソルフェージュ VI A		1	久木山 直	12	月 4	緑園		
		6G070	ソルフェージュ VI B		1	久木山 直	12	月 4	緑園		
		6G080	ソルフェージュ VII A		1	久木山 直	123	月 3	緑園		
		6G090	ソルフェージュ VII B		1	久木山 直	123	月 3	緑園		
	6G100	ソルフェージュ VIII A		1	(休講)	123					
	6G110	ソルフェージュ VIII B		1	(休講)	123					

- 【備考欄】 ◆ = 「履修者数制限科目(定員_名)」(p.29) 学 = 「学科選抜科目(定員_名)」(p.29) 初 = 「初回授業時選抜科目(定員_名)」(p.29) 要手続 = 「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2) = 「週2回授業」 (2連) = 「2時限連続授業」 (通年) = 「通年科目」 (隔) = 「隔年開講科目」
- ① = レッスン担当者の科目を履修登録すること
 ② = (クラス指定) プレイメントテストによるクラス分け
 ③ = 他学部・他学科及び声楽・鍵盤楽器専攻の学生にはオーディションを行う
 ④ = 他学部の履修希望者にはオーディションを行う
 ⑤ = 音楽芸術学科・演奏学科複式開講科目
 ⑥ = 評価を受ける学期に履修登録すること
 ⑦ = 「邦楽1」履修を前提とする
 ⑧ = 音楽・演奏合同クラス
 ⑨ = コミュニケーション学科・演奏学科複式開講科目
 ⑩ = 実技別納
 ⑪ = 30分個人レッスン
 ⑫ = 2010年度以前入学者「第2副科実技(声楽)A」と同一
 ⑬ = 2010年度以前入学者「第2副科実技(器楽)A」と同一
 ⑭ = 「ピアノ・デュオA,B」修得済を前提とする
 ⑮ = 90分グループレッスン
- 【開放欄】 ▲ = 「他学部・他学科への開放科目」(p.27) ■ = 「他学科への開放科目」(p.27)
- 【科目名欄】 網掛け = 重複履修可能(p.26)

●演奏学科専門科目 (2011年度以降入学者用)

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法		
					前	後								
演奏学科専門科目	▲	6D420	管弦アンサンブルA			2	学科教員	1234	金 3/金 4	山手 山手	(2連) ③	6単位以上修得		
	▲	6D430	管弦アンサンブルB			2	学科教員	1234	金 3/金 4	山手 山手				
	▲	6G120	ブラスアンサンブルA			1	飯吉 高	1234	金 5	山手	④			
	▲	6G130	ブラスアンサンブルB			1	飯吉 高	1234	金 5	山手				
	▲	6A010	合唱 I A			1	土屋 広次郎	1	月 3	緑園	⑤			
	▲	6A020	合唱 I B			1	土屋 広次郎	1	月 3	緑園				
	▲	6A300	合唱 II A	他声部の響きをききながらハーモニーをつくる		1	蔵田 雅之	2	金 4	緑園				
	▲	6A310	合唱 II B	ヘンデルメサイアの舞台を目指そう		1	蔵田 雅之	2	金 4	緑園				
	▲	6D560	合唱 III A	合唱の実践		1	松村 努	34	火 3	山手				
	▲	6D570	合唱 III B	合唱の実践		1	松村 努	34	火 3	山手				
			6D440	ピアノ・デュオA			1	久保 浩	12	木 3	緑園		初	
			6D450	ピアノ・デュオB			1	久保 浩	12	木 3	緑園			
			6D610	伴奏法A			1	落合 敦	12	火 2	緑園		学	
			6D620	伴奏法B			1	落合 敦	12	火 2	緑園			
	■		6D480	声楽アンサンブルA	ハーモニーを楽しもう1		1	西 由起子	34	月 4	山手			
	■		6D490	声楽アンサンブルB	ハーモニーを楽しもう2		1	西 由起子	34	月 4	山手			
			6D460	オペラ・アンサンブルA			1	土屋 広次郎	34	木 3	山手			
			6D470	オペラ・アンサンブルB			1	土屋 広次郎	34	木 3	山手			
	■		6G900	室内楽1A			1	前田 美由紀	234	火 3	山手			
	■		6G910	室内楽1B			1	前田 美由紀	234	火 3	山手			
			6G920	室内楽2A			1	名倉 淑子/ 井上 雅代	234	火 3	山手			
			6G930	室内楽2B			1	名倉 淑子/ 井上 雅代	234	火 3	山手			
			6G940	室内楽3A			1	久保 浩	234	木 2	緑園			
			6G950	室内楽3B			1	久保 浩	234	木 2	緑園			
			6G960	室内楽4A			1	細川 順三	234	火 4	山手			
			6G970	室内楽4B			1	細川 順三	234	火 4	山手			
			6D580	伴奏実習			1	学科教員	234	時外				⑥
			6D581	伴奏実習			1	学科教員	234					
			6A280	邦楽1	三味線入門・基礎実技		1	東音河野 文	234	月 3	緑園			◆29 ⑤
			6A281	邦楽1	三味線 歌舞伎音楽を弾く。「勸進帳」に挑戦。		1	東音河野 文	234	月 3	緑園			◆29 ⑤ ⑦
			6A290	邦楽2	三味線 歌舞伎音楽を弾く。「勸進帳」に挑戦。		1	東音河野 文	234	月 4	緑園			◆29 ⑤ ⑦
			6A291	邦楽2	三味線 歌舞伎音楽を弾く。「勸進帳」に挑戦。		1	東音河野 文	234	月 4	緑園			◆29 ⑤ ⑦
			6A070	和声 I A	和声の基礎1		2	岡島 雅興	12	月 4	緑園		⑤ 演奏クラス	
			6A071	和声 I A	和声の基礎1		2	岡島 雅興	12	月 3	緑園		⑤ 音芸クラス	
			6A080	和声 I B	和声の基礎2		2	岡島 雅興	12	月 4	緑園		⑤ 演奏クラス	
			6A081	和声 I B	和声の基礎2		2	岡島 雅興	12	月 3	緑園		⑤ 音芸クラス	
			6A180	和声 II A	和声の展開1		2	岡島 雅興	12	月 5	緑園		⑧ ⑤	
			6A190	和声 II B	和声の展開2		2	岡島 雅興	12	月 5	緑園		⑧ ⑤	
			6G630	副科ピアノクラスA			1	小林 周子	1	水 3	緑園		学	
			6G631	副科ピアノクラスA			1	北原 葉子	1	水 4	緑園			
		6G640	副科ピアノクラスB			1	小林 周子	1	水 3	緑園				
		6G641	副科ピアノクラスB			1	北原 葉子	1	水 4	緑園				
		6G650	副科声楽クラスA			1	坂本 貴輝	1	木 2	緑園				
		6G651	副科声楽クラスA			1	藤田 直子	1	水 3	緑園				
		6G652	副科声楽クラスA			1	小栗 純一	1	金 3	緑園				
		6G660	副科声楽クラスB			1	坂本 貴輝	1	木 2	緑園				
		6G661	副科声楽クラスB			1	藤田 直子	1	水 3	緑園				
		6G662	副科声楽クラスB			1	小栗 純一	1	金 3	緑園				
		6A340	西洋音楽通史			4	谷口 昭弘	12	月 5/木 5	緑園	(週2) ◆76 ⑤			
		6A350	日本音楽通史			4	谷口 昭弘	12	月 5/木 5	緑園	(週2) ◆76 ⑤			
		6A450	対位法A	二声の対位法		2	塚本 一実	34	月 4	緑園	⑤			
		6H080	対位法B	二声の対位法		2	(休講)	34			⑤			
		6D190	音楽様式研究	JS/バッハのコラール作品様式に迫る!		2	宮本 とも子	34	木 4	山手				
		6H090	通奏低音	基礎からアンサンブル応用まで		2	宮本 とも子	34	木 3	山手	初			
		6H300	キーボードハーモニーA			2	(休講)	34			初			
		6H100	キーボードハーモニーB			2	久木山 直	34	月 5	緑園	初			
		6H110	楽曲分析A			2	江端 伸昭	34	木 2	山手	初			
		6H120	楽曲分析B			2	江端 伸昭	34	木 2	山手	初			
		6D520	共演芸術A			2	立神 粧子	34	金 2	山手	初 ⑤			
		6D530	共演芸術B			2	立神 粧子	34	金 2	山手	初 ⑤			

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員_名)」(p.29) 学＝「学科選択科目(定員_名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員_名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」
 ①＝「レッスン担当者の科目を履修登録すること」
 ②＝(クラス指定)プレシメントテストによるクラス分け
 ③＝他学部・他学科及び音楽・鍵盤楽器専攻の学生にはオーディションを行う
 ④＝他学部の履修希望者にはオーディションを行う
 ⑤＝音楽芸術学科・演奏学科履修登録すること
 ⑥＝評価を受ける学期に履修登録すること
 ⑦＝「邦楽1」履修を前提とする
 ⑧＝音芸・演奏合同クラス

●演奏学科専門科目（2011年度以降入学用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前 後							
演奏研究―理論と実践―		6D710	現代音楽レパートリー	楽譜から録音へ：複製技術と20世紀の音楽	2	瀬藤 康嗣	234	月 3	緑園	◆80 ⑤	8単位以上修得	
		6A430	諸民族の音楽A	諸民族の音楽構造	2	千葉 優子	234	木 1	山手	⑤		
		6A440	諸民族の音楽B	諸民族の楽器と音楽様式	2	千葉 優子	234	木 1	山手	⑤		
	■	6D280	声楽歌唱法(イタリア語)		1	土屋 広次郎	1234	月 2	緑園			
	■	6D330	声楽歌唱法(ドイツ語)		1	西 由起子	1234	金 4	緑園			
		6D350	声楽歌唱法(英語)		1	辻 裕久	1234	月 3	山手			
		6D340	声楽歌唱法(フランス語)		1	太田 朋子	1234	火 2	山手			
		6D360	声楽歌唱法(日本語)		1	小栗 純一	1234	月 2	山手			
		6D370	声楽歌唱法(日本語)(2)		1	小栗 純一	1234	月 2	山手			
	▲	6D690	演奏スペシャル講義A	声楽に必須な知識―オペラ・歌曲・オラトリオ	2	蔵田 雅之	1234	木 1	山手			
▲	6D700	演奏スペシャル講義B	目からうろこの理論と実践	2	宮本 とも子	1234	木 4	山手				
必修・選択必修科目		6D130	キリスト教オルガン音楽実践A	オルガンと讃美歌に出会う	1	宮本 とも子	123	火 4	緑園	初	2単位以上修得	
		6D131	キリスト教オルガン音楽実践A	オルガンと讃美歌に出会う	1	飯沼 彩	123	木 2	山手			
		6D132	キリスト教オルガン音楽実践A	オルガンと讃美歌に出会う	1	三浦 はつみ	123	月 3	山手			
		6D140	キリスト教オルガン音楽実践B	オルガンで讃美歌や聖歌に基づく曲を学ぶ	1	宮本 とも子	123	火 4	緑園			
		6D141	キリスト教オルガン音楽実践B	オルガンで讃美歌や聖歌に基づく曲を学ぶ	1	飯沼 彩	123	木 2	山手			
		6D142	キリスト教オルガン音楽実践B	オルガンで讃美歌や聖歌に基づく曲を学ぶ	1	三浦 はつみ	123	月 3	山手			
		6D150	キリスト教オルガン音楽研究A	プロテスタントの礼拝音楽の基礎を学ぶA	2	宇内 千晴	123	木 3	山手			
		6D160	キリスト教オルガン音楽研究B	プロテスタントの礼拝音楽の基礎を学ぶB	2	宇内 千晴	123	木 3	山手			
	▲	6A320	キリスト教音楽概論1		2	谷口 昭弘	34	火 2	山手			⑤
	▲	6A330	キリスト教音楽概論2		2	谷口 昭弘	34	火 2	山手			⑤
	6D500	オラトリオ研究A		1	田中 奈美子	34	火 4	山手				
	6D510	オラトリオ研究B		1	田中 奈美子	34	火 4	山手				
からだエクササイズ		6G220	演奏のためのからだづくりA		1	福士 晶子	12	水 5	緑園	初36		
		6G230	演奏のためのからだづくりB		1	福士 晶子	12	水 5	緑園	初36		
		6F610	アーティストのための身体表現A		2	三輪 えり花	34	木 5	山手			
		6F620	アーティストのための身体表現B		2	三輪 えり花	34	木 5	山手			
		4A650	身体表現の技法		4	(休 講)	1234			初25 (週2) ⑨		
演奏のプロを目指す		6H130	演奏プロフェッショナルスタディA		1	学科教員	34	レッスン		学		
		6H140	演奏プロフェッショナルスタディB		1	学科教員	34					
		6G020	フェリスプレイヤーズ・オン・ステージ		3	学科教員	34	時外				
		6F340	学外公開演奏		1	学科教員	34	時外	学外			
		6F341	学外公開演奏		1	学科教員	34	時外	学外			
		6E510	専攻実技特別レッスン		3	(休 講)	1234					
		6D780	ピアノ指導ワークショップA	ピアノ指導の体験1	2	林 今日子	34	火 5	山手			
		6D790	ピアノ指導ワークショップB	ピアノ指導の体験2	2	林 今日子	34	火 5	山手			
		6H160	幼児リトミック指導ワークショップA		2	(休 講)	34					
		6H170	幼児リトミック指導ワークショップB		2	(休 講)	34					
教育系進路を目指す		6H180	チャペルクワイア指導ワークショップA		2	宇内 千晴	34	木 4	山手			
		6H190	チャペルクワイア指導ワークショップB		2	三浦 はつみ	34	水 4	山手			
		6A520	作・編曲法		2	塚本 一実	34	月 5	緑園	⑤		
		6A530	編曲のテクニック		2	塚本 一実	34	月 5	緑園	⑤		
		6A640	指揮法A		2	上野 正博	34	木 2	山手	⑤		
		6D810	指揮法B		2	上野 正博	34	木 2	山手			
		6H200	起業家育成ワークショップA	経済・資本・市場の基礎から起業へ	2	椿(野口) 紅子	34	木 3	山手			
		6H210	起業家育成ワークショップB	経済・資本・市場の基礎から起業へ	2	椿(野口) 紅子	34	木 3	山手			
	を 目 指 す		6H200	起業家育成ワークショップA	経済・資本・市場の基礎から起業へ	2	椿(野口) 紅子	34	木 3	山手		
		6H210	起業家育成ワークショップB	経済・資本・市場の基礎から起業へ	2	椿(野口) 紅子	34	木 3	山手			

⑨＝コミュニケーション学科、演奏学科複式開講科目

⑩＝30分個人レッスン

⑪＝2010年度以前入学者「第2副科実技(器楽)A」と同一

⑫＝90分グループレッスン

⑬＝2010年度以前入学者「第2副科実技(声楽)A」と同一

⑭＝「ピアノ・デュオA,B」修得済を前提とする

【開放欄】 ▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27) ■＝「他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

●演奏学科専門科目 (2011年度以降入学者用)

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法		
					前	後								
実技科別納	D	PA	初習副科個人実技A	声楽	1		学科教員	1	レッスン		学 実技科別納			
				ピアノ	1		学科教員	1						
				オルガン	1		学科教員	1						
				チェンバロ	1		早島 万紀子	1						
				クラヴィコード	1		宮本 とも子	1						
				ヴァイオリン	1		学科教員	1						
				ヴィオラ	1		鈴木 康浩	1						
				チェロ	1		学科教員	1						
				コントラバス	1		学科教員	1						
				フルート	1		学科教員	1						
				オーボエ	1		学科教員	1						
				クラリネット	1		学科教員	1						
				ファゴット	1		学科教員	1						
				ホルン	1		学科教員	1						
				トランペット	1		阿部 ちさと	1						
				トロンボーン	1		宮下 宣子	1						
				声楽	1		学科教員	1						
				ピアノ	1		学科教員	1						
				オルガン	1		学科教員	1						
				チェンバロ	1		早島 万紀子	1						
				クラヴィコード	1		宮本 とも子	1						
				ヴァイオリン	1		学科教員	1						
				ヴィオラ	1		鈴木 康浩	1						
				チェロ	1		学科教員	1						
				コントラバス	1		学科教員	1						
				フルート	1		学科教員	1						
				オーボエ	1		学科教員	1						
			クラリネット	1		学科教員	1							
			ファゴット	1		学科教員	1							
			ホルン	1		学科教員	1							
			トランペット	1		阿部 ちさと	1							
			トロンボーン	1		宮下 宣子	1							
			▲ 6H0301			声楽	2						学科教員	234
			▲ 6H0501			ピアノ	2						学科教員	234
			▲ 6H0522			オルガン	2						学科教員	234
			▲ 6H0528			チェンバロ	2						早島 万紀子	234
			▲ 6H0529			クラヴィコード	2						宮本 とも子	234
			▲ 6H0530			邦楽(三味線)	2						東音河野 文	234
			▲ 6H0531			ヴァイオリン	2						学科教員	234
			▲ 6H0536			ヴィオラ	2						鈴木 康浩	234
			▲ 6H0537			チェロ	2						学科教員	234
			▲ 6H0541			コントラバス	2						学科教員	234
			▲ 6H0544			ヴィオラ・ダ・ガンバ	2						神戸 愉樹美	234
			▲ 6H0545			ハープ	2						宮原 真弓	234
			▲ 6H0546			フルート	2						学科教員	234
			▲ 6H0550			オーボエ	2						学科教員	234
			▲ 6H0553			クラリネット	2						学科教員	234
			▲ 6H0556			サクソフォーン	2						小森 慶子	234
			▲ 6H0557			ファゴット	2						学科教員	234
			▲ 6H0560			ホルン	2						学科教員	234
			▲ 6H0561			トランペット	2						阿部 ちさと	234
			▲ 6H0562			トロンボーン	2						宮下 宣子	234
			▲ 6H0563			ピアノデュオ	2						久保 浩	234
			▲ 6H0564			鍵盤楽器伴奏法(ピアノ)	2						学科教員	234
			▲ 6H0569			鍵盤楽器伴奏法(オルガン・チェンバロ)	2						桐山 建志	234
			▲ 6H0570			ポピュラー系キーボード	2						落合 敦	234
			▲ 6H0571				2						岡島 雅興	234
▲ 6H0572			作曲	2		塚本 一実	234							
▲ 6H0573				2		瀬藤 康嗣	234							

【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員_名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員_名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員_名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」 (2連)＝「2時限連続授業」 (通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」
 ①＝「レッスン担当者の科目を履修登録すること ②＝(クラス指定)ブレイスメントテストによるクラス分け
 ③＝他学部・他学科及び声楽・鍵盤楽器専攻の学生にはオーディションを行う ④＝他学部の履修希望者にはオーディションを行う
 ⑤＝音楽芸術学科・演奏学科模試開講科目 ⑥＝評価を受ける学期に履修登録すること
 ⑦＝「邦楽1」履修を前提とする ⑧＝音楽・演奏合同クラス

●演奏学科専門科目（2011年度以降入学者用）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位	担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法				
					前後										
実技料別納 D・E・F (Performing Arts)	▲	6H0401	PA 副科個人実技B	声楽	2	学科教員	1234	レッスン							
	▲	6H0601		ピアノ	2	学科教員	1234								
	▲	6H0622		オルガン	2	学科教員	1234								
	▲	6H0628		チェンバロ	2	早島 万紀子	1234								
	▲	6H0629		クラヴィコード	2	宮本 とも子	1234								
	▲	6H0630		邦楽(三味線)	2	東音河野 文	1234								
	▲	6H0631		ヴァイオリン	2	学科教員	1234								
	▲	6H0636		ヴィオラ	2	鈴木 康浩	1234								
	▲	6H0637		チェロ	2	学科教員	1234								
	▲	6H0641		コントラバス	2	学科教員	1234								
	▲	6H0644		ヴィオラ・ダ・ガンバ	2	神戸 愉樹美	1234								
	▲	6H0645		ハーブ	2	宮原 真弓	1234								
	▲	6H0646		フルート	2	学科教員	1234								
	▲	6H0650		オーボエ	2	学科教員	1234								
	▲	6H0653		クラリネット	2	学科教員	1234								
	▲	6H0656		サクソフォーン	2	小森 慶子	1234								
	▲	6H0657		ファゴット	2	学科教員	1234								
	▲	6H0660		ホルン	2	学科教員	1234								
	▲	6H0661		トランペット	2	阿部 ちさと	1234								
	▲	6H0662		トロンボーン	2	宮下 宣子	1234								
	▲	6H0663		ピアノデュオ	2	久保 浩	1234								
	▲	6H0664		鍵盤楽器伴奏法(ピアノ)	2	学科教員	1234								
	▲	6H0669		鍵盤楽器伴奏法(オルガン・チェンバロ)	2	桐山 建志	1234								
	▲	6H0670		ポピュラー系キーボード	2	落合 敦	1234								
	▲	6H0671		作曲	2	岡島 雅興	1234								
	▲	6H0672			2	塚本 一実	1234								
	▲	6H0673			2	瀬藤 康嗣	1234								
	▲	6H010		PA 副科グループ実技A	バレエ	1	乃羽 ひとみ					1234	緑園	学 ⑬	実技料別納
	▲	6H020		PA 副科グループ実技B	バレエ	1	乃羽 ひとみ					1234	緑園	実技料別納	
		6H220		PA 第2専攻個人実技(声楽)A		3	学科教員					34			
	6H230	PA 第2専攻個人実技(声楽)B		3	学科教員	34									
	6H240	PA 第2専攻個人実技(鍵盤楽器)A		3	学科教員	34									
	6H250	PA 第2専攻個人実技(鍵盤楽器)B		3	学科教員	34									
	6H260	PA 第2専攻個人実技(弦楽器)A		3	学科教員	34									
	6H270	PA 第2専攻個人実技(弦楽器)B		3	学科教員	34									
	6H280	PA 第2専攻個人実技(管楽器)A		3	学科教員	34									
	6H290	PA 第2専攻個人実技(管楽器)B		3	学科教員	34									

⑨=コミュニケーション学科、演奏学科複式開講科目
 ⑩=30分個人レッスン
 ⑪=90分グループレッスン
 【開放欄】 ▲=「他学部・他学科への開放科目」(p.27) ■=「他学科への開放科目」(p.27)
 【科目名欄】 網掛け は重複履修可能(p.26)

⑩=15分個人レッスン
 ⑫=「ピアノ・デュオA,B」修得済を前提とする
 ⑬=45分個人レッスン

●教職に関する科目

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法		
					前	後						中学 一種	高校 一種	
選択必修Ⅰ		70010	教職入門	現代日本社会のなかで「教師」の社会的意義を問直す	2		井上 恵美子	1	火 4	緑園			2単位	
選択必修Ⅱ	▲	70020	※教育原理	教育の本質を考える	2		井上 恵美子	1234	火 4	緑園	① ◆120		2単位	
	▲	70030	※教育思想	「近代」を問いなおす	2		和田 悠	1234	火 4	緑園			2単位	
	▲	70040	※教育心理学	教えること・学ぶこと—教育の心理を探る	2		渡辺 浪二	1234	火 5	緑園				
	▲	70041		2		渡辺 浪二	1234	火 5	緑園	①				
	▲	70050	※教育社会学	転換期の家族と学校—揺れる日本的人間形成	2		永井 聖二	1234	火 5	緑園			2単位	
▲	70051	2			永井 聖二	1234	火 5	緑園						
選択必修Ⅲ		70060	教育課程論	「望ましい学校教育の在り方」について考える	2		飛田 仁	2	火 4	緑園			2単位	
		70061			2		飛田 仁	2	火 5	緑園				
	2010年度以前入学者対象			英語科教育法Ⅰ		2				3				4単位ただし、音楽科の免許取得を希望する者は8単位
				英語科教育法Ⅱ		2				3				
				国語科教育法Ⅰ		2				3				
				国語科教育法Ⅱ		2				3				
				音楽科教育法Ⅰ		4		2012年度以前開講科目		3				
				音楽科教育法Ⅱ		4				3				
				社会・地理歴史科教育法		2				3				
				社会・公民科教育法		2				3				
			地理歴史科教育法		2				3					
			公民科教育法		2				3					
			70340	英語科教育法Ⅰ	英語科教育法の理論と実践1	4		山田 裕師	3	水 3/水 4	緑園	(2連)	8単位	
			70350	英語科教育法Ⅱ	英語科教育法の理論と実践2	4		山田 裕師	3	水 3/水 4	緑園	(2連)		
			70360	国語科教育法Ⅰ	国語科教育法の理論と実践1	4		下山 和美	3	水 3/水 4	緑園	(2連)		
		70370	国語科教育法Ⅱ	国語科教育法の理論と実践2	4		下山 和美	3	水 3/水 4	緑園	(2連)			
		70260	音楽科教育法Ⅰ	音楽科教育法Ⅰ	4		河内 麻里	3	水 3/水 4	緑園	(2連)			
		70270	音楽科教育法Ⅱ	音楽科教育法Ⅱ	4		河内 麻里	3	水 3/水 4	緑園	(2連)			
		70290	社会・地理歴史科教育法Ⅰ	社会・地理歴史科教育法の理論と実践1	2		石川 勇喜	3	水 3	緑園				
		70300	社会・地理歴史科教育法Ⅱ	社会・地理歴史科教育法の理論と実践2	2		石川 勇喜	3	水 3	緑園				
		70310	社会・公民科教育法Ⅰ	社会・公民科教育法の理論と実践1	2		石川 勇喜	3	水 4	緑園				
		70320	社会・公民科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法の理論と実践2	2		石川 勇喜	3	水 4	緑園				
選択必修Ⅳ		70170	道徳教育の研究	道徳教育の理論と教育法	2		飛田 仁	2	火 5	緑園	②	2単位		
		70171			2		飛田 仁	2	火 4	緑園				
		70180	特別活動	特別活動の研究	2		勝田 厚	23	水 2	緑園	③	2単位		
		70181			2		勝田 厚	23	水 1	緑園				
		70190	教育方法・技術	教育テクノロジーに関する理論と実践	2		村田 直江	23	水 5	緑園				
		70191			2		村田 直江	23	水 5	緑園				
	70200	生徒指導	生徒指導の意義とあり方	2		御園 正	23	水 2	緑園	③	2単位			
	70201			2		御園 正	23	水 1	緑園					
	70210	教育相談	学校における心の問題とカウンセリング	2		鍛冶 美幸	23	水 5	緑園	③	2単位			
	70211			2		鍛冶 美幸	23	水 5	緑園					
選択必修Ⅴ			総合演習		2		2012年度以前開講科目	3			(通年)	2単位		
		70330	教職実践演習(中・高)	教員養成のための実践演習	2		渡辺 浪二/ 井上 恵美子/ 山田 裕師/ 下山 和美/ 河内 麻里/ 石川 勇喜	4	水 1	緑園		2単位		
必修		70230	教育実習1	教育養成のための理論と実践—事前指導1・授業参観—	1		渡辺 浪二/ 井上 恵美子	3	水 2	緑園		5単位	3単位	
		70240	教育実習2	教員養成のための理論と実践—事前指導2・実習・事後指導—	2		渡辺 浪二/ 井上 恵美子	4	水 2	緑園	(通年)			
		70250	教育実習3	教員養成のための理論と実践—事前指導3・実習・事後指導—	2		渡辺 浪二/ 井上 恵美子	4	時外	緑園	② (通年)			

【備考欄】 ◆=「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学=「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初=「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続=「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2) = 「週2回授業」 (2連) = 「2時限連続授業」 (通年) = 「通年科目」
 (隔) = 「隔年開講科目」 ① = (卒業要件算入) ② = 高等学校教諭免許については選択 ③ = 2年次のみ履修条件あり(p.180)

【開放欄】 ▲ = 「他学部・他学科への開放科目」(p.27)

【科目名欄】 網掛け 〇 は重複履修可能(p.26)

●留学生日本語及び日本事情に関する科目（外国人留学生対象科目）

種別	開放	CODE	科目	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
		73600	留学生日本語Ⅰ		1		筒井 千絵	1234	火 1	緑園	10単位以上を 修得	
		73601			1		筒井 千絵	1234	水 1	緑園		
		73602			1		筒井 千絵	1234	木 1	緑園		
		73603				1	筒井 千絵	1234	火 1	緑園		
		73604				1	筒井 千絵	1234	水 1	緑園		
		73605				1	奈良 夕里枝	1234	木 1	緑園		
		73606				1	奈良 夕里枝	1234	月 2	緑園		
		73607				1	奈良 夕里枝	1234	水 1	緑園		
		73608				1	奈良 夕里枝	1234	木 1	緑園		
		73609				1	奈良 夕里枝	1234	月 1	緑園		
		73610	留学生日本語Ⅱ		1		筒井 千絵	1234	金 1	緑園		
		73611			1		筒井 千絵	1234	火 2	緑園		
		73612			1		筒井 千絵	1234	水 2	緑園		
		73613			1		筒井 千絵	1234	木 2	緑園		
		73614				1	筒井 千絵	1234	金 1	緑園		
		73615			1		筒井 千絵	1234	金 2	緑園		
		73616				1	筒井 千絵	1234	火 2	緑園		
		73617				1	筒井 千絵	1234	水 2	緑園		
		73618				1	筒井 千絵	1234	木 2	緑園		
		73619				1	筒井 千絵	1234	金 2	緑園		
		73620			1		奈良 夕里枝	1234	水 1	緑園		
		73621			1		奈良 夕里枝	1234	火 1	緑園		
		73622				1	奈良 夕里枝	1234	火 1	緑園		
		73623			1		奈良 夕里枝	1234	木 2	緑園		
		73624			1		奈良 夕里枝	1234	火 2	緑園		
		73625			1		奈良 夕里枝	1234	水 2	緑園		
		73626				1	奈良 夕里枝	1234	火 2	緑園		
		73627				1	奈良 夕里枝	1234	水 2	緑園		
		73628				1	奈良 夕里枝	1234	木 2	緑園		
		73629			1	奈良 夕里枝	1234	月 2	緑園			
	▲	73530	日本事情A(12)	日本事情・日本文化を教える	2		奈良 夕里枝	1234	月 4	緑園	初 日本語教員養成 講座を受講する 意志がある者に 開放する。	
	▲	73360	日本事情A(9)	日本歴史の諸問題	2		大西 比呂志	1234	月 2	緑園		
	▲	73520	日本事情B(12)	日本の歴史と古典文化入門	2		谷 知子	1234	金 5	緑園		
	▲	73190	日本事情B(3)	異文化理解能力を高める	2		筒井 千絵	1234	木 3	緑園		

なお、講義題目一覧は次のとおりです。履修指導時に指定します。

所 属	講 義 名
私費留学生	アカデミック・ライティング
	聴解・発表
	読解
	会話
	総合
交換留学生	初級日本語
	中級日本語
	中上級日本語

- 【備考欄】 ◆＝「履修者数制限科目(定員__名)」(p.29) 学＝「学科選抜科目(定員__名)」(p.29) 初＝「初回授業時選抜科目(定員__名)」(p.29)
 要手続＝「説明会出席など別途手続が必要(掲示等を確認)」(p.29) (週2)＝「週2回授業」(2連)＝「2時限連続授業」(通年)＝「通年科目」
 (隔)＝「隔年開講科目」
 【開放欄】 ▲＝「他学部・他学科への開放科目」(p.27)
 【科目名欄】 網掛け 〇 は重複履修可能(p.26)

学籍

修業年限及び在学期間

修業年限とは、学部教育課程修了に必要な期間のことで、休学期間を除き4年（8学期）です。また、在学期間とは、学生として在籍することのできる期間のことで、休学期間を除き8年を超えることはできません。（大学学則第9条参照。）

2年次編入学者の修業年限は、休学期間を除き3年（6学期）です。在学期間は休学期間を除き6年を超えることはできません。

3年次編入学者の修業年限は、休学期間を除き2年（4学期）です。在学期間は休学期間を除き4年を超えることはできません。

休 学

病気その他やむを得ない理由により修学することができない場合は、次の期日までに所定用紙（「休学願」：教務課にあります。）をもって休学を願い出ることができます。（大学学則第29条・第30条参照）

休学期間は、前期若しくは後期の1学期、又は1年を区分とし、休学期間は通算して4年を超えることはできません。また、休学期間を修業年限及び在学期間に算入することはできません。

前期又は後期の1学期間のみ休学した学生は、翌年4月に自動的に1学年進級します。ただし、4年次生になっても、休学期間を除いた在学期間が修業年限を満たさないと卒業はできません。1年間継続して休学した場合は、年次が原級にとどまります。

休学者は、学期ごとに授業料及び実習費のそれぞれ半額を在籍料として納入しなければなりません。ただし、施設設備費については、休学中も大学学則第36条の2第2項の規定に従って納入しなければなりません。

【休学願の提出期限】

前期(又は前期から1年間)休学する場合	2013年 5月31日(金)まで
後期(又は後期から1年間)休学する場合	2013年11月29日(金)まで

復 学

届け出た休学期間が過ぎると、自動的に復学となります。ただし、健康上の理由で休学した場合は、復学後の学生生活が支障なく再開可能かの確認を含めて、校医との面談を行います。

更に続けて休学を希望する場合又は退学を希望する場合は手続が必要です。休学期間が終了する前に教務課に問い合わせてください。

退 学

事情により退学を希望する場合は、次の期日までに所定用紙（「退学願」：教務課にあります）をもって願出しなければなりません。この場合、退学する日を含む学期の授業料等学納金を納

入していなければ、退学は認められません。(大学学則第33条参照)

【退学願の提出期限】

前期末に退学する場合	2013年9月30日(月)まで
後期末に退学する場合	2014年3月31日(月)まで

除 籍

学生が次のいずれかに該当する場合には、除籍されることがあります。(大学学則第34条参照)

- (1) 在学期間を超えて卒業資格を得られない場合
- (2) 授業料等学納金の納入を怠った場合
- (3) 通算4年の休学期間を超えて、なお復学できない場合
- (4) 死亡した場合
- (5) 長期間にわたり行方不明の場合

留 学

交換留学又は認定留学の許可を受けた学生は、1年を限度としてその留学期間を、大学学則第9条に定める在学期間として扱います。ただし、本学の規定の適用を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。(大学学則第28条の2、pp.48~56「単位認定・単位互換・留学・海外研修」参照)

転学部・転学科

転学部・転学科を志願する場合は、次の期日までに所定用紙(「転学部・転学科願」：教務課にあります)をもって願い出なければなりません。選考の上、転学部・転学科を認めることがあります。(大学学則第31条、p.283 転学部・転学科内規参照)

転学部・転学科した学生の在学期間は、転学部・転学科以前の在学期間と合わせて8年(2年次編入学者は6年、3年次編入学者は4年)を超えることはできません。

【転学部・転学科願の提出期限】 2013年10月4日(金)まで

再入学

本学を退学した者又は除籍を受けた者が、在籍していた学科への再入学を志願する場合は、原則として退学又は除籍日を含む年度の末日から2年以内に、所定の手続によって願い出なければなりません。教授会の議を経て、再入学を許可することがあります。(大学学則第34条の2、p.283再入学に関する内規参照)

なお、再入学の時期は、学年又は学期の始めとします。

【再入学願の提出期限・提出先】

前期から再入学する場合	1月末
後期から再入学する場合	7月末
提出先	教務課

大学学則
学位規則
転学部・転学科内規
再入学に関する内規
科目等履修生規程
留学に関する規程

フェリス女学院大学学則

第1章 目的及び使命

(目的及び使命)

第1条 本学は、キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。

第1章の2 自己点検・評価

(自己点検・評価)

第1条の2 本学の設置目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、不断の自己点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 本学は、前項の自己点検及び評価の結果について、本学の職員以外の者による検証を行うよう努める。

3 自己点検・評価に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 組織及び学生収容定員

(組織)

第2条 本学に次の学部・学科を置く。

(1) 文学部 英文学科 日本文学科 コミュニケーション学科

(2) 音楽学部 音楽芸術学科 演奏学科

(3) 国際交流学部 国際交流学科

(学部の教育研究目的)

第2条の2 各学部の教育研究目的は、次のとおりとする。

(1) 文学部

文学の領域に関する高度の教育研究を行い、多様化する社会で他者と共生し、主体的に表現できる豊かな素養を身に付けた人材を養成する。

(2) 音楽学部

西洋音楽の根幹であるキリスト教音楽を基盤として、音楽の領域に関する高度の教育研究を行い、専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養を兼ね備えた人材を養成する。

(3) 国際交流学部

国際交流の領域に関する高度の教育研究を行い、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた人材を養成する。

(学生収容定員)

第2条の3 学生収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
文学部	英文学科	90名	—	—	360名
	日本文学科	90名	—	—	360名
	コミュニケーション学科	90名	—	—	360名
	計	270名	—	—	1,080名
音楽学部	音楽芸術学科	45名	—	—	180名
	演奏学科	50名	—	—	200名
	計	95名	—	—	380名
国際交流学部	国際交流学科	194名	4名	6名	800名
合計		559名	4名	6名	2,260名

(大学院)

第2条の4 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

第3章 授業科目

(授業科目)

第3条 本学の授業科目は、共通科目、専門科目及び教職に関する科目とし、その科目名及び単位数は、それぞれ別表第1、別表第2及び別表第3のとおりとする。

2 共通科目は、基礎教養科目、総合課題科目及び語学科目とする。

(外国人留学生に関する授業科目)

第3条の2 前条のほか、外国人留学生を対象として別表第4のとおり日本語科目及び日本事情に関する科目を置く。

第4条から第8条まで 削除

第4章 履修方法、単位及び卒業の認定

(修業年限)

第9条 本学の修業年限を4年とする。

2 在学期間は、8年を超えることができない。ただし、第25条の2第1項及び第2項の規定により入学した学生は、同条第3項に定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

(履修希望科目の届出)

第10条 学生は、毎学期始めに履修希望の授業科目を学部長に届け出て、その承認を受けなければならない。

(他学部他学科専門科目の履修)

第11条 学生は、他学部他学科の専門科目を履修することができる。

(単位認定試験)

第12条 単位の認定は、平常点評価及び試験によって行う。ただし、卒業論文、卒業レポート、卒業論文・卒業制作、卒業演奏、卒業研究及び卒業プロジェクトの単位の認定は審査によって行うものとし、必要に応じ、口頭試問を併せて行うことができる。

(受験資格)

第13条 学生は、履修授業科目について3分の2以上出席しなければ、当該授業科目の試験を受けることができない。

(単位の授与)

第14条 授業科目の到達目標を達成した者には、所定の単位を与える。

(入学前の既修得単位等の認定)

第14条の2 学生が入学前に修得した次の単位等については、教授会の定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得した単位とみなし、又は与えることができる。

(1) 大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

(2) 短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が大学教育に相当する水準を有すると認めた教育施設等における学修で本学が大学における授業科目の履修とみなした学修

2 前項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において

修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

(他の大学等における授業科目の履修)

第14条の3 本学の学生が他の大学等において修得した次の単位等については、教授会の定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得した単位とみなし、又は与えることができる。

(1) 他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

(2) 短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が大学教育に相当する水準を有すると認めた教育施設等における学修で本学が大学における授業科目の履修とみなした学修

2 前項第1号の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、本学において修得した単位以外のものについては、前条により本学において修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(成績評価)

第15条 授業科目の成績は、S、A、B、C、F、又は合格、不合格の7種類の評語をもって表わし、S、A、B、C、又は合格を合格とする。

(単位)

第16条 授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実技、実習及び実験については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、音楽学部における個人指導による実技については、別に定める。

第17条 削除

(卒業の要件)

第18条 卒業資格の認定を得るためには、本学に4年以上在学し、別表第5に定めるところにより卒業に必要な単位を修得しなければならない。

(外国人留学生の卒業の要件)

第18条の2 外国人留学生については、前条の要件に加え、次の各号の要件を満たさなければならない。

(1) 第3条の2に定める日本語科目 前条関係別表第5の語学科目に代えて 10単位

(2) 第3条の2に定める日本事情に関する科目 4単位

2 前項第1号に定める科目は語学科目とみなし、第2号に定める科目は基礎教養科目とみなす。

3 前々項第1号については、そのうち2単位は、学部の指定する授業科目を修得することにより代えることができる。

4 文学部英文学科の外国人留学生については、第1項第1号に加え英語科目12単位又は20単位を必修とする。

(教育職員免許状)

第19条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる免許状の種類は、次のとおり

とする。

免許状の種類	免許教科	学部・学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語	文学部 英文学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語	文学部 日本文学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	音 楽	音楽学部 音楽芸術学科 演奏学科
中学校教諭一種免許状	社 会	国際交流学部 国際交流学科
高等学校教諭一種免許状	地理歴史	国際交流学部 国際交流学科
高等学校教諭一種免許状	公 民	国際交流学部 国際交流学科

(日本語教員養成講座)

第19条の2 本学に日本語教員養成に関する講座を置く。

2 前項の講座に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学位の授与

(卒業及び学位授与)

第20条 学長は、第18条の規定により卒業資格の認定を受けた者には、その卒業を認め、学士の学位を授与する。

2 学位の授与に関する規則は、別に定める。

第21条 削除

第6章 学年、学期及び休業日

(学年及び学期)

第22条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から 9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(授業期間)

第22条の2 授業を行う期間は、前期と後期を合わせて年間35週とする。

(休業日)

第23条 休業日は、次の各号に掲げるところによる。ただし、学長は、授業の都合等により、これを変更することができる。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 日曜日、土曜日

(3) 開学記念日 6月 1日

(4) 夏季休業日 8月 1日から9月20日まで

(5) 冬季休業日 12月22日から1月10日まで

(6) 春季休業日 3月16日から3月31日まで

(7) 臨時休業日については、学長がその都度定める。

第7章 入学、休学、退学等

(入学時期)

第24条 学生の入学時期は、学年の始めとする。ただし、教授会が十分な理由があると認めるときには、教育上支障がない限り、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第25条 次の各号のいずれかに該当する者で、本学への入学を願った者については、選考の上、学長がこれを許可する。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有

するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる（2年次編入学）

第25条の2 次の各号のいずれかに該当する者で、本学への2年次編入学を願い出た者については、選考の上、学長がこれを許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 短期大学を卒業した者
 - (3) 大学又は短期大学に1年以上在学し、30単位以上を修得した者
 - (4) 高等専門学校を卒業した者
 - (5) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（前条に規定する者に限る。）
 - (6) 外国において、学校教育における14年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者
- 2 第2条の2に規定するもののほか、本学への2年次編入学を願い出た者については、欠員のある場合に限り、選考の上、学長がこれを許可することができる。
 - 3 前2項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。（3年次編入学）

第25条の3 次の各号のいずれかに該当する者で、本学への3年次編入学を願い出た者については、選考の上、学長がこれを許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 短期大学を卒業した者又は大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者
 - (3) 高等専門学校を卒業した者
 - (4) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（前々条に規定する者に限る。）
 - (5) 外国において、学校教育における14年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者
- 2 第2条の2に規定するもののほか、本学への3年次編入学を願い出た者については、欠員のある場合に限り、選考の上、学長がこれを許可することができる。
 - 3 前2項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。（編入学資格における外国の学校教育制度に基づく教育施設の取扱い）

第25条の4 前々条第1号及び前条第1号に規定する大学を卒業した者には、我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者を含むものとする。

- 2 前々条第3号及び前条第2号に規定する大学には、我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を含むものとする。
- 3 前々条第3号に規定する短期大学には、我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を含むものとする。
- 4 前々条第2号及び前条第2号に規定する短期大学を卒業した者には、外国の短期大学を卒業した者及び我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者（第25条に規定する者に限る。）を含むものとする。（入学手続）

第26条 前2条の規定により入学の許可を受けた者は、別に定めるところにより、所定の期日までに手続しなければならない。

- 2 入学の許可を受けた者は、直ちに保証人を定め、入学手続しなければならない。
- 3 保証人は、父母等独立の生計を営む者で確実に保証人としての責任を果たし得る者でなければならない。保証人として不適当と認めるときは、その変更を命ずることができる。
- 4 保証人は、保証する学生の在学中、その一身に関する事項について一切の責務に任じなければならない。
- 5 保証人が何らかの事由によって責務を果たし得ない場合には、新たに保証人を選定して届け出なければならない。
- 6 保証人が住所変更した場合には、直ちにその旨を届け出なければならない。（宣誓）

第27条 入学の許可を受けた者は、入学の際に所定の宣誓をしなければならない。（入学許可の取消し）

第28条 学長は、入学の許可を受けた者が前2条の手続をとらないときは、入学許可を取り消すことができる。（留学）

第28条の2 外国の大学に留学を志願する者は、所定の手続により、教授会の承認を得なければならない。

- 2 留学の期間は、1年を限度として第9条に定める在学期間として扱う。
- 3 留学に関し必要な事項は、別に定める。（休学）

第29条 学生は、疾病その他のやむを得ない理由により、修学することができない場合には、保証人連署の上、所定の期日までに願ひ出て、1学期又は1学年を区分として、休学することができる。

2 校医の診断に基づき疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は、休学を命ずることができる。
(出席停止)

第29条の2 学長は、感染症にかかった学生又はそのおそれのある学生に対して、出席停止を命ずることができる。
(休学期間)

第30条 休学は、1年を超えることができない。ただし、特別の事情がある者は、学長の許可を得て、なお1年以内の休学をすることができる。

2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は、第9条の在学期間に算入しない。

(出席停止期間)

第30条の2 出席停止期間は、学校保健安全法施行規則第19条の規定に準じて、学長が決定する。
(転学部及び転学科)

第31条 所属する学部、学科から他の学部、学科に転学部、転学科を願ひ出た者については、選考の上、これを許可することができる。

2 転学部、転学科に関し必要な事項は、別に定める。

第32条 削除

(退学)

第33条 退学しようとする者は、保証人連署の上願ひ出なければならない。ただし、退学する日を含む学期の授業料等学納金を納入していなければならない。

(除籍)

第34条 学長は、学生が次の各号のいずれかに該当する場合には、除籍することができる。

(1) 在学期間が8年を超えて卒業資格を得られない場合

(2) 授業料等学納金の納入を怠った場合

(3) 第30条第2項に定める休学期間を超えてなお復学できない場合

(4) 死亡した場合

(5) 長期間にわたり行方不明の場合

(再入学)

第34条の2 本学を退学した者又は本学から除籍を受けた者が再入学を願ひ出たときは、教授会の議を経て、これを許可することができる。ただし、前条第1号により除籍を受けた者は、再入学を願ひ出ることとはできない。

2 再入学に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 授業料等学納金その他納入金

(入学検定料の納入)

第35条 本学への入学を願ひ出る者は、入学検定料を納入しなければならない。

2 入学検定料の額は、別表第6に定めるとおりとする。

3 本学への再入学を願ひ出る者の入学検定料の額は、別に定める。

4 入学検定料を減免することがある。減免に関し必要な事項は別に定める。

(入学金、授業料等学納金の納入)

第36条 本学への入学の許可を受けた者で本学に入学する者は、本学が定める期間内に、入学金及び入学年度前期分の授業料、実習費並びに施設設備費を納入しなければ

ならない。

2 前項の額は、別表第7に定めるとおりとする。

3 前々項の規定に従って入学金及び授業料等学納金を納入した者が、入学以前の本学が定める期日までに入学辞退を申し出た場合は、既に納めた授業料等学納金を返還するものとする。ただし、入学金は返還しない。

4 再入学の許可を受けた者の入学金及び授業料等学納金の額は、別に定める。

第36条の2 学生は、学期ごとに当該学期分の授業料、実習費及び施設設備費を、前期分については4月、後期分については10月に納入しなければならない。

2 学生は、入学した年度から4年間（2年次編入学生にあつては3年間、3年次編入学生にあつては2年間）施設設備費を納入しなければならない。

3 前2項の額は、授業料等学納金として別表第7に定めるとおりとする。

4 入学年度前期分の授業料、実習費及び施設設備費については、第1項の規定にかかわらず、入学手続時に納入するものとする。

5 再入学した学生の授業料等学納金の額は、別に定める。
(在籍料の納入)

第36条の3 休学する者は、休学期間中の授業料及び実習費の納入を免除される。ただし、本学が定める期間内に、在籍料を納入しなければならない。

2 前項の額は、休学する学期の所定の授業料及び実習費の2分の1に相当する額とする。

3 本学から外国の大学に留学する者は、留学期間中の授業料及び実習費の納入を免除される。ただし、本学が定める期間内に、在籍料を納入しなければならない。

4 前項の額は、留学する学期の所定の授業料及び実習費に相当する額とする。
(納入の方法等)

第37条 第35条から前条までに定めるもののほか、授業料等学納金その他納入金の納入方法は、別に定める。

第9章 職員組織

(職員組織)

第38条 本学に学長、学部長、教授、准教授、講師、助手、副手、事務職員及びその他の職員を置く。

第10章 教授会及び大学評議会

(教授会)

第39条 本学の各学部には教授会を置き、各学部には専任教員（教授、准教授、講師）をもって構成する。

第39条の2 教授会は、次の事項を審議する。

(1) 学則その他の規則の制定改廃に関する事項

(2) 教育課程に関する事項

(3) 学生の入学、退学、休学、卒業及びその他身上に関する事項

(4) 学生の試験並びに単位認定に関する事項

(5) 学生の指導並びに賞罰に関する事項

(6) 学長、学部長、大学評議員、各種委員の選出に関する事項

(7) 教員の人事に関する事項

(8) 学部の教育、研究に関する事項

(9) その他教授会が必要と認める事項

第39条の3 前2条に規定するもののほか、教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(大学評議会)

第39条の4 本学に大学評議会を置く。

2 大学評議会は、次の者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各学部長
- (3) 各学部から選出されたそれぞれ2名の教授
- (4) 附属図書館長
- (5) 情報センター長

3 前項に規定するもののほか、重要な職にある教授を大学評議会の議を経て、大学評議員とすることができる。

第39条の5 大学評議会は、次の事項を審議する。

- (1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
- (2) 予算概算方針に関する事項
- (3) 学部、学科その他重要な施設、組織の設置、廃止に関する事項
- (4) 学長の推挙に関する事項
- (5) 教員人事の基準に関する事項
- (6) 学生定員に関する事項
- (7) 学生の厚生補導及びその身分に関する重要事項
- (8) 学部その他の機関の連絡調整に関する事項
- (9) その他大学の運営に関する重要事項

第39条の6 前2条に規定するもののほか、大学評議会に関し必要な事項は、別に定める。

第11章 削除

第40条 削除

第12章 図書館、研究施設及びセンター (附属図書館)

第41条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関し必要な事項は、別に定める。
(附属研究施設)

第42条 本学に附属の研究施設を置くことができる。

2 研究施設に関し必要な事項は、別に定める。
(センター)

第42条の2 本学に教育・研究の特定分野を所管する附属のセンターを置くことができる。

2 センターに関し必要な事項は、別に定める。

第13章 科目等履修生、交流学生、外国人留学生及び交換留学生 (科目等履修生)

第43条 学長は、本学学生でない者で本学所定の授業科目の履修を希望する者については、選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

- 2 前項の許可を受けようとする者は、所定の手続きにより、選考料を添えて学長に願出しなければならない。
- 3 科目等履修生として履修を許可された者は、所定の期日までに登録料・施設設備利用料及び受講料を納入しなければならない。ただし、履修する科目について単位の認定を希望する者は、単位認定料を併せて納入しなければならない。
- 4 前2項の額は、別表第8に定めるとおりとする。
- 5 既に納めた選考料、登録料・施設設備利用料、受講料及び単位認定料は、いかなる理由にかかわらず返還しない。
- 6 前各項に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(交流学生)

第43条の2 学長は、本学と協定のある日本国内の他の大

学に在籍する学生で本学所定の授業科目の履修を希望する者については、選考の上、交流学生として履修を許可することができる。

- 2 前項の許可を受けようとする者は、所定の手続により、選考料を添えて学長に願出しなければならない。
- 3 交流学生として履修を許可された者は、所定の期日までに登録料・施設設備利用料及び受講料を納入しなければならない。ただし、履修する科目について単位の認定を希望する者は、単位認定料を併せて納入しなければならない。
- 4 前2項の額は、別表第8に定めるとおりとする。
- 5 既に納めた選考料、登録料・施設設備利用料、受講料及び単位認定料は、いかなる理由にかかわらず返還しない。
- 6 前各項に定めるもののほか、交流学生に関し必要な事項は、別に定める。
(外国人留学生)

第44条 学長は、外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者については、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。
(交換留学生)

第44条の2 学長は、本学と協定のある外国の大学の学生については、交換留学生として入学を許可することができる。

2 交換留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第14章 公開講座 (公開講座)

第45条 本学に、公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 名誉教授 (名誉教授)

第46条 学長は、本学に学長、教授、准教授又は講師として多年勤務し、教育上又は学術上特に功労のあった者に対し、教授会及び大学評議会の議を経て、名誉教授の称号を授与することができる。

第16章 学内諸施設 (厚生施設)

第47条 本学に保健室等必要な厚生施設を置く。
(寄宿舎)

第48条 本学に寄宿舎を置くことができる。

2 寄宿舎に関し必要な事項は、別に定める。
(体育館)

第48条の2 本学に体育館を置く。

2 体育館に関し必要な事項は、別に定める。
(その他の厚生施設)

第49条 前3条に定めるもののほか、大学に必要な厚生施設を置くことができる。

第17章 賞罰 (表彰)

第50条 学長は、学生の本分を全うし、特に他の模範となると認められる者があるときは、これを表彰することができる。
(処分)

第51条 学長は、本学の学則及び訓育の趣旨に違背し、又は学生としての本分に反する行為をした学生に対し、

教授会及び大学評議会の議を経て懲戒する。

- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号の何れかに該当する者について行う。
 - (1) 品行不良で改善の見込みがないと認められる場合
 - (2) 学業劣等で成業の見込みがないと認められる場合
 - (3) 正当な理由がなくて出席常でない場合
 - (4) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した場合

第18章 改正

(改正)

第52条 この学則の改正は、教授会及び大学評議会の議を経て、理事会が決定する。

第19章 雑則

(その他の事項)

第53条 この学則に定めるもののほか、必要な事項は学長が別に定める。

附 則〔2003年5月29日理事会決定〕

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則〔2003年11月27日理事会決定〕

この学則は、2003年11月27日から施行する。

附 則〔2004年2月26日理事会決定〕

- 1 この学則は、2004年4月1日から施行する。
- 2 2003年度以前入学者の外国人留学生の卒業に必要な単位は、改正後の第18条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2004年3月25日理事会決定〕

- 1 この学則は、2005年4月1日から施行する。ただし、改正後の第35条関係別表第6に規定する入学検定料の額は、2005年度入学試験から適用する。
- 2 音楽学部声楽学科及び器楽学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、2005年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 音楽学部声楽学科及び器楽学科在学者の取得できる教育職員免許状の種類は、改正後の第19条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 1996年度以前入学者の授業料等学納金については、改正後の第36条及び第36条の2関係別表第7の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 2005年度及び2006年度音楽学部3年次編入学試験に係る入学検定料の額は、改正後の第35条関係別表第6の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 6 2005年度及び2006年度音楽学部3年次編入学者に係る入学金及び授業料等学納金の額は、改正後の第36条及び第36条の2関係別表第7の規定にかかわらず、2004年度以前入学者に準じて納入しなければならない。

附 則〔2005年2月24日理事会決定〕

- 1 この学則は、2005年4月1日から施行する。
- 2 2003年度以前入学者及び2004年度入学者の外国人留学生の卒業に必要な単位は、それぞれ改正後の第18条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2005年3月24日理事会決定〕

この学則は、2005年4月1日から施行する。

附 則〔2005年3月24日理事会決定〕

この学則は、2006年4月1日から施行し、2006年度入学試験から適用する。

附 則〔2005年9月5日理事会決定〕

この学則は、2006年4月1日から施行する。

附 則〔2006年2月23日理事会決定〕

この学則は、2006年4月1日から施行する。

附 則〔2006年3月23日理事会決定〕

この学則は、2007年4月1日から施行し、2007年度入学試験から適用する。

附 則〔2006年10月26日理事会決定〕

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則〔2007年2月22日理事会決定〕

- 1 この学則は、2007年4月1日から施行する。ただし、改正後の第36条及び第36条の2に規定する納入方法は、2007年度入学試験より適用する。
- 2 2006年度以前入学者の授業料等学納金については、改正後の第36条及び第36条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 2007年度及び2008年度3年次編入学者の施設設備費の納入については、改正後の第36条及び第36条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 2007年度2年次編入学者の施設設備費納入については、改正後の第36条及び第36条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2007年3月22日理事会決定〕

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則〔2007年3月22日理事会決定〕

この学則は、2008年4月1日から施行し、2008年度入学試験から適用する。

附 則〔2008年2月28日理事会決定〕

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則〔2008年3月27日理事会決定〕

この学則は、2008年4月1日から施行し、2008年度入学から適用する。

附 則〔2009年2月26日理事会決定〕

この学則は、2009年4月1日から施行する。

附 則〔2010年2月25日理事会決定〕

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則〔2011年3月24日理事会決定〕

この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則〔2012年2月23日理事会決定〕

附 則〔2012年3月22日理事会決定〕

この学則は、2012年4月1日から施行する。

附 則〔2013年2月28日理事会決定〕

- 1 この学則は、2013年2月28日から施行し、2011年4月1日から適用する。
 - 2 前項の規定にかかわらず、改正後の第3条関係別表第1-Cに規定する「フランス語Ⅱs(LL)」「ドイツ語Ⅱs(LL)」「スペイン語Ⅱs(LL)」「中国語Ⅱs(LL)」「朝鮮語Ⅱs(LL)」については、2003年4月1日から適用する。
- 附 則〔2013年2月28日理事会決定〕
- この学則は、2013年4月1日から適用する。
- 別表第1から第4まで (略)

別表第5 卒業に必要な単位（第18条関係）

A 文学部

2004年度以降入学者

区 分		卒業に必要な単位数			備 考
		英文学科	日本文学科	コミュニケーション類	
共通 科目	基礎教養科目	2	2	2	キリスト教科目については、 基礎教養科目・総合課題科 目から各2単位を必修とす る。 語学科目の修得単位は、卒 業要件として32単位まで認 める。
	総合課題科目	2	2	2	
	語 学 科 目	20又は22	10又は22	10又は22	
専門 科目	卒業論文又は卒業論 文・卒業制作	6	6	6	
	選択必須科目	32	36	36	
合計	区分の規定に従って 取得した単位数と共 通科目、専門科目及 び教職に関する科目 を通じて自由に選択 して取得した単位数 の合計	124	124	124	自由に選択して修得する授 業科目のうち、専門科目は、 所属学科及び他学部他学科 の専門科目とする。

備考 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。

B 音楽学部

2008・2009・2010年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数		備 考
		音楽芸術学科	演奏学科	
共通 科目	基礎教養科目	2	2	キリスト教科目については、基礎教養科目・総合課題科目から各2単位を必修とする。
	総合課題科目	2	2	
	語 学 科 目	8	8	
専門 科目	卒業プロジェクト又は卒業演奏	6	6	
	選択必修科目	34	42	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。

2011年度以降入学者

区 分		卒業に必要な単位数		備 考
		音楽芸術学科	演奏学科	
共通 科目	基礎教養科目	2	2	キリスト教科目については、基礎教養科目・総合課題科目から各2単位を必修とする。
	総合課題科目	2	2	
	語 学 科 目	8	8	
専門 科目	卒業プロジェクト又は卒業演奏	6	6	
	2年次修了公開演奏		3	
	選択必修科目	34	46	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。

C 国際交流学部

2006・2007・2008年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数	備 考
		国際交流学科	
共通 科目	基礎教養科目	2	キリスト教科目については、基礎教養科目・総合課題科目から各2単位を必修とする。 語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
	総合課題科目	2	
	語学科目	10又は22	
専門 科目	卒業論文	6	卒業論文(6単位)に代えて、指導教員の指定する専門科目(6単位)を修得することができる。
	必修科目	8	
	選択必修科目	20	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。

2009年度以降入学者

区 分		卒業に必要な単位数	備 考
		国際交流学科	
共通 科目	基礎教養科目	2	キリスト教科目については、基礎教養科目・総合課題科目から各2単位を必修とする。 語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
	総合課題科目	2	
	語学科目	10又は22	
専門 科目	卒業論文	6	卒業論文(6単位)に代えて、指導教員の指定する専門科目(6単位)を修得することができる。
	必修科目	8	
	選択必修科目	32	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。

別表第6から第8まで (略)

フェリス女学院大学学位規則

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条第1項の規定に基づき、フェリス女学院大学学則(以下「大学学則」という。)及びフェリス女学院大学院学則(以下「大学院学則」という。)に規定するもののほか、フェリス女学院大学が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位及びその種類は、次のとおりとする。

- (1) 学士(文学)、学士(音楽)又は学士(国際交流学)
- (2) 修士(文学)、修士(音楽)又は修士(国際交流)
- (3) 博士(文学)又は博士(国際交流)

第2章 学士

(学士の学位授与)

第3条 学長は、本学の各学部において、各学科所定の課程を修了し、大学学則第18条の規定により卒業資格の認定を受けた者には、その卒業を認め、学士の学位を授与し、別記様式第1の卒業証書・学位記を交付する。

2 前項の規定により授与する学士の学位は、文学部を卒業した者には学士(文学)、音楽学部を卒業した者には学士(音楽)、国際交流学部を卒業した者には学士(国際交流学)とする。

第4条 本学において学士の学位を授与された者がその学位の名称を用いるときは、これに本学名を付して学士(文学、音楽又は国際交流学)(フェリス女学院大学)とする。

第3章 修士

(修士の学位授与の要件)

第5条 学長は、本学の大学院各研究科において、各専攻の修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士の学位申請論文又は特定の課題についての研究の成果(以下「研究成果」という。)を提出してその審査及び最終試験に合格した者に、大学院学則第14条第1項の規定により、修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りる。

2 前項の規定により授与する修士の学位は、人文科学研究科を修了した者には修士(文学)、音楽研究科を修了した者には修士(音楽)、国際交流研究科を修了した者には修士(国際交流)とする。

(修士の学位申請論文の提出)

第6条 修士課程及び博士前期課程に1年以上在学し、所定の授業科目を20単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、課程修了予定年次の1月に修士の学位申請論文を提出することができる。

2 修士の学位申請論文は、研究指導教員を経て、研究科委員会に提出しなければならない。

3 大学院学則第18条ただし書及び第5条ただし書の規定を適用されている者の修士の学位申請論文の提出時期については、研究科委員会の定めるところによる。

(修士の学位申請論文)

第7条 修士の学位申請論文は、1編1部とする。ただし、修士の学位を申請する論文に、参考として他の論文を添付することができる。また、審査のため必要があるときは、参考論文、関係資料等を提出させることがある。

(修士の学位申請の論文の審査委員)

第8条 研究科委員会は、第6条の規定により修士の学位申請論文が提出されたときは、研究科の教員のうちから、修士の学位申請論文に関連のある授業科目を担当する教員及び研究指導を担当する教員合わせて3名以上を審査委員(うち1名は主査)に選出する。

2 研究科委員会は、審査のため必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず、前項に規定する教員以外の教員及び学識経験者を審査委員に加えることができる。

3 審査委員は、修士の学位申請論文の審査、最終試験に関する事項を行うものとする。

(修士の教育成果の提出等)

第8条の2 修士の研究成果の提出及び審査の方法等については、別に定める。

(修士の学位申請論文及び研究成果の審査基準)

第9条 修士の学位申請論文及び研究成果は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を示すものでなければならない。

(修士の最終試験)

第10条 大学院学則第11条及び第12条に規定する最終試験は、修士の学位申請論文又は研究成果の内容及びこれに関連する専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力等について行う。

第4章 博士

(博士の学位授与の要件)

第11条 学長は、本学の大学院人文科学研究科又は国際交流研究科において、各専攻の博士課程に5年(修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の授業科目を38単位以上(修士課程又は博士前期課程を修了した者にあつては、当該課程で修得した30単位を含む。以下同じ。)修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出してその審査及び最終試験に合格した者に、大学院学則第14条第1項の規定により、博士の学位を授与する。ただし、特に優れた業績を上げた者の在学期間は、大学院学則第11条の2の第1項から第3項までのただし書に規定するところによる。

2 博士課程において5年以上在学し、所定の授業科目を38単位以上修得して退学した者が、退学後3年以内に学位申請論文を提出するときは前項に規定するところによる。

3 前2項の規定にかかわらず、博士課程を経ない者についても博士の学位申請論文を提出してその審査及び試験に合格し、その関係専攻分野に関し本学の大学院人文科学研究科又は国際交流研究科博士課程を修了した者と同等以上の学識を有すると確認した場合には、博士の学位を授与することができる。

4 本学の大学院人文科学研究科又は国際交流研究科博士

課程に5年以上在学し、所定の授業科目を38単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けて退学した者が、退学後3年を超えて博士の学位申請論文を提出するときは前項に規定するところによる。

- 5 前4項の規定により授与する博士の学位は、人文科学研究科を修了した者には博士（文学）、国際交流研究科を修了した者には博士（国際交流）とする。
（博士課程在学者の学位申請論文の提出）

第12条 第11条第1項の規定により、博士課程に4年以上在学し、所定の授業科目を38単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、課程修了予定年次の10月に博士の学位申請論文を提出できる。

- 2 博士の学位を申請する者は、博士学位申請書に、学位申請論文1編4部、論文要旨4部及び履歴書4通を添え、研究指導教員を経て、研究科委員会に提出しなければならない。ただし、博士の学位申請論文に、参考として他の論文を添付することができる。また、審査のため必要があるときは、参考論文、関係資料等を提出させることができる。
- 3 大学院学則第18条ただし書及び前条第1項のただし書の規定が適用されている者の博士の学位申請論文の提出時期については、研究科委員会の定めるところによる。
- 4 提出した学位申請論文を撤回する場合は、最終試験実施日から7日後までに、博士学位申請撤回届を学長に提出しなければならない。
（博士課程を経ない者の博士学位申請論文の提出及び博士論文審査手数料）

第13条 第11条第3項及び第4項の規定により、博士の学位申請論文を提出するときは、本学研究科に所属する関係専門分野の教授の許可を受けた上で、学位申請書に、博士の学位申請論文1編4部、論文要旨4部、論文目録4通、履歴書4通及び博士論文審査手数料を添え、学長に提出しなければならない。ただし、博士の学位申請論文に、参考として他の論文を添付することができる。

- 2 博士の学位申請論文の提出の時期は、毎年度の始めとする。
- 3 博士論文審査手数料は、別に定める。
- 4 提出した学位申請論文を撤回する場合は、最終試験実施日から7日後までに、博士学位申請撤回届を学長に提出しなければならない。
（博士の学位申請論文の審査委員）

第14条 研究科委員会は、第12条及び第13条の規定により、博士の学位申請論文が提出されたときは、研究科の教員のうちから、博士の学位申請論文に関連のある授業科目を担当する教員及び研究指導を担当する教員合わせて3名以上を審査委員（うち1名は主査）に選出する。

- 2 研究科委員会は、審査のため必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず、前項に規定する教員以外の教員及び学識経験者を審査委員に加えることができる。
- 3 審査委員は、博士の学位申請論文の審査、学力学識の確認、最終試験に関する事項等を行う。
（博士の学位申請論文の審査基準）

第15条 博士の学位申請論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及その基礎となる豊かな学識を示すものでなければならない。
（博士の最終試験）

第16条 大学院学則第11条の2及び第12条に規定する最終試験は、博士の学位申請論文の内容及び専攻分野について研究者として自立して行う研究活動又は高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識等について、筆記又は口頭で行う。

- 2 博士課程を経ない者で、博士の学位申請論文を提出した者については、前項のほか本大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力学識を有するか否かを確認する。
（博士論文要旨等の公表）

第17条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。
（博士論文の公表）

第18条 博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から1年以内に「フェリス女学院大学審査学位論文」である旨を明記して、当該論文を印刷公表しなければならない。ただし、当該学位を授与される前に印刷公表したときはこの限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、研究科委員会の承認を得て、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを、「フェリス女学院大学審査学位論文の要旨」である旨を明記して、印刷公表することができる。この場合、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
（博士の学位授与の報告等）

第19条 本学が博士の学位を授与したときは、学長は、当該学位を授与した日から3月以内に、別記様式第3による学位（博士）授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。
（学位簿登録）

第20条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、学位簿に登録する。

第5章 修士・博士共通事項

（学位申請論文の審査期間等）

第21条 審査委員は、修士については、学位申請論文又は研究成果の受理後、2月以内に、博士については、博士課程在学中の者の場合は学位申請論文の受理後、5月以内に、博士課程を経ない者（博士後期課程を退学した者を含む。）の場合は学位申請論文の受理後、10月以内にその審査及び最終試験を終了しなければならない。
（審査結果の報告）

第22条 審査委員は、学位申請の論文又は研究成果の審査及び最終試験を終了したときは、審査の結果及び評価に関する意見を付して、最終試験の成績とともに、研究科委員会に報告しなければならない。

- 2 審査委員は、学位申請の論文又は研究成果の審査の結果、その内容が著しく不適格であると認めるときは、最終試験を行わないことができる。この場合には、審査委員は、その旨を研究科委員会に報告しなければならない。
（研究科委員会の審議）

第23条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて審議し、修士又は博士の学位を授与することの可否を議決する。

- 2 前項の議決は、研究科委員会の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成がなければならない。
- 3 研究科委員会が第1項の議決をしたときは、研究科委員

長はすみやかに、学長及び大学評議会に報告しなければならない。

(学位記の交付)

第24条 学長は、前条第3項の報告に基づいて、修士又は博士の学位の授与を議決された者に別記様式第2の学位記を交付する。

2 修士又は博士の学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位の名称)

第25条 本学において、修士又は博士の学位を授与された者がその学位の名称を用いるときは、これに本学名を次のとおり付記するものとする。

(1) 修士(文学、音楽又は国際交流)(フェリス女学院大学)

(2) 博士(文学又は国際交流)(フェリス女学院大学)

第6章 その他

(学位授与の取消)

第26条 本学において、学位を授与された者に次の事実があったときは、学長は、教授会又は研究科委員会及び大学評議会の議を経て、その授与した学位を取り消すもの

とする。

イ 不正な方法によって学位の授与を受けた事実が判明したとき

ロ 名誉を汚す行為があったとき

(改正)

第27条 この規則の改正は、大学院委員会及び大学評議会の議を経て、理事会が行う。

附 則〔2001年10月25日理事会決定〕

この規則は、2001年10月25日から施行し、2001年4月1日から適用する。

附 則〔2003年9月25日理事会決定〕

この規則は、2003年9月25日から施行し、2003年4月1日から適用する。ただし、この規則の改正前に退学した博士後期課程単位取得満期退学者の取扱いについては、改正後の第13条第3項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2007年2月22日理事会決定〕

この規則は、2007年4月1日から施行する。

附 則〔2008年2月28日理事会決定〕

この規則は、2008年2月28日から施行し、2007年度に提出された学位申請論文から適用する。

別記様式第1 (第3条関係)

卒業証書・学位記	
大学印	氏名
年 月 日 生	
本学 学部 学科所定の	
課程を修めて本学を卒業したことを認め	
学士()の学位を授与する	
年 月 日	
学○第 号	
フェリス女学院大学○○学部長	
フェリス女学院大学	
印	

別記様式第2の1 (第5条・第24条関係)

学位記	
大学印	氏名
年 月 日 生	
本学大学院 研究科 専攻の	
博士前期課程	
修士課程	
を修了したので修士()	
の学位を授与する	
年 月 日	
修○第 号	
フェリス女学院大学	
印	

別記様式第2の2 (第11条第1項・第24条関係)

学位記	
大学印	氏名
年 月 日 生	
本学大学院 研究科 専攻	
の博士課程を修了したので博士()	
の学位を授与する	
年 月 日	
博○甲第 号	
フェリス女学院大学	
印	

別記様式第2の3 (第11条第3項・第24条関係)

学位記	
大学印	氏名
年 月 日 生	
本学に学位論文「 論 文	
を提出し所定の審査及び試験に合格したので	
博士()の学位を授与する	
年 月 日	
博○乙第 号	
フェリス女学院大学	
印	

報告番号	博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者				博士課程の修了等の状況			博士論文名	授与年月日	博士論文受理年月日	論文審査終了年月日
		(ふりがな)氏名	性別	生年月日	本籍	大学院名	研究科(専攻)名	修了(中退)年月日				
甲 第 号 乙	博士()				都道府県							
甲 第 号 乙	博士()				都道府県							
甲 第 号 乙	博士()				都道府県							
甲 第 号 乙	博士()				都道府県							

備 考

- 1 報告番号は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）により授与された博士の一連番号とし、第4条第1項によるものについては「甲第号」、同条第2項によるものについては「乙第号」とすること。
- 2 博士の学位を授与された者が日本国籍以外の国籍を有する場合には、本籍に代えて当該国籍を記入すること。
- 3 博士論文の題名が外国語で表示されている場合には、日本語訳を（ ）を付して記入すること。
- 4 この報告書は、学位規則第12条（本学学位規則第19条）に定める期間内に、該当する者をまとめて、随時に一覧表の形で提出すること。

フェリス女学院大学転学部・転学科内規

(目的)

第1条 この内規は、フェリス女学院大学学則第31条第2項に基づき転学部、転学科の取扱いに関して定める。

(受入れ人数)

第2条 転学部、転学科に関して教授会は、各学部、各学科の定員の範囲内で、各学部、各学科毎の受入れ人数を決定する。

(出願)

第3条 転学部、転学科を希望する者は、所定の期日までに、転学部願又は転学科願を教務課に提出するものとする。

(選考及び合否判定)

第4条 転学部、転学科の選考は、受入れ学部・学科が行い、第1次選考は書類選考とし、第2次選考は学力試験又は実技試験並びに面接によるものとする。この場合、入学試験を利用することができる。

2 転学部、転学科の合否判定は、教授会が行い、その結果を大学評議会に報告する。

(単位の認定及び在学期間)

第5条 前条により転学部又は転学科を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位等の取扱いについては、

教授会が定める。

2 転学部又は転学科した学生の在学期間は、転学部又は転学科以前の在学期間と合わせて8年(3年次編入学生にあつては4年)を超えることはできない。

3 転学部又は転学科した学生の年次は、転学部又は転学科前の年次にかかわらず、2年次又は3年次とし、教授会が個別にこれを定める。

(選考料)

第6条 第1次選考合格者は、次の選考料を納付するものとする。

選考料 転学部 入学検定料と同額

転学科 6,000円

2 すでに納めた選考料は、理由の如何にかかわらず、これを返還しない。

第7条 この内規の改廃は、大学評議会がこれを行う。

附 則

この内規は、1996年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、1997年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、2005年4月1日から施行する。

フェリス女学院大学再入学に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、フェリス女学院大学学則(以下「学則」という。)第34条の2に基づき再入学に関し、必要な事項を定める。

(再入学先)

第2条 本学を退学した者又は本学から除籍を受けた者が再入学を願った場合、教授会の議を経て、退学又は除籍時に在籍していた学科への再入学を許可することがある。

2 再入学を希望する者が在籍していた学科が、改組等により廃止されていた場合、教授会の議を経て、当該改組等に基づき設置された学科への入学を許可することがある。

(出願)

第3条 再入学の出願は、退学した日又は除籍を受けた日の属する年度の末日から、原則として2年以内の所定の期間内に行わなければならない。

2 再入学に出願の時期は、1月又は7月とする。

3 再入学を希望する者は、再入学検定料を納付のうえ所定の「再入学願」を提出しなければならない。

4 再入学検定料の金額は、再入学を希望する年度の入学検定料の半額とする。

(手続)

第4条 再入学を許可された者は、所定の期日までに再入学金及び授業料等校納金を納付のうえ、所定の入学手続を行わなければならない。

2 再入学金の額は、再入学した年度の入学金の半額とする。

3 授業料及び実習費の金額は、再入学した年度の1年次生に適用する額とする。

4 施設設備費の金額は、再入学した年度の2年次生に適用する額とする。ただし、退学又は除籍以前の在学期間が、学則に定める所定の修業年限を超えている者は、施設設備費の納付を必要としない。

(再入学の時期)

第5条 再入学の時期は、学則に定められた入学の時期とする。

(学年及び在学期間)

第6条 再入学者の学年は、原則として退学又は除籍時の学年とする。

2 退学又は除籍以前の在学期間及び再入学後の在学期間を合わせた期間が、学則に定める当該者の在学期間を超えることはできない。

(履修方法)

第7条 再入学者の卒業に必要な単位数及び履修方法は、原則として退学又は除籍時のものが適用される。

(単位認定)

第8条 再入学者が退学又は除籍以前に修得した単位は、教授会の議を経て、その全部又は一部を認定することができる。

(内規の改廃)

第9条 この内規の改廃は、教授会の議を経て大学評議会が行う。

附 則

この内規は、1997年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、2002年4月1日から施行する。

諸規則

転学部・転学科内規
再入学に関する内規

フェリス女学院大学科目等履修生規程

(目的)

第1条 この規程は、フェリス女学院大学学則（以下「学則」という。）第43条に基づき、科目等履修生の取扱いに関して定める。

(資格)

第2条 科目等履修生として出願することのできる者は、本学の学生以外の者で、学則第25条第1号から第7号に該当する者とする。ただし、本学と教育交流の協定のある高等学校の生徒は、この限りではない。

(許可)

第3条 科目等履修を願い出た者があるときは、正規の学生の学習を妨げない場合に限り、選考のうえ、これを許可する。
(授業科目)

第4条 科目等履修生として履修できる授業科目は、教授会の定めるところによる。
(出願)

第5条 科目等履修を志願する者は、所定の期日までに次の書類を提出し、学則第43条に定められた選考料を納入しなければならない。ただし、外国人の場合はこの他に日本留学試験合格証明書または日本語能力試験一級合格証明書を提出しなければならない。

- (1) 科目等履修志願書（本学所定）
- (2) 履歴書（本学所定）
- (3) 最終出身学校単位修得証明書及び卒業証明書
ただし、在学中の場合は成績証明書及び在学証明書
- (4) 健康診断書

2 本学において科目等履修を修了した者が、あらためて科目等履修を志願する場合は、前項第2号及び第3号の書類並びに日本語能力試験一級合格証明書の提出を必要としない。また、前項第4号の書類は2学期にわたり科目等履修する場合、2学期目の志願の際には提出を必要としない。
(選考)

第6条 科目等履修生の選考は、教授会が行う。その方法は、原則として面接及び書類選考とし、必要がある場合は、学力試験又は実技試験を行う。
(手続)

第7条 履修を許可された者は、所定の期日までに次の書類を提出し、学則第43条に定められた受講料等を納入しなければならない。

- (1) 科目等履修生原簿（写真貼付）
- (2) 科目等履修届
- (3) 誓約書
- (4) 写真

2 所定の期日までに前項の手続がない場合は、履修の許可を取り消すことがある。
(選考料及び受講料等)

第8条 (削除)

(期間)

第9条 履修期間は、1学期とする。

(単位の認定)

第10条 科目等履修生が履修した授業科目について、単位認定を希望する場合は、試験を行い、合格した者に対して単位を認定する。

2 前項によって認定する単位数は、1学期間に16単位を超えないものとする。

(科目等履修生証)

第11条 科目等履修生は、科目等履修生証の交付を受け、学内においては常にこれを携帯しなければならない。
(許可の取消)

第12条 次の各号の一に該当する場合は、履修の許可を取り消すことがある。

- (1) この規程その他本学の諸規則に違反する行為があったと認められたとき。
- (2) 本学の秩序を乱したと認められたとき。

第13条 科目等履修生には、この規程のほか、本学の諸規則を準用する。

第14条 科目等履修生に関してこの規程に定めのない事項については、大学評議会が決定する。

第15条 この規程の改廃は、大学評議会がこれを行う。

附 則

この規程は、1997年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2003年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、2006年4月1日から施行する。

2 フェリス女学院大学科目等履修生の受講料等に関する内規は、廃止する。

附 則

この規程は、2008年4月1日から施行する。

参考

フェリス女学院大学学則別表第8(第43条関係)

科目等履修生受講料等

選考料 (ただし、本学卒業者は無料とする。)	5,000円
登録料・施設設備利用料	5,000円
受講料（1単位につき）	
講義科目	5,000円
実習又は演習科目	10,000円
音楽学部実技科目	30,000円
単位認定料（1単位につき）	
講義科目	7,500円
実習又は演習科目	15,000円
音楽学部実技科目	20,000円

フェリス女学院大学留学に関する規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、フェリス女学院大学学則（以下「学則」という。）第28条の2による本学学生の留学、学則第44条による外国人留学生及び学則第44条の2による交換留学生並びにフェリス女学院大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第23条による本学大学院学生の留学について、学則又は大学院学則に定めるもののほか、資格、手続その他の事項を定める。

第2章 派遣留学生

(派遣留学生の定義)

第2条 この規程において派遣留学生とは、本学に在籍する学部学生又は大学院学生で、次の各号のいずれかに該当する者をいう。

- (1) 本学と協定のある外国の大学（これに相当する高等教育機関を含む。）において、当該協定の定めるところに従って学修する場合
- (2) 修学上の必要から、本学の許可を得て、外国の大学において、当該大学の定めるところに従って学修する場合
- (3) 第1号により留学する者を派遣交換留学生といい、第2号により留学する者を認定留学生という。

(対象大学)

第3条 留学の対象となる外国の大学は、本学と協定のある大学又は当該国の法令によって設置を認可された大学とする。

(資格)

第4条 留学できる学生は、留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の派遣留学生としてふさわしく、留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有し、かつ次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 学部学生については、志願時の前学期数に原則として15単位を乗じた単位数以上を修得し、留学開始時において2学期以上在籍し、かつ本学における累積GPAが2.1以上の者
- (2) 大学院学生については、志願時の前学期数に原則として5単位を乗じた単位数以上を修得し、留学開始時において1学期以上在籍する者
- (3) 在籍する学部の教授会又は大学院の研究科委員会がそれぞれ別に定める資格を満たしている者

2 派遣交換留学生については、前項のほか、当該協定に定める資格を満たしていなければならない。

(出願手続)

第5条 留学をしようとする者は、別に定める期日までに、次の各号の書類を在籍する学部の学部長又は大学院の研究科長に提出しなければならない。ただし、派遣交換留学生については、第2号及び第3号の書類の提出は必要ない。

- (1) 本学所定の志願書
- (2) 外国の大学が発行する入学許可書又は受入書等
- (3) 前号の大学が発行する大学概要及び講義要項等
- (4) その他学部教授会又は研究科委員会が必要と認める書類

2 派遣交換留学生の選考及び認定留学生の承認は、大学海外交流委員会（以下「委員会」という。）の議を経て、

在籍する学部の教授会又は大学院の研究科委員会がこれを行う。

3 委員会は、留学が当該学生にとって教育上有益であるか否かを審査し、その結果を在籍する学部の学部長又は大学院の研究科長に報告する。

(許可)

第6条 留学の許可は、在籍する学部の教授会又は大学院の研究科委員会の議を経て、学長がこれを行う。

(留学期間)

第7条 留学期間は、1学期又は2学期とし、最長1年間とする。

2 留学期間の延長を希望する学生は、別に定められた期日までに、留学期間延長願を在籍する学部の学部長又は大学院の研究科長に提出しなければならない。

3 留学期間延長の許可は、在籍する学部の教授会又は大学院の研究科委員会の議を経て、学長がこれを行う。

4 派遣交換留学生の留学期間は、第1項の規定にかかわらず、当該協定に定めるところによる。

5 留学期間は、学則第9条第2項又は大学院学則第3条第2項の在籍期間に算入されるが、学則第9条第1項又は大学院学則第3条第1項の修業年限に算入することのできる期間は、1年を超えない範囲とする。

(終了手続)

第8条 留学期間を終了した者は、すみやかに次の各号の書類を、在籍する学部の学部長又は大学院の研究科長に提出しなければならない。

- (1) 本学所定の帰国届
- (2) 留学先の大学等が発行する在学期間又は在籍期間を明らかにした証明書
- (3) 成績及び単位修得証明書
- (4) その他学部教授会又は研究科委員会が必要と認める書類

(単位の認定)

第9条 留学期間中に、留学先の大学において修得した単位又は単位の換算できる学修時間数については、在籍する学部の教授会又は大学院の研究科委員会が適当と認めたものに限り、学部の場合は学則第14条の3、大学院の場合は大学院学則第9条の規定により、本学の卒業又は修了に必要な単位として認定することができる。

2 前項の認定業務は、教務課が所管し、大学教務委員会の議を経て、当該学生の在籍する学部の教授会又は大学院の研究科委員会が決定する。

(履修上の取扱い)

第10条 留学先大学の学年暦の差異によって生ずる履修上の取扱いについては、在籍する学部の教授会又は大学院の研究科委員会の定めるところによる。

第11条 留学によって、卒業要件又は修了要件に係る履修上の不利益が生ずる場合には、可能な限り卒業又は修了の延期につながらないよう取り扱うものとする。

2 前項の取扱いは、別に定める。

(学費の取扱い)

第12条 派遣留学生は、留学期間中、定められた本学の在籍料を納入する。

- 2 派遣交換留学生の留学先大学の学費については、留学先大学と本学との間の協定に従い、留学先大学又は本学のいずれかに納入するものとする。

(奨学金の支給)

第13条 留学期間中の1学期又は2学期に限り、大学予算内において奨学金を支給する。

(許可の取消し)

第14条 学長は、留学生について、次の各号のいずれかに該当する場合は、在籍する学部教授会又は大学院の研究科委員会の議を経て、留学を取り消すことができる。

- (1) 留学の成果があがらないと認められるとき。
- (2) 本学学生としての本分に反したとき。
- 2 病気その他やむを得ない事情により、留学の継続が不可能となった場合は、保証人連署の上、すみやかに学長に届け出なければならない。
- 3 第1項又は第2項に該当する場合の取扱いは、在籍する学部の教授会又は大学院の研究科委員会の定めるところによる。
- 4 第1項の規定により、留学の許可を取り消された場合は、第7条第5項、第12条及び第13条の規定による決定はその効力を失う。

第3章 受入留学生

(受入留学生の定義)

第15条 この規程において受入留学生とは、次の各号のいずれかに該当するものをいう。

- (1) 本学と協定のある外国の大学の学部学生又は大学院学生で、当該協定に定めるところに従って本学において学修する場合で、これらの学生を受入交換留学生という。
- (2) 国費により本学において学習、研究を行う者を国費留学生という。
- (3) 外国人で大学及び大学院において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願し、選考のうえ許可されて学修する者で、次のいずれかに該当するものを私費留学生という。
 - ア 出入国管理及び難民認定法第2条の2の別表第1に定める「留学」の資格を有する者
 - イ 出入国管理及び難民認定法第2条の2の別表第1に定める「家族滞在」及び別表第2に定める「日本人の配偶者等」、「永住者の配偶者等」、「定住者」の資

格を有する者

- (4) 外国人で大学及び大学院において教育を受ける目的をもって入国し、科目等履修生を志願し、選考のうえ許可され、前号ア又はイに該当する者を科目等履修生という。

(選考)

第16条 前条第1号及び第2号に規定する受入留学生(受入交換留学生・国費留学生)の選考は、当該協定の定めるところにより協定校が行い、受け入れる学部の教授会又は大学院の研究科委員会の議を経て、学長がこれを許可する。

2 前条第3号及び第4号に規定する受入留学生(私費留学生・科目等履修生)の選考は、学部の教授会又は大学院の研究科委員会が行う。

(種類)

第17条 第15条で規定する受入留学生の身分は、次の各号のとおりとする。

(1) 学部

- ア 受入交換留学生
- イ 国費留学生
- ウ 学部学生(私費留学生)
- エ 科目等履修生(私費留学生)

(2) 研究科

- ア 特別研究生(受入交換留学生/国費留学生)
- イ 特別聴講学生(受入交換留学生/国費留学生)
- ウ 大学院研究科学生(私費留学生/国費留学生)
- エ 大学院研究生(私費留学生/国費留学生)
- オ 大学院科目等履修生(私費留学生)

第4章 雑則

(入学後の取扱い)

第18条 派遣留学生及び受入留学生の取扱いについては、特に定めのない事項は、委員会、学部の教授会又は大学院の研究科委員会の定めるところによる。

(規程の改廃)

第19条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学評議会が行う。

(略)

附 則

この規程は、2010年4月1日から施行する。

諸施設
校地・校舎
個人研究室
教員組織
索引

諸施設

附属図書館

緑園キャンパスには総合的機能を持つ本館があり、山手キャンパスには音楽資料専門の山手分室があります。学部にかかわらずどちらも自由に利用することができます。また、他キャンパスの資料を取り寄せることができ、どちらの館でも返却できます。カウンターでは資料の探し方や利用方法を説明しますので、お気軽にお尋ねください。その他詳細は、図書館発行の「利用案内」または図書館Webサイト(<http://www.library.ferris.ac.jp>)をご覧ください。

情報関連施設

情報センター

本センターでは、学生の皆さんの学習や研究活動の支援のために、コンピュータ設備の運用・管理、講習会の企画・実施などを行っています。また窓口ではノート PC、周辺機器（デジタルビデオカメラ、カードリーダー等）の貸出を行っています。設置機器・ソフトや利用方法について不明な点がある場合には、情報センター窓口にお問い合わせください。Web サイト (<http://sites.ferris.ac.jp/it-center>) でも利用可能施設の案内やマニュアルなど各種情報を発信しています。

語学教育関連施設

言語センター（緑園校舎7号館3階）

言語センターは語学学習を総合的にサポートする施設です。各言語の教材を豊富に揃えており、閲覧・視聴・貸出を行っています。語学科目履修に関する相談も受け付けています。詳しくはWebサイトをご覧ください。（<http://www.ferris.ac.jp/information/summary/center/language-center.html>）

学外施設

(1) 留学生宿舎

※利用等の詳細については、「Ferrisハンドブック」をご覧ください。

(2) 本学は海外研修施設として下記の2施設を所有しています。

- ① パリ国際芸術都市（Cité Internationale des Arts）〈フランス〉
- ② 音楽学部ウィーン教育センター〈オーストリア〉

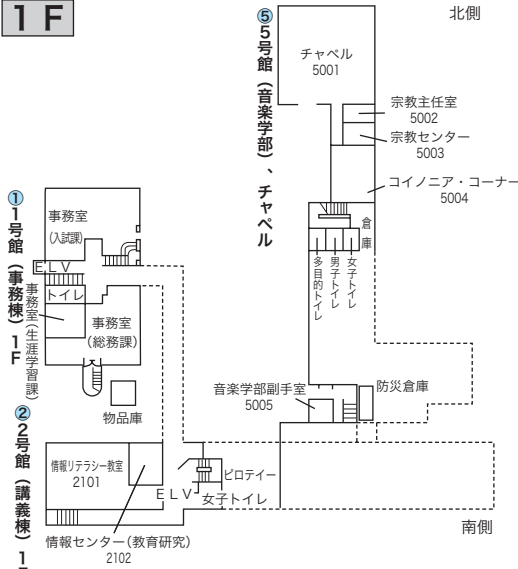
※利用等の詳細については、「Ferrisハンドブック」をご覧ください。



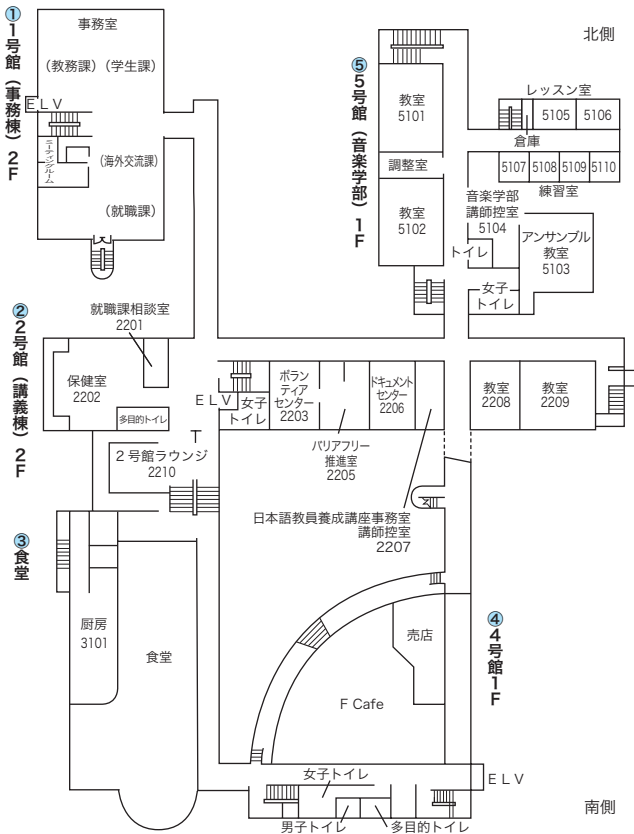
校地・校舎

緑園キャンパス

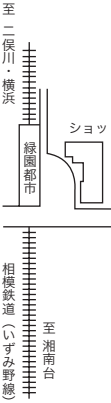
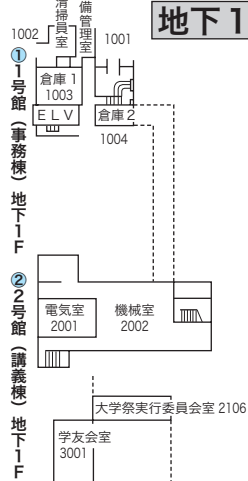
1F



2F

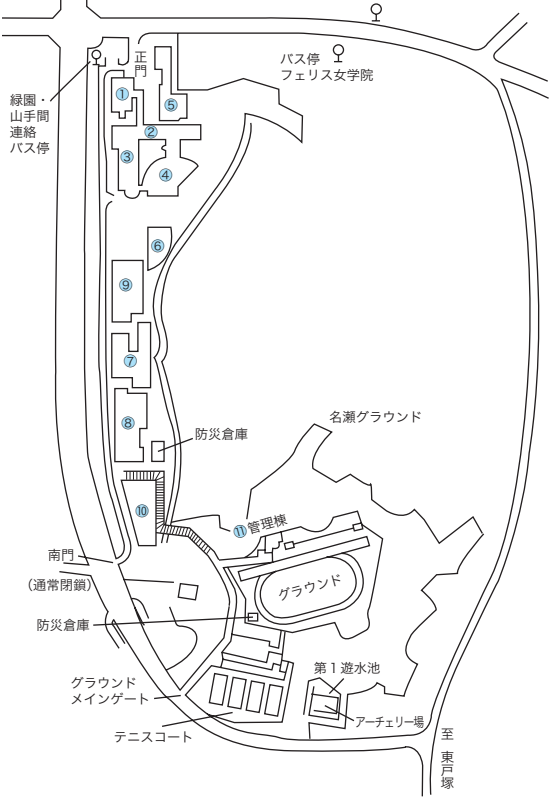


地下1F

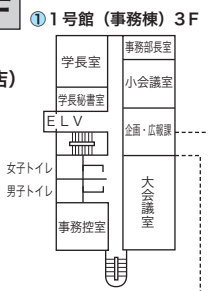


- ① 1号館 (事務棟)
- ② 2号館 (講義棟)
- ③ 食堂
- ④ 4号館 (教室、学生ホール、F Cafe、売店)
- ⑤ 5号館 (音楽学部)、チャペル
- ⑥ キターホール
- ⑦ 7号館 (文学部)
- ⑧ 8号館 (国際交流学部)
- ⑨ 図書館
- ⑩ 緑園体育館・クラブ棟
- ⑪ グラウンド管理棟

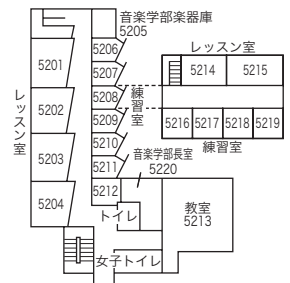
ピングセンター LIFE



3F



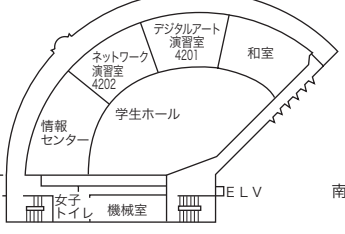
⑤ 5号館 (音楽学部) 2F 北側



② 2号館 (講義棟) 3F

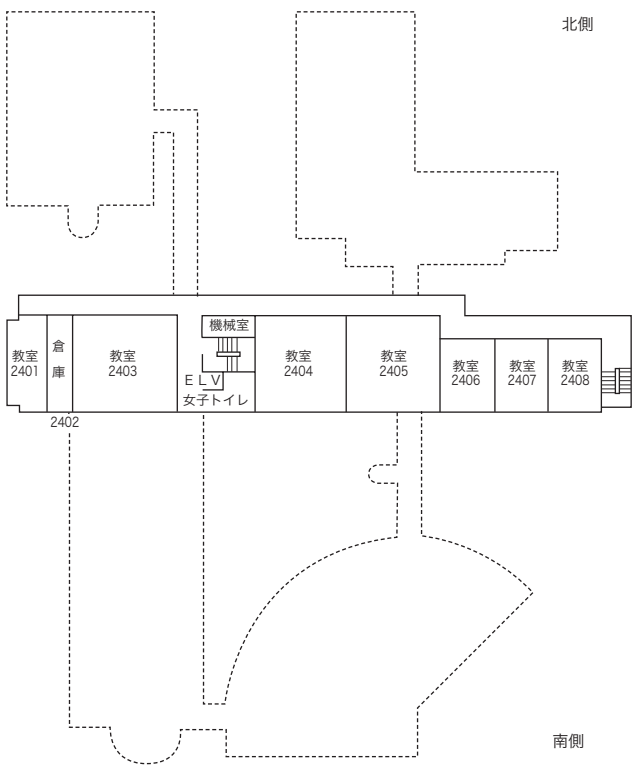


④ 4号館 2F



4F

② 2号館 (講義棟) 4F

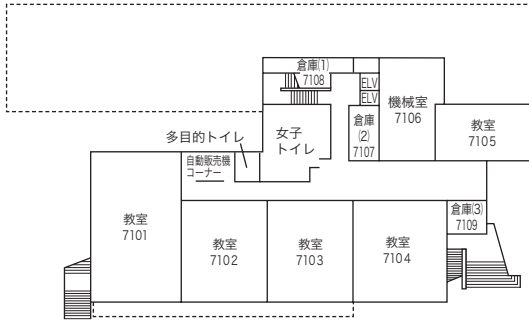


緑園キャンパス

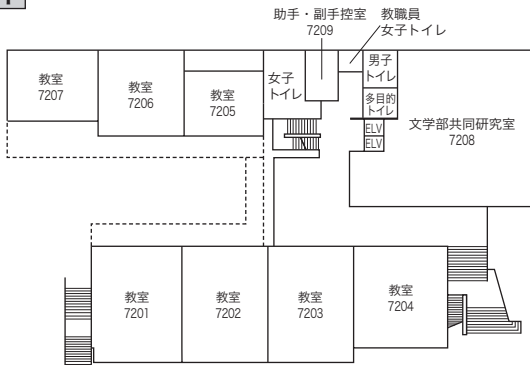
7号館

⑦7号館 (文学部)

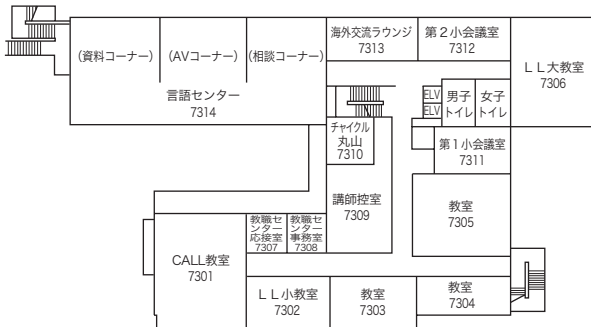
1F



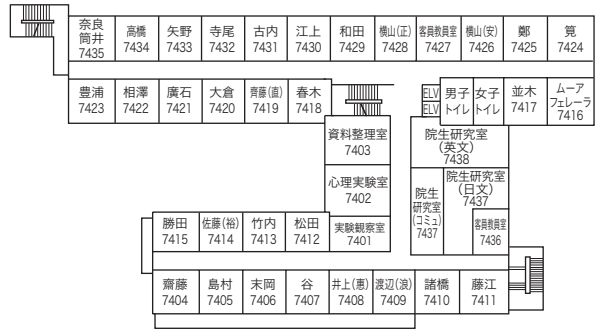
2F



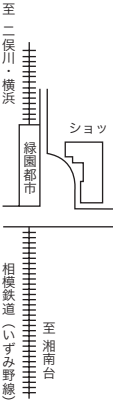
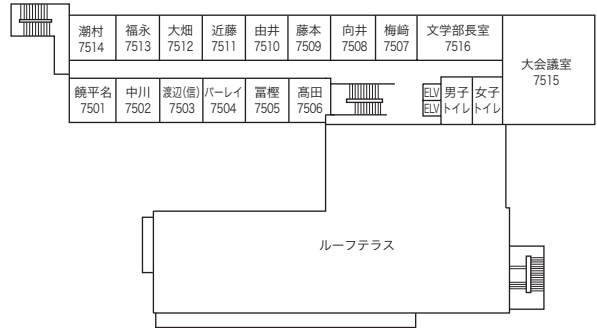
3F



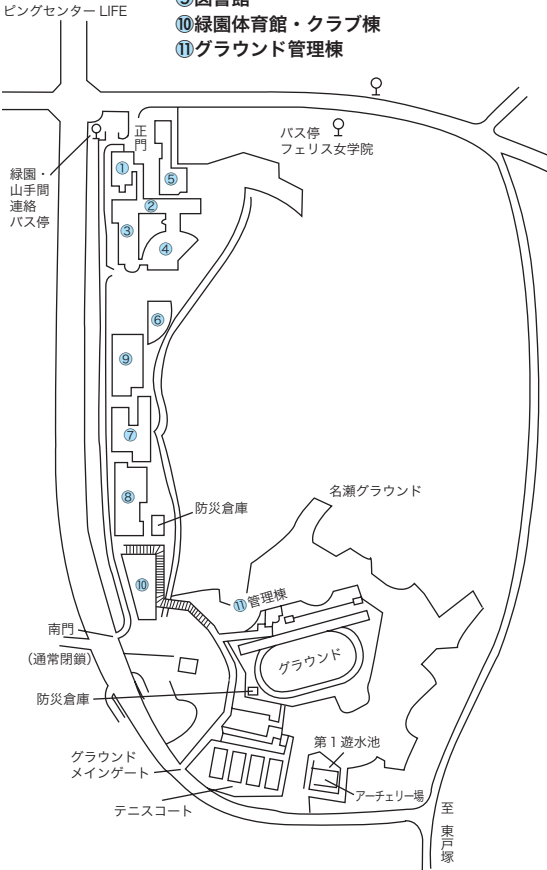
4F



5F

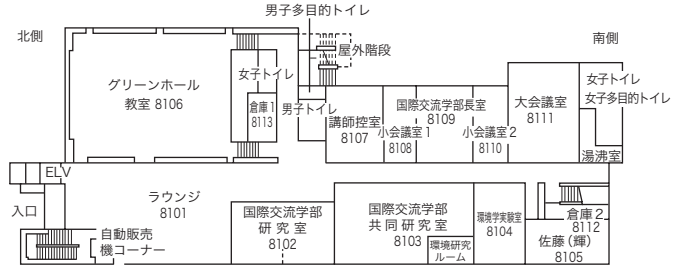


- ① 1号館 (事務棟)
- ② 2号館 (講義棟)
- ③ 食堂
- ④ 4号館 (教室、学生ホール、F Cafe、売店)
- ⑤ 5号館 (音楽学部)、チャペル
- ⑥ キターホール
- ⑦ 7号館 (文学部)
- ⑧ 8号館 (国際交流学部)
- ⑨ 図書館
- ⑩ 緑園体育館・クラブ棟
- ⑪ グラウンド管理棟

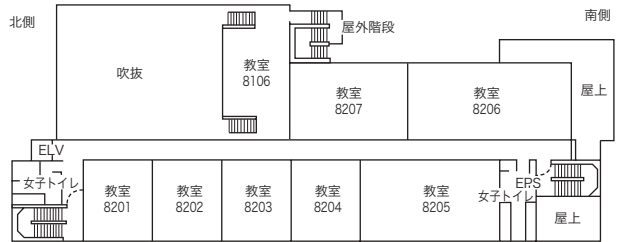


8号館 ⑧ 8号館 (国際交流学部)

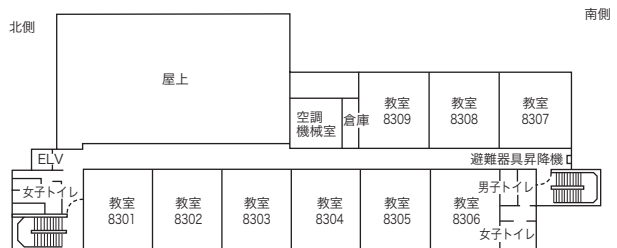
1F



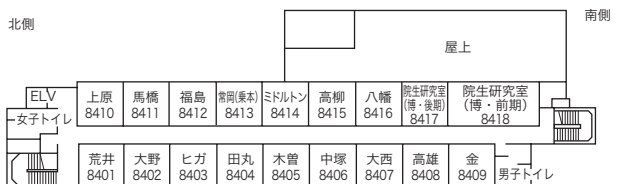
2F



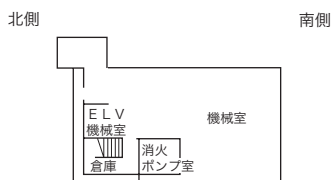
3F



4F



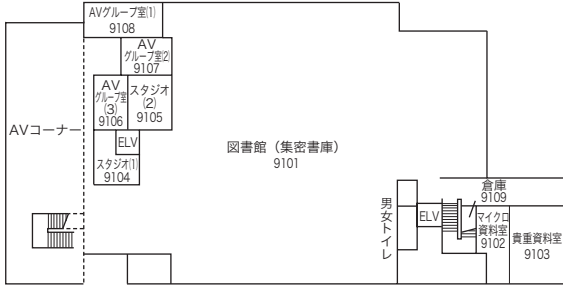
B1F



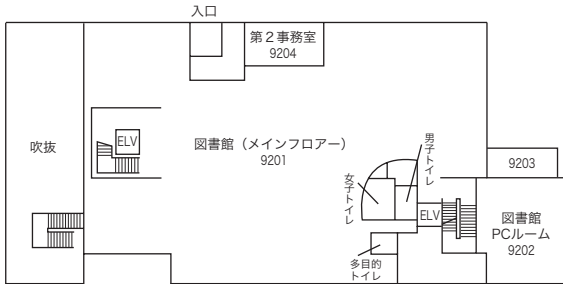
緑園キャンパス

⑨ 図書館

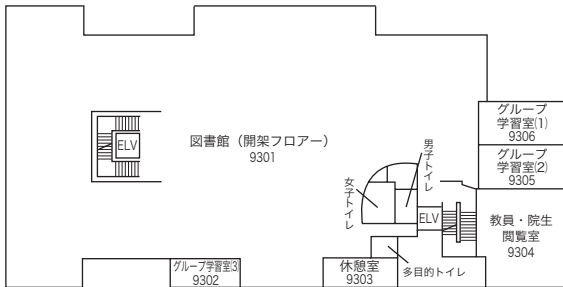
1F



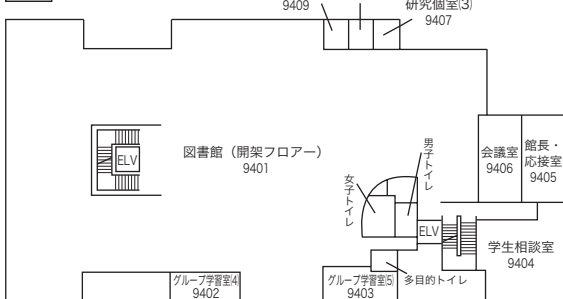
2F



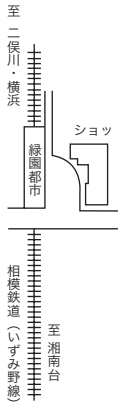
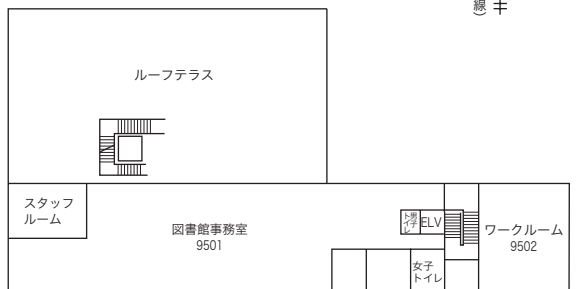
3F



4F

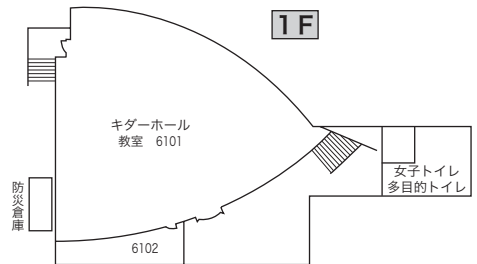


5F

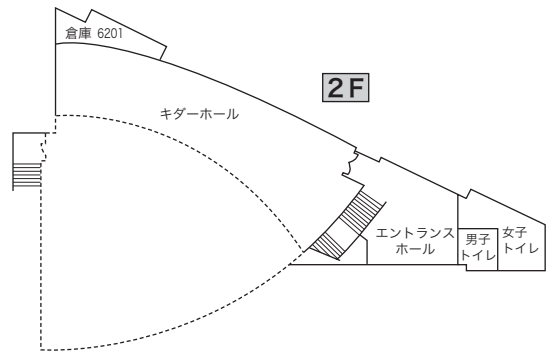


⑥ キダーホール

1F

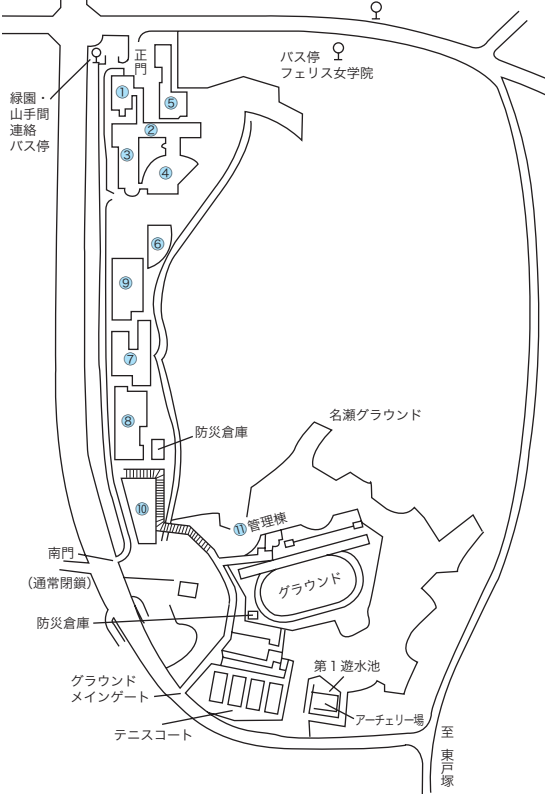


2F



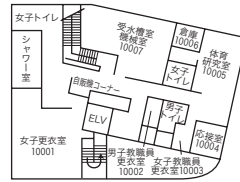
- ① 1号館 (事務棟)
- ② 2号館 (講義棟)
- ③ 食堂
- ④ 4号館 (教室、学生ホール、F Cafe、売店)
- ⑤ 5号館 (音楽学部)、チャペル
- ⑥ キターホール
- ⑦ 7号館 (文学部)
- ⑧ 8号館 (国際交流学部)
- ⑨ 図書館
- ⑩ 緑園体育館・クラブ棟
- ⑪ グラウンド管理棟

ピングセンター LIFE

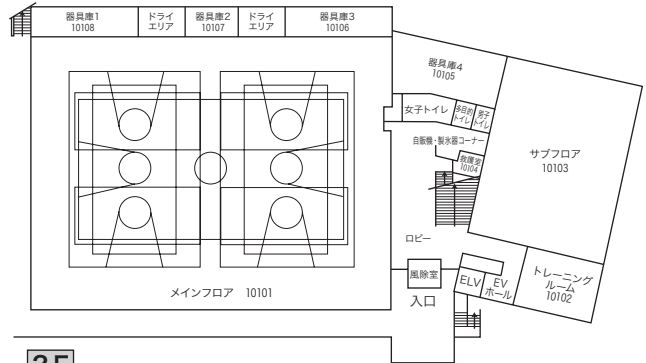


⑩ 緑園体育館・クラブ棟

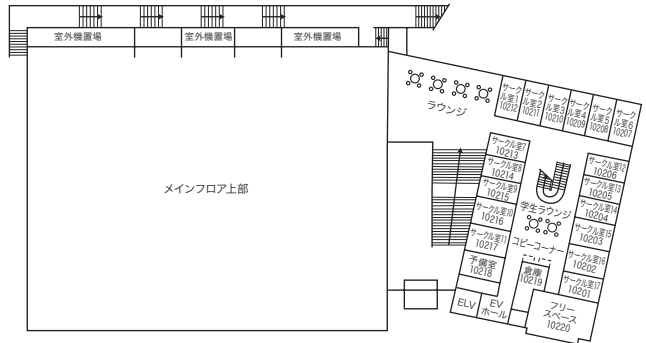
地下1F



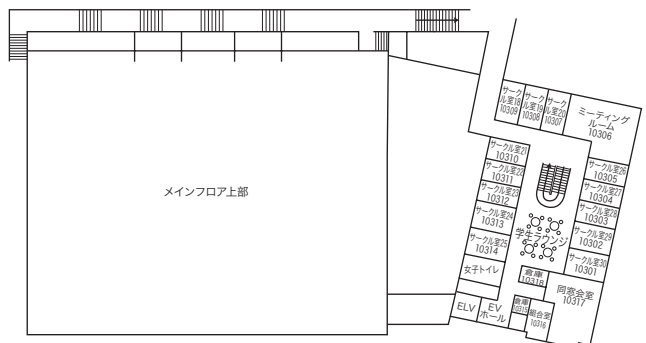
1F



2F



3F



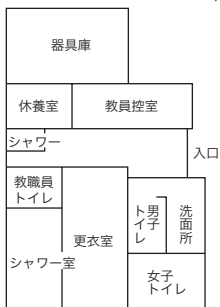
4F

クラブ棟屋上、エコテラス (ピオトップ、太陽光発電、太陽熱温水器)

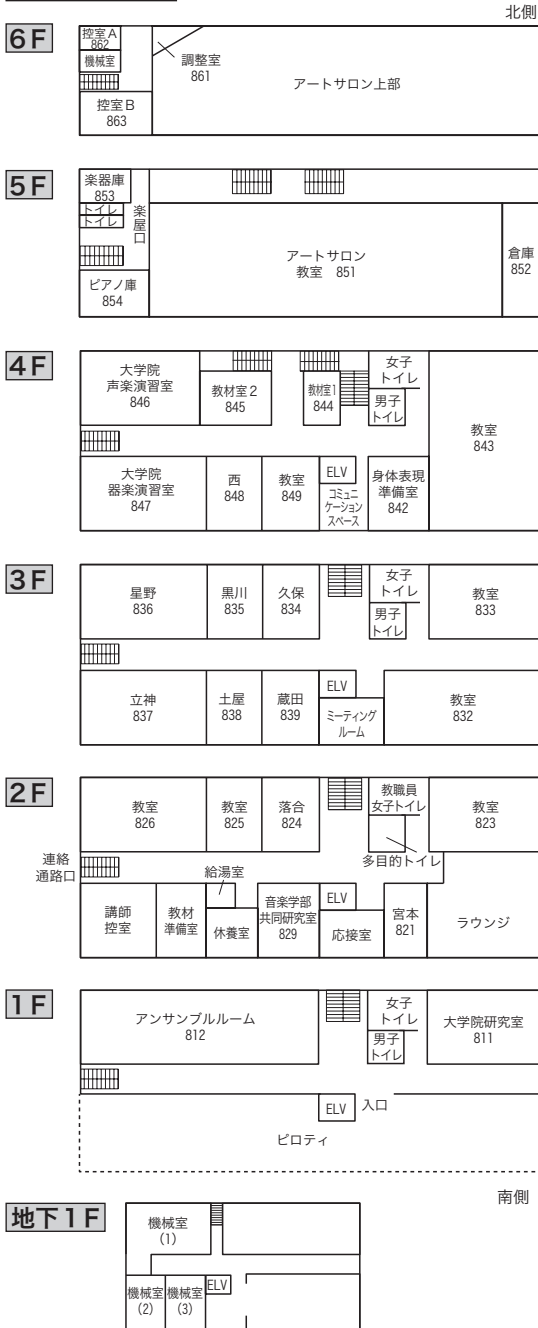
⑪ グラウンド管理棟

北側

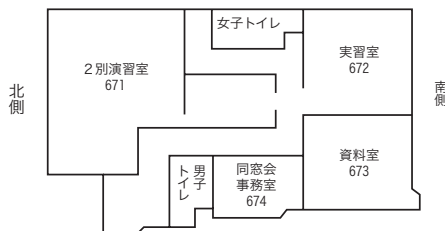
南側



① 8号館

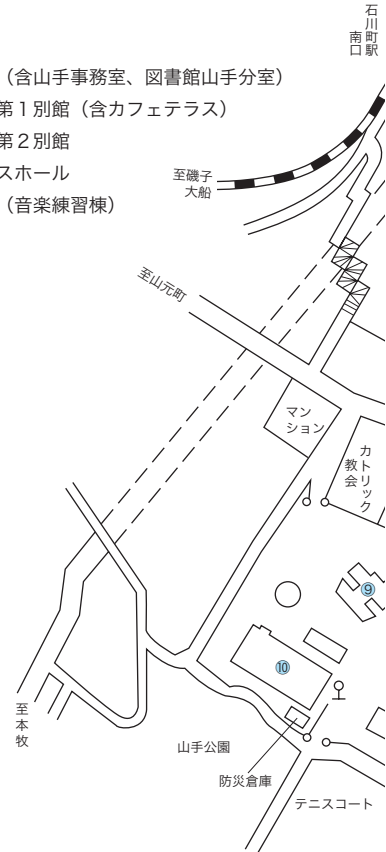


④ 6号館第2別館

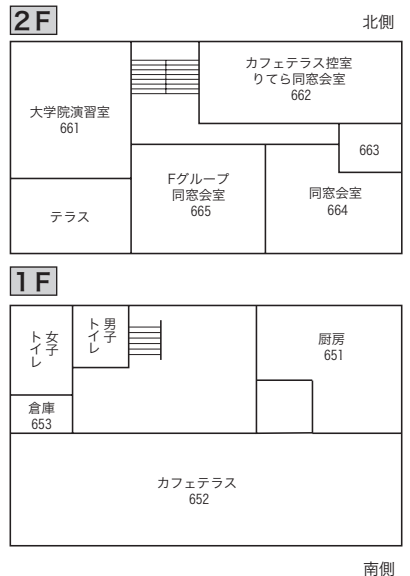


山手キャンパス

- ① 8号館
- ② 6号館 (含山手事務室、図書館山手分室)
- ③ 6号館第1別館 (含カフェテラス)
- ④ 6号館第2別館
- ⑤ フェリスホール
- ⑥ 4号館 (音楽練習棟)
- ⑦ 5号館
- ⑧ 10号館
- ⑨ 11号館
- ⑩ 体育館



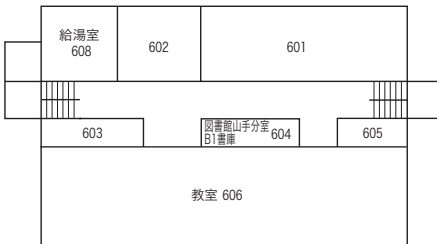
③ 6号館第1別館



② 6号館



地下1F

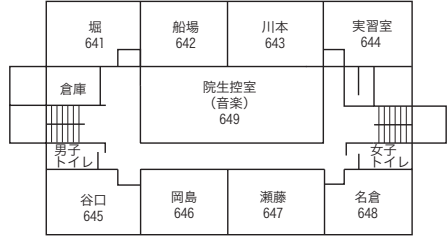


地下2F

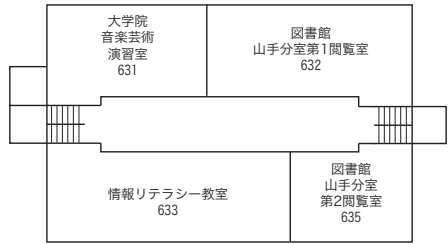


南側

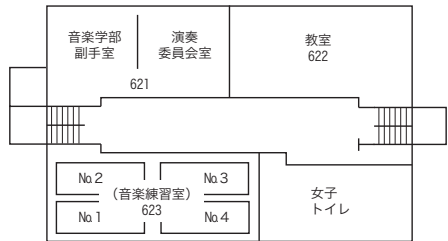
4F



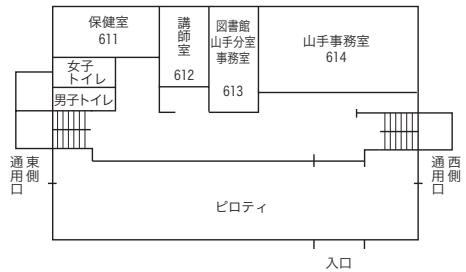
3F



2F

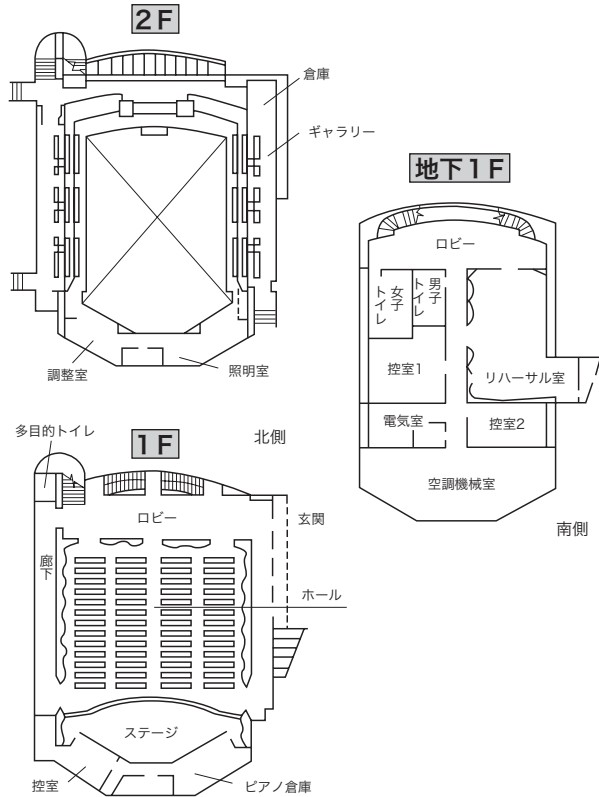


1F



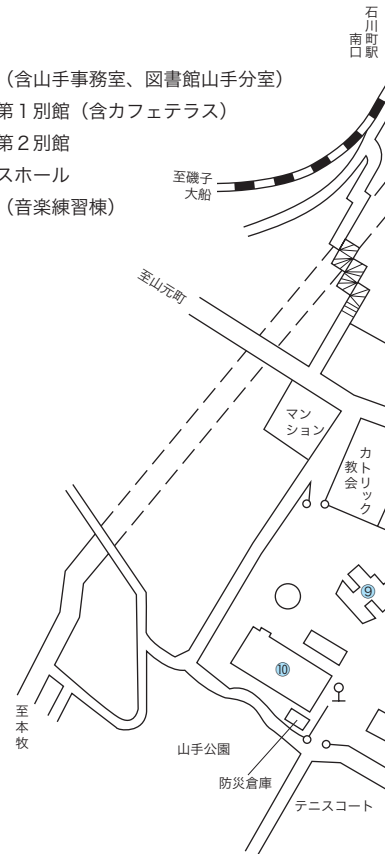
北側

⑤ フェリスホール

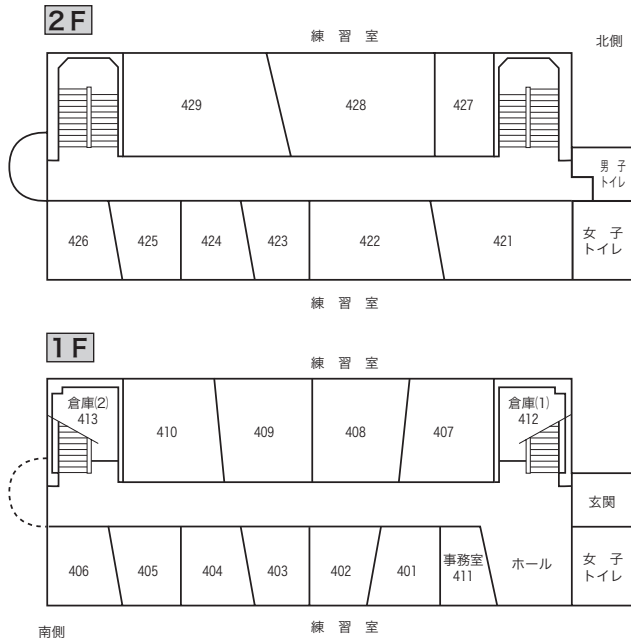


山手キャンパス

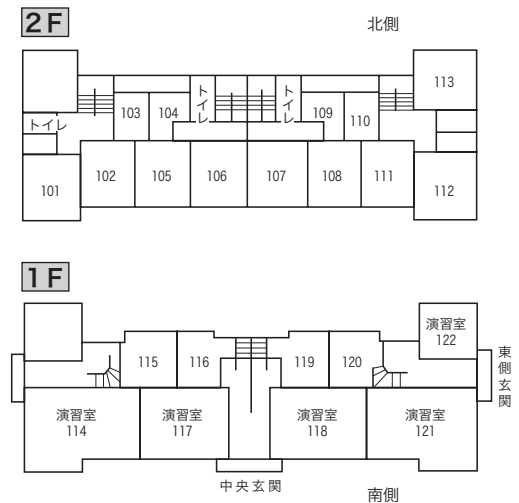
- ① 8号館
- ② 6号館 (含山手事務室、図書館山手分室)
- ③ 6号館第1別館 (含カフェテラス)
- ④ 6号館第2別館
- ⑤ フェリスホール
- ⑥ 4号館 (音楽練習棟)
- ⑦ 5号館
- ⑧ 10号館
- ⑨ 11号館
- ⑩ 体育館



⑥ 4号館

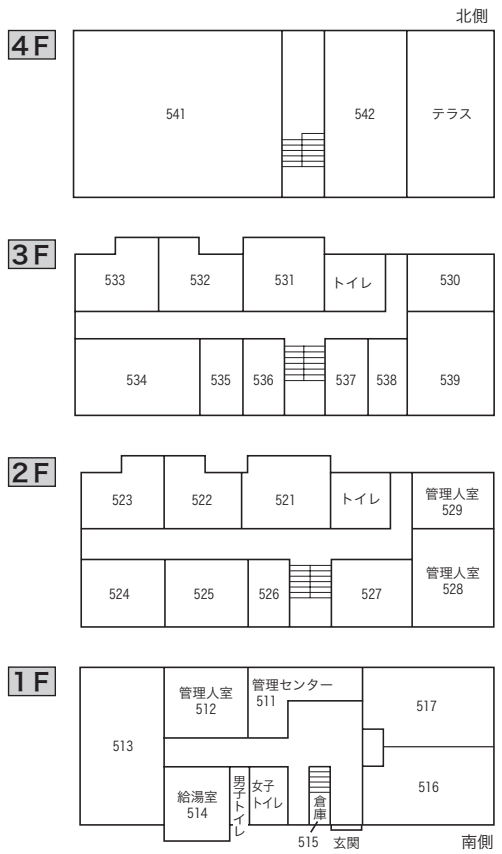
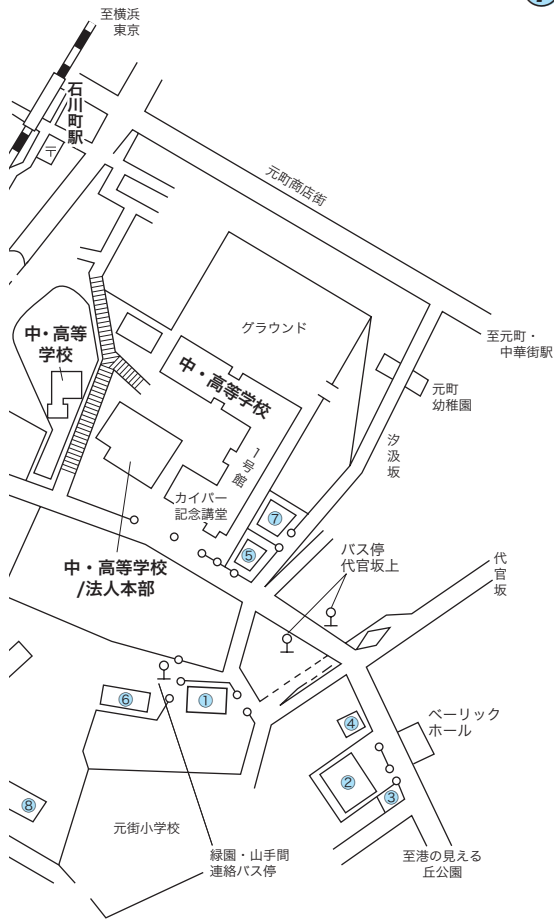


⑧ 10号館

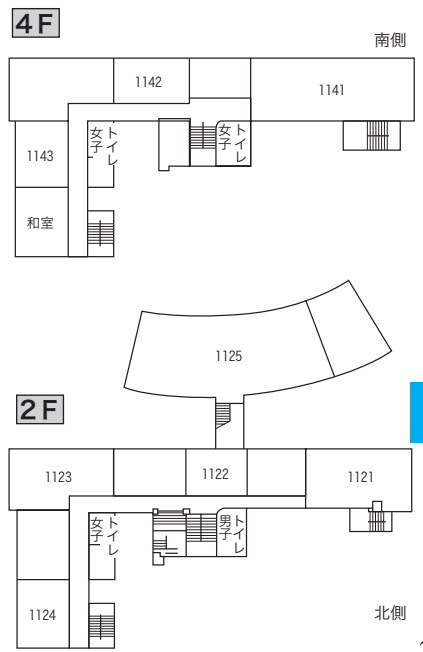
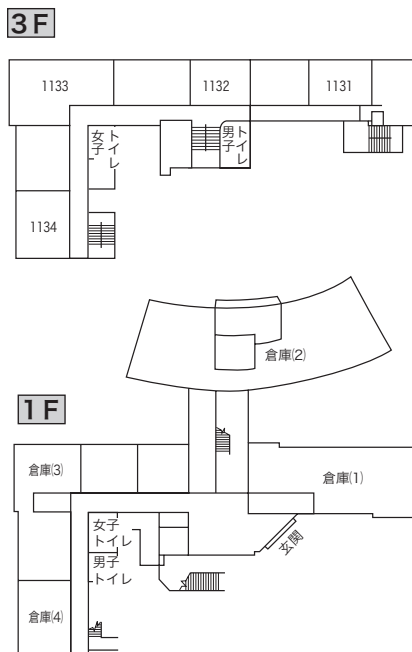
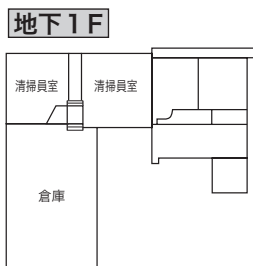


⑩ 体育館

7 5号館



9 11号館



個人研究室

緑園キャンパス

【文学部】

●英文学科

梅崎	7号館・7507号室
大畑	〃 7512号室
近藤	〃 7511号室
チャイクル	〃 7310号室
富樫	〃 7505号室
豊浦	〃 7423号室
中川	〃 7502号室
バーレイ	〃 7504号室
フェレーラ	〃 7416号室
福永	〃 7513号室
藤本	〃 7509号室
丸山	〃 7310号室
ムーア	〃 7416号室
向井	〃 7508号室
由井	〃 7510号室
饒平名	〃 7501号室
渡辺(信)	〃 7503号室

●日本文学科

勝田	7号館・7415号室
佐藤(裕)	〃 7414号室
島村	〃 7405号室
末岡	〃 7406号室
竹内	〃 7413号室
谷	〃 7407号室
藤江	〃 7411号室
松田	〃 7412号室

●コミュニケーション学科

相澤	7号館・7422号室
井上(恵)	〃 7408号室
大倉	〃 7420号室
齋藤(孝)	〃 7404号室
潮村	〃 7514号室
高田	〃 7506号室
高橋	〃 7434号室
諸橋	〃 7410号室
渡辺(浪)	〃 7409号室

【国際交流学部】

●国際交流学科

荒井	8号館・8401号室
上原	〃 8410号室
馬橋	〃 8411号室
江上	7号館・7430号室
大西	8号館・8407号室

大野	8号館・8402号室
笥	7号館・7424号室
木曾	8号館・8405号室
金	〃 8409号室
齊藤(直)	7号館・7419号室
佐藤(輝)	8号館・8105号室
高雄	〃 8408号室
高柳	〃 8415号室
田丸	〃 8404号室
常岡(乗本)	〃 8413号室
鄭	7号館・7425号室
寺尾	〃 7432号室
中塚	8号館・8406号室
並木	7号館・7417号室
春木	〃 7418号室
ヒガ	8号館・8403号室
廣石	7号館・7421号室
福島	8号館・8412号室
古内	7号館・7431号室
ミドルトン	8号館・8414号室
矢野	7号館・7433号室
八幡	8号館・8416号室
横山(安)	7号館・7426号室
横山(正)	〃 7428号室
和田	〃 7429号室

【留学生センター】

筒井	7号館・7435号室
奈良	〃 7435号室

山手キャンパス

【音楽学部】

●音楽芸術学科

岡島	6号館・646号室
川本	〃 643号室
瀬藤	〃 647号室
立神	8号館・837号室
谷口	6号館・645号室
船場	〃 642号室
星野	8号館・836号室

●演奏学科

落合	8号館・824号室
久保	〃 834号室
蔵田	〃 839号室
黒川	〃 835号室
土屋	〃 838号室
名倉	6号館・648号室
西	8号館・848号室
堀	6号館・641号室
宮本	8号館・821号室

教員組織

<五十音順>

職名	氏名	専攻又は主な授業科目	職名	氏名	専攻又は主な授業科目
----	----	------------	----	----	------------

学長・名誉教授

学 長 秋 岡 陽 音 楽 学

名誉教授	石島紀之	中国史	名誉教授	関口尚志	比較経営発展論
〃	井上勝	アメリカ文学・英語	〃	宗施月子	ピアノ
〃	臼井久和	国際政治学	〃	高村直助	日本近代史・横浜学
〃	内田吉彦	スペイン・ラテンアメリカ学・スペイン語	〃	武田武長	キリスト教思想・ドイツ文化
〃	宇野紀子	ピアノ	〃	田中順声	声楽
〃	榎本義子	比較文学・英語	〃	辻宥子	声楽
〃	大河内君子	身体論	〃	永田道子	健康・スポーツ
〃	大林幹明	イギリス文学	〃	西尾謙	保健体育
〃	奥田和彦	国際政治学	〃	早川嘉春	朝鮮文化・朝鮮語
〃	小塩トシ子	イギリス文学	〃	久守和子	イギリス文学・英語
〃	片岡信二	情報科学	〃	福田準之輔	日本文学
〃	川西進	イギリス文学	〃	本間慎	環境学・資源学
〃	小泉和	国文学	〃	松本昭	中国語
〃	河野一郎	イギリス文学	〃	三田村雅子	日本文学
〃	小島一郎	キリスト教学	〃	三宅榛名	作曲・ピアノ
〃	小杉弘子	人文学	〃	宮坂覺	日本文学
〃	斎藤治之	言語学・ドイツ語	〃	村井範音	音楽学
〃	佐竹明	キリスト教思想・ドイツ文化	〃	森朝男	日本文学
〃	佐藤亮一	日本語学	〃	山之内靖	歴史社会学
〃	澤登春仁	英語学	〃	芳野靖夫	声楽
〃	新川健三郎	アメリカ史・アメリカ文学	〃	渡邊明	声楽
〃	鈴木美南子	社会思想史・教育学			

学部

専任教員

文 学 部					
英文学科		教 授	由井哲哉	イギリス文学・英語	
教 授	近藤存志	〃	饒平名尚子	英語学・英語	
〃	中川正紀	〃	渡辺信二	アメリカ文学・英語	
〃	デイヴィッド・バーレイ David BURLEIGH	准教授	梅崎透	アメリカ史・英語	
〃	富樫剛	〃	大畑甲太	英語教育・応用言語学(第二言語習得)	
〃	福永保代	講 師	ラサミチャイクル Rasami CHAIKUL	英 語	
〃	藤本朝巳	〃	豊浦アマンダレネー TOYOURA, Amanda RENEE	英 語	
〃	向井秀忠	〃	ダニエル フェレーラ Daniel FERREIRA	英 語	

職名	氏名	専攻又は主な授業科目	職名	氏名	専攻又は主な授業科目
講師	丸山悦子	英 語	教授	廣石望	キリスト教・古典ギリシア語
〃	ジャーナ E.ムーア Jana E. MOORE	英 語	〃	矢野久美子	ドイツ文化・思想史
日本文学科			〃	八幡清文	経 済 学
教授	勝田耕起	日本語学・日本語教育	〃	横山安由美	フランス文学・フランス語
〃	佐藤裕子	日 本 文 学	〃	横山正樹	平 和 学
〃	島村輝	日本近現代文学	准教授	金 香 男	家族社会学・韓国社会論
〃	末岡実	漢 文 学	〃	齊藤直	日本経済史・日本経営史
〃	竹内正彦	日 本 文 学	〃	鄭浩瀾	中国近現代史
〃	谷知子	日 本 文 学	〃	寺尾隆吉	ラテンアメリカ文化論
〃	藤江峰夫	日 本 文 学	〃	福島仁	中 国 文 化
〃	松田浩	日 本 文 学	〃	古内洋平	国 際 政 治 学
コミュニケーション学科			〃	ベンヤミンD.ミドルトン Benjamin Dugald MIDDLETON	社会学・グローバル化論
教授	井上恵美子	ジェンダー教育史	〃	和田浩一	オリンピック研究・体育史
〃	齋藤孝滋	音声学・社会言語学・方言学	講師	高雄綾子	環 境 と 社 会
〃	潮村公弘	文化心理学・認知社会心理学	客員准教授	魯 俐	中 国 語
〃	高田明典 (特別研修)	メディア論・ポストモダン思想	音 楽 学 部		
〃	諸橋泰樹	社会学・マスコミ学	音楽芸術学科		
〃	渡辺浪二	心 理 学	教授	岡島雅興	作 曲
准教授	相澤一	キリスト教神学・西洋哲学	〃	立神粧子	音 楽 学 ・ ピ ア ノ
〃	大倉一郎	文化共生学	〃	星野聡	声 楽
〃	高橋京子	舞 踊 学	准教授	川本聡胤	ポピュラー音楽・音楽理論・音楽学
国 際 交 流 学 部			〃	瀬藤康嗣	コンピュータ・ミュージック
国際交流学科			〃	谷口昭弘	音 楽 学
教授	荒井真	比較法学	講師	船場ひさお	音 環 境 デ ザ イ ン
〃	上原良子	フランス国際関係史	演奏学科		
〃	馬橋憲男	国 際 関 係 論	教授	落合敦	ピ ア ノ
〃	江上幸子	中国近現代文学・中国語	〃	久保浩	ピ ア ノ
〃	大西比呂志	日本近現代史・横浜学	〃	蔵田雅之	声 楽
〃	大野英二郎	フ ラ ン ス 文 化	〃	黒川浩	ピ ア ノ
〃	笈雅博	日 本 文 化	〃	名倉淑子	ヴ ァ イ オ リ ン
〃	木曾順子	開 発 経 済 学	〃	堀由紀子 (特別研修)	ピ ア ノ
〃	佐藤輝	環 境 ・ 資 源 論	〃	宮本とも子	オ ル ガ ン
〃	高柳彰夫 (特別研修)	国 際 開 発 論	准教授	土屋広次郎	声 楽
〃	田丸理砂	ドイツ文学・ドイツ語	講師	西由起子	声 楽
〃	常岡(乗本)せつ子	比 較 憲 法	留学生センター		
〃	中塚次郎	ス ペ イ ン 史	講師	筒井千絵	日 本 語 教 育
〃	並木真人	朝 鮮 史	〃	奈良夕里枝	日 本 語 教 育
〃	春木良且	情 報 科 学	情報センター		
〃	ヒガ,マルセーロ HIGA,Marcelo G.	ラテンアメリカ史・スペイン語	講師	内田奈津子 (ITコーディネーター)	情 報 教 育

職名	氏名	専攻又は主な授業科目	職名	氏名	専攻又は主な授業科目
----	----	------------	----	----	------------

非常勤講師

共通科目担当

講師	氏名	専攻又は主な授業科目
	ハミルトンアームストロング Hamilton ARMSTRONG	英語
〃	味岡美玲	中国語
〃	足立元	美術芸術論
〃	安藤弥生	スペイン語
〃	李泓馥	朝鮮語
〃	飯田敦子	中国語
〃	石井寿子	ドイツ語
〃	石原正代	中国語
〃	泉美知子	フランス語
〃	伊藤哲	ミクロ経済学・マクロ経済学
〃	上杉恭子	フランス語
〃	原寿和子	英語
〃	衛安奈	中国語
〃	江花妃奈子	イタリア語
〃	大島武	情報科学・経営学
〃	大谷歩	英語
〃	大貫良史	スペイン語
〃	大山悦子	英語
〃	岡本年正	スペイン語
〃	小木曾航平	健康・スポーツ
〃	荻野優子	朝鮮語
〃	ジョージT.M.オクハラ George T.M.OKUHARA	英語
〃	小田原琳	イタリア語
〃	エリザベスオノデラ Elizabeth ONODERA	英語
〃	温琳	中国語
〃	影山摩子弥	経済システム論
〃	ナディーヌカツマレク Nadine KACZMAREK	ドイツ語
〃	角崎信也	中国語
〃	金子幸子	日本の家族と女性
〃	鎌田一夫	建築学・都市計画学
〃	亀ヶ谷昌秀	ドイツ語
〃	川上英	スペイン語
〃	神田浩一	フランス語
〃	北村唯司	朝鮮語
〃	金順玉	朝鮮語
〃	ジョナサンキャンベル Jonathon CAMPBELL	英語
〃	國頭直子	数的思考の基礎
〃	久保田忠利	ラテン語
〃	衆田文	ドイツ語
〃	ジョナサングリンドリー Jonathan GRINDLEY	英語
〃	アレクサンドラクレメル小椋 Alexandra KREMER OGURA	フランス語

講師	氏名	専攻又は主な授業科目
	黒川学	フランス語
〃	河野利佳子	英語
〃	クリスティーンメリー近藤 Kristine Mary KONDO	英語
〃	ジョエルルークサーゼント Joel Luke SARGENT	英語
〃	齋藤有希子	英語
〃	境新一	経営学・経営管理論
〃	坂田淳一	経営学・経営管理論
〃	佐々木能章	哲学
〃	佐藤あずさ	英語
〃	佐藤克春	環境経済・環境政策
〃	エクトルシエラ Héctor SIERRA	スペイン語
〃	志々見剛	フランス語
〃	標葉隆馬	科学技術社会論
〃	清水哲郎	情報リテラシー
〃	白井春人	舞台芸術論
〃	グレンC.スウィニー Glenn C.SWEENEY	英語
〃	杉下由紀子	スペイン語
〃	鈴木勝博	論理学
〃	鈴木周太郎	英語
〃	鈴木寿彦	「働く」を理解する
〃	鈴木美伸	キャリア論
〃	鈴木直樹	ドイツ語
〃	スコットウィリアムスミス Scott William SMITH	英語
〃	隅谷史人	商法・会社法
〃	高木聖	ビジネス・スキルを高める
〃	高沢修一	ビジネス・会計情報
〃	高嶋成豪	キャリア開発
〃	竹内美紀	英語
〃	竹中久美子	英語
〃	田辺江美子	憲法・フランス法
〃	スザンヌM.タマダ Suzanne M.TAMADA	英語
〃	多羅深雪	英語
〃	趙美景	朝鮮語
〃	丁元泰	朝鮮語
〃	アーリーンディンラサン Arlene DINGLASAN	英語
〃	富田広樹	スペイン語
〃	豊田洋美	ドイツ語
〃	内藤幹子	キリスト教
〃	中込幸子	英語
〃	永野潤	哲学
〃	中山直子	ドイツ語

職名	氏名	専攻又は主な授業科目	職名	氏名	専攻又は主な授業科目
講師	並木 美砂子	科学技術の進歩と人間性	文 学 部		
〃	成瀬 トーマス 誠	行 政 学	専門共通		
〃	野田 浩 平	情報リテラシー	講師	黒 岩 裕 市	ジェンダー・フェミニズム批評
〃	ジェイソン パイブ Jason PIPE	英 語	〃	高 橋 修	日本近代文学「近現代文学演習」
〃	長谷川 一	メ デ ィ ア 論	英文学科		
〃	ケイ ハスキー Kay HUSKY	英 語	講師	海 崎 百合子	児 童 英 語
〃	橋 本 彩	健康・スポーツ	〃	三 辺 律 子	英 文 学
〃	ジョン パック John PAK	英 語	〃	菅 原 未 宇	イギリス近世史・都市史
〃	華 金 玲 ^{ハナ}	中 国 語	〃	杉 原 志 啓	ア メ リ カ 文 化
〃	原 英 喜	健康・スポーツ	〃	関 根 薫	オーストラリア地域文化論
〃	原 田 要之助	ITガバナンス・リスクマネジメント	〃	竹 島 達 也	アメリカ文学・文化
〃	阪 堂 千津子	朝 鮮 語	〃	千 森 幹 子	日英比較文化・翻訳論
〃	ビジョリア・アパシオフリオ VILLORIA APARICIO,Julio	ス ペ イ ン 語	〃	土 家 典 生	英 語 史
〃	藤 山 嘉 夫	社 会 学	〃	西 村 醇 子	児 童 文 学
〃	前 田 伸 人	ス ペ イ ン 語	〃	福 島 久 恵	比 較 文 学
〃	牧 田 義 也	英 語	〃	藤 村 待 子	通 訳
〃	ダーモット マッキャン Dermot MCCANN	英 語	〃	マーティン、ロジャー MARTIN, Roger	キリスト教と英米文学
〃	アブドゥル B.マリッカル Abdul B. MARIKKAR	英 語	〃	前 田 絢 子	英 語 学
〃	ファティマA.マリッカル Fathima A. MARIKKAR	英 語	〃	松 浪 晋 也	ア メ リ カ 文 学
〃	ルイソロマルチネル Louis Solo MARTINEL	フ ラ ン ス 語	〃	松 原 宏 之	言 語 学 ・ 音 声 学
〃	水 野 里 香	経 済 史	〃	村 瀬 弘 美	ア メ リ カ の 思 想 ・ 宗 教
〃	溝口 ファビエンヌ Fabienne MIZOKUCHI	フ ラ ン ス 語	日本文学科		
〃	三 村 千 恵 子	英 語	講師	赤 平 大	朗読・アナウンスを学ぶ
〃	宮 淑 子	身体とセクシュアリティの諸問題	〃	石 神 裕 之	日 本 史 の 基 礎
〃	宮 城 まり子	ライフサイクルと家族の心理学	〃	石 坂 雅 彦	道 書
〃	牟 田 淳	情報リテラシー	〃	石 村 貴 博	中 国 古 典 文 学
〃	村 田 えりな	ド イ ツ 語	〃	泉 貴 鹿	日中比較言語・文学
〃	村 松 茂	健康・スポーツ	〃	猪 股 と き わ	神 話 の 世 界
〃	ガマル モハメッド Gamal MOHAMED	英 語	〃	今 井 恵 子	日 本 文 学
〃	森 眞 理	幼児教育・多文化教育・保育者論	〃	遠 藤 耕 太 郎	民 俗 文 化 を 読 み 解 く
〃	山 田 香 里 ^{ヤマノ}	キ リ ス ト 教	〃	及 川 卓 也	編 集 を 学 ぶ
〃	姚 毅	中 国 語	〃	金 澤 裕 介	日 本 語 学
〃	吉 田 新	キ リ ス ト 教	〃	河 先 俊 子	日 本 語 教 育
〃	李 彦 銘 ^{イェン}	中 国 語	〃	城 戸 朱 理	詩 ・ 日 本 文 学
〃	李 皓 京 ^{リョウ}	朝 鮮 語	〃	恋 田 知 子	絵 巻 ・ 絵 図 を 読 み 解 く
〃	涌 井 陽 子	英 語	〃	今 秀 生	マンガ・アニメ文化
〃	渡 邊 義 昭	社 会 福 祉 論	〃	佐 々 木 孝 浩	日 本 文 学
〃	渡 部 涼 子	日 本 語 教 育 学	〃	椎 名 涉 子	方 言 学 (社 会 言 語 学)
			〃	白 石 真 子	漢 文 学
			〃	鈴 木 貴 子	日 本 文 学
			〃	田 草 川 み づ ぎ	日 本 文 学
			〃	竹 田 晃 子	近 世 文 学
			〃	千 葉 庄 寿	日 本 語 学
			〃	津 島 昭 宏	言 語 学
			〃	津 留 崎 由 紀 子	日 記 ・ 隨 筆 の 世 界
			〃	長 崎 郁	日 本 語 教 育
			〃		言 語 学

職名	氏名	専攻又は主な授業科目	職名	氏名	専攻又は主な授業科目
講師	中司由起子	古代・中世の芸能	講師	江川均	西洋美術史
〃	中村聡	漢文学	〃	遠藤聡	ベトナム政治外交史
〃	中村恵	日本文学	〃	大澤文護	現代文化論
〃	原田三千代	日本語教育	〃	太田弘	地理学
〃	ほしおさなえ	小説・シナリオを創る	〃	小ヶ谷千穂	国際移民・労働移動
〃	牧村健一郎	同時代の文学	〃	萩野健一	現代文化論
〃	丸山陽子	日本文学	〃	金丸弘美	地域と食文化
〃	水谷八也	近現代演劇	〃	椛島洋美	国際政治学
〃	鐘水兼高	日本語学	〃	木村宏一郎	インドネシア近代史・世界史教育
〃	吉田文憲	詩・児童文学	〃	齋藤明子	余暇と旅行
コミュニケーション学科			〃	佐藤丙午	軍縮問題
講師	青木淳子	ファッション文化	〃	佐藤真千子	アメリカの政治と社会
〃	青木玲子	フェミニズム資料論	〃	清水基久	国際文化交流・日本の文化交流
〃	東宏乃	人類学・フィールドワーク論	〃	壽賀一仁	社会学・アフリカ地域研究
〃	遠田恵子	放送文化論・アナウンス	〃	杉原たく哉	東洋美術史
〃	遠藤久進	臨床社会心理学	〃	鈴木宏尚	日本政治外交史
〃	奥田啓子	社会福祉学	〃	カークスピッツァー Kirk Spitzer	国際社会研究
〃	小野智香子	言語学・形態論	〃	高橋夕起子	観光文化論
〃	小元隆久	マルチメディア創作	〃	高光佳絵	国際関係史
〃	加藤麻子	ベトナム文化	〃	竹信三恵子	労働社会学・ジェンダー経済論
〃	加藤啓	社会福祉学	〃	崔学松	民族問題
〃	兼高聖雄	社会心理学	〃	角田隆一	現代文化論
〃	川合雅子	オフィス・コミュニケーション	〃	寺中誠	国際人権法
〃	河野康成	異文化コミュニケーション・比較研究法	〃	中井純子	国際社会研究
〃	坂場登	リサーチメソッド	〃	中西規之	社会統計学
〃	重川治樹	取材と記事	〃	中野佳裕	平和学・社会発展思想
〃	高田知恵子	社会心理学	〃	中村努	人文地理学
〃	滝口隆司	スポーツジャーナリズム	〃	西村陽一郎	経営学
〃	田島知之	メディア・リテラシー	〃	橋本みゆき	在日外国人人学
〃	田中香織	現代日本語学(談話分析)	〃	早瀬保子	人学
〃	田中堅一郎	組織心理学	〃	日臺健雄	ロシア・東欧・ユーラシアの国際関係
〃	田村公人	文化社会学	〃	平野恵子	国際社会学
〃	塚田穂高	現代人と宗教	〃	細井保	政治思想史
〃	中村絵乃	開発教育・対立解決教育	〃	松本奈穂子	グリーン経済への転換
〃	夏目純	マスコミ出版論	〃	村山いくみ	西洋中世文献学・西洋古文書学
〃	縄田恵	マスメディア論	〃	本宮一男	日本経済論・国際経済史
〃	野村梓	映画史・映画作家研究	〃	森川俊孝	国際法
〃	開内文乃	家族社会学	〃	森口茂	国際交通論
〃	平山修平	国際コミュニケーション	〃	柳沢富夫	国際情報流通論
〃	黄允一	マス・コミュニケーション論	〃	脇田彩	若者の労働環境
〃	山口仁	マス・コミュニケーション論	音楽学部		
〃	山田貴夫	エスニックマイノリティーの問題を考える	音楽芸術学科		
〃	横溝環	異文化コミュニケーション	講師	安藤和宏	マルチメディア著作権ビジネス
国際交流学部			〃	笠井博美	身体表現ワークショップ
国際交流学科			〃	儀理暁	医療と音楽
講師	今澤紀子	イスラム文化	〃	清水将仁	ピアノ
〃	今村芳	北欧研究	〃	末松茂敏	ピアノ・ソルフェージュ
			〃	鈴木誠一郎	番組制作ワークショップ



職名	氏名	専攻又は主な授業科目	職名	氏名	専攻又は主な授業科目
講師	田村真樹子	身体表現ワークショップ	講師	鈴木康浩	ヴァイオリン
〃	千葉優子	民族音楽	〃	田口純子	ピアノ
〃	塚本一実	作曲	〃	田中奈美子	声乐
〃	出川有	アナウンス・朗読	〃	田村安佐子	ピアノ
〃	東音河野文	邦楽	〃	千葉純子	ヴァイオリン
〃	富田久美	ジャズボーカル	〃	千葉純子	フルート
〃	西上和子	ピアノ	〃	辻裕久	声乐
〃	福田貴成	基礎演習・応用演習	〃	椿(野口)紅子	起業家育成ワークショップ
〃	堀川千絵	音楽療法	〃	中野真帆子	ピアノ
〃	益山典子	音楽学	〃	中村静香	ヴァイオリン
〃	松村努	縄・コラス・リーダー・ワークショップ	〃	乃羽ひとみ	バレエ
〃	山村尚子	基礎声乐	〃	橋本光博	クラリネット
〃			〃	秦貴美子	声乐
〃			〃	島山さち子	ピアノ
〃			〃	林今日子	ピアノ
〃			〃	早島万紀子	オルガン・チェンバロ
〃			〃	早平英子	声乐
〃			〃	福川伸陽	ホルン
〃			〃	福士晶子	演奏のためのからだづくり
〃			〃	藤田直子	声乐
〃			〃	藤村俊介	チェロ
〃			〃	細川順三	フルート
〃			〃	前田美由紀	ピアノ
〃			〃	牧野真由美	声乐
〃			〃	松浦健	ピアノ
〃			〃	三浦はつみ	オルガン
〃			〃	宮下宣子	トロンボーン
〃			〃	宮原真弓	ハープ
〃			〃	宮部小牧	声乐
〃			〃	三輪えり花	アーティストのための身体表現
〃			〃	森園康一	コントラバス
〃			〃	渡部基一	ヴァイオリン
〃			〃	渡部玄一	チェロ
教 職 課 程					
講師	石川勇喜	教育学	講師	石川勇喜	教育学
〃	鍛冶美幸	教育学	〃	鍛冶美幸	教育学
〃	勝田厚仁	教育学	〃	勝田厚仁	教育学
〃	飛田和仁	教育学	〃	飛田和仁	教育学
〃	下山聖二	教育学	〃	下山聖二	教育学
〃	永井麻里	教育学	〃	永井麻里	教育学
〃	河内正江	教育学	〃	河内正江	教育学
〃	御園直江	教育学	〃	御園直江	教育学
〃	村田山田	教育学	〃	村田山田	教育学
〃	和田和	教育学	〃	和田和	教育学

演奏学科

講師	阿部ちさと	トランペット
〃	新井啓泰	ピアノ
〃	飯沼彩	オルガン
〃	飯吉高	指揮
〃	磯崎淳子	ピアノ
〃	板倉康明	クラリネット
〃	市川雅典	コントラバス
〃	伊藤圭	クラリネット
〃	井上俊次	ファゴット
〃	井上雅代	チェロ
〃	井村裕美	ファゴット
〃	上野正博	指揮法
〃	宇内千晴	オルガン
〃	江端伸昭	ソルフェージュ
〃	遠藤剛史	フルート
〃	太田朋子	声乐
〃	大小瀧郁彦	ピアノ
〃	甲斐純一	声乐
〃	川井綾子	フルート
〃	菅有実	ピアノ
〃	神戸愉樹	美声
〃	北原葉子	ヴァイオリン・ダ・ガンバ
〃	橘高昌男	ピアノ
〃	桐山建志	オルガンアンサンブル
〃	久木山直	ソルフェージュ
〃	栗林朋子	声乐
〃	児玉恵子	ピアノ
〃	小林周子	ピアノ
〃	小林秀子	ピアノ
〃	小森慶子	サクソフォーン
〃	小坂本貴輝	声乐
〃	下田幸二	ピアノ
〃	庄司知史	オーボエ

本学における個人情報の取扱いについて

本学では、個人情報保護法の趣旨に基づき、個人情報の保護に取り組んでいます。

各種届出を通して大学が学生から収集した個人情報は、学生生活全般にわたる指導や相談、業務のために、その目的の範囲において利用するものです。

なお、大学に届け出た情報に変更や誤りがあった場合は、速やかに訂正を申し出てください。

学生への情報伝達方法

各学部・学科、各研究科・専攻、各部署からの伝達、呼出、重要な情報提示は「FerrisPassport」及び必要に応じて「通常の掲示板」によって行います。

「FerrisPassport」は学外からPC、携帯電話でも確認することができますので、必ず定期的に確認してください。

各種掲示の見落とし等による不利益は、本人の責任となりますので、十分注意してください。

PC用 FerrisPassport

<https://passport.ferris.ac.jp>

携帯電話用 FerrisPassport

<https://passport.ferris.ac.jp/k>



索引

あ

アカデミック・アドバイザー制度	22
ウィーン教育センター	288
英語	209
英語ブレイスメント・テスト	70
英文学科	94
演奏学科	144
沿革（大学）	7
音楽学部	140
音楽芸術学科	143
海外音楽研修	153
学内演奏	151
学内ソロ・コンサート	151
公開演奏	153
公開発表	153
再試験	150
実技試験	148
実技追試験	149
実技レッスンの出欠	147
選択楽器等変更	153
専門科目の履修方法	146
卒業演奏	154
卒業プロジェクト	154
卒業に必要な単位数	140
伴奏実習	152

か

海外研修	56
海外交流課	290
海外留学	55
開講科目表	
英語	209
英文学科専門科目	228
演奏学科専門科目	252
音楽芸術学科専門科目	246
基礎教養科目	204
教職に関する科目	262
教養外国語・日本語	226
国際交流学科専門科目	239
コミュニケーション学科専門科目	235
スペイン語	220
総合課題科目	207
中国語	222
朝鮮語	224
ドイツ語	218
日本語科目及び日本事情に関する科目	263
日本文学科専門科目	232
フランス語	216

外国人留学生	196
学位	43
学位規則	279
学外施設	288
学生課	290
学籍	266
休学	266
在学期間	266
再入学	267
修業年限	266
除籍	267
退学	266
転学部・転学科	267
復学	266
留学	267
学則	270
学内演奏・学内ソロ・コンサート	151
学科選抜科目	29
科目責任者・語学責任者	9
科目等履修生規程	284
企画・広報課	291
基礎教養科目	60
キャリア実習（短・長期インターンシップ）	65
休講	18
教職課程	162
基礎資格	163
教育実習	182
教育職員免許状	182
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	181
教科に関する科目	165
教職課程料	182
教職に関する科目	179
年間予定表	183
履修方法	163
共通科目	60
基礎教養科目・総合課題科目	63
語学科目	67
教務課	290
教務主任・教務委員	9
教養外国語	226
9月卒業	45
クラス指定	26
クラス変更手続	26
欠席	19
授業欠席	19
試験欠席	37
建学の精神と目的	5
言語センター	288,292
合格・不合格評価科目	42
交換留学	55

校地・校舎	290
語学科目	67
インテンシブ・コース修了者の成績通知書 及び成績証明書	73
英語インテンシブ・コースの履修許可	68
英語プレイスメント・テスト	70
教養外国語	75
クラス指定	69
再履修	71
初習外国語インテンシブ・コースの履修許可	68
日本語	75
履修コース・言語変更願	72
履修コース・言語の選択	68
語学科目履修方法	76
英文学科	76
音楽学部	86
国際交流学部	82
コミュニケーション学科	78
日本文学科	78
語学教育関連施設	288
国際交流学部（国際交流学科）	122
研究入門	127
基礎演習	127
現地実習	132
専門演習	128
卒業に必要な単位数	122
卒業論文	131
地球社会現地実習	133
導入演習	127
個人研究室	300
コミュニケーション学科	110

さ

在学期間	266
再試験	38
再入学	267
再入学に関する内規	283
再履修	26
3・4年次演習（ゼミ）科目等の 他学部・他学科開放	27
試験	33
教務課取扱いの試験	33
再試験	38
受験資格	33
受験上の注意	34
卒業再試験	38
追試験	37
不正行為	33
レポート試験	34
実技試験	148
実技追試験	149
実技レッスン	144
社会調査士資格認定	117

修業年限	266
就職課	290
集中講義	28
授業（休講・補講・欠席）	18
授業科目	20
授業時間	18
受験資格	33
受験上の注意	34
生涯学習課	290
情報センター	288,291
情報リテラシー教室	290
諸施設	288
初習外国語	67
除籍	267
成績評価	40
合格・不合格評価科目	42
GPA制度	40
成績通知（FerrisPassport）・ 成績証明書への表示	41
成績通知	42
成績評価に関する問い合わせ	42
成績評価のガイドライン	41
セメスター・アブロード	55
総合課題科目	60
総務課	290
組織	6
卒業	43
卒業演奏	154
卒業制作	43
卒業プロジェクト	43,154
卒業に必要な単位数	
英文学科	94
音楽芸術学科	140
演奏学科	140
国際交流学科	122
コミュニケーション学科	110
日本文学科	102
卒業論文	43

た

退学	266
大学学則	270
他学部・他学科の専門科目の履修	27
単位	21
単位互換	50
同志社女子大学	50
放送大学	51
横浜市内大学間	52
単位の認定	48
海外の大学	50
技能審査の合格	49,54
教職課程	54
キリスト教科目	53

他大学等（入学後）	49
他大学等（入学前）	52
同志社女子大学	50
日本語教員養成講座	54
認定される単位の上限	48
放送大学	51
横浜市内大学間	52
追試験	37
転学部・転学科	267
転学部・転学科内規	283
同一授業科目の重複履修	26
図書館（附属図書館）	288,294

な

日本語	197
日本語科目及び日本事情	196
日本語教員養成講座	187
日本語教育実習	190
日本語プレイスメント・テスト	201
日本文学科	102
入試課	290
認定留学	55

は

パリ国際芸術都市	288
復学	266
不正行為	33
文学部	
英文学科	94

コミュニケーション学科	110
卒業に必要な単位数	94,102,110
日本文学科	102
補講	19
ボランティア	65
ボランティアセンター	290

や

役職者	8
山手キャンパス	296

ら

履修	18
履修登録	25
学科選抜科目	29
初回授業選抜科目	29
遅延登録・遅延訂正申告	31
登録確認・訂正申告	31
登録取消	32
履修者数制限科目	29
履修のスケジュール	25
要手続科目	29
履修登録単位数の上限	23
履修年次	26
留学	55,267
留学に関する規程	285
緑園キャンパス	290
レポート試験	34

2013年度 フェリス女学院大学学生要覧

2013年4月1日 発行

発 行 フェリス女学院大学
緑園校舎 〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3
TEL 045-812-8211(代表)
山手校舎 〒231-8651 横浜市中区山手町37
TEL 045-681-5150(代表)

印 刷 フェリス女学院大学ドキュメントセンター

フェリス女学院大学ホームページ <http://www.ferris.ac.jp/>